(財)八尾市文化財調査研究会報告25

八尾市文化財調査研究会年報

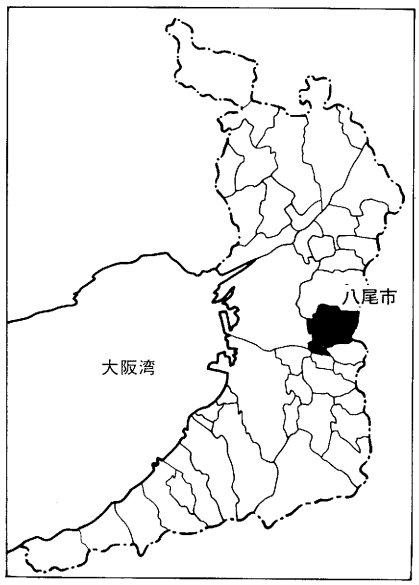
昭和63年度

1989年

財団法人　八尾市文化財調査研究会

八尾市文化財調査研究会年報

昭和63年度

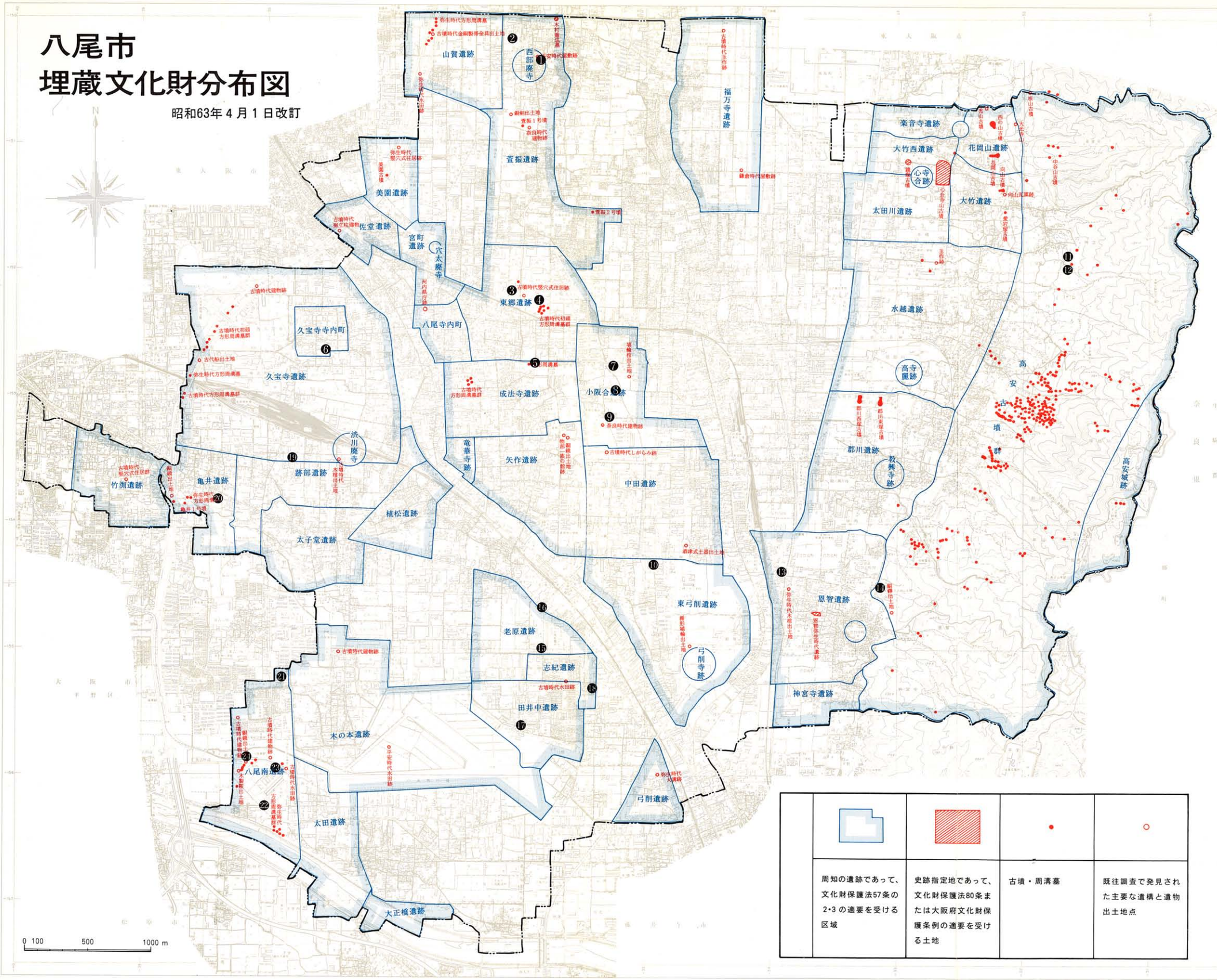


1989年

財団法人　八尾市文化財調査研究会

八尾市
埋蔵文化財分布図

昭和63年４月１日改訂



周知の遺跡であって、文化財保護法57条の2・3の適要を受ける区域	史跡指定地であって、文化財保護法80条または大阪府文化財保護条例の適要を受ける土地	古墳・周溝墓	既往調査で発見された主要な遺構と遺物出土地点

序　　文

河内平野の中心部に位置する現八尾市域は、かつて縄文海進の終期と共に、そこが大和川の氾濫原でもあっただけに、考古学的発掘により、河内平野の形成史が観察される極めて興味深い地域であります。同時にそこで、生活を始めた古代人の足跡が、遺物や遺跡として検出される地域でもあり、やがて『古事記』や『日本書紀』に記録された歴史を彷彿させる古代史のねむる重要な地域でありました。それだけにこれらの文化財を、開発という名の破壊から後世に、せめて記録保存として残すことは、今日に生きる私共、市民の共通する責任でもあり、また、文化的使命でもあります。それ故、私共は、市民と共に埋蔵文化財の保護と都市開発のはざまで、関係者の理解と協力を得て発掘調査を進めているところであります。

さて、当八尾市文化財調査研究会（財団）が、八尾市教育委員会の指示により、実施してまいりました昭和63年度の発掘調査は24件で、面積にして8766.99平方米に及びました。これらの調査により、貴重な遺構や遺物が確認され、地域史研究に欠かせぬ資料の一頁となるものと自負するところであります。

当財団設立のいま一つの目的であります、文化財愛護に関する啓発事業として、恒例の文化財講座『文化財トーク　やお・むかし・むかし』の開催や小学生を対象とした『チビッコ文化財夏期学習』及び遺物の展示、地域での『現地説明会』などを開催して参りました。

また、歴史民俗資料館の運営として、春の特別展『八尾を掘る』、秋の特別展『愛宕塚古墳』を開催し、郷土文化の枠を広く市民各位に提供してきたところであります。

最後になりましたが、各埋蔵文化財調査の実施にあたり、御指導・御協力を賜わりました関係機関の各位に対しまして心から御礼申し上げます。

平成元年12月

財団法人　八尾市文化財調査研究会

理事長　福　島　　孝

例　　言

1．本書は、財団法人八尾市文化財調査研究会が、昭和63年度に行ったすべての事業の概要をまとめたものである。

1．埋蔵文化財の発掘調査の項は、調査担当者（高萩千秋・原田昌則・成海佳子・西村公助・駒澤敦・近江俊秀（市教育委員会嘱託））の報告をもとに、原田が検討を加えてまとめた。

1．本書に掲載した地図は、八尾市発行の2500分の１（昭和60年測量）を使用した。埋蔵文化財分布図は、八尾市教育委員会発行（昭和63年４月１日）のものをもとに作成した。

1．本書と埋蔵文化財発掘調査報告書の内容が異なる場合は、後者を正しいものとする。

本　文　目　次

埋蔵文化財分布図

序文

例言

Ⅰ　八尾市文化財調査研究会の概要…… 1

Ⅱ　埋蔵文化財の発掘調査…… 4

1　萱振（かやふり）遺跡（第６次調査：幸町１丁目60－１）…… 7

2　萱振遺跡（第７次調査：泉町２丁目56他）…… 12

3　東郷（とうごう）遺跡（第28次調査：光町１丁目47）…… 22

4　東郷遺跡（第29次調査：光町２丁目28－１）…… 59

5　成法寺（じょうほうじ）遺跡（第4次調査：南本町１丁目10－１）…… 65

6　久宝寺（きゅうほうじ）遺跡（第３次調査：久宝寺４丁目81－１）…… 70

7　小阪合（こざかい）遺跡（第15次調査：小阪合町２丁目52－11）…… 83

8　小阪合遺跡（第16次調査：青山町１～３・５丁目　山本南８丁目）…… 87

9　小阪合遺跡（第17次調査：青山町３丁目47）…… 93

10　東弓削（ひがしゆげ）遺跡（第４次調査：八尾木東１丁目）…… 96

11　高安古墳群内芝塚（たかやすこふんぐんないしばづか）古墳（第１次調査：神立２丁目）…… 100

12　高安古墳群内芝塚古墳（第２次調査：神立２丁目）…… 100
13　恩智（おんち）遺跡（第２次調査：恩智北町１丁目59・60）…… 110
14　恩智遺跡（第３次調査：恩智1045外６筆）…… 115
15　老原（おいはら）遺跡（第３次調査：東老原１丁目42－１）…… 118
16　老原遺跡（第４次調査：東老原１丁目）…… 125
17　田井中（たいなか）遺跡（第７次調査：空港１丁目81）…… 129
18　田井中遺跡（第８次調査：志紀町西３丁目）…… 132
19　跡部（あとべ）遺跡（第４次調査：跡部本町１丁目４－１・４－２）…… 136
20　亀井（かめい）遺跡（第１次調査：南亀井町１丁目41）…… 147
21　八尾南（やおみなみ）遺跡（第11次調査：西木の本48・49）…… 151
22　八尾南遺跡（第12次調査：若林町２丁目174）…… 168
23　八尾南遺跡（第13次調査：若林町１丁目76－３）…… 172
24　長原（ながはら）遺跡（第１次調査：大阪市平野区長吉川辺３丁目）…… 176
Ⅲ　委託業務…… 178
⑴八尾市立歴史民俗資料館の管理…… 178
⑵環山楼の公開…… 180
Ⅳ　啓発普及事業…… 181
Ⅴ　その他…… 182
Ⅵ　受贈図書一覧…… 183

Ⅰ　八尾市文化財調査研究会の概要

1　目的

八尾市域の文化財の調査・保存・研究を通じて文化財の保護を図るとともに、市民の文化財保護に関する理解を深め、地域文化の発展に寄与し、永く後世に文化遺産を継承することを目的とする。

2　事業内容

- 八尾市立歴史民俗資料館の管理
- 埋蔵文化財の発掘調査および内業整理業務の受託
- 埋蔵文化財以外の文化財の調査研究
- 文化財に関する講座・講演会および展示会の開催
- 八尾市教育委員会からの受託業務
- その他目的を達成するために必要な業務

3　設立年月日

昭和57年７月１日

4　事務局所在地

大阪府八尾市清水町１丁目21番１号

5　歴史民俗資料館所在地

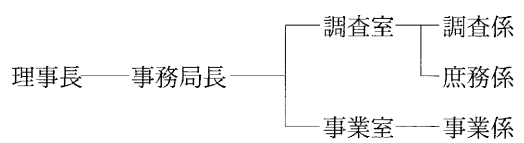
大阪府八尾市千塚３丁目180番地の１

6　役員および組織　（平成元年３月31日現在）

顧　問　１名

理　事　13名（理事11名・監事２名）

評議員　13名



事務文掌

調査室－埋蔵文化財の調査研究・啓発事業およびそれらに関わる庶務

事業室－歴史民俗資料館の管理・事業運営およびそれらに関わる庶務

7　役員・職員の名簿　（平成元年３月31日現在）　（50音順）

顧　問	山　脇　悦　司	八尾市長（前理事長）
理事長	福　島　　孝	
理　事	今　川　金　治	八尾商工会議所会頭
〃	貴　島　正　男	八尾市郷土文化推進協議会会長
〃	田　代　克　巳	帝塚山短期大学教授
〃	辻合　喜代太郎	帝国女子大学名誉教授
〃	永　井　貴美子	八尾市議会議員
〃	西　谷　信　次	八尾市教育長
〃	古　橋　　了	星電器製造株式会社取締役社長
〃	松　浦　慶　太	八光信用金庫理事長
〃	森　岡　安治郎	八尾市農業協同組合組合長
〃	吉　房　康　幸	大阪府教育委員会文化財保護課長
監　事	伊　藤　　弘	八尾商工会議所副会頭
〃	西　崎　　宏	八尾市収入役
評議員	浅　井　允　晶	堺女子短期大学教授
〃	安　積　由　高	やお文化協会常任理事
〃	阿　部　　孝	やお文化協会事務局長
〃	上　井　久　義	関西大学教授
〃	奥　野　俊　雄	やお文化協会常任理事
〃	櫻　井　敏　雄	近畿大学教授
〃	棚　橋　利　光	大阪府立八尾高等学校教諭
〃	塚　口　義　信	堺女子短期大学教授
〃	細　見　二　郎	八尾商工会議所副会頭
〃	松　井　一　雄	八尾市教育委員会社会教育部長
〃	三　上　幸　寿	八尾市史編纂委員
〃	村　川　行　弘	大阪経済法科大学教授
〃	森　口　慶次郎	八尾市議会議員

調査室

調査室長　堀内　薫
調査係　高萩千秋
〃　原田昌則
〃　成海佳子　（嘱託）
〃　西村公助　（〃）
〃　駒澤敦　（〃）　※3月退職
庶務係　富田よしの
〃　中谷暁子　（嘱託）

事業室

事業室長　安井良三　（市立歴史民俗資料館長兼務）八尾市教育委員会より出向
事業係長　浅井隆三　八尾市教育委員会より出向
事業係　小谷利明
〃　尾崎良史

8　理事会・評議員会の開催

会議名	開催年月日	議事内容
第1回　理事会	昭和63年6月16日	• 評議員の選出に関する件 • 理事および監事の選任に関する件 • 理事長の選出に関する件 • 昭和62年度事業報告承認の件 • 昭和62年度収支決算承認の件
第1回　評議員会		
第2回　理事会	平成元年3月30日	• 平成元年度事業計画承認の件 • 平成元年度収支予算承認の件
第2回　評議員会		

Ⅱ　埋蔵文化財の発掘調査

昭和63年度に㈶八尾市文化財調査研究会が、八尾市教育委員会の指示を受けて実施した発掘調査は24件で、発掘調査面積は、8766.99㎡を図る。面積では昭和62年度を下回ったものの、調査件数では24件と同数で２年続きで高い水準であった。これらの要因としては、高景気に支えられた活発な経済活動や、都市部を中心とする地価高騰等の諸条件を背景とする社会情勢が、一地方都市である本市にも波及した結果と考えられる。これらの開発に伴う発掘調査の増加と引き替えに、数多くの貴重な考古資料が検出され、新たな知見が蓄積されつつある反面、発掘調査に追われるなかで、それらの成果の公表が遅れがちになっているのも偽りない事実である。発掘調査は開発に伴う一過性のものであり、社会情勢に左右されることは当然である。しかし、近年のこのような動きは、永い歴史の中では１つの点にすぎないが、今後の推移には注意をはらう必要があろう。

昭和63年度に実施した発掘調査では、縄文時代前期～平安時代後期までの遺構・遺物を検出しており、多大な成果を得た。以下、おもな検出遺構・出土遺物を時代順に概観する。

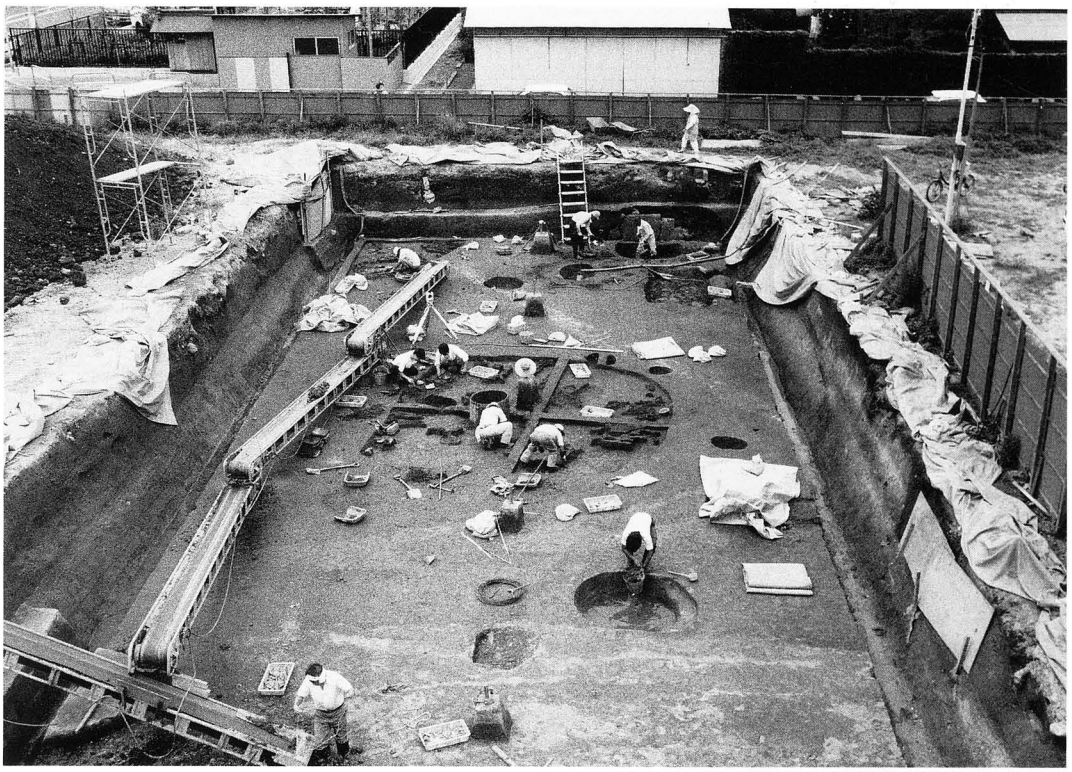
縄文時代前期　遺構は検出されなかったが、23八尾南遺跡で爪形文土器の小破片が数点検出されている。

弥生時代前期　17田井中遺跡で溝２条が検出された。**弥生時代中期**　10東弓削遺跡で土坑が検出され、集落が広範囲に広がることが判明した。また、23八尾南遺跡では水田が検出されている。**弥生時代後期**　１萱振遺跡では竪穴住居２棟を検出した。２棟ともに焼失住居で、内部には建築材である垂木が炭化材となって遺存していた。10東郷遺跡では溝２条が検出され、不明瞭であったこの時期の集落内での動向の一部が明らかになった。20亀井遺跡では集落の一部を検出した。調査地はこの時期の集落が検出されている調査地の東部に位置することから、集落の範囲を推定するうえで貴重である。23八尾南遺跡では水田を検出した。この時期の水田は調査地の南側の調査区（第５次調査）で検出されており、これらを含めると約2000㎡にわたって水田が拡がっていたことが明らかとなった。

古墳時代前期〔庄内式古相〕５成法寺遺跡・10東弓削遺跡で居住地が検出されている他、５成法寺遺跡では方形周溝墓３基が検出されている。〔庄内式新相〕２萱振遺跡・19跡部遺跡で居住地が検出されている。なかでも、２萱振遺跡は遺跡推定範囲の北西部で初めて確認されたもので、既往調査の成果を含めると広範囲に集落が存在していたことが窺える。〔布留式古相〕６久宝寺遺跡で方形周溝墓１基が検出された。17田井中遺跡では、居住地が検出されている。**古墳時代中期**　22八尾南遺跡で方墳４基が検出された。**古墳時代後期**　２萱振遺跡で掘立柱建

物を中核とする居住地を検出した。この時期の集落の検出例は、八尾市域では数少ないものである。11・12芝塚古墳では、横穴式石室内から組合式家型石棺が3棺検出され、高安古墳群を考えるうえで多くの課題を残す結果となった。14恩智遺跡では、土器棺墓1基を検出した他、多数の埴輪片が出土しており、付近に古墳が存在した可能性が高い。一方、18田井中遺跡では水田が検出されている。

平安時代後期　1萱振遺跡で掘立柱建物2棟の他、井戸・土坑が検出されており、集落が東方へ広がることが判明した。3東郷遺跡では、井戸1基が検出された。この時期の遺構は、当調査地から西150mに位置する第25次調査で検出されていることから、遺跡推定範囲の中央部から北西部一帯にこの時期の集落が存在していたようである。なお、井戸側に使用されていた曲物の外側には墨書紀年銘があり、この時期の土器類の実年代を推定するうえで貴重な資料と言えよう。6老原遺跡では溝の中から板塔婆が出土しており、当時の宗教観の一端を知るうえで重要である。



1萱振遺跡（第6次調査）調査風景（東から）

昭和63年度発掘調査一覧表

番号	遺跡名	調査地	原因者	原因	調査期間	面積(㎡)	担当
1	萱振（第6次）	幸町1丁目60－1	八尾市	改良住宅建設	昭和63年 6月21日～8月11日	320	原田
2	萱振（第7次）	泉町2丁目56他	センコー㈱	事務所付倉庫建設	平成元年 2月1日～3月29日	900	原田
3	東郷（第28次）	光町1丁目47	丸十呉服	ビル建設	昭和63年 7月26日～8月11日	86	西村
4	東郷（第29次）	光町2丁目28－1	豊倉キャウ	共同住宅	平成元年 3月6日～3月25日	220	西村
5	成法寺（第4次）	南本町1丁目10－1	大阪シーリング印刷㈱	事務所建設	昭和63年 11月7日～12月5日	540	高萩
6	久宝寺（第3次）	久宝寺4丁目74	古川武	共同住宅	昭和63年 12月5日～12月28日	330	西村
7	小阪合（第15次）	小阪合町2丁目 52－11	八尾市	ポンプ場放流渠	昭和63年 5月17日～10月31日	356	高萩
8	小阪合（第16次）	青山町1～3・5丁目 山本南町8丁目	八尾市	区画整理	昭和63年 7月5日～8月26日	500	高萩
9	小阪合（第17次）	青山町3丁目47	梶本準一	共同住宅	昭和63年 10月3日～10月4日	32	高萩
10	東弓削（第4次）	八尾木東1丁目	八尾市	下水道工事	昭和64年　平成元年 1月3日～1月23日	72	原田
11	高安古墳群（第1次） 芝塚古墳	神立2丁目	八尾市	道路建設	昭和63年 5月23日～6月11日	100	原田 駒澤
12	高安古墳群（第2次） 芝塚古墳	神立2丁目	八尾市	道路建設	平成元年 2月25日～4月15日	30	高萩
13	恩智（第2次）	恩智北町1丁目 59・60	巽三郎	共同住宅	昭和63年 8月29日～9月1日	100	西村
14	恩智（第3次）	恩智1045外6筆	大阪市	浄化槽	昭和63年 11月7日～11月17日	48	西村
15	老原（第3次）	東老原1丁目42－1	関電産業㈱	社宅建設	昭和63年 10月27日～11月16日	320	原田
16	老原（第4次）	東老原1丁目	八尾市	下水道工事	平成元年 2月14日～3月1日	40	西村
17	田井中（第7次）	空港1丁目81	大阪 防衛施設局	通信鉄塔建設	昭和63年 5月30日～6月16日	25	西村
18	田井中（第8次）	志紀町西3丁目	近畿財務局	宿舎建設	昭和63年　平成元年 10月1日～2月20日	996	成海
19	跡部（第4次）	跡部本町1丁目 4－1・4－2	種田竹松	共同住宅	昭和63年 10月1日～10月22日	300	西村
20	亀井（第1次）	南亀井町1丁目41	大晶印刷販売㈱	工場建設	昭和63年 11月7日～11月24日	200	高萩 近江
21	八尾南（第11次）	西木の本1丁目 48・49	下村清之佑	共同住宅	昭和63年 7月19日～7月26日	100	駒澤 近江
22	八尾南（第12次）	若林町2丁目174	小倉屋 山本食品㈱	店舗建設	昭和63年 8月29日～10月21日	860	原田
23	八尾南（第13次）	若林町1丁目76－3	朝日生命保険㈱	事務所建設	昭和63年　平成元年 9月14日～2月25日	1800	成海 駒澤
24	長原（第1次）	大阪市平野区 長吉川辺3丁目	八尾市	下水道工事	昭和63年 8月2日～8月4日	8	成海

1　萱振（かやふり）遺跡（第６次調査）

調 査 地　八尾市幸町１丁目60－１

調査期間　昭和63年６月21日～昭和63年８月11日

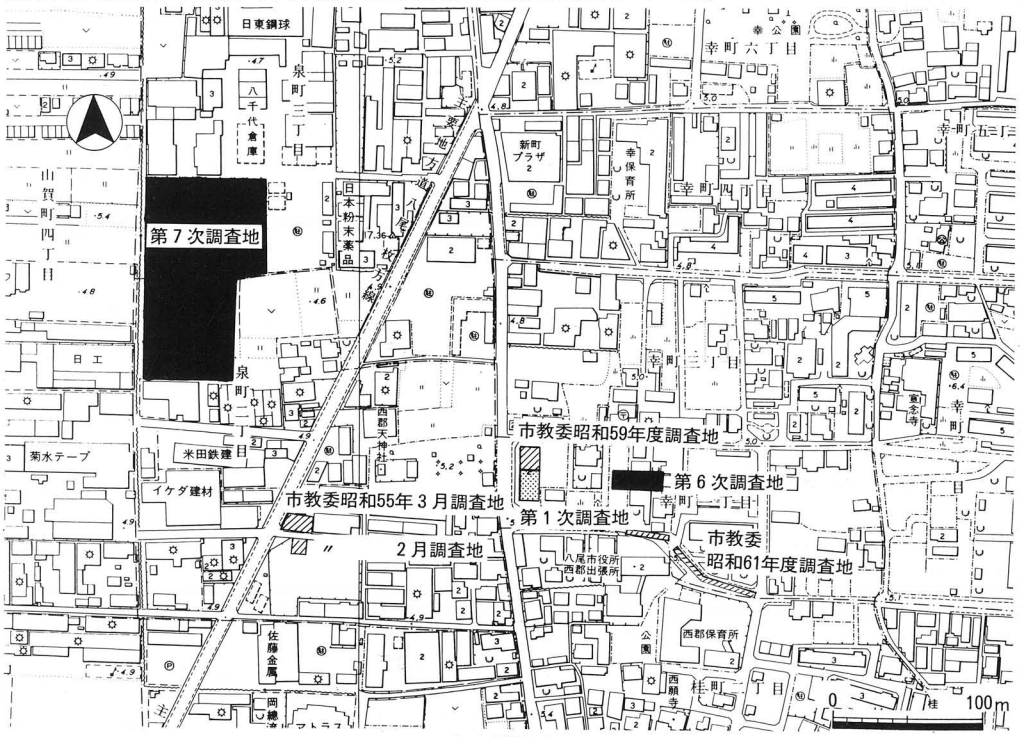
調査面積　320㎡

はじめに

今回の発掘調査は住宅建設に伴って実施したもので、当調査研究会が萱振遺跡内で実施した発掘調査の第６次調査にあたる。

当遺跡は、旧大和川の主流であった長瀬川の右岸に位置する沖積地に位置しており、現在の行政区画では、緑ヶ丘１～３丁目、萱振町１～７丁目、泉町１～３丁目、桂町１～３丁目、幸町１・３・４・６丁目に所在している。

今回の調査地が位置する萱振遺跡の北部では、昭和58～59年にかけて大阪府教育委員会が府立八尾北高校の建設に伴って発掘調査を実施したのを始めとして、昭和59年には当調査研究会[註1]が今回の調査地の西50ｍ地点で発掘調査（第１次調査）を実施している。これらの調査の結果、[註2]弥生時代後期から鎌倉時代末期に至る遺構・遺物を検出している。



調査地周辺図

1　萱振遺跡

調査概要

住宅建設予定地に合わせて東西29m・南北９mの調査区を設定した。掘削に際しては、試掘結果を参考にして現地表下１mまでを機械で掘削し、以下１mを人力で掘削した。その結果、現地表下1.2m～1.4m（標高4.6～4.4m）付近に存在する茶灰色シルト層上面で平安時代後期・江戸時代に比定される遺構を検出した（第２調査面）。さらに0.5～0.7m掘り下げた結果、標高3.9m前後付近に存在する灰黄～灰褐色シルト上面で弥生時代後期に比定される遺構を検出した（第１調査面）。

第１調査面

第１調査面は、現地表下1.9m（標高3.9m）付近に存在する灰黄～灰褐色シルト上面を調査対象とした。その結果、弥生時代後期に比定される、竪穴住居２棟（ＳＩ－１・２）、井戸１基（ＳＥ－１）、土坑２基（ＳＫ－１・２）、溝１条（ＳＤ－１）を検出した。なかでも、２棟検出した竪穴住居はともに焼失家屋で、内部からは建築材である垂木が炭化材となって放射状に倒れていたほか、多量の炭・灰が出土した。

第２調査面

第２調査面は、現地表下1.2～1.4m（標高4.6～4.4m）付近に存在する茶灰色シルト上面を調査対象とした。その結果、平安時代後期に比定される掘立柱建物２棟（ＳＢ－１・ＳＢ－２）、井戸７基（ＳＥ－２～６、８・９）、溝10条（ＳＤ－２～ＳＤ－11）、小穴83個（ＳＰ－２～ＳＰ－84）のほか、江戸時代後期に比定される井戸２基（ＳＥ－７・ＳＥ－10）を検出した。

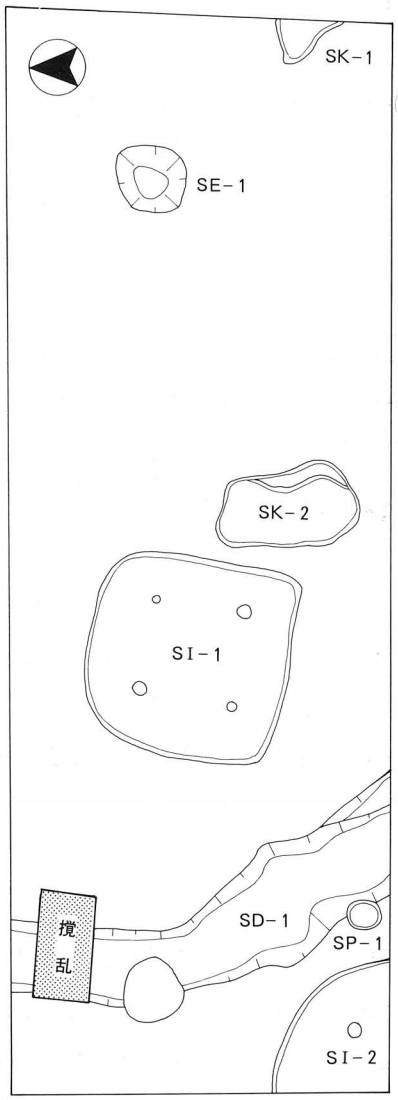
まとめ

今回の調査では、弥生時代後期・鎌倉時代後期・江戸時代後期に比定される遺構を検出した。なお、当調査地の西50mの地点で実施した調査[註3]（第１次調査）においても、弥生時代後期と平安時代後期の遺構が検出されていることから、両時期の集落がさらに東側に広がることが明らかとなった。

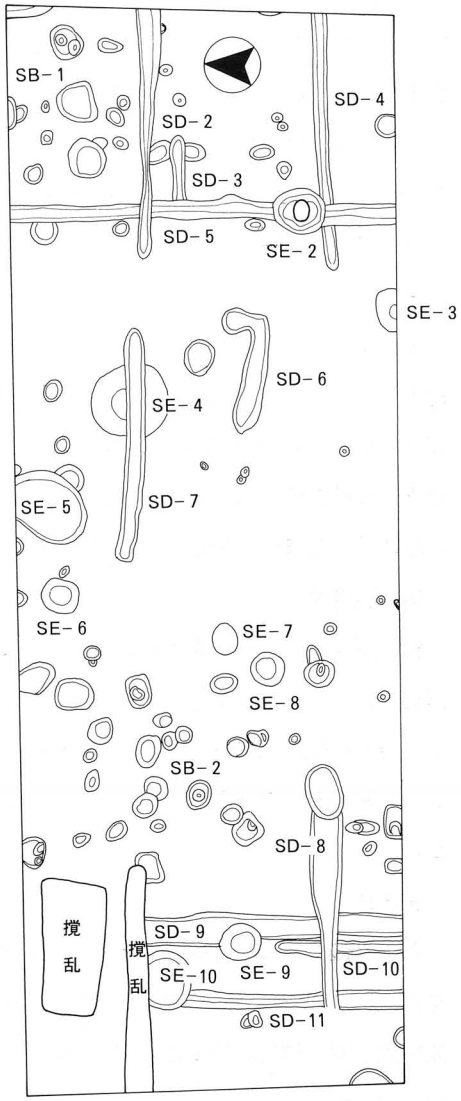
註１　広瀬雅信　「萱振遺跡調査速報」『八尾市文化財紀要』　八尾市教育委員会　1985

註２　㈶八尾市文化財調査研究会「Ｉ萱振Ａ遺跡（第１次調査）」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要』昭和61年度　㈶八尾市文化財調査研究会報告13　1987

註３　前掲註２



第１調査面

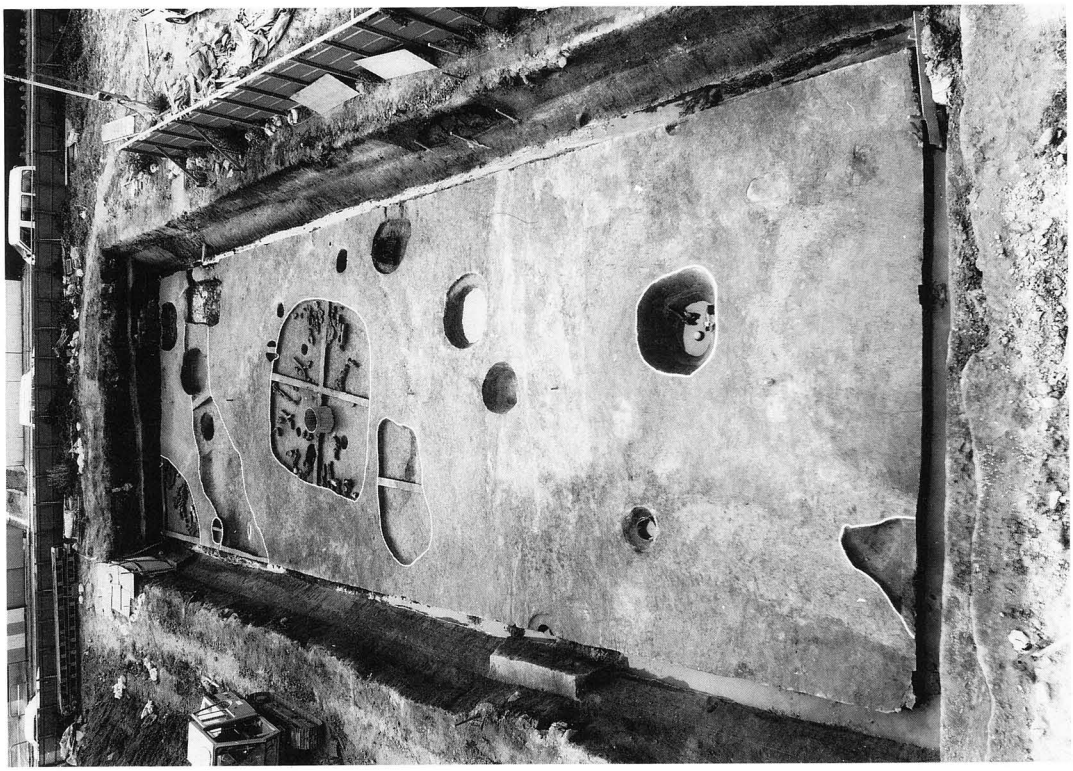


第２調査面

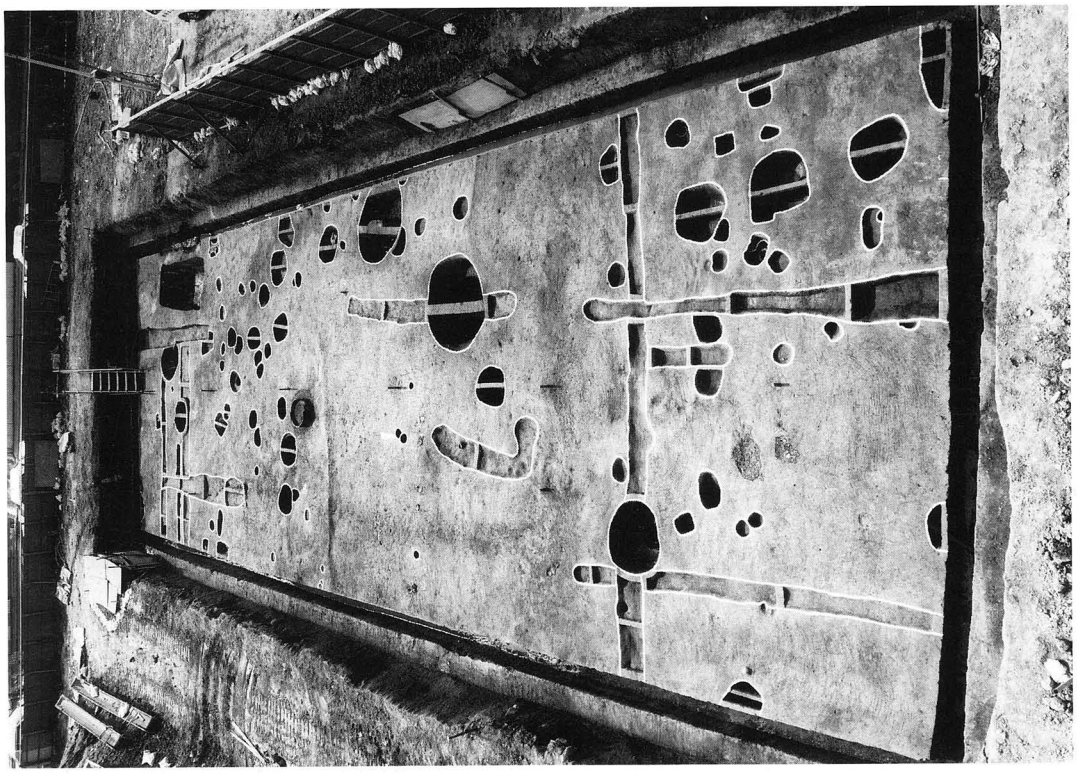
0　10m

検出遺構平面図

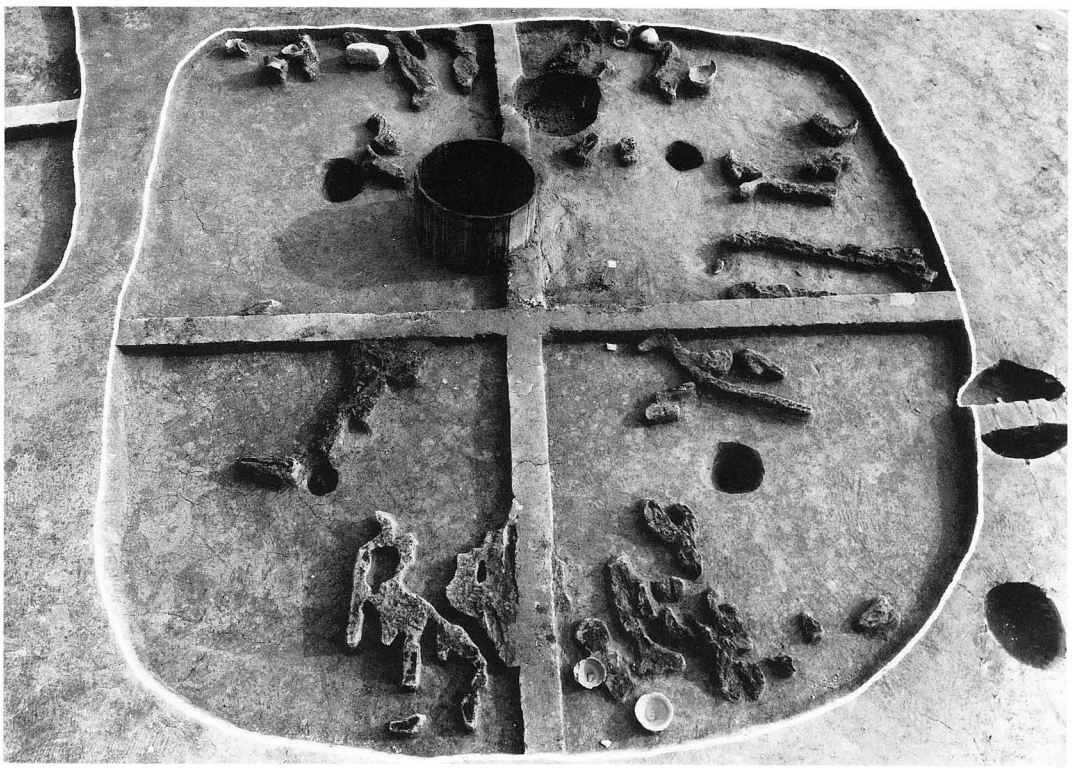
1　萱振遺跡



第 1 調査面全景（東から）



第 2 調査面全景（東から）



ＳＩ－１　検出状況（北から）

ＳＩ－２　検出状況（北から）

2　萱振（かやふり）遺跡（第７次調査）

調 査 地　八尾市泉町２丁目56他11筆・57他６筆

調査期間　平成元年２月１日～平成元年３月29日

調査面積　900㎡

はじめに

今回の発掘調査は倉庫建設に伴うもので、当調査研究会が萱振遺跡内で実施した発掘調査の第７次調査にあたる。

調査地点は、第６次調査地点の北西250ｍに位置する。

調査概要

調査では、建物の基礎杭予定地に南北方向に５本（第１トレンチ～第５トレンチ）、東西方向に２本（第６トレンチ・第７トレンチ）の計７本のトレンチを設定した。ただ、南北方向のトレンチについては、調査区内の中央部を東西方向に伸びる里道があるため、この部分を調査対象外としたため調査区が二分される結果となった。したがって、南北方向のトレンチについては、北区と南区に区別した。

各調査区の規模は、第１トレンチ～第５トレンチの北区（長さ48ｍ）、第１トレンチ～第５トレンチの南区（長さ14ｍ）、第６トレンチ（長さ36ｍ）、第７トレンチ（長さ35ｍ）で、幅は第１トレンチの北区・南区が４ｍである他は、すべて２ｍである。

掘削方法は、第１トレンチ～第５トレンチの北区および第１トレンチ南区では、機械掘削1.2ｍ前後、人力掘削0.2ｍ前後で、第２トレンチ～第５トレンチの南区および第６トレンチ・第７トレンチでは機械掘削0.8ｍ前後、人力掘削0.2ｍ前後である。

各調査区ともに１面を調査対象にしたが、第４トレンチの南区については、２面を調査対象とした。調査の結果、各調査区から古墳時代前期・古墳時代後期・近世に比定される遺構・遺物を検出した。

第１トレンチ（北区）

現地表下1.4ｍ（標高3.3ｍ）前後に存在する灰褐色粘質シルト上面を調査対象面とした。その結果、溝４条（ＳＤ－１～４）・小穴２個（ＳＰ－１・２）を検出した。そのうち、ＳＤ－２から古墳時代前期に比定される遺物が出土したほか、ＳＤ－４からは古墳時代後期に比定される遺物が出土した。

第１トレンチ（南区）

現地表下1.3m（標高3.6m）前後に存在する灰褐色粘質シルト上面を調査対象とした。その結果、井戸1基（SE－1）・土坑1基（SK－1）溝1条（SD－3）を検出した。遺物はSE－1・SK－1・SD－3から古墳時代後期に比定される遺物が出土した。

第2トレンチ（北区）

現地表下1.5m（標高3.5m）前後に存在する淡灰色シルト上面を調査対象面とした。その結果、土坑1基（SK－2）・溝1条（SD－1）・小穴4個（SP－3～6）を検出した。

遺物は、SP－6から古墳時代前期に比定される遺物が出土したほか、SP－4・SP－5からは古墳時代後期に比定される遺物が出土した。

第2トレンチ（南区）

現地表下1.2m（標高3.7m）前後に存在する淡灰色シルト上面を調査対象面とした。その結果、溝1条（SD－5）・小穴（SP－7～20）を検出した。遺物は、SD－5・SP－5・8・11・12・13・15・18から古墳時代後期に比定される遺物が出土した。

第3トレンチ（北区）

現地表下1.6m（標高3.5m）前後に存在する灰褐色粘質シルト上面を調査対象面とした。その結果、土坑1基（SK－3）・溝4条（SD－1・SD－6～8）・小穴12個（SP－21～32）を検出した。遺物はSP－24・27から古墳時代前期に比定される遺物が出土したほか、SK－3・SD－6・SP－2から古墳時代後期に比定される遺物が出土した。

第3トレンチ（南区）

現地表下1.1m（標高3.6m）に存在する灰褐色シルト上面を調査対象面としたが、遺構は検出されなかった。

第4トレンチ（北区）

現地表下1.3m（標高3.5m）前後に存在する灰褐色粘質シルト上面を調査対象面とした。その結果、土坑2基（SK－4・5）・溝4条（SD－1・6・7・9）・小穴6個（SP－33～38）を検出した。遺物は、SK－4・5、SD－6・7・9、SP－36・38から古墳時代後期に比定される遺物が出土した。

第4トレンチ（南区）

この調査地では、2面（第1調査面・第2調査面）にわたる調査を実施した。

第1調査面

現地表下0.9m（標高3.8m）前後に存在する茶褐色シルト上面を調査対象面とした。その結果、溝1条（SD－10）・小穴5個（SP－39～43）を検出した。遺物は、SD－10から古墳時代後期に比定される遺物が出土した。

第2調査面

第１調査面より0.3m前後下部に存在する灰黄色シルト上面を調査対象面とした。その結果、溝１条（ＳＤ－11）を検出した。遺物は古墳時代前期に比定される土器類がコンテナ箱に４箱程度出土した。

第５トレンチ（北区）

現地表下1.3m（標高3.5m）前後に存在する褐灰色シルト質粘土上面を調査対象面とした。その結果、溝４条（ＳＤ－１・７・12・13）を検出した。遺物はＳＤ－７から古墳時代後期に比定される遺物が出土した。

第５トレンチ（南区）

現地表下１m（標高3.6m）前後に存在する淡灰色シルト上面を調査対象とした。その結果、土坑１基（ＳＫ－６）・小穴８個（ＳＰ－44～51）を検出した。遺物はＳＰ－44から古墳時代後期に比定される遺物が出土した。

第６トレンチ

現地表下0.8m（標高3.8m）前後に存在する淡黄灰色シルト上面を調査対象面とした。その結果、井戸１基（ＳＥ－２）・土坑２基（ＳＫ－７・８）・溝５条（ＳＤ－３・11・14～16）・小穴３個（ＳＰ－52～54）を検出した。遺物はＳＤ－11から古墳時代前期、ＳＫ－７・８から古墳時代中期、ＳＥ－２から近世に比定される遺物が出土した。

第７トレンチ

現地表下0.7m（標高3.9m）前後に存在する淡灰色茶色シルト上面を調査対象面とした。この結果、溝６条（ＳＤ－14・15・17～20）・小穴６個（ＳＰ－55～60）を検出した。遺物はＳＤ－14・17・18・19・20、ＳＰ－55・56から古墳時代後期に比定される遺物が出土した。

まとめ

調査の結果、調査区の中央部を東西方向に伸びる里道を境として、南側と北側では約0.3m前後の比高差が認められ、旧地形が南側から北側にかけてゆるやかに傾斜をもつ地形であったことが判明した。検出した遺構・遺物は古墳時代前期（庄内式新相）・古墳時代後期・近世に比定されるものである。以下、時期ごとに概観する。

古墳時代前期（庄内式新相）

この時期に比定される遺構は、第１トレンチ（北区）のＳＤ－２、第２トレンチ（北区）のＳＰ－６、第３トレンチ（北区）のＳＰ－24・27、第４トレンチ（南区－第２調査面）および第６トレンチのＳＤ－11である。ＳＤ－11を除けば、調査地の北部中央から西部一帯に広がりが認められる。ＳＤ－11は、南東－北西方向に流路を持つもので、検出長２m幅4.5m深さ1.5mを測る。溝内からは、壷・鉢・高杯・甕等の土器片が多量に出土したほか、広鋤・方形容器等の木製品が出土している。また、溝内から出土した土器類は、ほとんどローリングを受けて

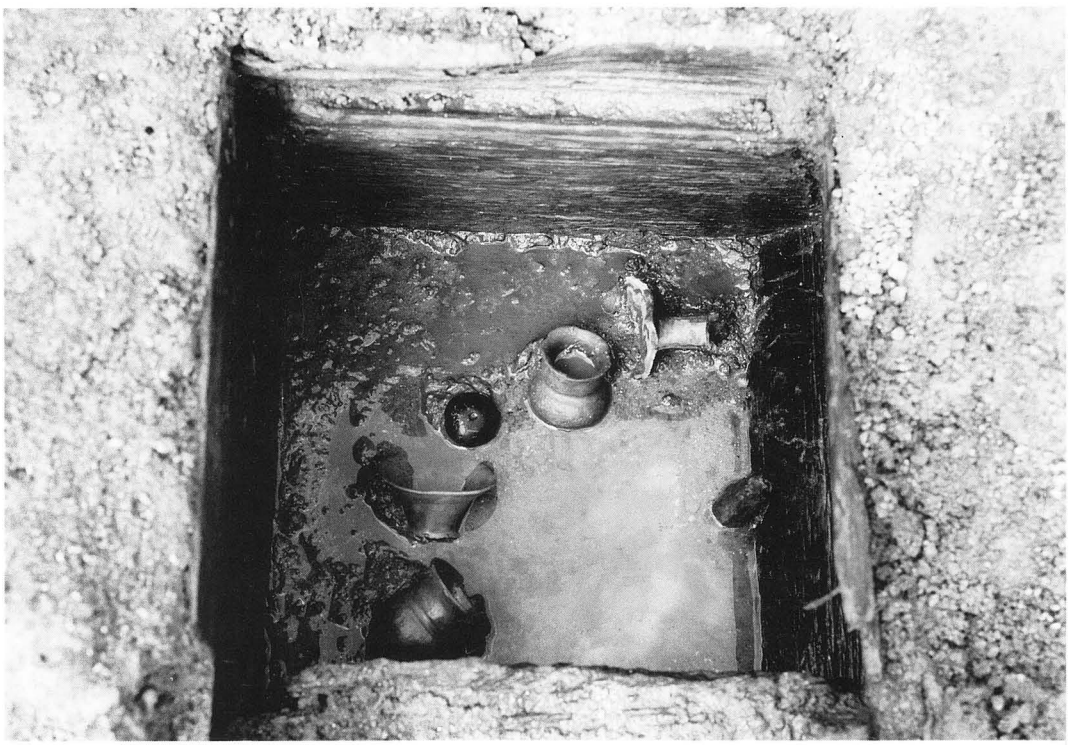
いないことから、調査地の南東部一帯にこの時期の集落が存在した可能性が高いものと考えられる。

古墳時代後期（6世紀後半～7世紀前半）

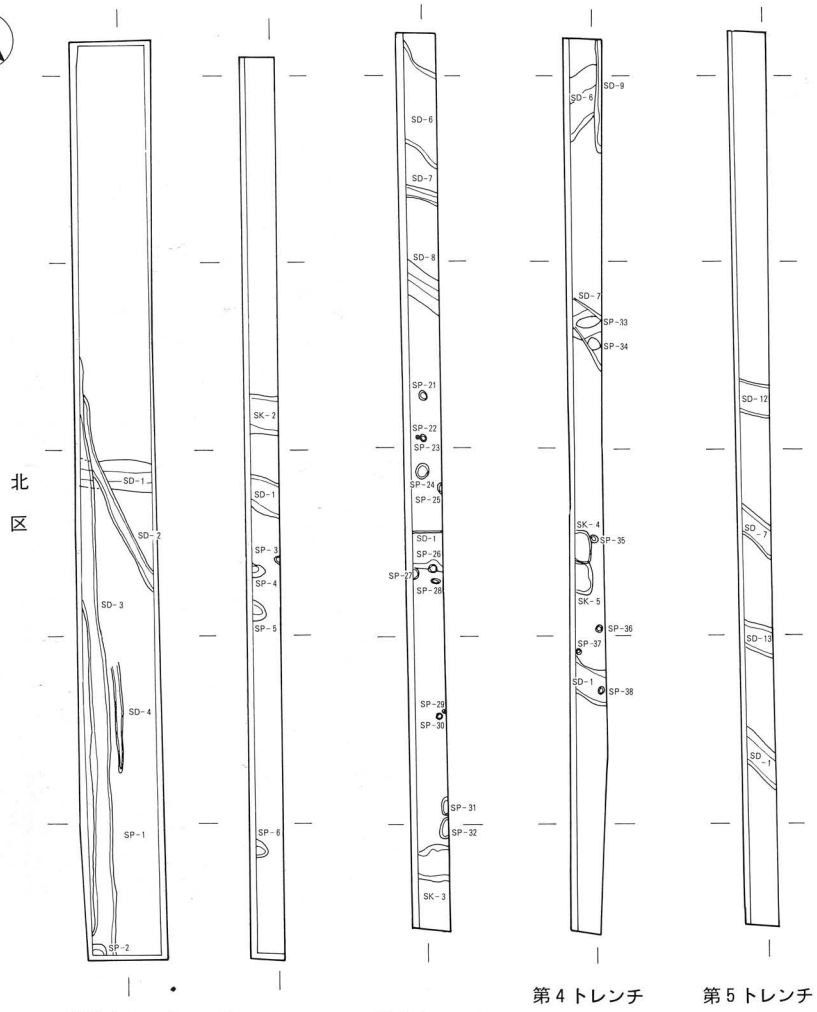
この時期に比定される遺構・遺物は調査区の全域で確認でき、この時期大規模な集落が存在していたことが明らかになった。そのなかでも、第1トレンチ・第2トレンチ（南区）、第2トレンチ・第3トレンチ（北区）の中央部、第4トレンチ・第5トレンチ（南区）付近では掘立柱建物を構成したものと推定される小穴を多数検出しており、集落内での居住域を推定するうえで重要であろう。また、出土遺物のなかには軒丸瓦1点のほか、平瓦・丸瓦の破片が多数出土しており、今後調査区の東方に位置した西郡廃寺との関係に注意をはらう必要があろう。

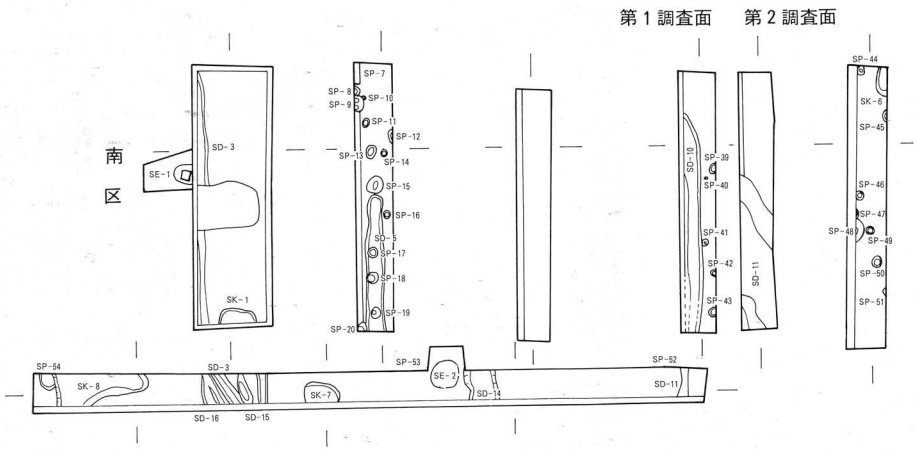
近世

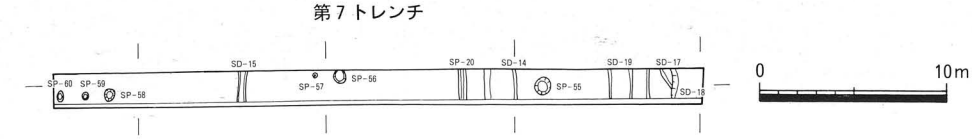
第6トレンチで井戸1基（SE－2）を検出した。その形状から農業用の井戸であったものと推定できる。



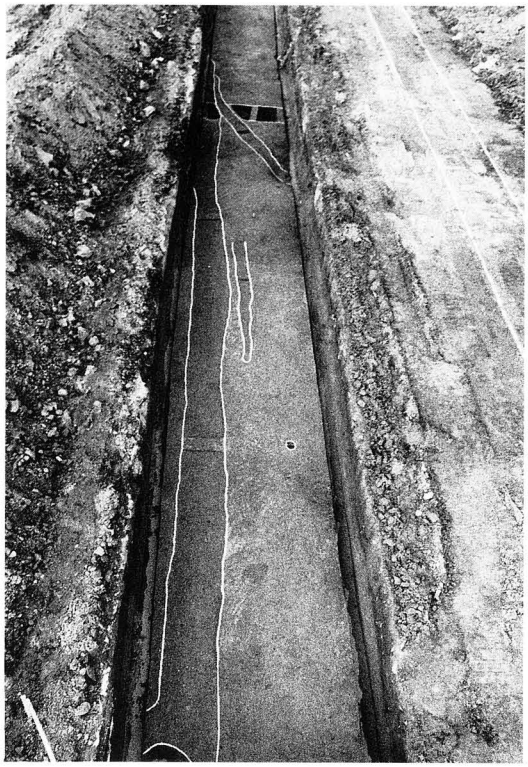
第1トレンチ南区　SE－1検出状況（東から）


北区
SD-1
SD-2
SD-3
SD-4
SP-1
SP-2
SK-2
SP-3
SP-4
SP-5
SP-6
SD-6
SD-7
SD-8
SP-21
SP-22
SP-23
SP-24
SP-25
SP-26
SP-27
SP-28
SP-29
SP-30
SP-31
SP-32
SK-3
SD-9
SP-33
SP-34
SK-4
SP-35
SK-5
SP-36
SP-37
SP-38
SD-12
SD-13
第1トレンチ
第2トレンチ
第3トレンチ
第4トレンチ
第5トレンチ

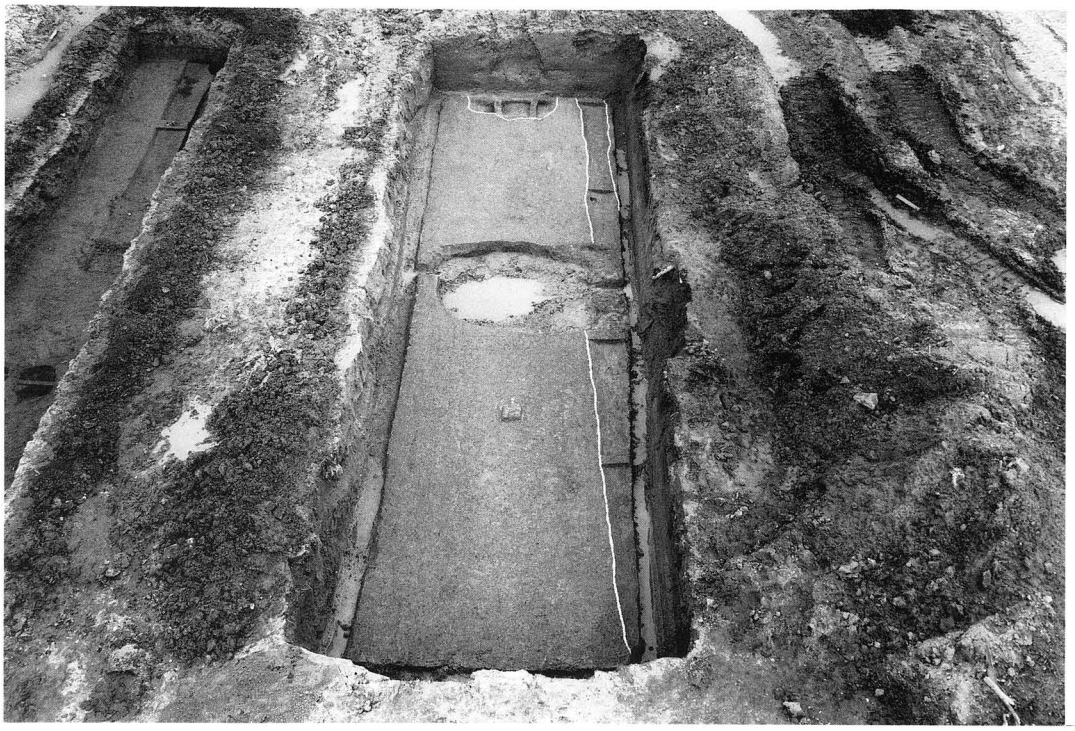

第1調査面
第2調査面
南区
SE-1
SD-3
SK-1
SP-7
SP-8
SP-9
SP-10
SP-11
SP-12
SP-13
SP-14
SP-15
SP-16
SP-17
SP-18
SP-19
SP-20
SD-10
SP-39
SP-40
SP-41
SP-42
SP-43
SD-11
SP-44
SK-6
SP-45
SP-46
SP-47
SP-48
SP-49
SP-50
SP-51
SP-52
SP-53
SE-2
SD-14
SP-54
SK-8
SK-7
SD-16
SD-15
第6トレンチ


第7トレンチ
SD-15
SP-60
SP-59
SP-58
SP-57
SP-56
SP-20
SD-14
SP-55
SD-19
SD-17
SD-18
0
10m

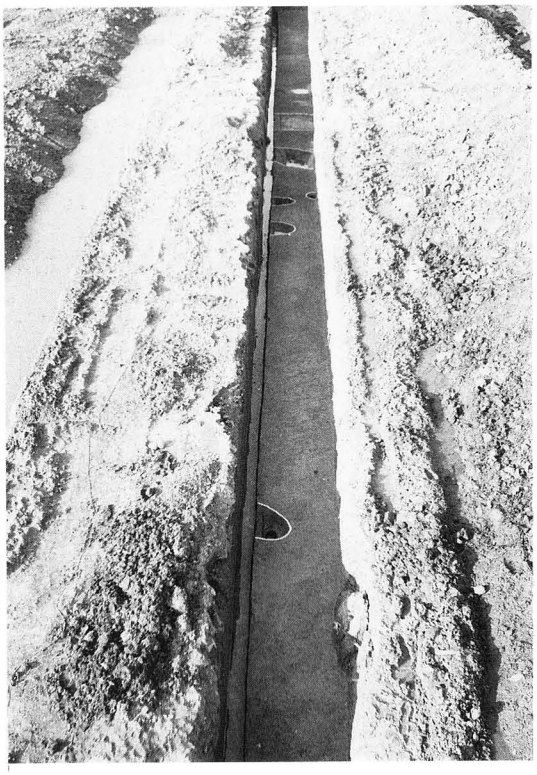
検出遺構平面図



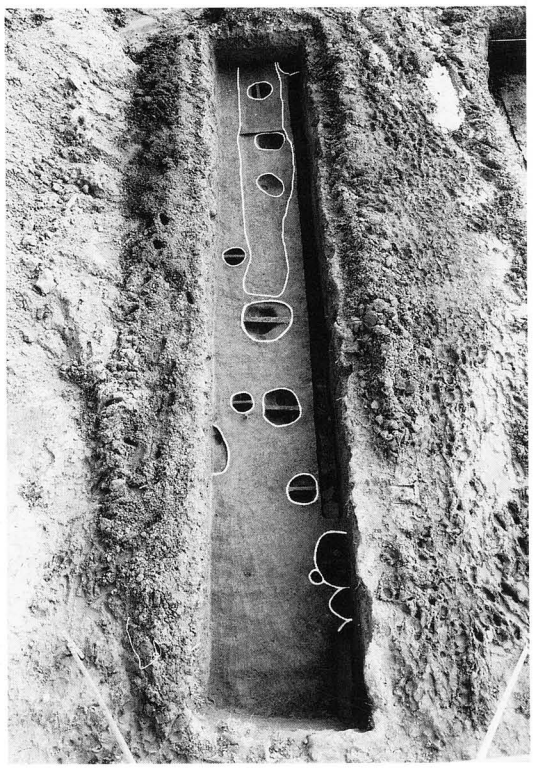
第１トレンチ北区全景（南から）



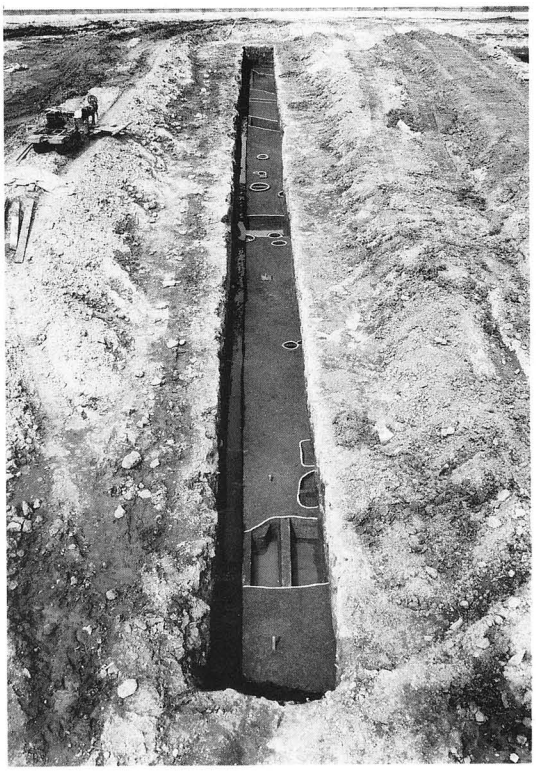
第１トレンチ南区全景（北から）



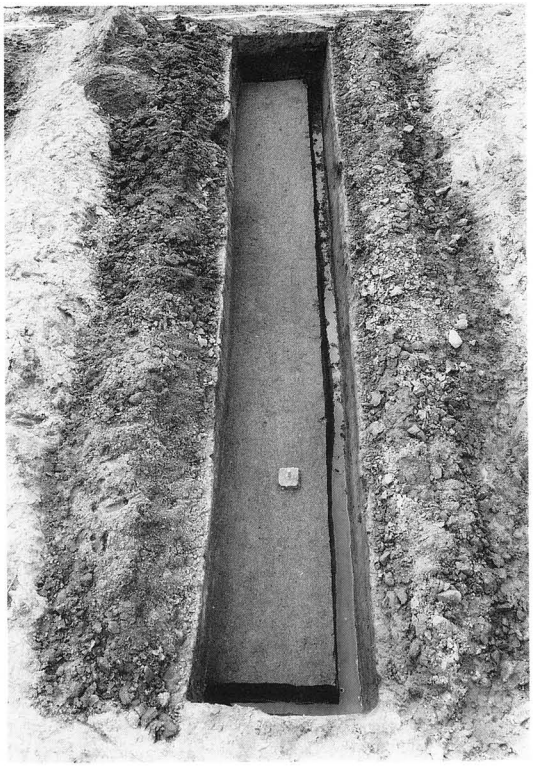
第 2 トレンチ北区全景（南から）



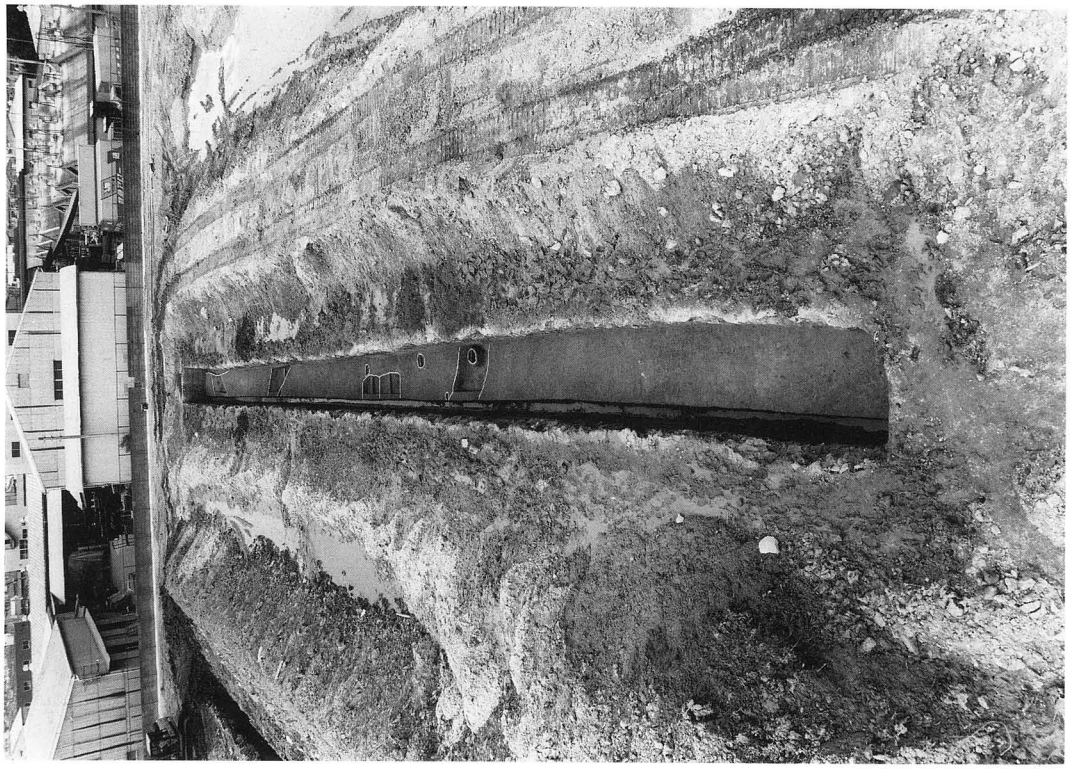
第 2 トレンチ南区全景（北から）



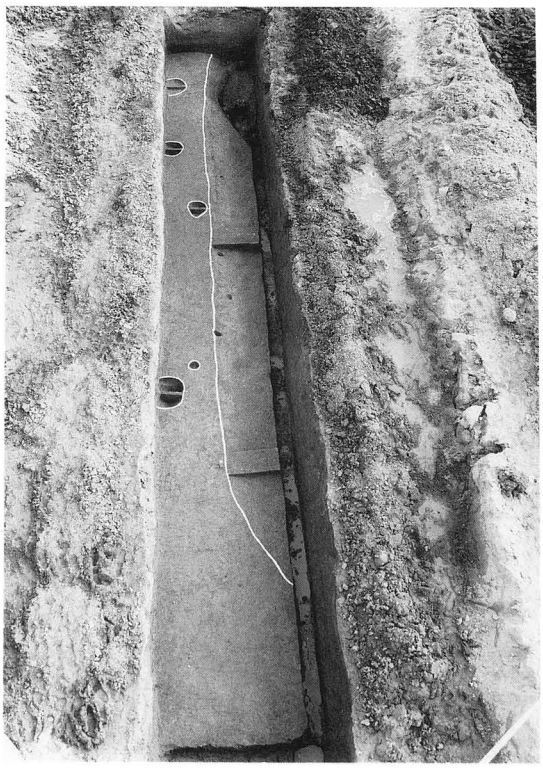
第 3 トレンチ北区全景（南から）



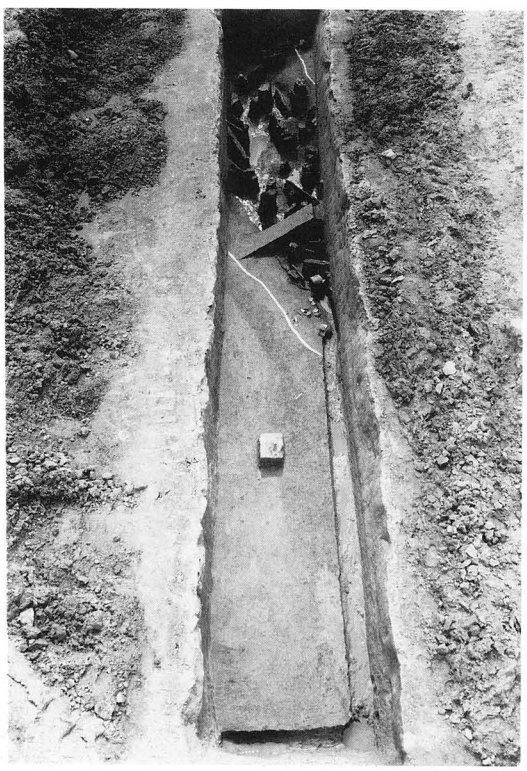
第 3 トレンチ南区全景（北から）



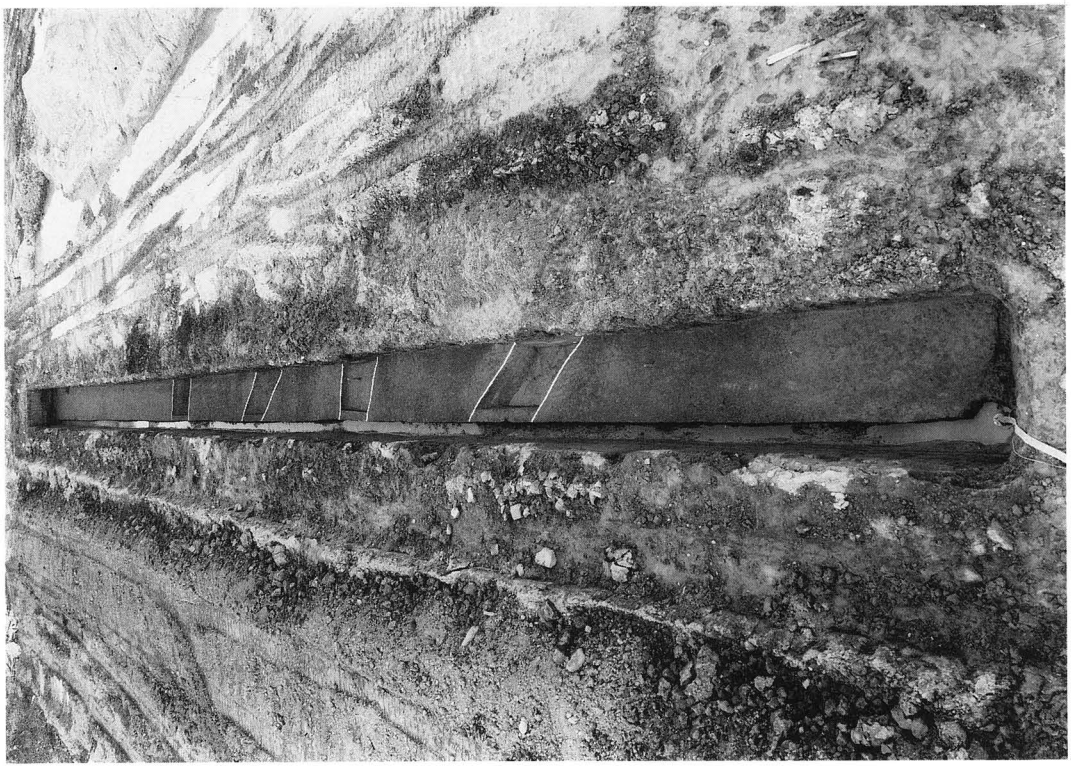
第4トレンチ北区全景（南から）



第4トレンチ南区第1調査面全景（北から）

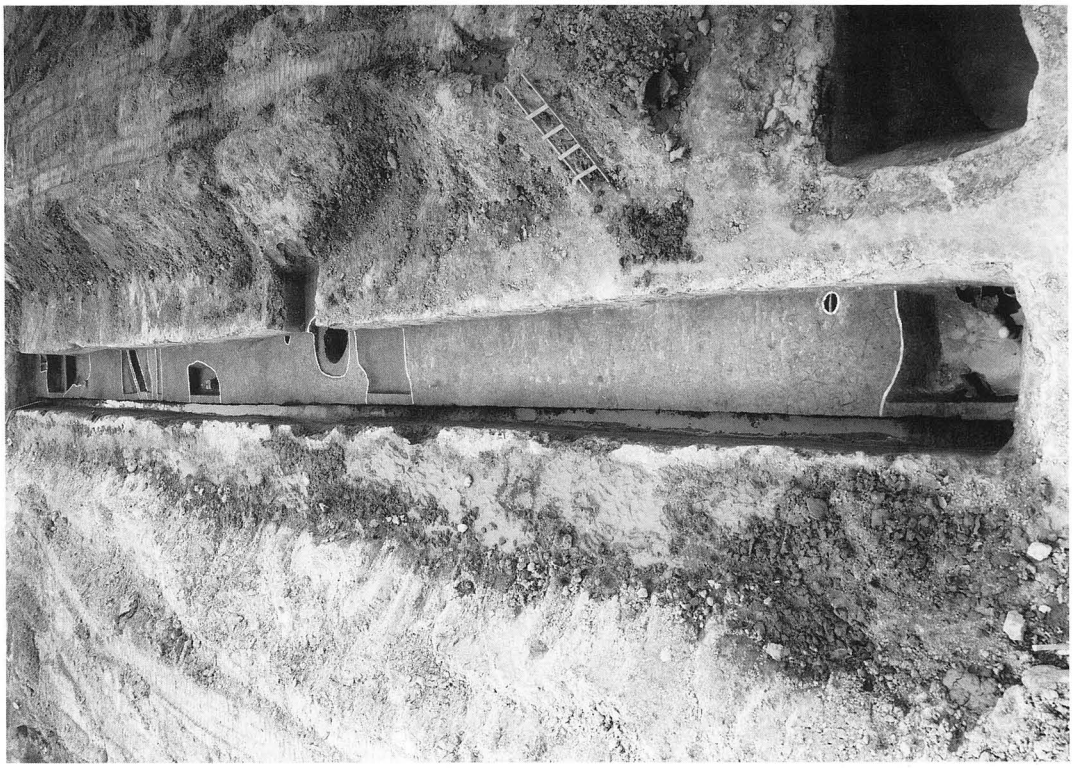


同左　第2調査面全景（北から）

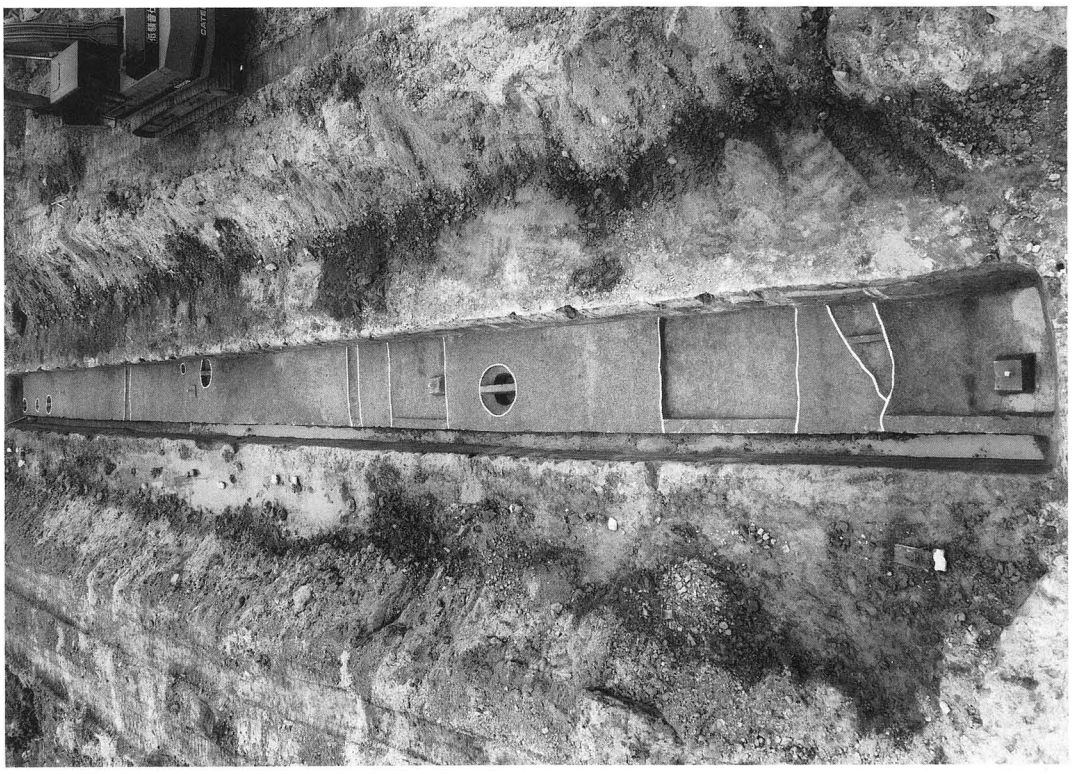


第5トレンチ北区全景（南から）

第5トレンチ南区全景（北から）



第6トレンチ全景（東から）



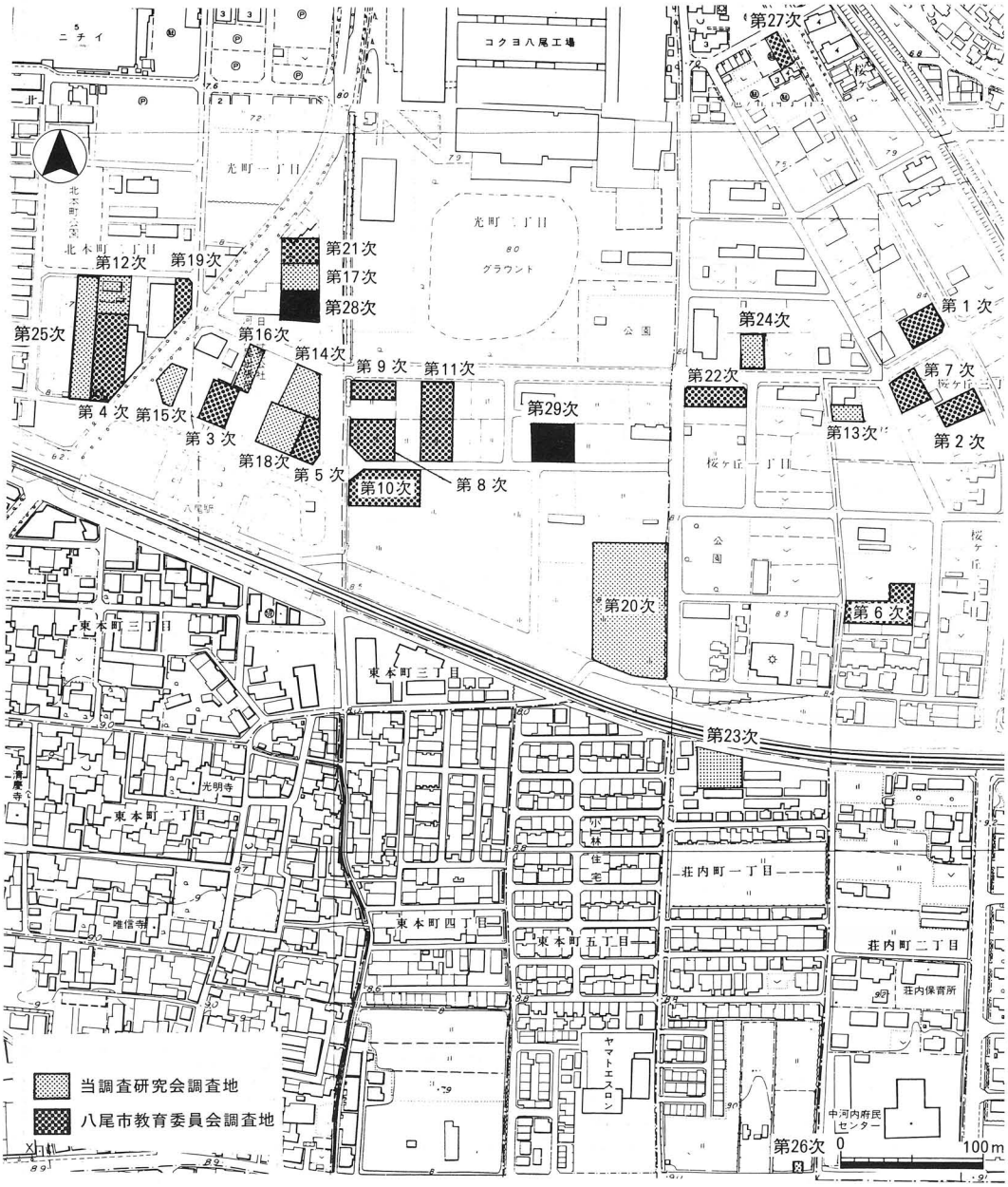
第7トレンチ全景（東から）

3　東郷（とうごう）遺跡（第28次調査）

調 査 地　八尾市光町１丁目47

調査期間　昭和63年７月26日～昭和63年８月11日

調査面積　150㎡



調査地周辺図

周辺の発掘調査一覧表

	調査主体	調査期間	文献	発行
第1次	八尾市教育委員会	55年1月	八尾南遺跡範囲確認調査・東郷遺跡調査報告書 八尾市文化財調査報告6	1981.3
第2次	八尾市教育委員会	56年4月	八尾市埋蔵文化財発掘調査概報　1980・1981年度	1983.8
第3次	同上	56年4月	同上	—
第4次	同上	56年5月	同上	—
第5次	同上	56年6月～56年7月	同上	—
第6次	同上	56年7月～56年8月	同上	—
第7次	同上	56年9月～56年10月	同上	—
第8次	同上	56年10月～56年12月	同上	—
第9次	同上	56年12月	同上	—
第10次	同上	57年2月～57年3月	同上	—
第11次	同上	57年5月～57年6月		
第12次	当調査研究会	57年8月	同上	—
第13次	同上	57年9月～57年10月	同上	—
第14次	同上	58年3月～58年4月	同上	—
第15次	同上	58年5月	同上	—
第16次	同上	58年8月	同上	—
第17次	同上	58年11月～58年12月	八尾市埋蔵文化財発掘調査概要　昭和59年度 (財)八尾市文化財調査研究会報告6	1985.3
第18次	同上	59年3月～59年4月	八尾市埋蔵文化財発掘調査報告　昭和63年度 (財)八尾市文化財調査研究会報告17	1989.3
第19次	八尾市教育委員会	60年4月	八尾市内遺跡昭和60年度発掘調査報告書 八尾市文化財調査報告12	1986.3
第20次	当調査研究会	60年10月～61年3月	八尾市埋蔵文化財発掘調査概要　昭和61年度 (財)八尾市文化財調査研究会報告13	1987.9
第21次	八尾市教育委員会	61年11月	東郷遺跡第21次埋蔵文化財発掘調査概要 八尾市文化財調査報告13	1986.10
第22次	同上	61年12月	八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書Ⅱ 八尾市文化財調査報告15	1987.3
第23次	当調査研究会	62年2月～62年3月	昭和61年度事業概要報告 (財)八尾市文化財調査研究会報告14	1987.12
第24次	同上	62年4月	八尾市文化財調査研究会年報　昭和62年度 (財)八尾市文化財調査研究会報告16	1988.12
第25次	同上	62年7月～62年9月	同上	—
第26次	同上	63年1月	同上	—
第27次	八尾市教育委員会	62年8月	八尾市内遺跡昭和62年度発掘調査報告書Ⅰ 八尾市文化財調査報告17	1988.3
第28次	当調査研究会	63年7月～63年8月	今回報告	—
第29次	同上	元年3月	同上	—

はじめに

今回の発掘調査は、社屋建設に伴うもので、八尾市教育委員会・当調査研究会が東郷遺跡内で実施した第28次調査にあたる。

当遺跡は、旧大和川の主流であった長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に位置しており、現在の行政区画では北本町・東本町・光町・桜ケ丘・荘内町一帯にあたる。

東郷遺跡内では、昭和56年度から昭和62年度に至るまで八尾市教育委員会・当調査研究会により27次にわたる発掘調査が継続的に実施されてきた。その結果、弥生時代中期から鎌倉時代に至る複合遺跡であることが判明している。

今回の調査地は、当調査研究会が実施した第17次調査地の南にあたる。

調査概要

社屋建設予定地にあわせて、東西15m・南北10mの調査区を設定した。掘削に際しては、八尾市教育委員会の指示書に基づき、現地表下1.0～1.2mまでに堆積する土層を機械で掘削し、以下の各層は人力掘削を実施して、遺構・遺物の検出につとめた。

基本層序

第0層：盛土。0.8～1.0m。現地表の標高は7.7～7.8mである。

第1層：暗灰色粘土。0.1～0.3m。近年までの耕作土である。

第2層：淡茶色細砂混粘土。0.1～0.15m。

第3層：茶灰色細砂混粘土。0.1～0.3m。中世の遺物を若干含む。

第4層：暗灰茶色細砂混粘土。0.1～0.2m。弥生時代後期～古墳時代前期と平安時代後期の遺物を含む。

第5層：灰色細砂。0.3m以上。古墳時代前期と平安時代後期の遺構検出面である。

検出遺構と出土遺物

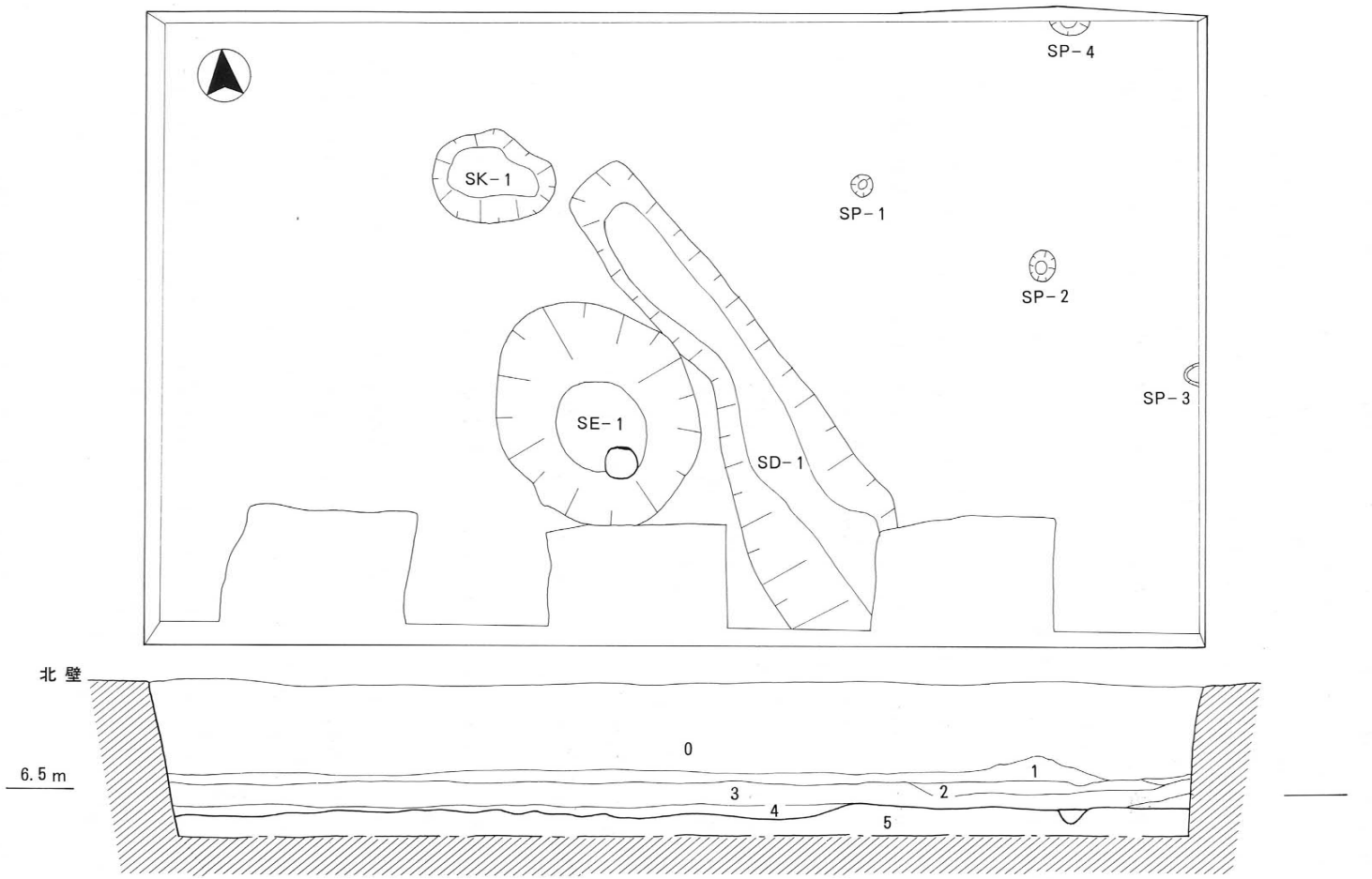
調査の結果、現地表下1.35～1.45m（標高6.25～6.35m）に存在する第5層上面で、古墳時代前期（布留式古相）の溝1条（ＳＤ－１）と平安時代後期の井戸1基（ＳＥ－１）・土坑1基（ＳＫ－１）・小穴4個（ＳＰ－４）を検出した。

ＳＤ－１

南東－北西に伸び、検出長5.8m・幅1.6m・深さ0.3mを測る。内部堆積土は暗灰茶色細砂混粘土である。内部からは壷（１～８）、小型丸底壷（９・10）、高杯（11）、鉢（12～14）、器台（15～18）、甕（19～39）が出土している。

ＳＥ－１

調査区の中央で検出した。上面の形状は楕円形を呈するもので、掘形の南部寄りに曲物を積み井戸側としている。東西幅2.3m・南北幅2.5m・深さ0.65mを測る。曲物井戸側は、最下段



0 盛土　　2 淡茶色細砂混粘土　4 暗灰茶色細砂混粘土（弥生時代後期～古墳時代前期・平安時代後期の遺物を含む）

1 旧耕土（暗灰色粘土）　3 茶褐色細砂混粘土　5 灰色細砂（上面で古墳時代前期〔布留式古相〕と平安時代後期の遺構を検出）

検出遺構平断面図

が完存していたが、下から2段目は上部が腐敗して欠損していた。遺存部分の高さは33cmを測る。曲物井戸側の構築に際しては、下部から上部へ行くに従って大きい物を重ねており、曲物の径は下部から順に37cm・39cmである。井戸の堆積土は上から、第1層茶灰褐色細砂混粘質土、第2層暗灰褐色粘質土、第3層黒灰色粘土（炭含む）、第4層灰褐色細砂、第5層暗灰色粘土、第6層暗灰褐色細砂混粘質土、第7層暗灰色粘土、第8層淡灰色細砂混粘土で、井戸側内の堆積土は、第9層灰黒色粘土である。遺物は井戸内に堆積する第7層から土師器小皿（42～73）・中皿（74～92）・杯（93・94）、瓦器小皿（95）・瓦器椀（96～120）、土師器羽釜（121）、陶器（122）、井戸側内の第9層灰黒色粘土から土師器小皿（129～134）・中皿（135～140）・甕（141）、瓦器椀（123～128）が出土している。

SK－1

SE－1の北西側で検出した。上面の形状は東西方向に長い楕円形を呈し、東西幅1.3m、南北幅1.06m、深さ0.17mを測る。内部堆積土は上から暗灰茶色細砂混粘土・灰茶色細砂混粘土である。暗灰茶色細砂混粘土からは、土師器の甕（40）が出土している。

SP－1

北東側で検出した。上面の形状は円形を呈し、径0.25m、深さ0.23mを測る。内部堆積土は上から暗灰色細砂混粘土、灰色粘土である。小穴内からの遺物の出土はなかった。

SP－2

SP－1の南東で検出した。上面の形状は楕円形を呈する。東西幅0.3m、南北幅0.36mを測る。内部堆積土は、茶褐色細砂混粘土である。小穴内からの遺物の出土はなかった。

SP－3

調査区の南東側で検出した。検出した南北幅は0.23m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は上から淡茶色粘土、暗茶灰色細砂混粘土である。小穴内からの遺物の出土はなかった。

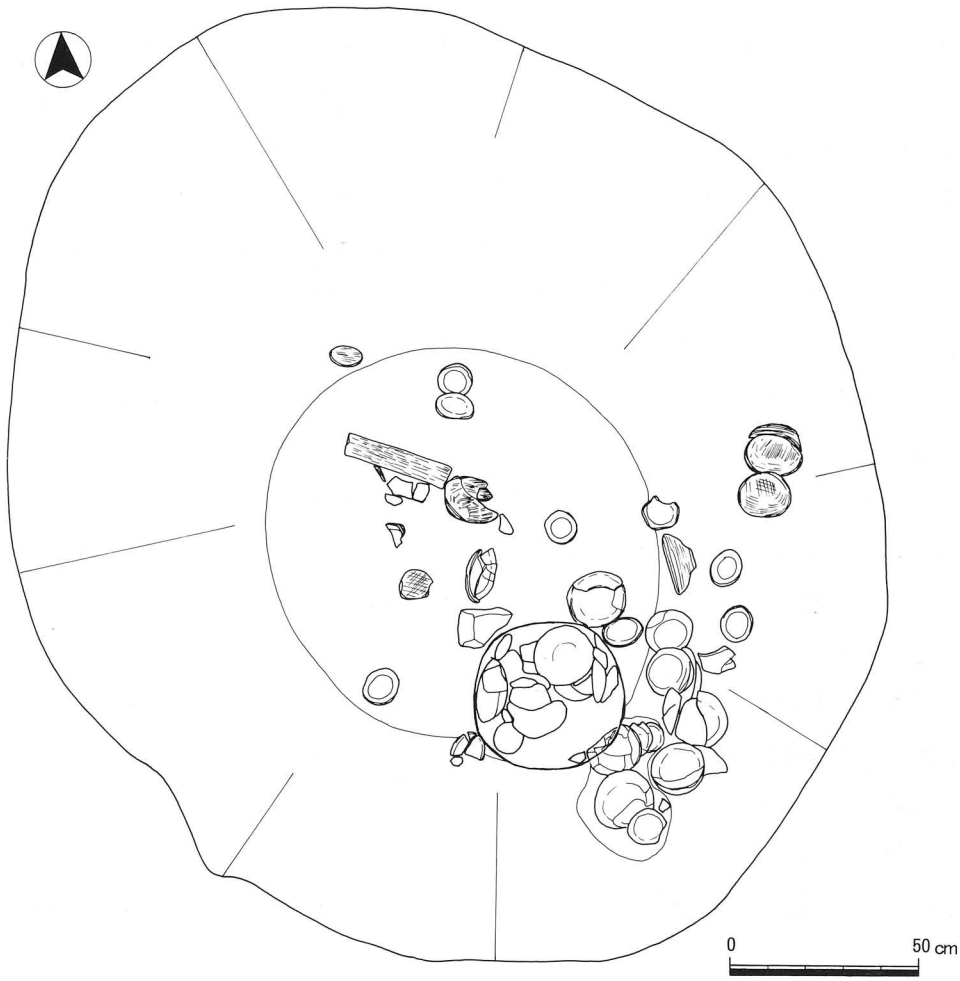
SP－4

調査区の北東で検出した。検出した東西幅は0.47m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は、暗灰色細砂混粘土である。小穴内からは土師器の杯（41）が出土している。

まとめ

今回の調査では、古墳時代前期と平安時代後期の遺構・遺物を検出した。当調査地の北側の第17次調査[註1]・第21次調査[註2]では、古墳時代前期の方形周溝墓と平安時代後期と思われる小穴や溝が検出されており、また南側の第14次調査[註3]でも古墳時代前期の遺構が検出されている。このことから、今回の調査において検出した遺構は、当遺跡内における当該期の集落の動向を考える上で重要な資料であるといえる。

また、SE－1の第7層から出土した和泉型の瓦器椀は、八尾市域編年のⅡ－1に、井戸側[註4]



1　茶灰褐色細砂混粘質土　4　灰褐色細砂　7　暗灰色粘土
2　暗灰褐色粘質土　5　暗灰色粘土　8　淡灰色細砂混粘土
3　黒灰色粘土（灰含む）　6　暗灰褐色細砂混粘質土　9　灰黒色粘土

SE－1平断面図

内出土の瓦器椀はⅠ－2に区分でき時期差が認められた。このことから、井戸を廃絶した後、井戸側の最下段から2段あたりまで掘削して、土坑として再利用していた可能性が考えられる。

また、井戸側に転用されていた曲物容器の外側には下記の墨書が記されていた。

「□〔永カ〕〔□□□〕〔十カ〕□二月廾三日福〔殿カ〕□□□」

この井戸は、出土した瓦器椀の形式から11世紀末から12世紀前葉に使用されていたものと考えられる。11世紀末から12世紀前葉で、「永」ではじまる年号には「永保」(1081～1084)、「永長」(1096～1097)、「永久」(1113～1118) の三つがあり、そのいずれかにあたるものと推定できる。

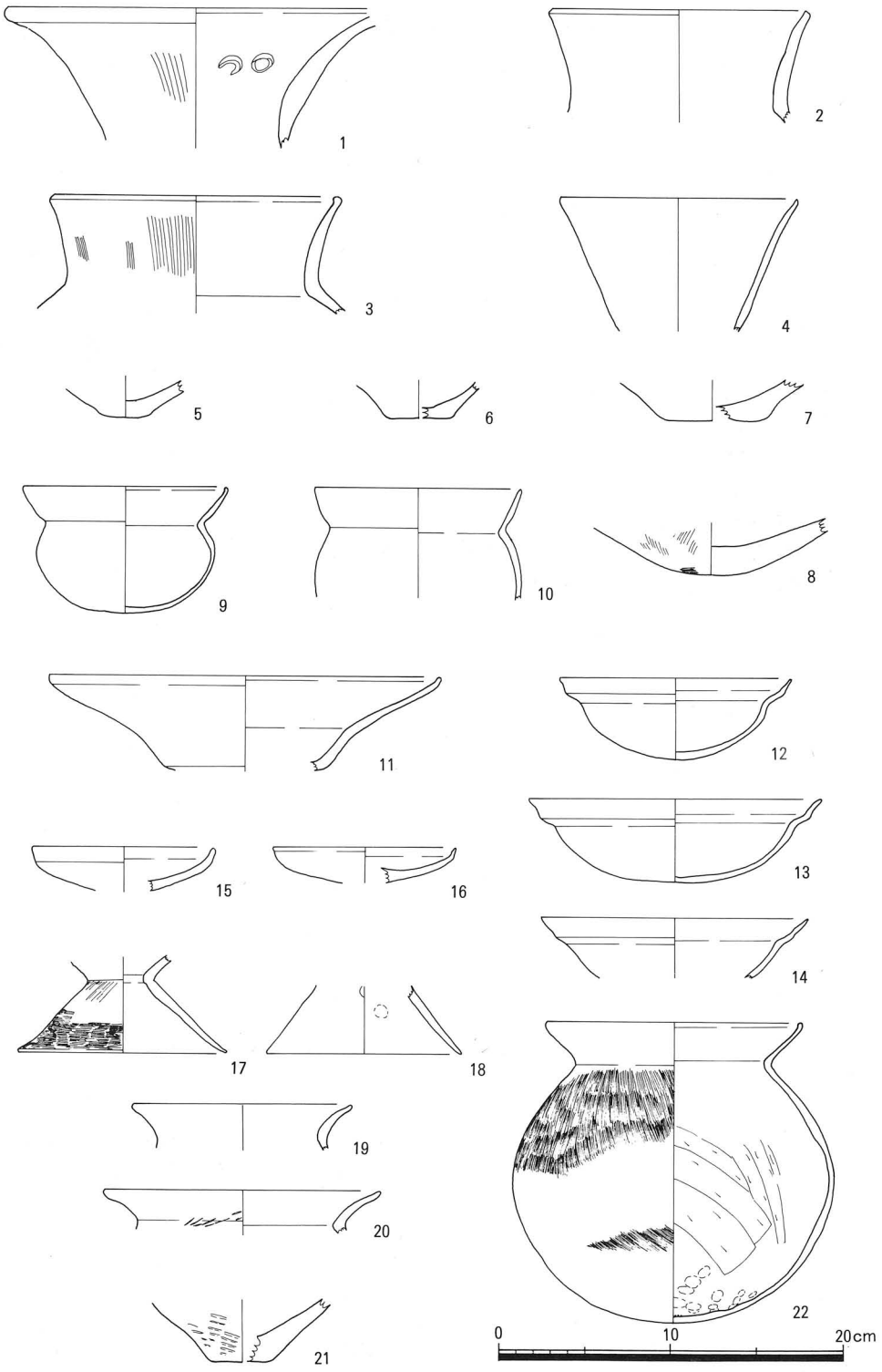
なお、墨書の判読にあたり奈良国立文化財研究所の稜村宏氏の御教示を得た。

註1　㈶八尾市文化財調査研究会『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要』昭和59年度　Ⅰ東郷遺跡発掘調査概要報告　㈶八尾市文化財調査研究会報告6　1985

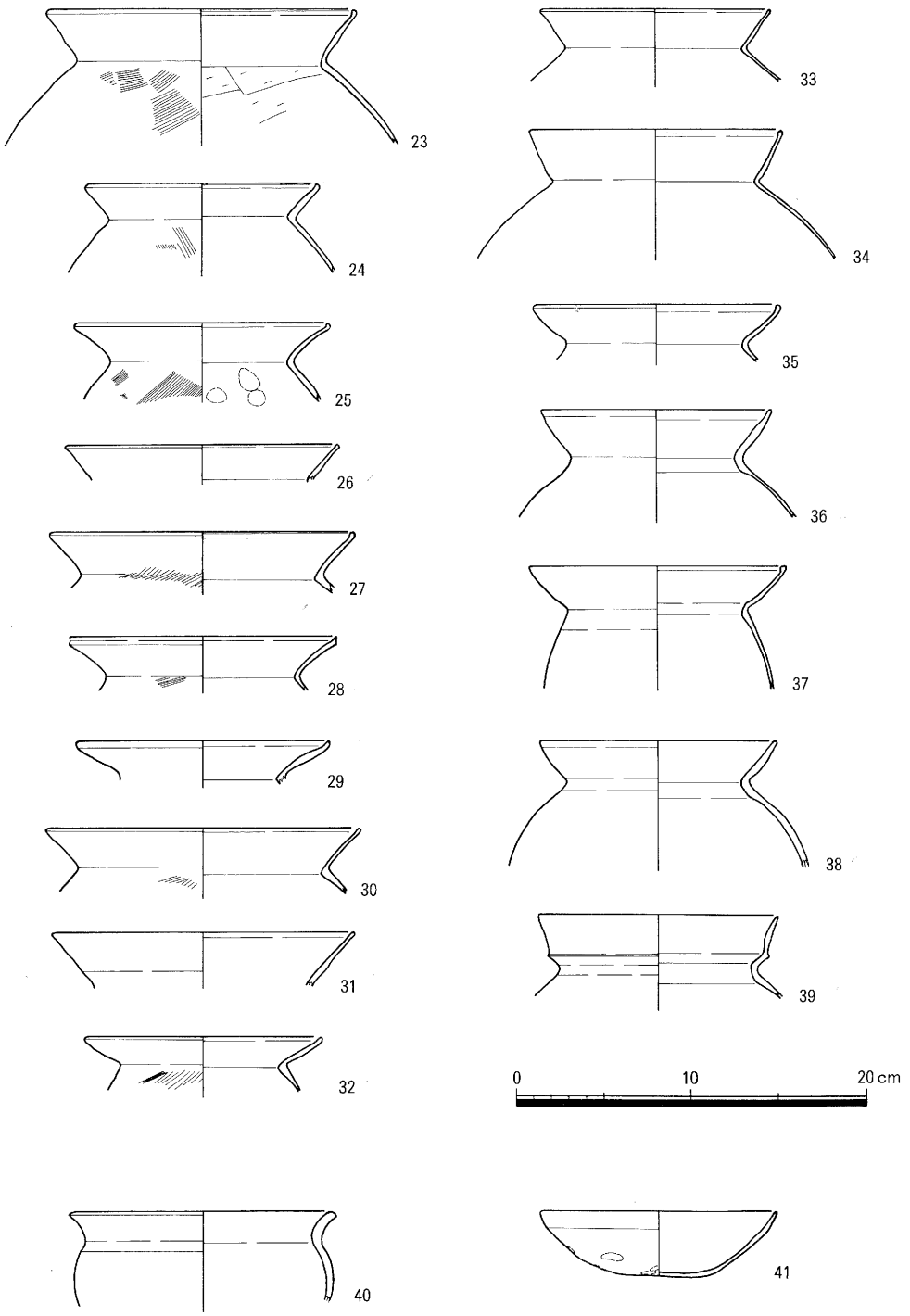
註2　八尾市教育委員会「東郷遺跡第21次埋蔵文化財調査概要」八尾市文化財調査報告13　1986.10

註3　㈶八尾市文化財調査研究会「Ⅰ東郷遺跡」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告　昭和63年度』　㈶八尾市文化財調査研究会報告17　1989.3

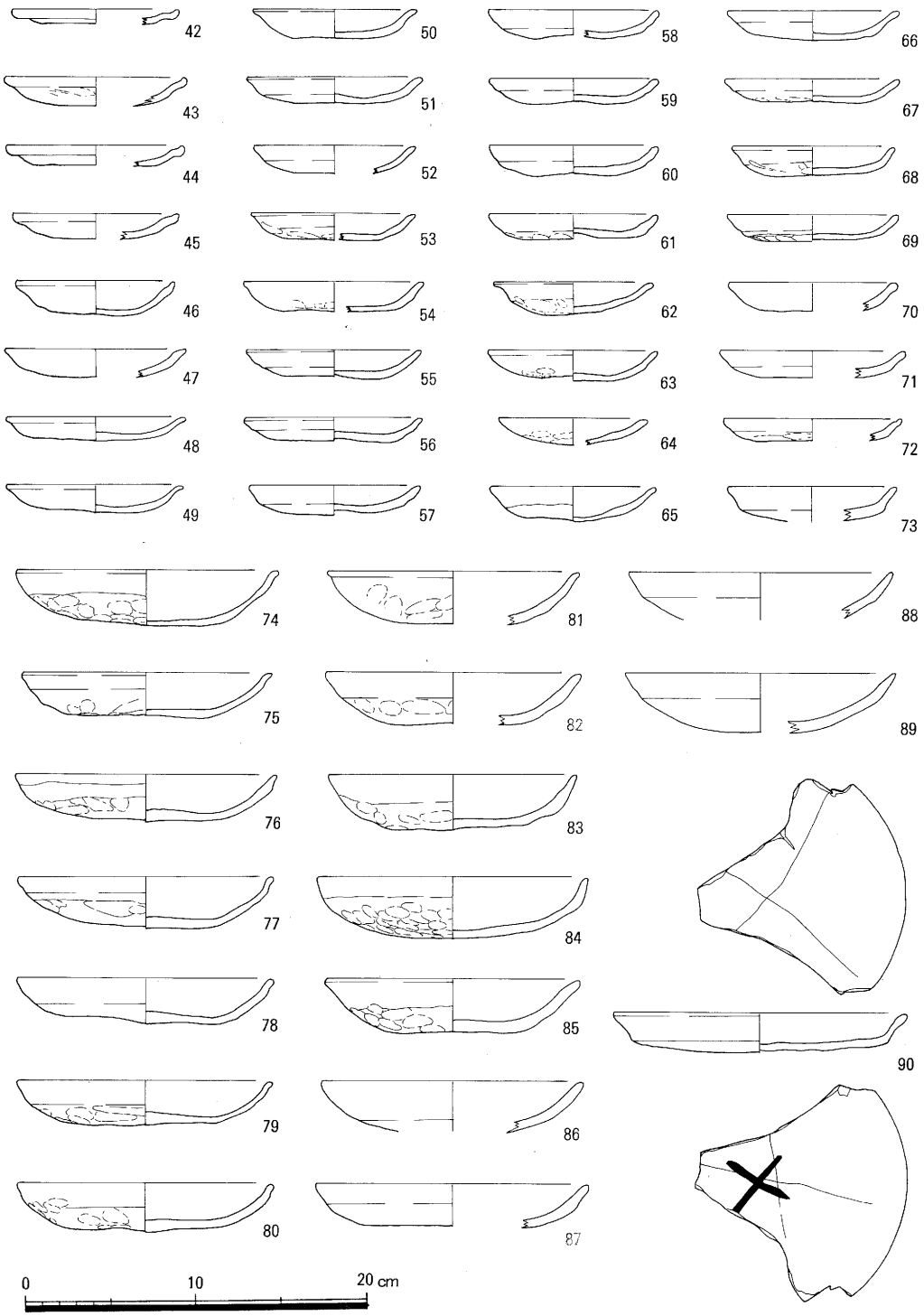
註4　㈶八尾市文化財調査研究会『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要』昭和61年度　Ⅰ萱振A遺跡発掘調査概要報告　㈶八尾市文化財調査研究会報告13　1989



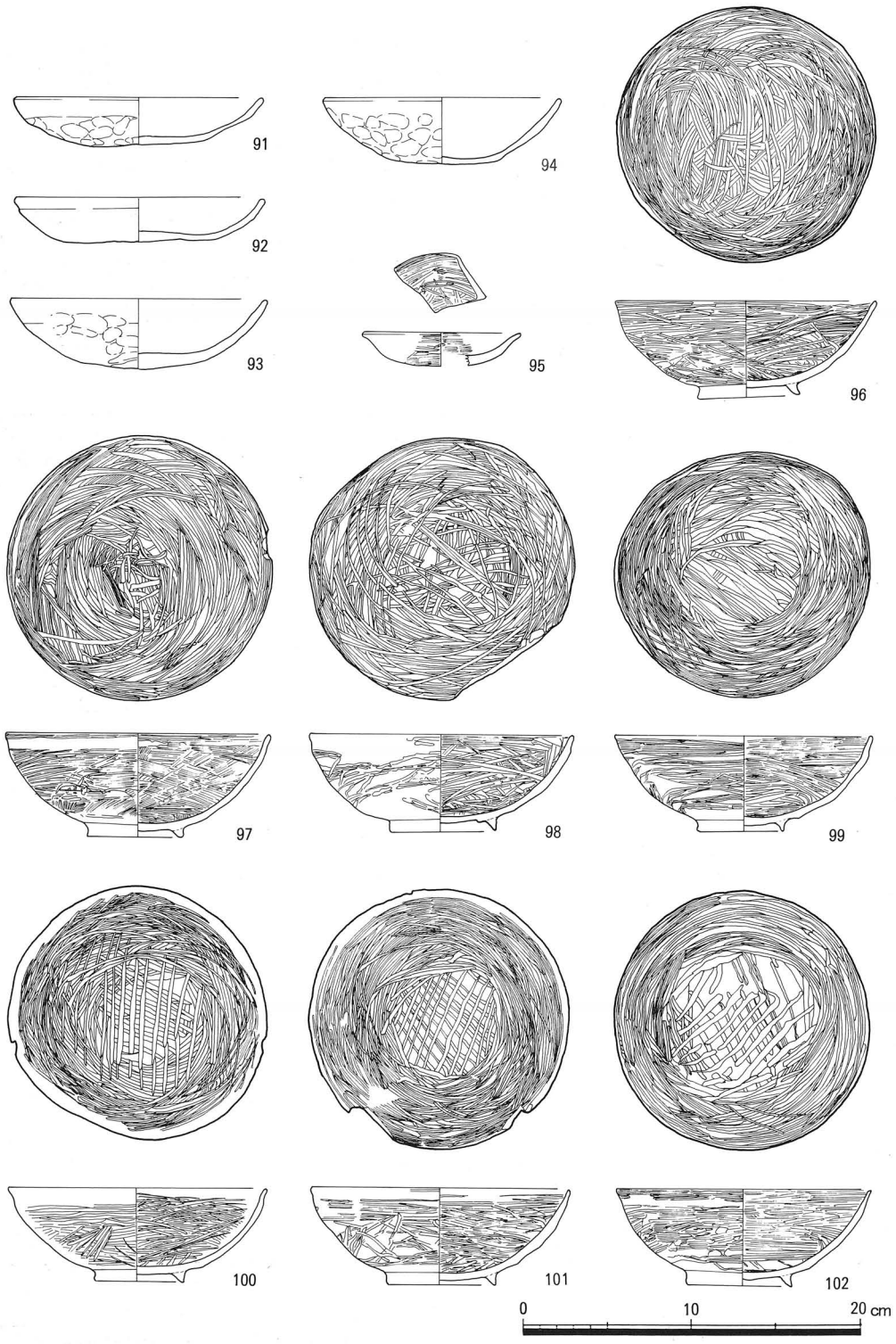
SD－1　出土遺物実測図



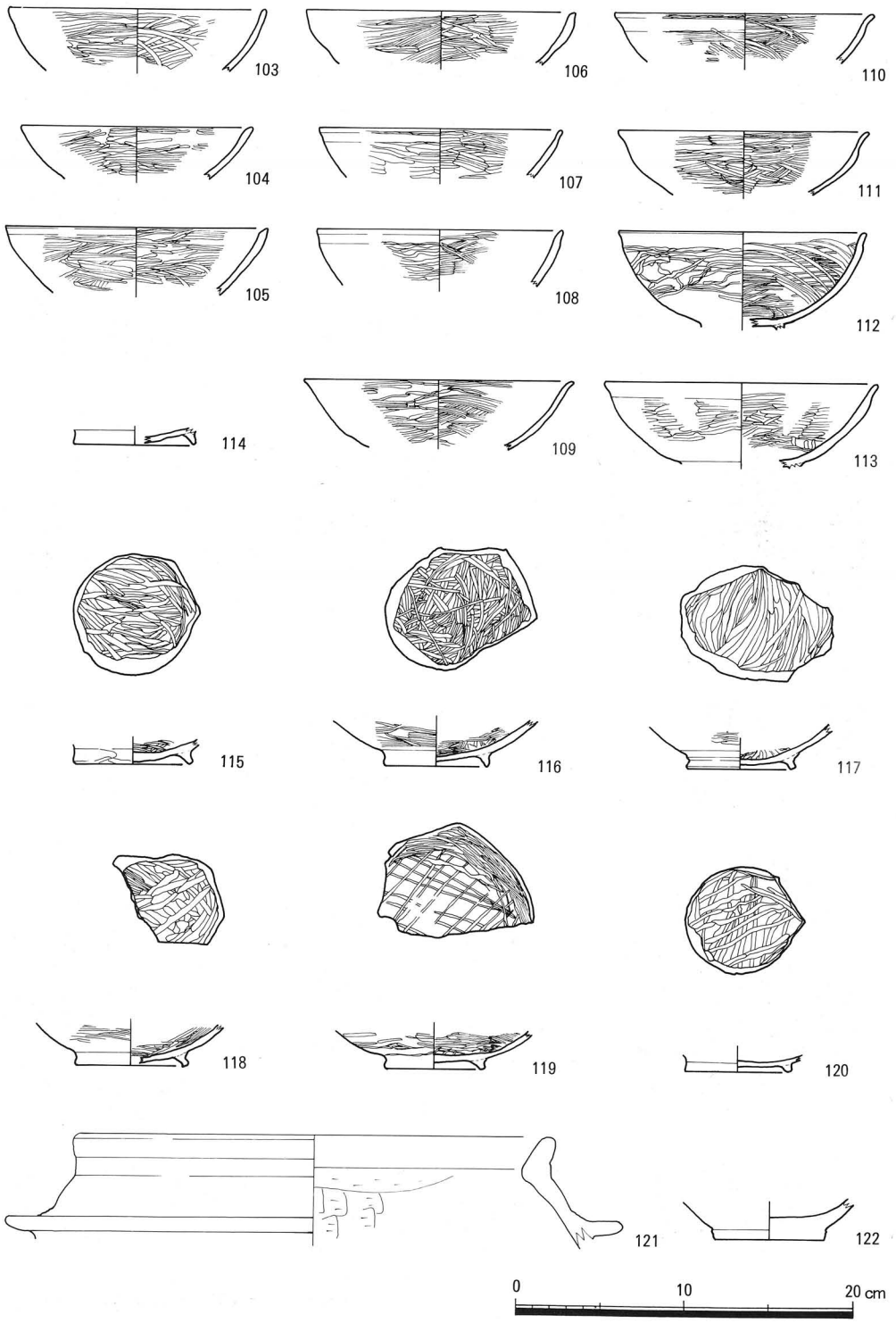
SD－1（23～39）SK－1（40）SP－4（41）出土遺物実測図



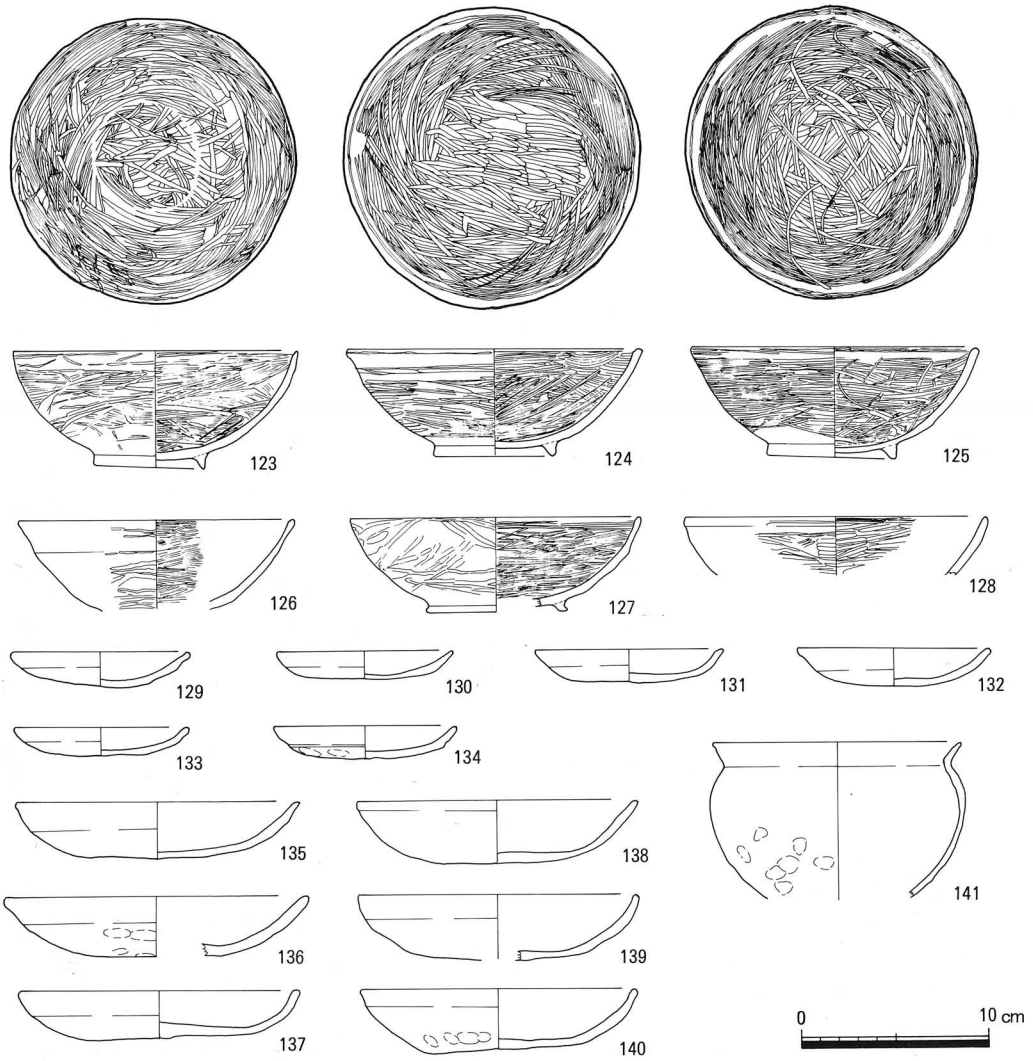
SE－1　第7層出土遺物実測図1



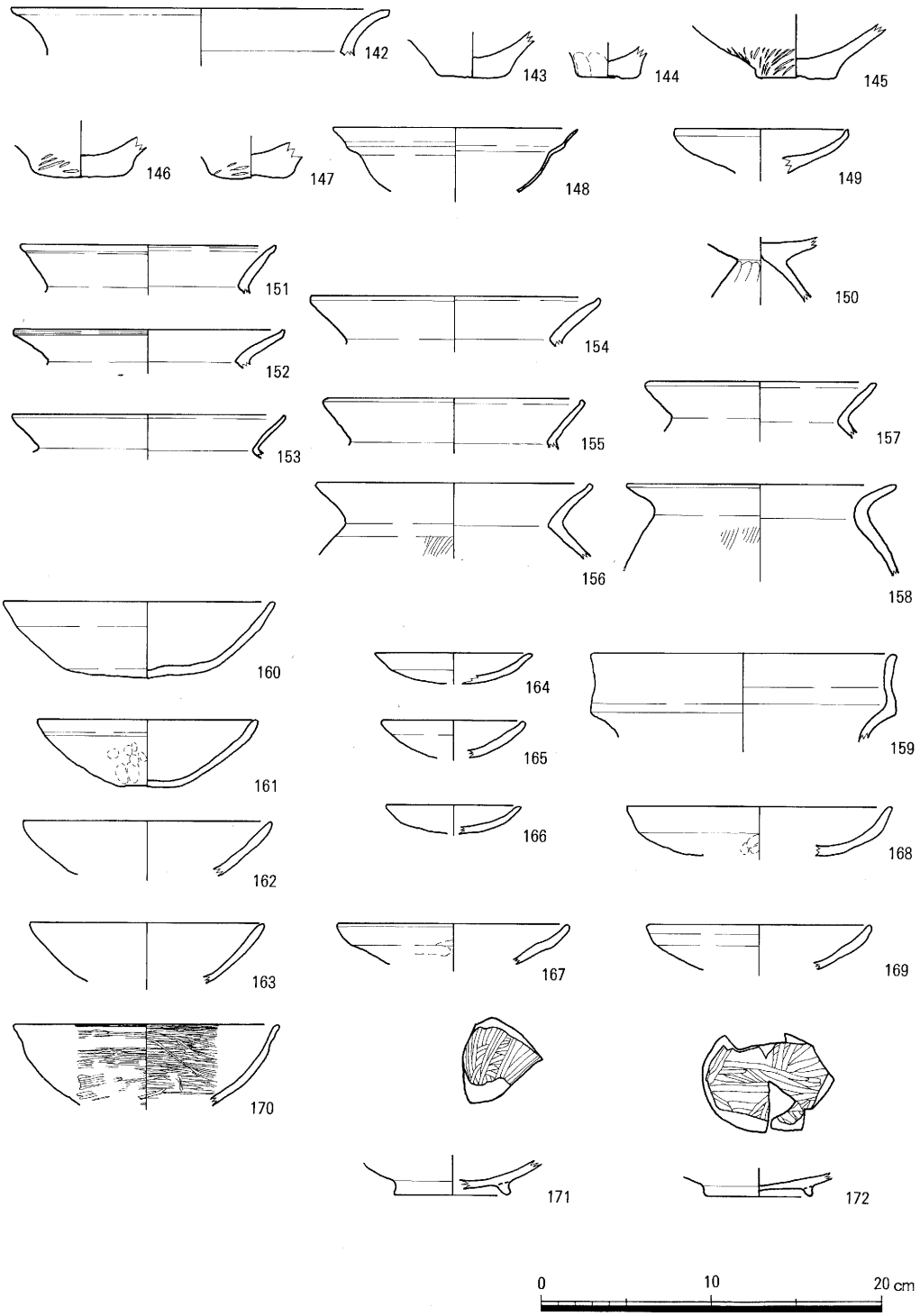
SE－1　第7層出土遺物実測図2



SE－1　第7層　出土遺物実測図3



ＳＥ－１　井戸側内出土遺物


142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
0
10
20 cm

包含層　出土遺物実測図

出土遺物観察表

ＳＤ－１

遺物番号	器種	法量（cm）口径 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考
1	土師器 壺	21.8	口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面の一部にヘラミガキが認められるが、他は調整不明瞭。頸部内面中位に、円形竹管文を２個施す。	赤茶色	やや粗 長石・石英・（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	口縁部⅔
2	土師器 壺	14.7	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内外面はナデと思われるが、調整不明瞭。口縁部外面の一部に粘土紐接合痕が遺存。	灰茶色	やや粗 長石・石英・角閃石・雲母（0.1～1㎜）	良好	口縁部⅓
3	土師器 壺	16.4	口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面の一部にハケナデが認められるが、他は調整不明瞭。体部内面はヘラケズリと思われる。体部外面は調整不明。	赤褐色	やや粗	良好	口縁部⅓
4	土師器 壷	13.7	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内外面は指頭圧成形の後、ナデを施したと思われるが、調整不明瞭。	赤茶色	やや粗 長石（0.5㎜）赤色酸化粒を含む。	良好	口縁部½
5	土師器 壺	底径 3.0	底部内外面ナデ。底部外側面の一部に粘土紐接合痕が遺存。	淡褐灰色～乳褐色	密 長石（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	底部⅓
6	土師器 壺	底径 4.0	底部内面の一部に板状工具の圧痕が認められるが、他はナデ。底部外側面はヨコナデ。	淡褐灰色～淡灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	底部½
7	土師器 壺	底径 6.3	底部内面の一部に板状工具の圧痕が認められるが、他はナデ。底部外側面はヨコナデ。	淡褐灰色～淡灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	底部⅓
8	土師器 壺	底径 3.0	底部内面はナデ。底部外面にハケナデ（6本／cm）を、上位付近は縦方向に、下位は横方向に施すが、他は調整不明瞭。	淡灰茶色～乳灰色	やや粗 長石・チャート・石英（0.1㎜）を含む。	良好	底部½
9	土師器 小型丸底壺	11.5 7.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面の一部に板状工具の圧痕が遺存するが、ナデ。体部外面の上位はヘラミガキ。下位から底部はヘラケズリを施す。	乳赤茶色～淡灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）赤色酸化粒を含む。	良好	½以上
10	土師器 小型丸底壷	11.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面はナデ。	赤褐色	やや粗 長石・石英（0.1㎜）赤色酸化粒を含む。	良好	口縁部¼
11	土師器 高杯	22.6	口縁部内外面ヨコナデ。杯部内面はナデ。杯部外面は一部にハケナデが遺存するが、調整不明瞭。	淡赤褐色～乳灰褐色	やや粗 石英・長石（0.1～0.5㎜）赤色酸化粒を含む。	良好	口縁部¼
12	土師器 小型鉢	13.4 4.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ともにナデと思われるが調整不明瞭。	淡赤茶色～乳灰褐色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）赤色酸化粒を含む。	良好	½以上

遺物番号	器種	法量（cm）口径 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考
13	土師器 小型鉢	16.9 4.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ともにナデと思われるが調整不明瞭。	淡茶色 ～ 淡灰茶色	やや粗 長石・チャート・石英(0.1～1㎜)赤色酸化粒を含む。	良好	口縁部½
14	土師器 小型鉢	15.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ともに調整不明瞭。	乳灰茶色 ～ 淡茶灰色	密	良好	口縁部⅒
15	土師器 小型器台	10.4	口縁部内外面ヨコナデ。受部外面の一部にヘラミガキが認められるが、他は調整不明瞭。	淡橙茶色 ～ 淡灰茶色	密	良好	受部⅓
16	土師器 小型器台	10.6	口縁部内外面ヨコナデ。受部内外面ともに調整不明。	淡灰褐色 ～ 淡灰橙色	密	良好	受部¼
17	土師器 器台	裾　径 12.0	裾部内面はナデ。裾部外面中位から下位は横方向の密なヘラミガキ。受部との境から上位の一部にハケナデ（9本／cm）を施す。受部と裾部の境の内面に粘土接合痕遺存。	赤褐色 ～ 淡灰茶色	密 長石（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	裾部¾
18	土師器 器台	裾　径 11.2	裾部内外面ともに調整不明瞭。裾部内面の上位に指頭圧痕が遺存。裾部上位の3方に透し孔を穿つ。	淡赤褐色 ～ 淡茶灰色	やや粗 石英・長石（0.1～1㎜）を含む。	良好	裾部¼
19	土師器 甕	12.6	口縁部および頸部内外面ヨコナデと思われるが調整不明。	淡赤茶色	やや粗 長石・チャート・角閃石（0.1～1㎜）を含む。	良好	口縁部⅓
20	土師器 甕	16.0	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部外面下位にタタキ（4条／cm）が遺存する。頸部内面はヘラケズリ。	淡灰褐色	やや粗 長石・石英・雲母（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	口縁部¼
21	土師器 甕	底　径 3.6	底部内面ナデ。底部外面はタタキ（3条／cm）。外底面はナデ。底部内面に粘土紐接合痕遺存。	淡茶褐色 ～ 暗灰色	やや粗 長石・石英・チャート(0.1～0.5㎜)を多量に含む。	良好	底部½
22	土師器 甕	14.2 17.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面上位付近はナデ。中位付近はヘラケズリ。下位に指頭圧痕が遺存。体部外面上位から中位付近ハケナデ（11本／cm）。下位は調整不明瞭。	淡褐灰色 ～ 淡褐色	やや粗 長石・石英・角閃石・雲母(0.1～2㎜)をやや多量に含む。	良好	外面煤付着 ほぼ完形
23	土師器 甕	17.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ。体部外面の一部にハケナデ（6本／cm）が施こされる。	淡灰褐色	やや粗 長石・石英・角閃石・雲母(0.1～4㎜)をやや多量に含む。	良好	口縁部⅓
24	土師器 甕	13.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面はヘラケズリ。体部外面の一部にハケメが認められるが、調整不明瞭。	淡灰茶色 ～ 淡灰褐色	やや粗 長石・角閃石・石英(0.1～1㎜)を含む。	良好	口縁部¼
25	土師器 甕	14.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面は指頭圧成形後弱いナデ。指頭圧痕が遺存。体部外面はハケナデ（8本／cm）。口縁部外面の一部に粘土紐接合痕が遺存する。	淡灰褐色	やや粗 長石・石英・角閃石（0.1～1㎜）をやや多量に含む。	良好	口縁部¼
26	土師器 甕	15.4	口縁部内外面ヨコナデ。	灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1～1㎜）を含む。	良好	口縁部⅓

遺物番号	器　種	法量（cm）口径・器高	成　形　・　調　整　技　法	色　調	胎　土	焼成	備　考
27	土師器 甕	17.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ。口縁部外面下位から頸部にかけてハケナデ（6本／cm）を施す。口縁部外面上位に粘土紐接合痕遺存。	淡灰褐色	やや粗 長石・石英・角閃石（0.1～1㎜）を含む。	良好	口縁部1/3
28	土師器 甕	15.2	口縁部内外面はヨコナデ。頸部内面はヘラケズリ。頸部外面の一部にハケナデ（6本／cm）が認められる。	淡灰褐色	やや粗 長石・石英・角閃石（0.1～1㎜）を含む。	良好	口縁部1/4
29	土師器 甕	14.4	口縁部内外面はヨコナデ。	淡灰褐色	やや粗 長英・長石・角閃石（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	口縁部1/4
30	土師器 甕	17.8	口縁部内外面はヨコナデ。体部内面はヘラケズリ。体部外面上位の一部にハケナデ（7本／cm）が認められるが、他は調整不明瞭。	乳灰橙色 ～ 乳灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	口縁部1/4
31	土師器 甕	17.2	口縁部内外面はヨコナデ。口縁部内面端部付近に浅い沈線状の窪みが廻る。	乳灰色 ～ 乳灰茶色	密 雲母（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	口縁部1/3
32	土師器 甕	13.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面はヘラケズリ。体部外面上位にハケナデ（8本／cm）を施す。口縁部外面上位付近に粘土紐接合痕が遺存。	乳灰橙色 ～ 乳灰白色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）赤色酸化粒を含む。	良好	口縁部1/4
33	土師器 甕	13.0	口縁部内外面はヨコナデ。体部内面はヘラケズリと思われる。体部外面は調整不明瞭。	乳赤茶色 ～ 暗灰色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	口縁部1/3
34	土師器 甕	14.4	口縁部内外面はヨコナデ。体部内外面は調整不明瞭。	乳灰茶色 ～ 乳灰橙色	やや粗 長石・チャート・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	口縁体部1/2
35	土師器 甕	13.8	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面はヘラケズリ。頸部外面の一部にハケメが遺存するが他は調整不明瞭。	淡灰茶色 ～ 淡灰褐色	密 長石（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	口縁部1/3
36	土師器 甕	13.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面はヘラケズリと思われる。体部外面は調整不明瞭。頸部内面はナデと思われる。	淡灰橙色 ～ 乳灰茶色	やや粗 長石・石英・チャート（0.1～1㎜）をやや多量に含む。	良好	口縁部1/6
37	土師器 甕	14.6	口縁部内外面はヨコナデ。体部内面はヘラケズリと思われるが調整不明瞭。体部外面の一部にナデが認められるが他は調整不明瞭。	淡灰橙色	やや粗 長石・石英・チャート（0.1～0.5㎜）をやや多量に含む。	良好	口縁部1/6
38	土師器 甕	13.4	口縁部内外面はヨコナデ。体部内面はヘラケズリと思われる。体部外面は調整不明瞭。	乳灰色 ～ 乳灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1㎜）赤色酸化粒を含む。	良好	口縁部1/6
39	土師器 甕	13.8	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内外面はナデと思われる。体部内外面はヘラケズリ。体部外面は調整不明瞭。	乳灰茶色	やや粗 石英・長石・チャート（0.1～1㎜）赤色酸化粒を含む。	良好	口縁部1/2

ＳＫ－１

遺物番号	器種	法量（cm）口径 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考
40	土師器 甕	15.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面は弱いヘラミガキ。体部外面はナデ。	淡茶灰色 ～ 乳灰茶色	密 石英・長石（0.1～0.5㎜）をわずかに含む。	良好	外面に煤付着 口縁部⅓

ＳＰ－４

遺物番号	器種	法量（cm）口径 器高	形態・調整技法	色調	胎土	焼成	備考
41	土師器 鉢	13.4 3.8	口縁部内外面はヨコナデ。体部および底部内外面は指頭圧形後ナデ。体部外面に指頭圧痕が遺存。	淡灰茶色 ～ 淡灰橙色	密 長石・雲母（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	½以上

ＳＥ－１　第７層

遺物番号	器種	法量（cm）口径 器高	形態・調整技法	色調	胎土	焼成	備考
42	土師器 小皿	9.8 0.9	口縁部内外面ヨコナデ。他はナデ。	淡褐灰色	密	良好	口縁部1/10
43	土師器 小皿	10.6 1.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。体部外面の一部に指頭圧成形による指ナデの圧痕が遺存する。	淡乳茶色	密 赤色酸化粒をわずかに含む。	良好	口縁部⅙
44	土師器 小皿	10.4 1.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。体部内面の一部にヨコナデが認められる。	淡灰茶色	密 赤色酸化粒を含む。	良好	口縁部¼
45	土師器 小皿	9.8 1.5	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。体部外面はナデ。体部外面の一部に指頭圧痕が認められる。	淡乳茶色	密 赤色酸化粒を含む。	良好	口縁部¼
46	土師器 小皿	9.2 2.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面は一部にヨコナデを施した後にナデを施す。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。底部外面に指頭圧痕が認められる。	乳灰橙色 ～ 淡乳灰色	密	良好	完形
47	土師器 小皿	10.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。体部内面の一部にヨコナデ。	淡乳灰色	やや粗 長石・石英（0.1～1㎜）をやや多量に含む。	良好	⅓
48	土師器 小皿	10.4 1.4	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部および底部外面弱いナデ。	淡乳茶色	やや粗 長石・石英・チャート（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	完形
49	土師器 小皿	10.2 1.7	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部および底部外面弱いナデ。	淡乳茶色	やや粗 長石・石英・チャート（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	完形
50	土師器 小皿	9.6 1.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内外面ナデ。底部外面の一部に指頭圧成形による圧痕が認められる。	淡乳茶色	密 赤色酸化粒をわずかに含む。	良好	ほぼ完形

遺物番号	器種	法量（cm）口径 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考
51	土師器 小皿	10.2 1.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面弱いナデ。	淡灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	½以上
52	土師器 小皿	9.4	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。体部外面ナデ。	乳茶灰色 ～ 淡乳橙色	密	良好	口縁部1/10
53	土師器 小皿	9.6 1.6	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部および底部外面指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕が遺存する。	淡赤茶色 ～ 乳灰橙色	密 赤色酸化粒を含む。	良好	½
54	土師器 小皿	10.6 1.8	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部および底部外面指頭圧成形後弱いナデ。体部外面の一部に指頭圧痕および粘土紐接合痕が遺存。	淡灰茶色 ～ 乳赤茶色	密 赤色酸化粒を含む。	良好	⅓
55	土師器 小皿	10.2 1.7	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部および底部外面指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に粘土紐接合痕および指頭圧痕が遺存する。	淡乳茶色	やや粗 長石・石英（0.1～1㎜）赤色酸化粒を含む。	良好	ほぼ完形
56	土師器 小皿	10.2 1.5	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部および底部外面指頭圧成形後弱いナデ。底部外面に粘土紐接合痕が遺存。	淡乳茶色 ～ 淡乳橙色	やや粗 石英（0.1～1㎜）を含む。	良好	ほぼ完形
57	土師器 小皿	9.8 1.7	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部および底部外面弱いナデ。体部外面に粘土紐接合痕遺存。	淡茶灰色 ～ 乳灰橙色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）赤色酸化粒を含む。	良好	完形
58	土師器 小皿	9.8 1.7	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部および底部外面指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕が遺存する。体部外面の一部に粘土紐接合痕が遺存。	乳赤茶色 ～ 淡灰褐色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）赤色酸化粒を含む。	良好	½以上
59	土師器 小皿	9.8 1.7	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部および底部外面は弱いナデ。体部外面の一部に粘土紐接合痕が遺存。	淡乳茶色	やや粗 長石・石英・チャート（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	½以上
60	土師器 小皿	9.8 1.8	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部および底部外面指頭圧成形後弱いナデ。口縁部および底部外面に粘土紐接合痕が遺存。	淡灰茶色 ～ 暗灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1～1㎜）を含む。	良好	完形
61	土師器 小皿	9.8 1.5	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部および底部外面指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕および粘土紐接合痕が遺存。	乳灰茶色 ～ 淡灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1～1㎜）を含む。	良好	完形
62	土師器 小皿	9.2 1.9	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部および底部外面指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕が遺存。口縁部および体部外面に粘土紐接合痕が遺存。	乳灰茶色 ～ 乳灰白色	密	良好	完形
63	土師器 小皿	10.0 1.8	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部および底部外面指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕および一部に粘土紐接合痕遺存。	乳灰茶色	密 赤色酸化粒を含む。	良好	完形
64	土師器 小皿	8.6	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。体部外面弱いナデ。	淡乳茶色	密	良好	口縁部¼

遺物番号	器種	法量（cm） 口径 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考
65	土師器 小皿	9.6 2.1	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。口縁部外面に粘土紐接合痕が遺存。	乳灰白色 ～ 乳灰茶色	密	良好	完形
66	土師器 小皿	10.0 1.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。口縁部および体部外面に粘土紐接合痕が遺存。体部外面の一部に指頭圧痕遺存。	淡灰茶色 ～ 乳灰茶色	密 赤色酸化粒・長石（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	完形
67	土師器 小皿	10.2 1.5	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。底部内面はほぼ一定方向のナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面の一部に粘土紐接合痕が遺存。	乳灰茶色 ～ 淡赤茶色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	完形
68	土師器 小皿	9.4 1.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕が遺存。	乳灰白色 ～ 乳灰橙色	密	良好	完形
69	土師器 小皿	10.0 1.5	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。底部内面はほぼ一定方向のナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕および粘土紐接合痕が遺存。	乳茶灰色 ～ 淡赤茶色	やや粗 石英・長石（0.1～1㎜）を含む。	良好	完形
70	土師器 小皿	9.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。口縁部の端面の一部に粘土紐接合痕遺存。	乳橙色 ～ 淡乳橙色	密	良好	口縁部⅓
71	土師器 小皿	10.8 1.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面弱いナデ。	淡灰茶色 ～ 乳灰茶色	密	良好	口縁部⅓
72	土師器 小皿	10.4	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。体部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面の一部に指頭圧痕が遺存。	乳灰茶色 ～ 乳灰橙色	密	良好	口縁部⅓
73	土師器 小皿	9.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。口縁部および体部外面の一部にヘラミガキ状の面取りを施す。	乳灰白色 ～ 乳白色	密	良好	口縁部¼
74	土師器 中皿	15.2 3.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕が遺存。	乳灰茶色 ～ 乳赤茶色	密	良好	完形
75	土師器 中皿	14.5 2.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕および掌紋が遺存。	淡茶灰色 ～ 淡乳灰色	密 長石・石英（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	½以上
76	土師器 中皿	15.2 2.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕が遺存。体部外面の一部に粘土紐接合痕遺存。	淡茶灰色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜赤色酸化粒を含む。	良好	ほぼ完形
77	土師器 中皿	14.8 3.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕が遺存。体部外面の一部に粘土紐接合痕遺存。	淡茶灰色 ～ 淡灰褐色	やや粗 長石・石英（0.1～2㎜）を含む。	良好	完形
78	土師器 中皿	14.9 2.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に粘土紐接合痕遺存。	乳灰茶色 ～ 乳灰色	やや粗 長石・石英（0.1～2㎜）を含む。	良好	完形

遺物番号	器種	法量（cm）口径 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考
79	土師器 中皿	14.7 2.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕が遺存。体部外面の一部に粘土紐接合痕遺存。	乳灰茶色 ～ 淡灰茶色	やや粗 石英・長石（0.1～1㎜）を含む。	良好	完形
80	土師器 中皿	14.8 2.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕が遺存。体部外面の一部に粘土紐接合痕遺存。	淡灰茶色 ～ 淡灰色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	完形
81	土師器 中皿	14.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面の一部にヨコナデを施すが他はナデ。体部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕が遺存。	淡灰色 ～ 灰白色	密	良好	口縁部⅕
82	土師器 中皿	14.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面はナデ。体部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕が遺存。	淡灰茶色 ～ 淡灰白色	密	良好	口縁部⅕のみ
83	土師器 中皿	14.5 3.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後ナデ。体部外面に指頭圧痕が遺存。体部外面の一部に粘土紐接合痕遺存。	乳灰橙色 ～ 淡橙色	やや粗 長石・石英・チャート（0.1～0.5㎜）赤色酸化粒をやや多量に含む。	良好	完形
84	土師器 中皿	15.7 3.6	口縁部内外面弱いヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕が遺存。	淡灰茶色 ～ 淡灰褐色	やや粗 長石（0.1㎜赤色酸化粒をやや多量に含む。	良好	½
85	土師器 中皿	14.8 3.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面はナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕が遺存。	乳灰白色 ～ 淡灰茶色	やや粗 長石・石英・雲母（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	⅓
86	土師器 中皿	15.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面はナデ。	乳灰色 ～ 乳赤茶色	密	良好	口縁部⅙
87	土師器 中皿	16.0	口縁部内外面はヨコナデ。体部内面はナデ。体部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕が遺存。	淡灰色 ～ 暗灰褐色	密	良好	口縁部⅙
88	土師器 中皿	15.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面はナデ。体部外面は弱いナデ。	淡茶灰色 ～ 淡灰色	密	良好	口縁部⅙
89	土師器 中皿	15.8	口縁部内外面は弱いヨコナデ。体部内面はナデ。体部外面は指頭圧成形後弱いナデ。	淡灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）をやや多量に含む。	良好	⅓
90	土師器 中皿	17.0 2.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内外面はナデ。底部内外面の中央付近に「メ」字形のヘラ記号を施し、底部外面の中央付近には更に「メ」字形に墨書を施する。	淡茶灰色 ～ 淡灰褐色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	½
91	土師器 中皿	14.6 3.0	口縁部内外面および体部内面上位ヨコナデ。体部内面中位以下および底部内面はほぼ一定方向のナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕が遺存。	乳灰茶色 ～ 乳赤茶色	密	良好	完形
92	土師器 中皿	14.8 2.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後ナデ。底部外面に粘土紐接合痕が遺存。	乳灰茶色 ～ 乳赤茶色	やや粗 長石・石英・チャート（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	完形

遺物番号	器種	法量（cm）口径 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考
93	土師器 坏	15.2 4.2	口縁部内外面弱いヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面。指頭圧痕が遺存。	淡茶色 ～ 暗灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1～1㎜）をわずかに含む。	良好	1/4
94	土師器 坏	14.0 4.0	口縁部内外面弱いヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕が遺存。	淡茶灰色 ～ 淡茶色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	1/3
95	瓦器 小皿	9.2	口縁部内外面密なヘラミガキ。体部内面は密なヘラミガキ。体部外面は未分割の密なヘラミガキ。	黒灰色	やや粗	良好	口縁部1/4
96	瓦器 椀	15.5 5.9 高台径 6.0 高台高 0.8	口縁部内外面密なヘラミガキ。体部内面から見込みにかけて乱方向の密なヘラミガキを施す。体部外面は5分割のヘラミガキを施す。高台部周辺ヨコナデ。	黒灰色	精良	良好	完形
97	瓦器 椀	15.6 6.2 高台径 5.6 高台高 0.7	口縁部内外面はヨコナデの後にヘラミガキ。体部内面から見込みにかけて分化しない乱方向の密なヘラミガキ。体部外面は5分割の密なヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	黒色 ～ 黒灰色	精良	良好	完形
98	瓦器 椀	15.6 5.9 高台径 6.2 高台高 0.7	口縁部内外面はヨコナデの後にヘラミガキ。体部内面から見込みにかけて分化しない乱方向の密なヘラミガキ。体部外面は5分割のやや粗いヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	黒灰色 ～ 暗灰色	精良	良好	ほぼ完形
99	瓦器 椀	15.1 5.8 高台径 4.9 高台高 0.6	口縁部内外面密なヘラミガキ。体部内面は密なヘラミガキ。見込みは一方向の密なヘラミガキ。体部外面は5分割のやや粗いヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。外面に重ね焼痕。	灰黒色 ～ 暗灰色	精良	良好	完形
100	瓦器 椀	15.2 5.6 高台径 5.2 高台高 0.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面密なヘラミガキ。見込みは格子状ヘラミガキ。体部外面は5分割の密なヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	黒灰色 ～ 灰黒色	精良	良好	完形
101	瓦器 椀	15.3 5.7 高台径 6.3 高台高 0.7	口縁部内外面ヨコナデの後粗いヘラミガキ。体部内面密なヘラミガキ。見込みは格子状ヘラミガキ。体部外面は5分割のやや粗いヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	黒灰色	精良	良好	ほぼ完形
102	瓦器 椀	15.0 5.9 高台径 6.1 高台高 0.8	口縁部内外面密なヘラミガキ。体部内面密なヘラミガキ。見込みはやや粗い格子状ヘラミガキ。体部外面は5分割のやや粗いヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。外面に重ね焼痕。	灰黒色 ～ 灰白色	精良	良好	完形
103	瓦器 椀	15.0	口縁部内外面はやや粗いヘラミガキ。体部内面は密なヘラミガキ。体部外面はやや粗いヘラミガキ。	黒灰色	やや粗 長石（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	口縁部1/6
104	瓦器 椀	13.6	口縁部内外面はやや粗いヘラミガキ。体部内外面は密なヘラミガキ。体部外面の一部に指頭圧痕が遺存する。	灰黒色 ～ 黒灰色	やや粗 長石・石英（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	口縁部1/6
105	瓦器 椀	15.4	口縁部内外面ヨコナデの後密なヘラミガキ。体部内外面は密なヘラミガキ。	乳灰色 ～ 黒灰色	精良	良好	口縁部1/4
106	瓦器 椀	15.9	口縁部内外面はヨコナデの後、やや粗いヘラミガキ。体部内外面は密なヘラミガキ。内外面ともに炭素付着不良である。	淡赤褐色 ～ 乳灰茶色	精良	良好	口縁部1/6

遺物番号	器種	法量（cm）口径 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考
107	瓦器 椀	14.3	口縁部内外面はヨコナデの後、密なヘラミガキ。体部内外面は密な単位幅の太いヘラミガキ。	黒灰色 ～ 暗灰色	精良	良好	口縁部⅙
108	瓦器 椀	14.4	口縁部内外面はヨコナデの後、密なヘラミガキ。体部内面は乱方向の密なヘラミガキ。体部外面は横方向の密なヘラミガキ。	黒灰色	精良	良好	口縁部⅙
109	瓦器 椀	15.8	口縁部内外面はヨコナデの後、やや粗いヘラミガキ。体部内面は乱方向の密なヘラミガキ。体部外面は横方向のやや粗いヘラミガキ。	黒灰色 ～ 暗灰色	精良	良好	口縁部⅙
110	瓦器 椀	15.2	口縁部内外面はヨコナデの後、密なヘラミガキ。体部内外面ともに密なヘラミガキ。	黒灰色 ～ 暗灰色	精良	良好	口縁部⅙
111	瓦器 椀	14.8	口縁部内外面はヨコナデの後、密なヘラミガキ。体部内面は乱方向の密なヘラミガキ。体部外面は横方向の密なヘラミガキ。	黒灰色	精良	良好	口縁部⅙
112	瓦器 椀	14.6 高台径 4.8	口縁部内外面はヨコナデの後、粗いヘラミガキ。体部内面から見込みにかけて乱方向の密なヘラミガキ。体部外面は五分割のやや粗い横方向のヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	灰黒色	精良	良好	⅓
113	瓦器 椀	16.0 高台径 7.4	口縁部内外面はヨコナデの後、一部に粗いヘラミガキ。体部内面から見込みにかけて乱方向の粗いヘラミガキ。体部外面は横方向のやや粗いヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	黒灰色 ～ 暗灰色	精良	良好	¼
114	瓦器 椀	高台径 7.0 高台高 0.7	高台部周辺ヨコナデ。他は調整不明。	暗灰色	密	良好	底部⅙
115	瓦器 椀	高台径 6.7 高台高 0.8	見込みは乱方向の密なヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	黒灰色 ～ 暗灰色	精良	良好	底部完存
116	瓦器 椀	高台径 6.0 高台高 0.8	体部内面から見込みにかけて乱方向の密なヘラミガキ。体部外面は横方向のやや粗いヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	乳灰色 ～ 暗灰色	精良	良好	底部完存
117	瓦器 椀	高台径 6.2 高台高 0.8	体部内面から見込みにかけて乱方向の密なヘラミガキ。体部外面は横方向のやや粗いヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。体部外面に重ね焼痕。	黒灰色 ～ 暗灰色	精良	良好	底部完存
118	瓦器 椀	高台径 6.3 高台高 0.8	体部内面から見込みにかけて乱方向の密なヘラミガキ。体部外面は横方向の粗いヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。体部外面に重ね焼痕。	灰白色 ～ 黒灰色	精良	良好	底部⅓
119	瓦器 椀	高台径 5.6 高台高 0.7	体部内面は密なヘラミガキ。見込みは格子状ヘラミガキ。体部外面は密なヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。体部外面と高台部の境に接合痕遺存。	黒灰色	精良	良好	底部½
120	瓦器 椀	高台径 6.2 高台高 0.5	見込みは格子状ヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	黒灰色	精良	良好	底部のみ

遺物番号	器　種	法量（cm）口径 器高	成　形　・　調　整　技　法	色　調	胎　土	焼成	備　考
121	土師器 土釜	28.0 鍔　径 36.8	口縁部内外面および鍔部ヨコナデ。体部内面は弱いヘラケズリ。口縁部外面下位に沈線状の窪みが廻る。	茶褐色 ～ 淡橙灰色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	口縁部⅙
122	陶器 碗	 高台径 6.4 高台高 0.7	高台部は削り出し高台。体部内外面ともにロクロナデ。外底面に回転糸切り痕が遺存。	釉色 淡灰黄色 胎土 乳茶灰色	緻密	堅緻	底部½

ＳＥ－１　井戸側内

遺物番号	器　種	法量（cm）口径 器高	成　形　・　調　整　技　法	色　調	胎　土	焼成	備　考
123	瓦器 椀	15.0 6.3 高台径 5.8 高台高 1.0	口縁部内外面は密なヘラミガキ。体部内面は密なヘラミガキ。見込みは乱方向の密なヘラミガキ。体部外面は五分割のやや粗いヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	黒灰色	精良	良好	完形
124	瓦器 椀	15.6 5.9 高台径 6.2 高台高 0.7	口縁部内外面はヨコナデの後、密なヘラミガキ。体部内面は密なヘラミガキ。見込みは一方向の密なヘラミガキ。体部外面は五分割の密なヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	黒灰色	精良	良好	完形
125	瓦器 椀	15.0 5.9 高台径 7.0 高台高 0.7	口縁部内外面および体部内面は密なヘラミガキ。見込みは乱方向の密なヘラミガキ。体部外面は五分割の密なヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	黒灰色	精良	良好	完形
126	瓦器 椀	14.6	口縁部内外面はヨコナデの後、粗いヘラミガキ。体部内面は密なヘラミガキ。体部外面はやや粗いヘラミガキ。	黒灰色 ～ 暗灰色	精良	良好	口縁部⅐
127	瓦器 椀	15.4 5.0 高台径 6.8 高台高 0.7	口縁部内外面は密なヘラミガキ。体部内面は密なヘラミガキ。見込みは乱方向の密なヘラミガキ。体部外面は五分割のやや粗いヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	黒灰色 ～ 漆黒色	精良	良好	口縁部⅓
128	瓦器 椀	15.8	口縁部内外面はヨコナデの後、密なヘラミガキ。体部内外面は密なヘラミガキ。	黒灰色	精良	良好	口縁部⅙
129	土師器 小皿	9.2 1.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。	乳茶灰色 ～ 淡茶色	密 赤色酸化粒を多量に含む。	良好	完形
130	土師器 小皿	9.1 1.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。底部外面に粘土紐接合痕遺存。	乳赤茶色 ～ 乳灰白色	密	良好	ほぼ完形
131	土師器 小皿	9.9 1.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面の一部に粘土紐接合痕が遺存。	淡乳茶色 ～ 乳灰白色	密	良好	ほぼ完形
132	土師器 小皿	9.5 1.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。	淡茶灰色 ～ 乳灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	完形
133	土師器 小皿	9.1 1.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面の一部に粘土紐接合痕が遺存。	乳赤茶色 ～ 乳灰白色	密	良好	完形

遺物番号	器種	法量（cm）口径 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考
134	土師器 小皿	9.5 1.8	口縁部内外面および体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面の一部に指頭圧痕が遺存。	乳黄茶色 ～ 淡茶黄色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	完形
135	土師器 中皿	14.7 3.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面の一部に指頭圧痕が遺存。	淡乳茶色 ～ 乳赤茶色	密 赤色酸化粒をやや多量に含む。	良好	完形
136	土師器 中皿	16.0	口縁部内外面および体部内面上位はヨコナデ。体部中位以下はナデ。体部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面の一部に指頭圧痕が遺存。	灰茶色 ～ 暗灰茶色	密	良好	口縁部1/4
137	土師器 中皿	14.6 2.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。	淡乳茶色 ～ 乳赤茶色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）赤色酸化粒を含む。	良好	完形
138	土師器 中皿	17.5 3.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部外面の一部に指頭圧痕が認められる。	淡乳茶色 ～ 乳灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1㎜）赤色酸化粒を含む。	良好	ほぼ完形
139	土師器 中皿	14.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。	灰茶色	密 赤色酸化粒をやや多量に含む。	良好	1/2
140	土師器 中皿	14.4 3.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後弱いナデ。体部および底部外面に粘土紐接合痕が遺存。体部外面の一部に指頭圧痕が遺存。	淡乳茶色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）赤色酸化粒を含む。	良好	完形
141	土師器 甕	13.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面指頭圧成形後ナデ。体部外面下位に指頭圧痕が遺存。	淡灰茶色	密	良好	1/3

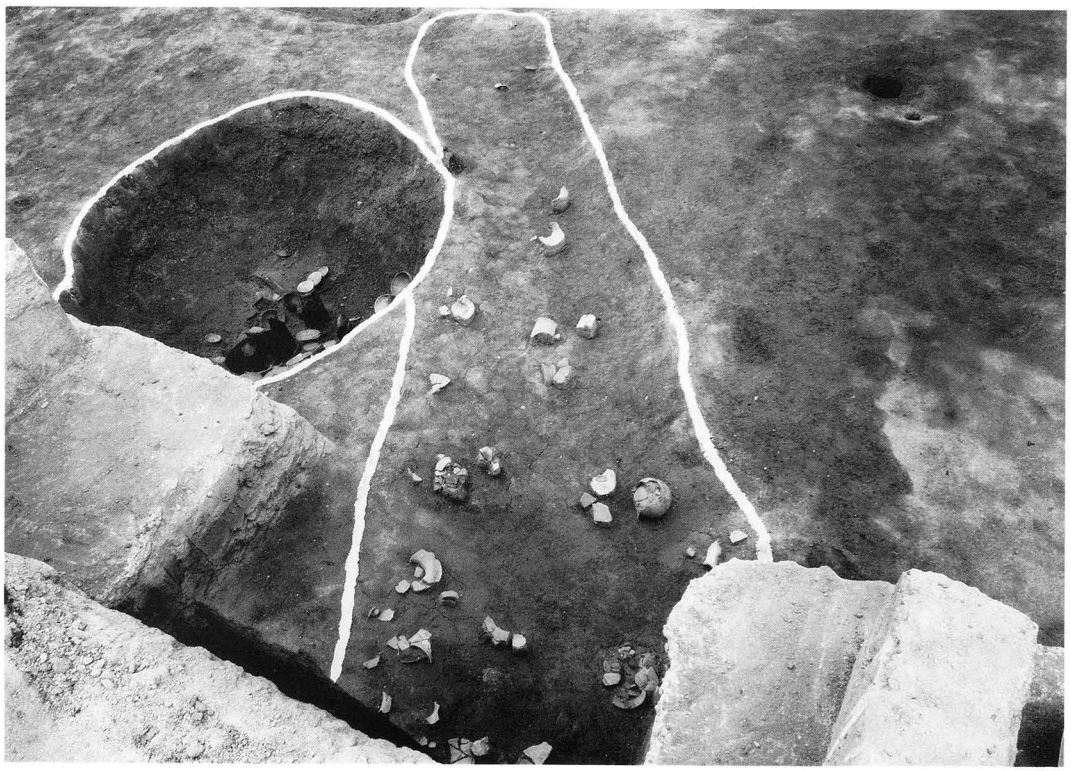
包含層出土遺物

遺物番号	器種	法量（cm）口径 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考
142	弥生土器 甕	22.2	口縁部内外面ヨコナデ。	淡灰茶色 ～ 乳赤茶色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	口縁部1/6
143	弥生土器 甕	底径 4.0	底部内面ナデ。底部外面の一部にタタキメが遺存するが、調整不明瞭。	乳灰茶色 ～ 乳茶赤色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	底部のみ
144	弥生土器 甕	底径 3.6	底部内面ナデ。底部外面は指頭圧成形後ナデ。底部外側面の一部に指頭圧痕が遺存。	淡灰色 ～ 淡灰茶色	やや粗 長石・石英・チャート（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	底部のみ
145	弥生土器 甕	底径 4.8	底部内面ナデ。底部外面はタタキ（4条／cm）。底部外側面および外底面ナデ。	淡灰褐色 ～ 淡灰橙色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	底部のみ
146	弥生土器 甕	底径 5.0	底部内面ナデ。底部外面の一部にタタキメが遺存する。	茶褐色 ～ 暗灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	底部1/2

遺物番号	器種	法量 口径 (cm) 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考
147	弥生土器 甕	底径 4.2	底部内面ナデ。底部外面の一部にタタキメが遺存する。	淡赤褐色 ～ 淡黒褐色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	底部のみ
148	土師器 小型鉢	14.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	淡赤茶色 ～ 乳茶灰色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	口縁部¼
149	土師器 小型器台	10.5	口縁部内外面ヨコナデ。受部内外面ナデ。	乳茶色 ～ 淡赤茶色	やや粗 長石・石英（0.1㎜）赤色酸化粒を含む。	良好	受部½
150	土師器 小型器台		受部内外面および脚部内面は調整不明瞭。脚部外面は指押さえが認められる。受部下位に粘土接合痕が一部に遺存する。脚部中位の透し孔は三孔と思われる。	淡灰褐色	やや粗 長石・石英（0.5～0.1㎜）赤色酸化粒を含む。	良好	脚部
151	土師器 甕	15.0	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部外面端部下位に凹線状の窪みが廻る。頸部内面はヘラケズリ。	淡灰褐色 ～ 淡茶灰色	やや粗 長石・石英・チャート（0.1～1㎜）を含む。	良好	口縁部¼
152	土師器 甕	15.8	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部外面端部付近に沈線状の窪みが廻る。頸部内面はヘラケズリ。	淡乳灰色 ～ 乳灰褐色	密	良好	口縁部¼
153	土師器 甕	16.0	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面はヘラケズリ。他は調整不明。	淡灰茶色 ～ 乳赤茶色	やや粗 長石・石英・雲母（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	口縁部⅙
154	土師器 甕	17.0	口縁部内外面ヨコナデ。	乳灰褐色 ～ 乳赤茶色	やや粗 長石・石英（0.1～1㎜）を含む。	良好	口縁部¼
155	土師器 甕	15.0	口縁部内外面ヨコナデ。他は調整不明。	淡茶褐色	やや粗 長石・石英・雲母（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	口縁部⅙
156	土師器 甕	16.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面はヘラケズリ。体部外面の一部にハケメが認められる。	乳灰茶色 ～ 乳灰橙色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）赤色酸化粒を含む。	良好	口縁部¼
157	土師器 甕	13.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面はヘラケズリ。体部外面は調整不明瞭。	乳灰茶色 ～ 乳灰橙色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）赤色酸化粒を含む。	良好	口縁部¼
158	土師器 甕	15.8	口縁部内外面および体部内面上位はヨコナデ。体部内面以下はヘラケズリ。体部外面の一部にハケメが認められる。	淡灰色 ～ 乳灰褐色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	口縁部⅙
159	土師器 壷	17.6	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内外面はナデと思われるが、調整不明瞭。	灰白色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）をわずかに含む。	良好	口縁部¼
160	土師器 坏	15.8 4.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面指頭圧成形後弱いナデ。体部外面の一部に指頭圧痕が遺存する。	淡灰茶色 ～ 淡灰橙色	密 長石・石英・雲母（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	½

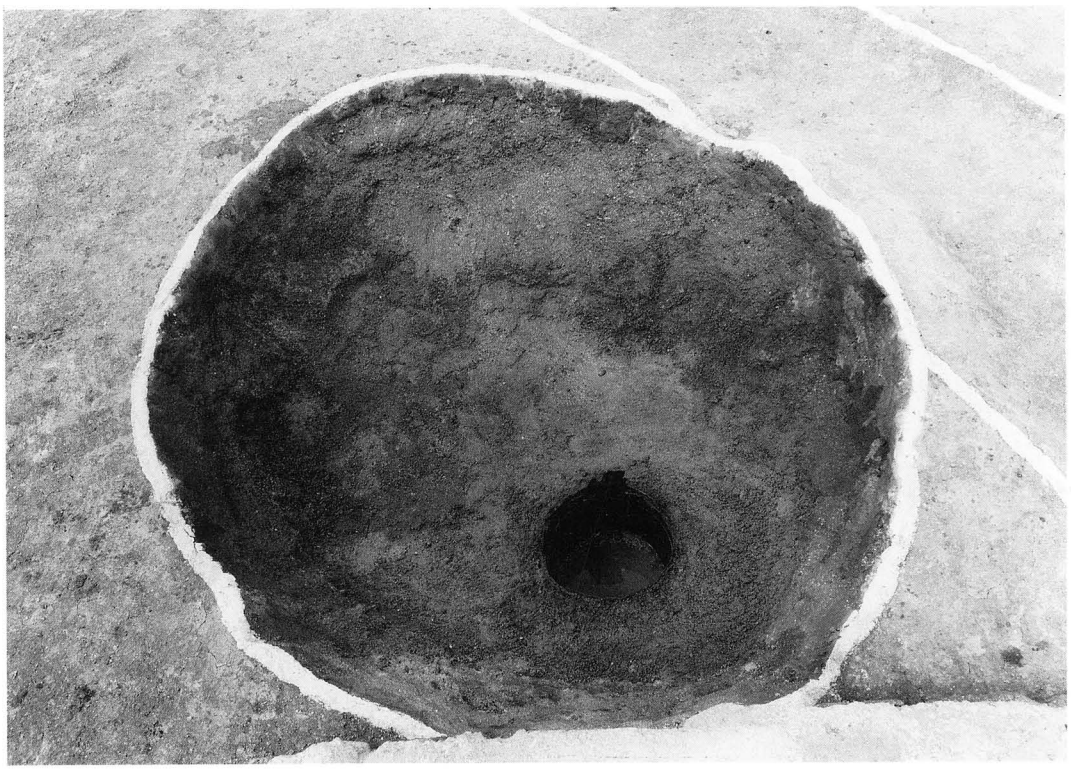
遺物番号	器　種	法量（cm）口径 器高	成　形　・　調　整　技　法	色　調	胎　土	焼成	備　考
161	土師器 坏	13.0 4.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内面ナデ。体部および底部外面指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕が遺存する。	淡灰茶色 ～ 淡灰橙色	密	良好	1/6
162	土師器 坏	14.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面指頭圧成形後弱いナデ。体部外面の一部に指頭圧痕が遺存する。	乳灰茶色 ～ 暗灰茶色	密	良好	口縁部1/4
163	土師器 坏	13.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面指頭圧成形後弱いナデ。体部外面の一部に指頭圧痕および粘土紐接合痕が遺存する。	淡灰茶色 ～ 淡赤茶色	密 長石・石英（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	口縁部1/6
164	土師器 小皿	9.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部および底部内外面ナデ。口縁部および体部外面の一部に粘土紐接合痕が遺存する。	乳灰橙色 ～ 淡赤茶色	密 赤色酸化粒を含む。	良好	1/4
165	土師器 小皿	8.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面指頭圧成形後弱いナデ。体部外面に指頭圧痕が、また、口縁部および体部外面に粘土紐接合痕が遺存する。	乳灰茶色 ～ 淡灰橙色	密	良好	1/4
166	土師器 小皿	7.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。体部外面の一部に粘土紐接合痕が遺存する。	乳灰橙色 ～ 乳灰白色	密 赤色酸化粒を含む。	良好	1/4
167	土師器 中皿	13.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面指頭圧成形後弱いナデ。体部外面の一部に指頭圧痕が遺存す。	乳灰橙色 ～ 乳灰白色	密 赤色酸化粒を含む。	良好	口縁部1/4
168	土師器 中皿	15.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面指頭圧成形後弱いナデ。体部外面の一部に指頭圧痕が遺存する。	乳灰褐色 ～ 乳灰白色	密	良好	1/6
169	土師器 中皿	13.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	淡赤茶色 ～ 淡灰茶色	密 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	口縁部1/6
170	瓦器 椀	15.4	口縁部内外面ヨコナデの後、やや粗いヘラミガキ。体部内外面は密なヘラミガキ。	黒灰色	精良	良好	口縁部1/4
171	瓦器 椀	高台径 6.6 高台高 0.8	見込みは乱方向の密なヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	黒灰色	精良	良好	底部1/3
172	瓦器 椀	高台径 6.0 高台高 0.5	見込みは乱方向の密なヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。	黒灰色	精良	良好	底部1/2以上

調査区全景（西から）

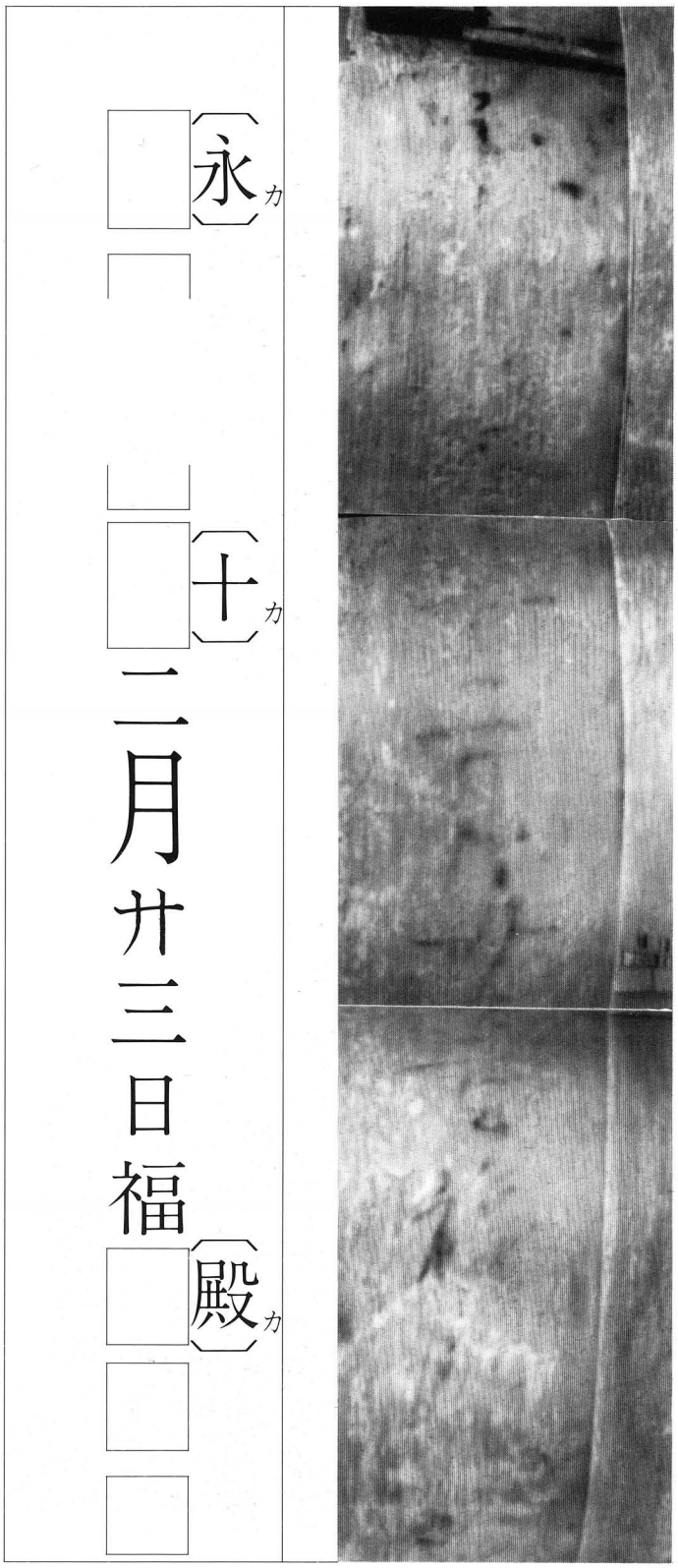


ＳＤ－１　検出状況（南から）

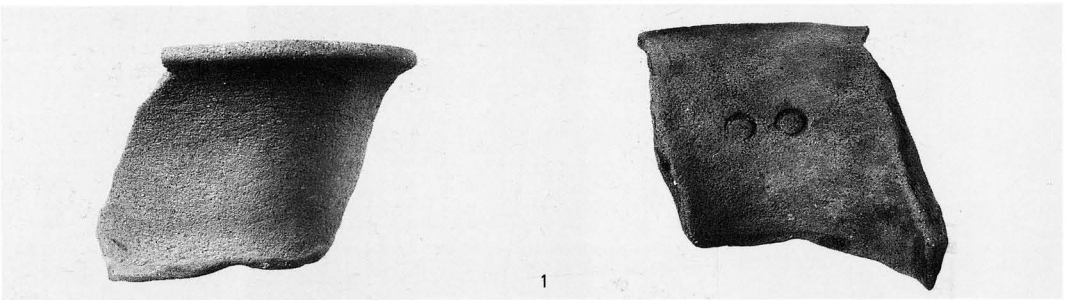
SE－1　遺物出土状況（南から）

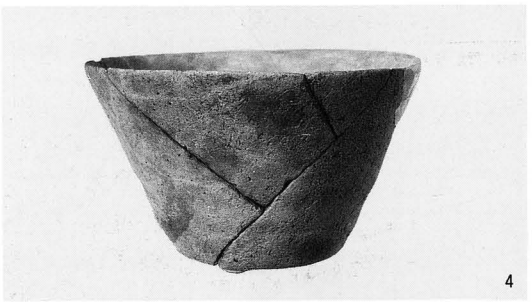


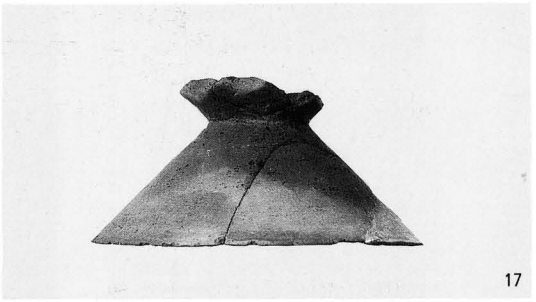
同上　完掘



SE－1　井戸側外面墨書

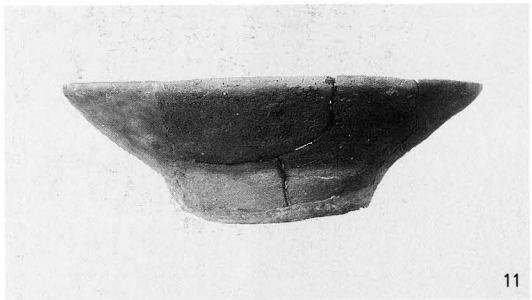

1


4

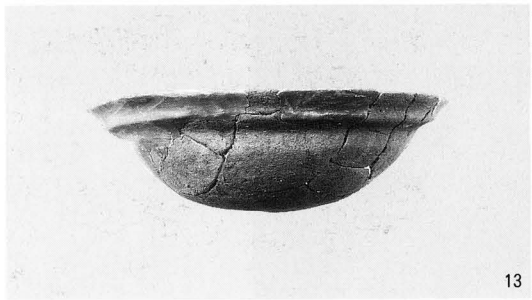

17

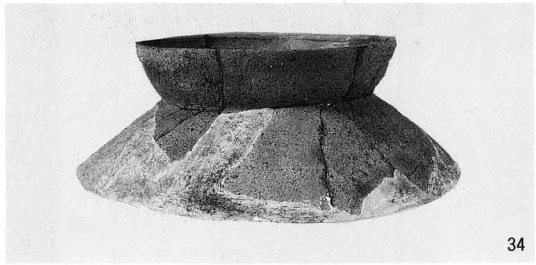
9

22

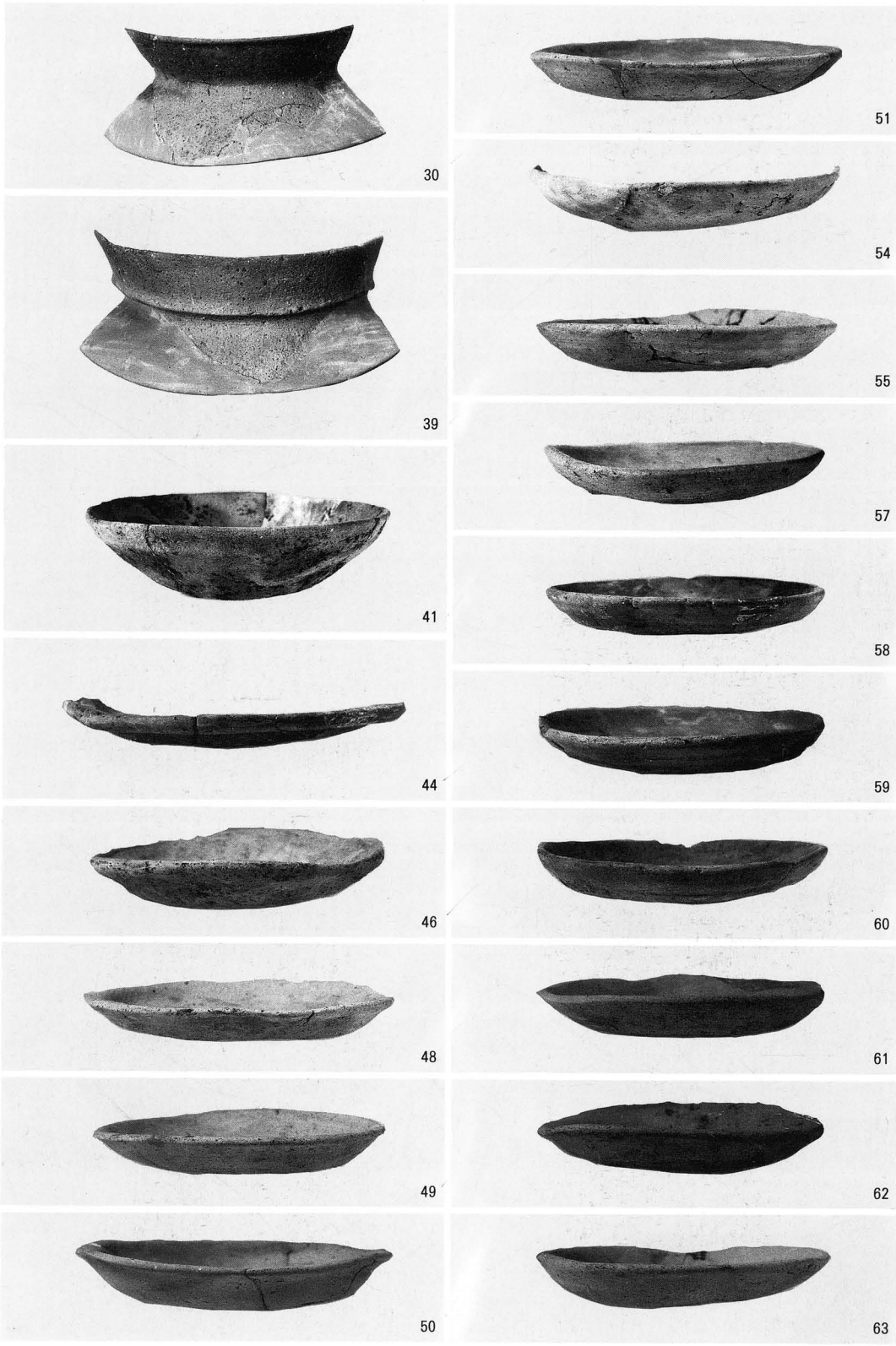

11

23

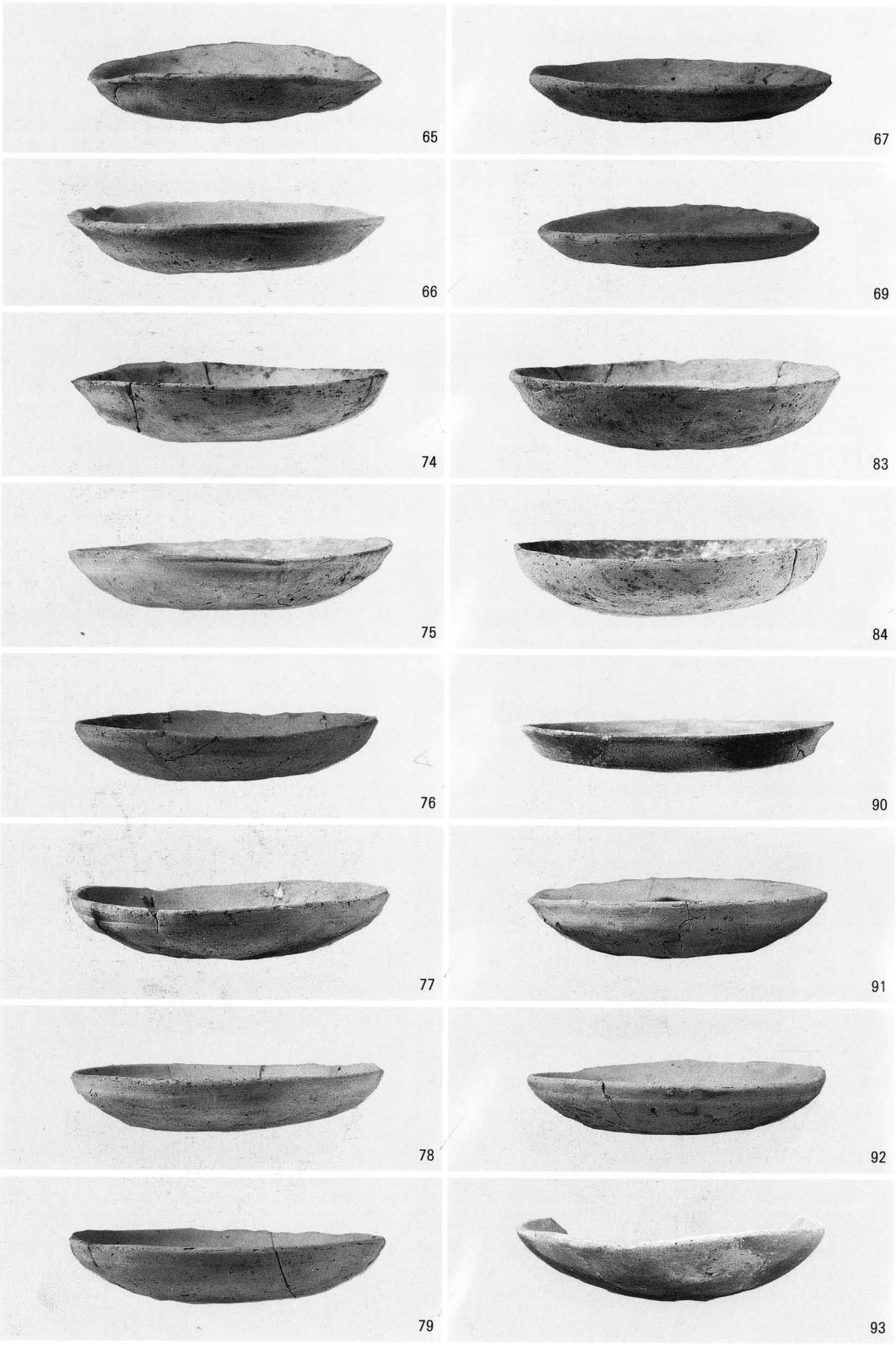

13


34

SD－1　出土遺物



SD－1（36・39）SP－4（41）その他SE－1　第7層出土遺物

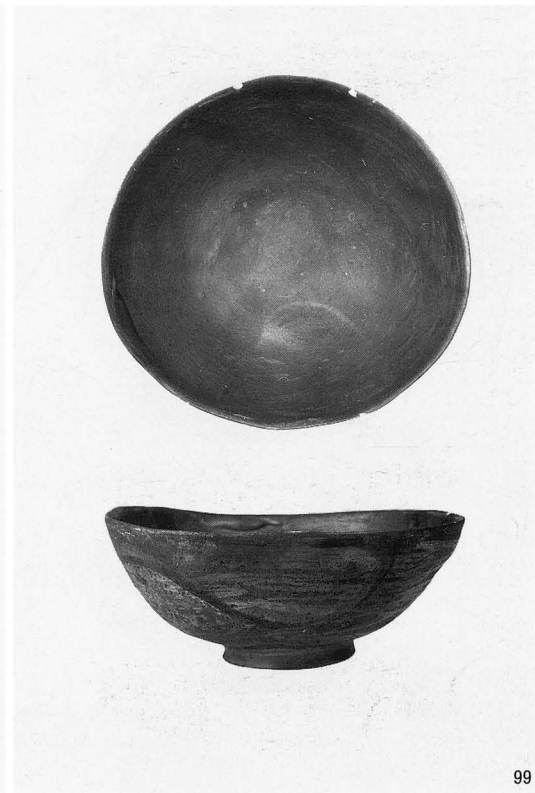


SE－1　第7層出土遺物

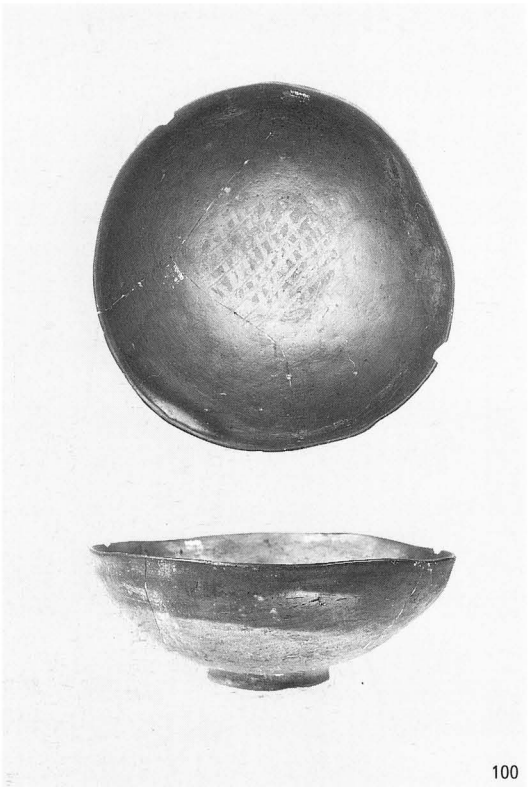
96

98

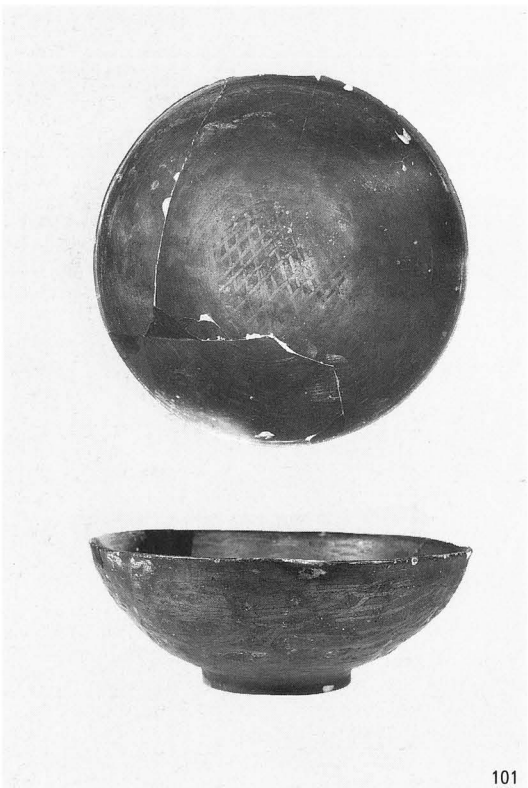
97

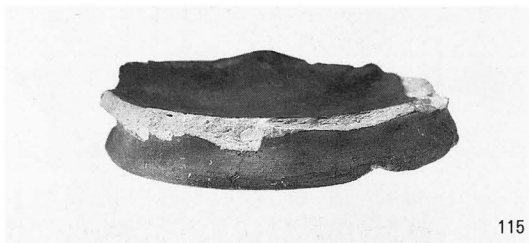

99

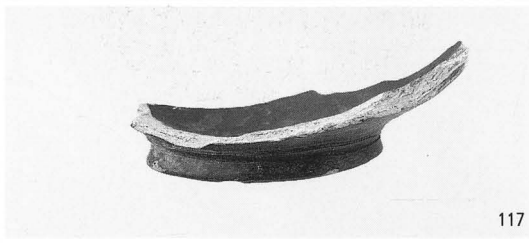
SE－1　第7層出土遺物

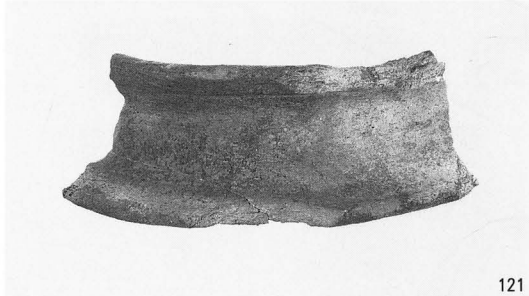

100

102

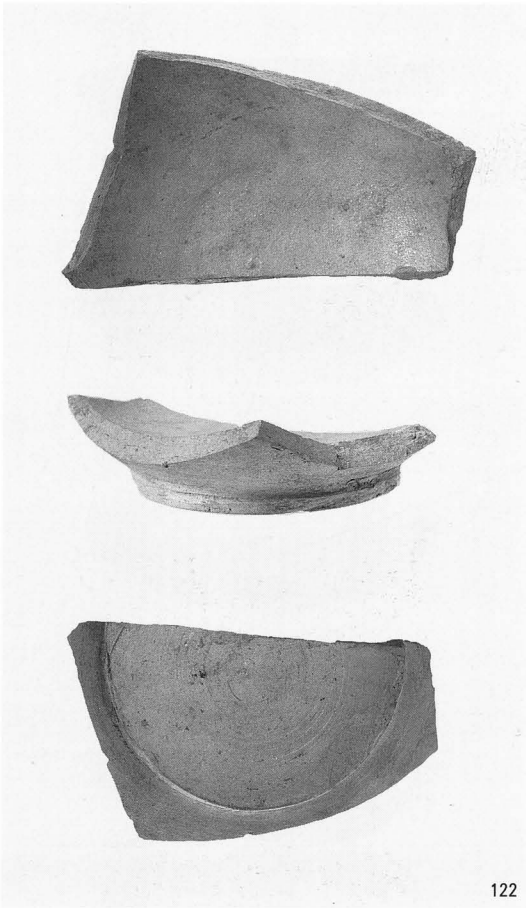

101


115


117


121

SE－1　第7層出土遺物

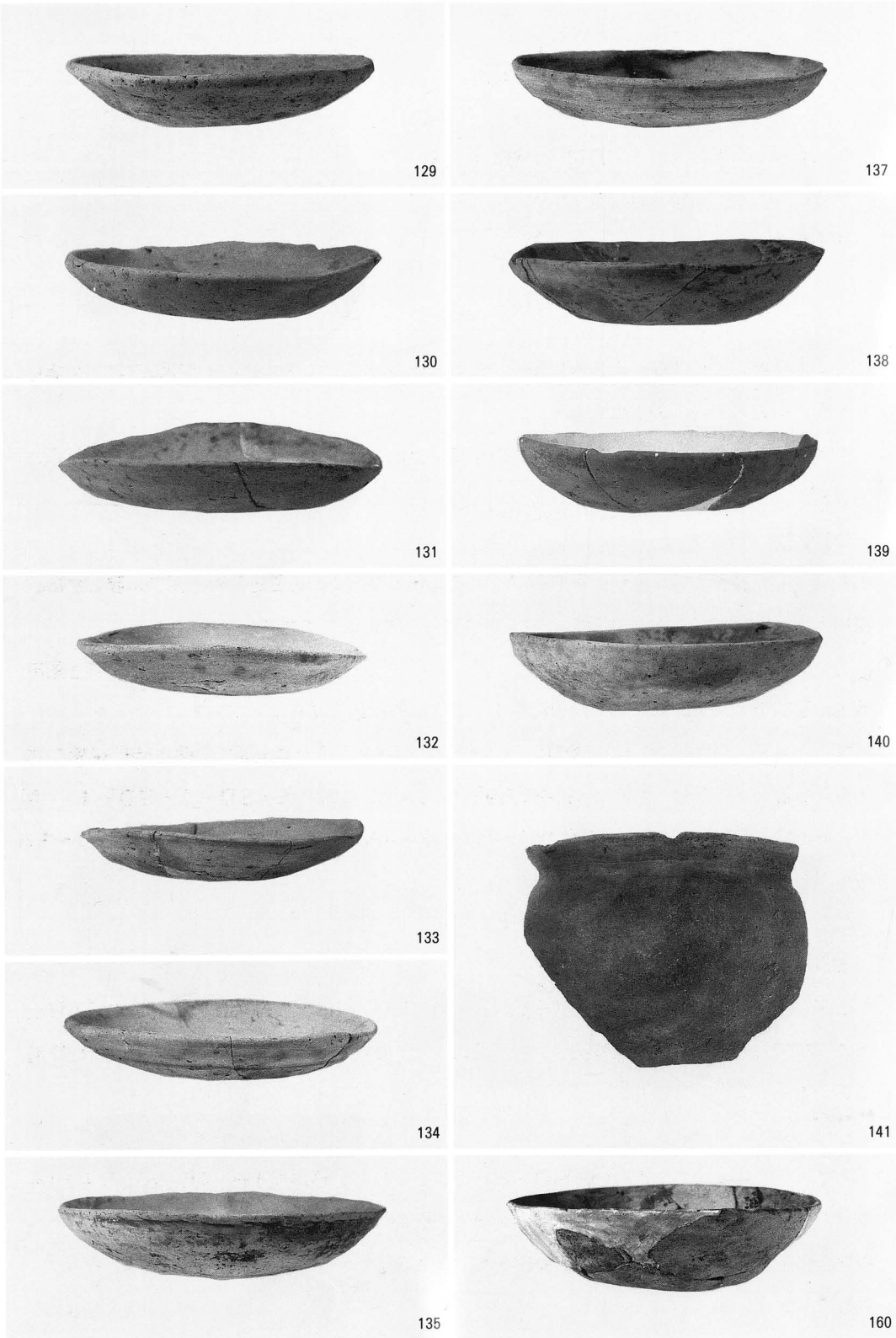

122

123

124

125

SE－1　第7層（122）・SE－1　井戸側内（123～125）出土遺物



SE－1　井戸側内（129～135・137～141）・包含層（160）出土遺物

4　東郷（とうごう）遺跡（第29次調査）

調 査 地　八尾市光町２丁目28－１他３筆

調査期間　平成元年３月６日～平成元年３月25日

調査面積　220㎡

はじめに

今回の発掘調査は共同住宅建設に伴って実施したもので、当調査研究会が東郷遺跡内で実施した発掘調査の第29次調査にあたる。

今回の調査地は、当調査研究会が昭和57年度に実施した第11次調査地から東へ約50ｍ地点にあたる。

調査概要

共同住宅建設予定地に合わせて東西13ｍ・南北16ｍの調査区を設定した。掘削に際しては、現地表下1.2ｍまでを機械で掘削し、以下の各層は人力によって掘削した。

当調査地での基本層序は、第０層盛土・第１層旧耕土・第２層灰青色細砂混粘土・第３層暗茶色礫混粘土・第４層茶灰褐色粗砂混粘土・第５層茶灰色粘質シルトである。

調査の結果、現地表下1.6ｍ（標高6.4ｍ）付近に存在する第５層上層で、弥生時代後期の溝２条（ＳＤ－１・ＳＤ－２）、古墳時代前期（庄内式期）の溝２条（ＳＤ－３・ＳＤ－４）、中世の溝５条（ＳＤ－５～９）、近世の溝１条（ＳＤ－10）、時期不明の土坑３基（ＳＫ－１～３）を検出した。

検出遺構と出土遺物

ＳＤ－１

南西－北東方向に伸びる溝で、検出長17ｍ、幅1.9ｍ～3.2ｍ、深さ0.4ｍを測る。内部堆積土は、上から茶褐色礫混粘土・暗灰色シルト混粘土で、暗灰色シルト混粘土からは弥生時代後期の鉢（１）が出土している。

ＳＤ－２

南東－北西方向に伸びる溝で、ＳＤ－１と合流している。検出長４ｍ、幅2.6ｍ、深さ0.4ｍを測る。内部堆積土は上から茶褐色礫混粘土・暗灰色シルト混粘土で、暗灰色シルト混粘土からは、弥生時代後期の長頸壷（２）が出土している。

ＳＤ－３

南東－北西方向に蛇行して伸びる溝で、検出長５ｍ、幅0.4～0.75ｍ、深さ0.06ｍを測る。内

部堆積土は、茶褐色シルト混粘土で、溝内からは、土師器の細片が少量出土した。

SD－4

南北方向に伸びる溝で、検出長４ｍ、幅1.9ｍ、深さ0.35ｍを測る。内部堆積土は、茶褐色粗砂混粘土で、溝内からの遺物の出土はなかった。

SD－5

東西方向に伸びる溝で、検出長5.5ｍ、幅0.45ｍ、深さ0.07ｍを測る。内部堆積土は、灰色細砂混粘土で、溝内からは土師器の細片が少量出土した。

SD－6

東西方向に伸びる溝で、検出長3.5ｍ、幅0.24ｍ、深さ0.06ｍを測る。内部堆積土は、灰色細砂混粘土で、溝内からは土師器の細片が少量出土した。

SD－7

東西方向に伸びる溝で、検出長10.5ｍ、幅0.56～0.8ｍ、深さ0.1ｍを測る。内部堆積土は、灰色細砂混粘土で、溝内からは土師器の細片が少量出土した。

SD－8

東西方向に伸びる溝で、検出長８ｍ、幅0.4～1.06ｍ、深さ0.16ｍを測る。内部堆積土は、灰色細砂混粘土で、溝内からの遺物の出土はなかった。

SD－9

東西方向に伸びる溝で、検出長７ｍ、幅1.05～1.75ｍ、深さ0.1ｍを測る。内部堆積土は、灰茶色粗砂混粘土で、溝からは土師器の細片が少量出土した。

SD－10

南北方向に伸びる溝で、検出長3.7ｍを測る。幅および深さは、溝の西側が調査区外にあり不明である。溝内からは陶磁器の細片が少量出土している。

SK－1

調査区の北西側で検出した。上面の形状は、東西方向に長い楕円形を呈する。東西幅1.13ｍ、南北幅0.8ｍ、深さ0.15ｍを測る。内部堆積土は茶灰色シルト混粘土で、土坑内からの遺物の出土はなかった。

SK－2

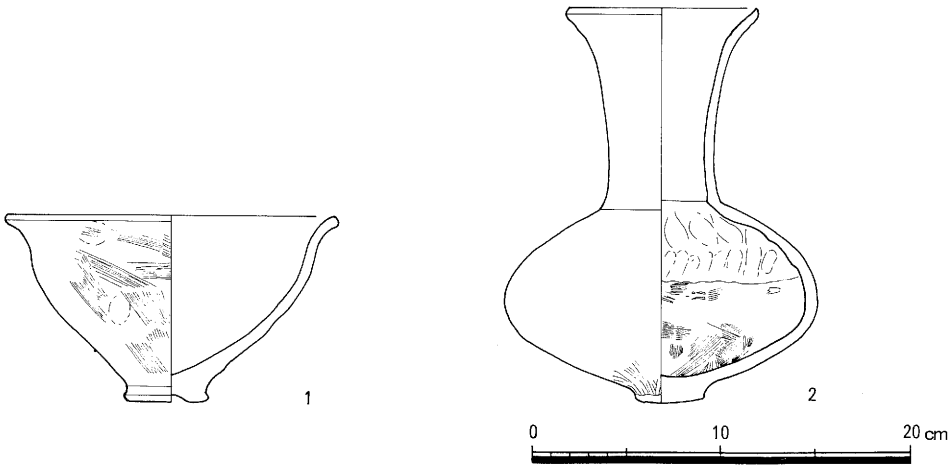
SK－1の東側で検出した。上面の形状は、円形を呈する。径0.7ｍ、深さ0.1ｍを測る。内部堆積土は茶褐色シルト混粘土で、土坑内からの遺物の出土はなかった。

SK－3

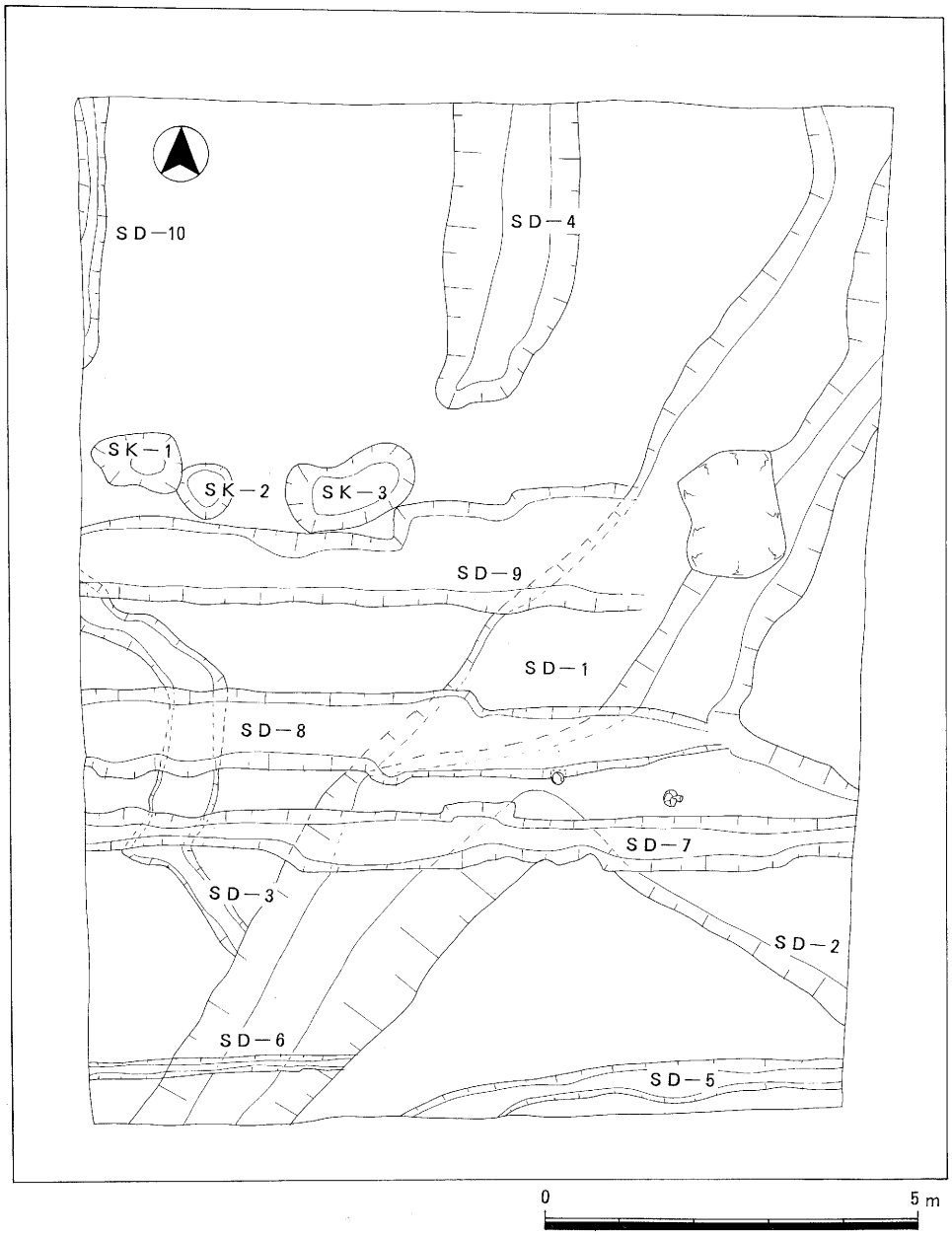
SK－2の東側で検出した。上面の形状は、不定形を呈する。東西幅1.8ｍ、南北幅１ｍ、深さ0.1ｍを測る。内部堆積土は暗茶色シルト混粘土で、土坑内からの遺物の出土はなかった。

まとめ

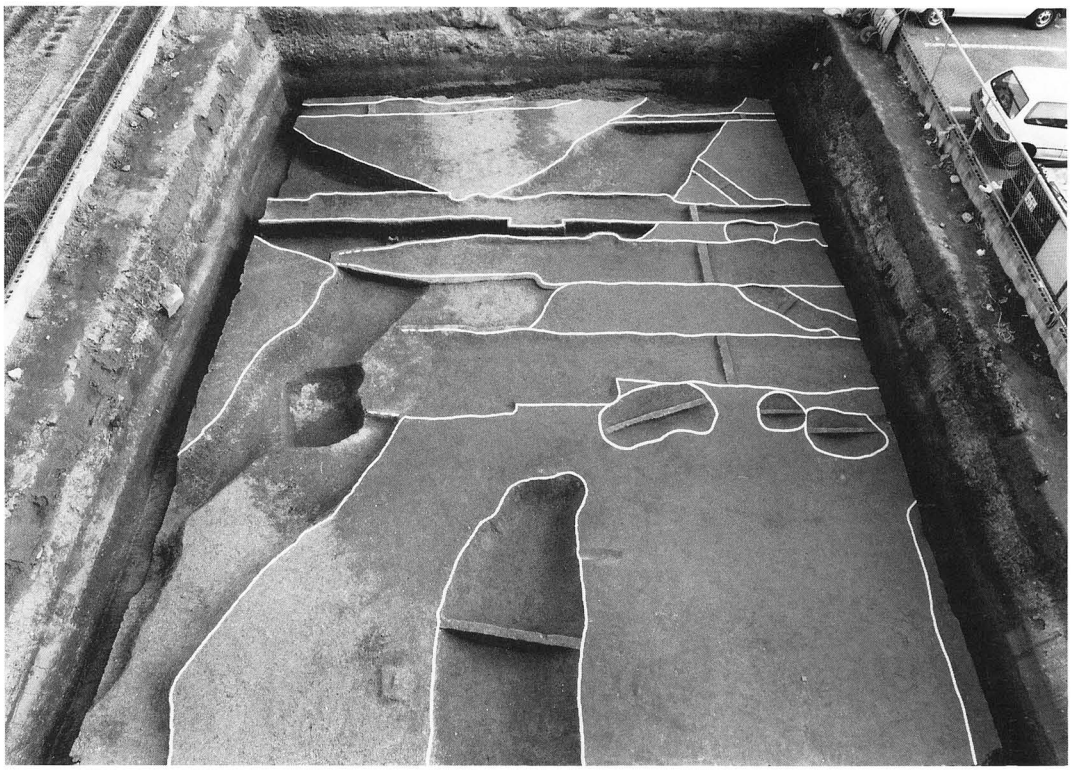
今回の調査では、弥生時代後期・古墳時代前期・中世・近世の遺構を検出した。特に弥生時代後期については、第13次調査で土坑が検出されている程度で不明瞭であったが、今回の調査の結果、当調査地付近にこの時期の集落が存在した可能性が強くなった。



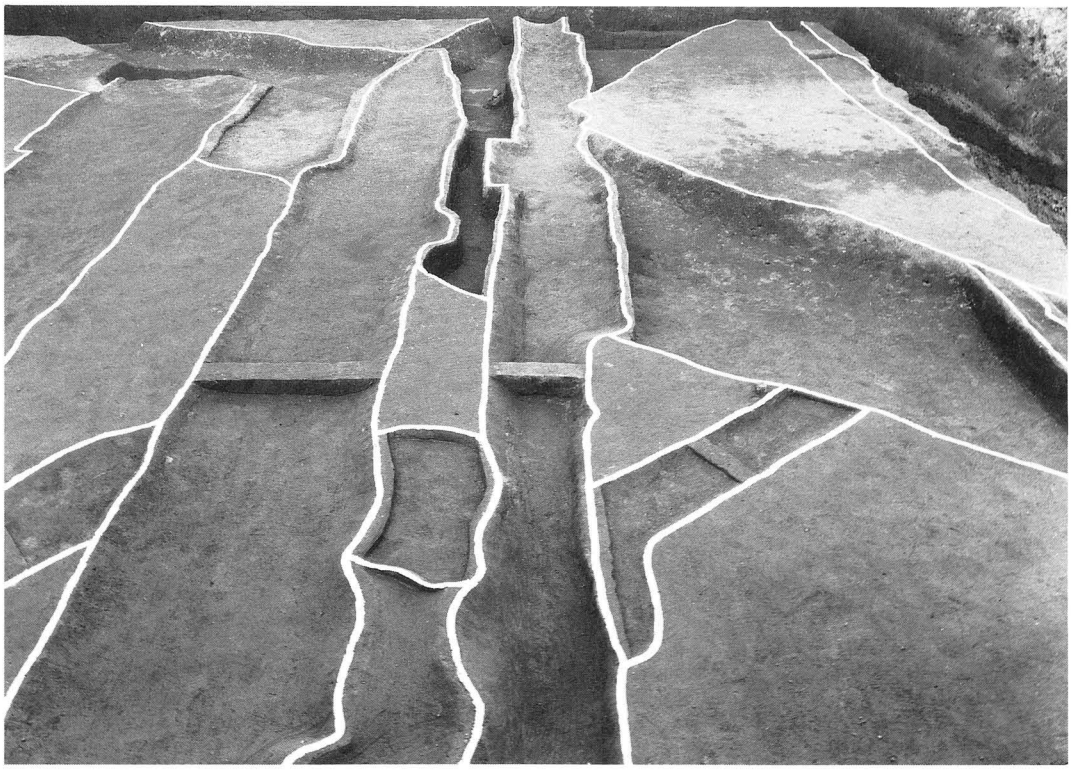
出土遺物実測図



検出遺構平面図



調査区全景（北から）



溝検出状況（西から）

SD－2　遺物出土状況

出土遺物

5　成法寺遺跡（第4次調査）

調 査 地　八尾市南本町1丁目10－1

調査期間　昭和63年11月7日～昭和63年12月5日

調査面積　540㎡

はじめに

今回の発掘調査は事務所建設に伴うもので、当調査研究会が成法寺遺跡内で実施した発掘調査の第4次調査にあたる。

当遺跡は、旧大和川の主流であった長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地に位置しており、現在の行政区画では光南町・清水町・南本町・明美町一帯にあたる。

当遺跡の発見の契機は、昭和56年度に八尾市教育委員会が光南町1丁目26で実施した発掘調査で、弥生時代後期の土器溜、古墳時代前期の方形周溝墓4基、古墳時代後期の掘立柱建物5棟が検出されたことによる。その後、大阪府教育委員会・八尾市教育委員会・当調査研究会により、現在（平成元年4月）に至るまでに8次に亘る発掘調査が実施されている。その結果、弥生時代中期から奈良時代に至る遺構・遺物が検出され、各時期の集落が広範囲に広がることが明らかになった。なお、当調査地の北側に近接する府道服部川久宝寺線では、拡張工事に伴う発掘調査が大阪府教育委員会によって昭和61年度から継続して実施されている。その結果、弥生時代中期に比定される方形周溝墓・溝、古墳時代前期の竪穴住居・井戸・溝などが検出されている。

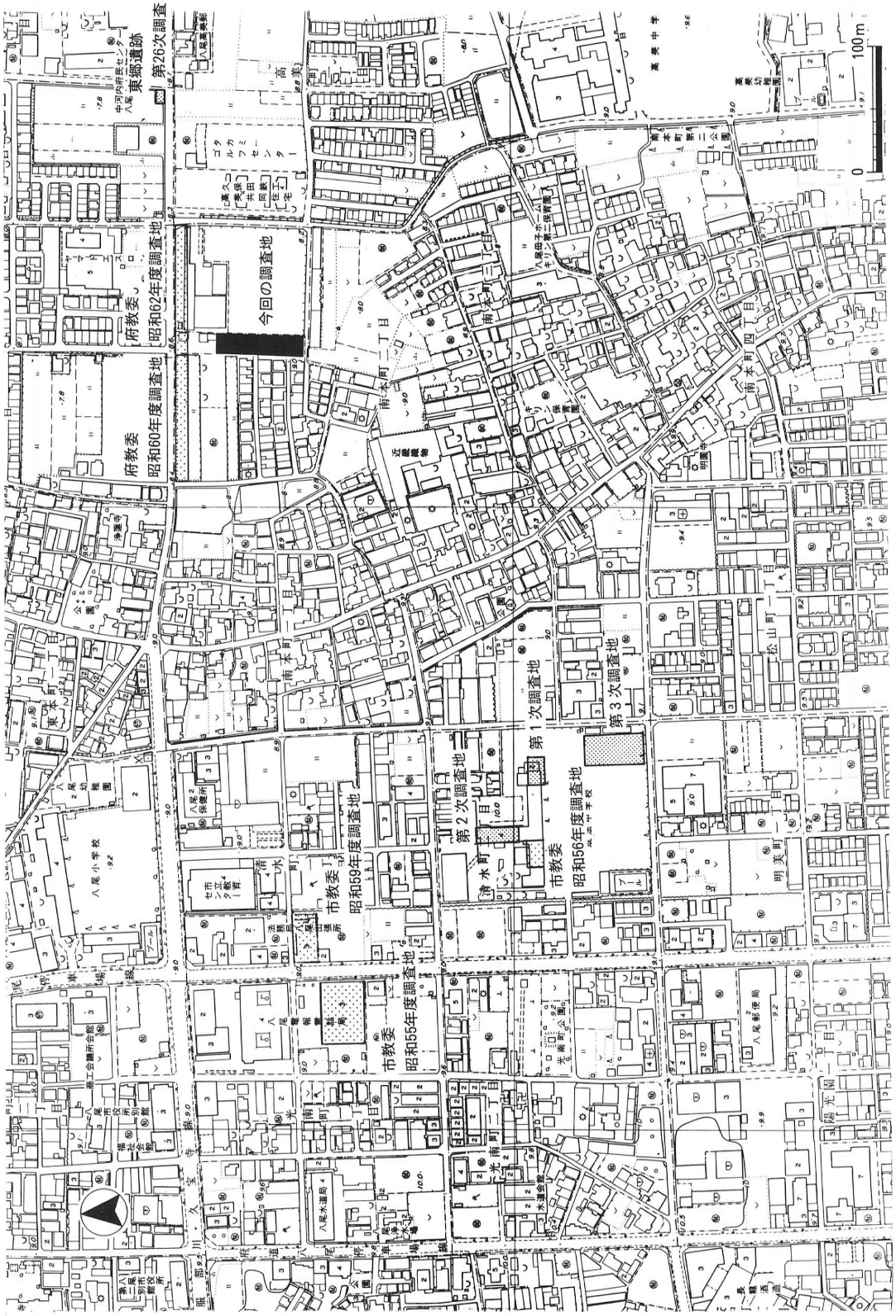
調査概要

調査では、建物の基礎部分に長さ60m・幅3mの規模のトレンチ3本（東から第1調査区～第3調査区）を設定した。掘削に際しては、現地表下から1.5mまでは機械で掘削し、以下0.3m前後は人力による掘削を実施した。なお、第1調査区と第2調査区の南部では、遺構の性格を追求するため調査区を一部拡張した。

その結果、現地表下1.5m（標高7.0m）前後に存在する淡灰色～灰青色細砂上面で、古墳時代前期（庄内式古相）に比定される遺構を検出した。検出した遺構は方形周溝墓3基・井戸1基・土坑26基・溝2条である。

まとめ

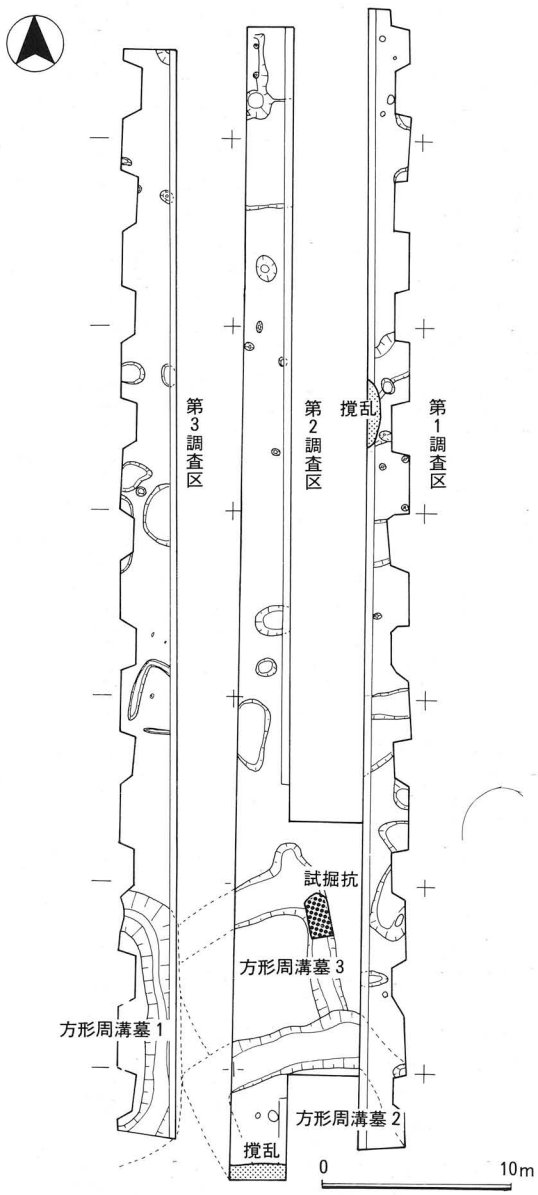
今回の調査では、古墳時代前期（庄内式古相）に比定される遺構・遺物を検出した。これらの調査結果と近隣で実施した調査結果を総合すると、庄内式古相の段階では調査区の南部が墓[註1]


今回の調査地
東郷遺跡
第26次調査
昭和62年度調査地
府教委
昭和60年度調査地
府教委
昭和59年度調査地
市教委
第2次調査地
第1次調査地
第3次調査地
昭和56年度調査地
市教委
昭和55年度調査地
市教委
八尾小学校
八尾幼稚園
八尾保健所
八尾市役所
八尾市立会館
八尾市立体育館
八尾市立老人福祉会館
八尾市立図書館
八尾市立歴史民俗資料館
八尾郵便局
八尾木駅
近畿農業会
キリスト教会
高美中学
高美幼稚園
高美公園
光南公園
光南町公園
0
100m

調査地周辺図

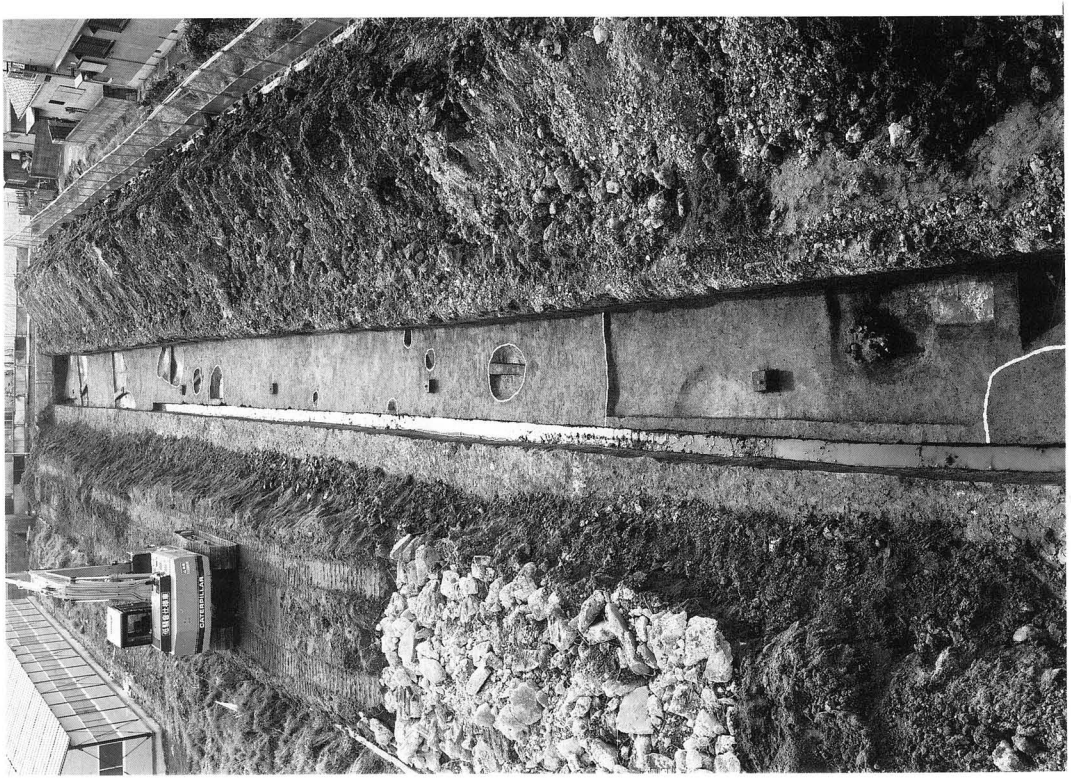
域で、北部が住居域であったが、庄内式新相～布留式古相になると墓域が北部まで及ぶようになり、居住域が東部に移動していることが窺える。

註1　大阪府教育委員会　『成法寺遺跡発掘調査概要Ⅰ－八尾市南本町所在－』　1986

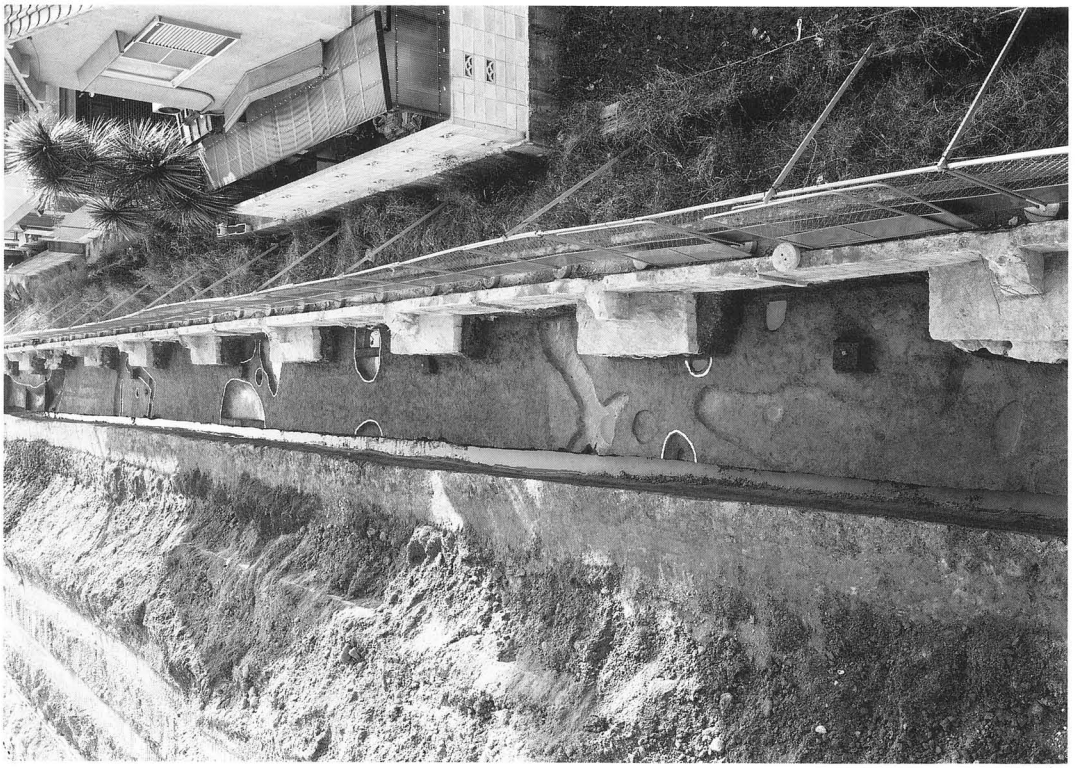


検出遺構平面図

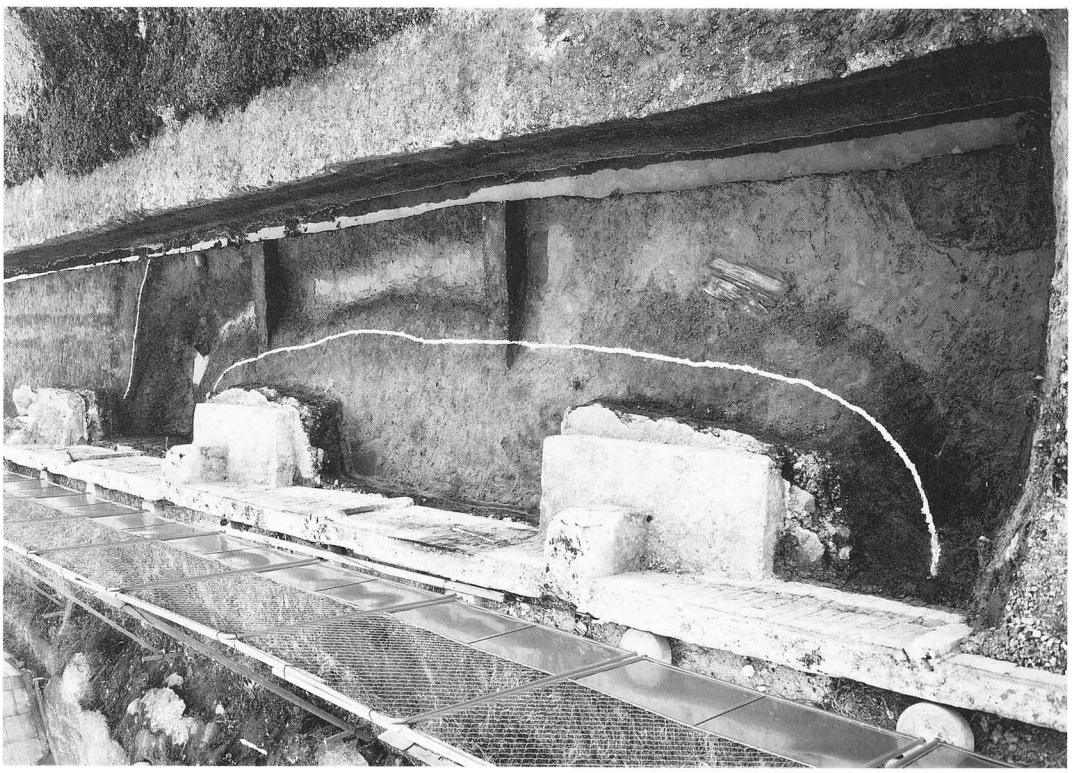
第 1 調査区全景（北から）



第 2 調査区全景（北から）



第３調査区（北から）



第３調査区　方形周溝墓検出状況（南から）

6　久宝寺遺跡（第３次調査）

調 査 地　八尾市久宝寺４丁目74、76、81－１、81－３の各一部

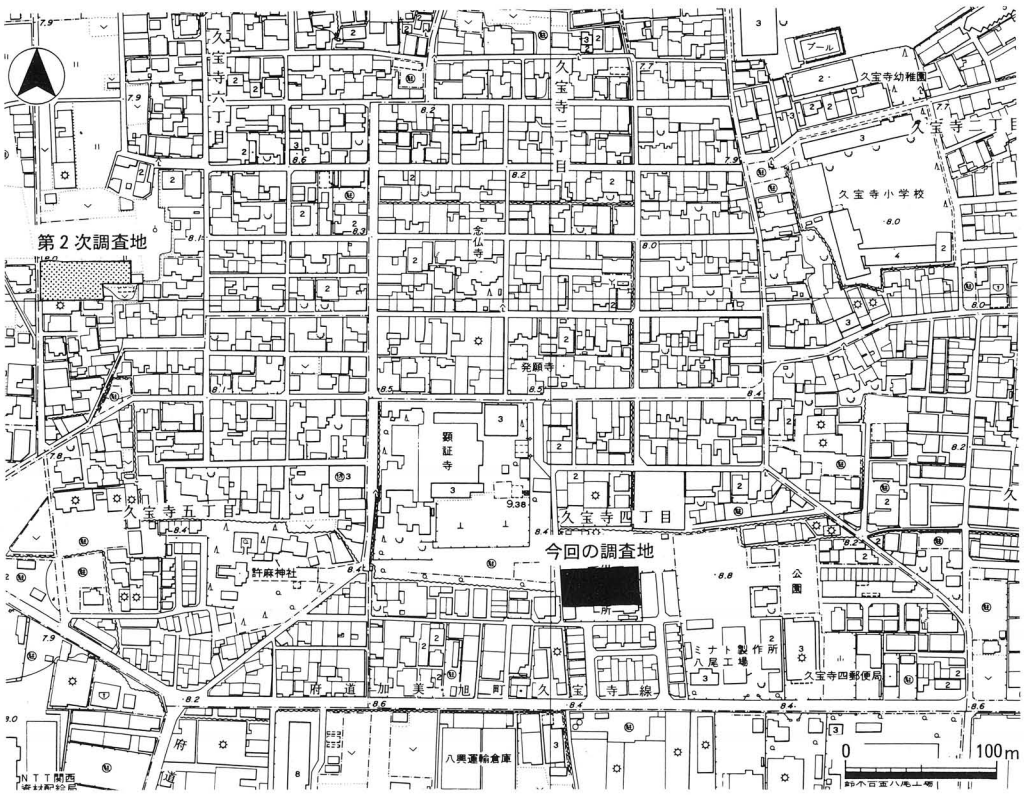
調査期間　昭和63年12月５日～昭和63年12月28日

調査面積　330㎡

はじめに

今回の発掘調査は共同住宅建設に伴って実施したもので、当調査研究会が久宝寺遺跡内で実施した第３次調査にあたる。

久宝寺遺跡は、八尾市の北西部に位置し、旧大和川の主流である長瀬川左岸に立地する遺跡で現在の行政区画では北久宝寺・久宝寺・西久宝寺・南久宝寺・神武町・亀井・北亀井町および東大阪市大蓮南にあたる。今回調査を行った地点は、当遺跡内の東部にあたる。調査地周辺には、北西に隣接し顕証寺を中心とした久宝寺寺内町がひろがっており、現在でもこの寺内町の町割りや環壕が残っている。



調査地周辺図

当遺跡内では、当調査研究会が昭和59年度に北亀井３丁目１で調査（第１調査）を行っており[註1]、古墳時代前期の土器集積・自然河道を検出している。また、昭和62年度には久宝寺６丁目226他２筆で調査[註2]（第２次調査）を行っており、弥生時代後期から奈良時代の遺物が出土している。

調査概要

調査は調査地の北側（北調査区）と南側（南調査区）に東西方向に長いトレンチ（５×33m）を設定して実施した。調査に当たっては、現地表下2.0mまで機械掘削を行い、以下0.5～0.6m以上については人力掘削を行った。調査の結果、表土下2.2m（標高6.4m）前後に存在する灰色粘土層上面（第２調査面）で平安時代の水田と自然河道１条を検出し、その水田面から0.25m下層の灰色微砂混粘土層上面（第１調査面）で古墳時代前期の方形周溝墓１基と土坑１基を検出した。なお、北調査区で検出した方形周溝墓の主体部および周溝の広がりを確認するため、方形周溝墓の北側と、両調査区の西側をつなぐ形で調査区を新たに設定した。西側に設定した調査区を西調査区と呼称した。

基本層序

第０層：盛土　層厚1.2m。上面の標高は8.6～8.65mを測る。

第１層：暗灰色粘土。層厚0.1～0.2m。旧耕土。

第２層：茶灰色細砂混粘土。層厚0.2～0.45m。

第３層：青灰色シルト混粘土。層厚0.2～0.35m。近世の遺物を含む。

第４層：灰黄色細砂～微砂。層厚0.05～0.55m。平安時代の遺物を含む。

第５層：灰色粘土。層厚0.05～0.45m。上面は平安時代の遺構面である。

第６層：暗灰色シルト混粘土。層厚0.3m。弥生時代後期～古墳時代前期の遺物を含む。

第７層：灰色微砂混粘土。層厚0.3m以上。上面は古墳時代前期の遺構面である。

検出遺構と出土遺物

第１調査面

方形周溝墓

調査区の北西で検出した。検出したのは墳丘と南西側の周溝である。墳丘の規模は、墳丘の西側が自然河道によって削り取られているため不明である。墳丘は灰青色粘土（炭含む）が盛り上げられている。墳丘高は約0.33mを測る。埋葬施設は２箇所（木棺・土器棺）を確認した。木棺は墳丘のほぼ中央で検出した。南北方向に長い長方形の木棺を埋設している。埋設している掘形は不明瞭であった。木棺は、蓋板の一部と底板が明瞭に残っていた。底板の長さ2.7m、幅0.45mである。木棺内からは骨片が極少量出土した。土器棺は木棺の東で検出した。この土器棺は口縁部を打ち欠いた壷（４）（遺存高50cm・体部最大幅55.5cm）を傾けて据えられ、そ

の上を体部下半のみが残っている別個体の壷（3）で蓋をしている。土器棺内からの人骨および遺物の出土はなかった。この土器棺も木棺と同様、埋設している掘形は不明瞭であった。周溝は断面U字型を呈し、幅1.1～1.4m、深さ0.3～0.36mを測る。周溝の内部堆積土は上から灰色粘土、灰青色微砂、暗灰色シルト混粘土、青灰色シルト混粘土、暗灰色粘土である。東周溝の暗灰色粘土層内からは古墳時代前期（布留式期）の壷（1）が出土している。また墳丘内からも小型丸底壷（2）が出土している。

SK－1

方形周溝墓の東で検出した。平面の形状は円形である。径1.05m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は暗灰色粘土で、古墳時代前期（庄内式期）の壷（5）・甕（6）が出土している。

第2調査面

水田

水田は調査地のほぼ全域で検出した。畦畔は南北方向のもの1条と南西－北東方向のもの3条で、下幅0.4～0.8m、上幅0.15～0.4m、高さ0.07～0.2mを測る。水田面には足跡状遺構があり、その内部や水田面上面には灰黄色細砂～微砂が堆積している。この砂層内から土師器杯(14)・黒色土器椀（15）が出土している。

自然河道

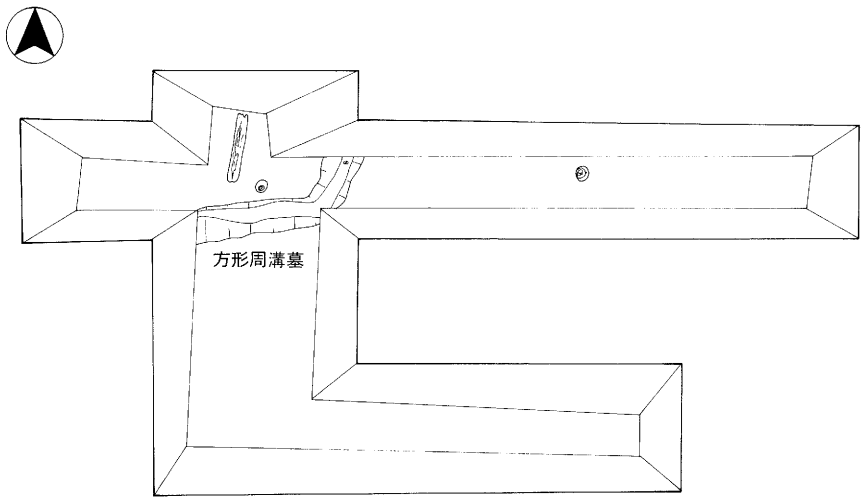
調査区の西側で検出した。幅・深さは河道の西肩が調査区外にあるため不明である。検出した幅は7.6mで、深さは1.7mを測る。内部には淡黄灰色・茶灰色・灰色等の粗砂が堆積している。内部からは土師器の細片が少量出土している。

まとめ

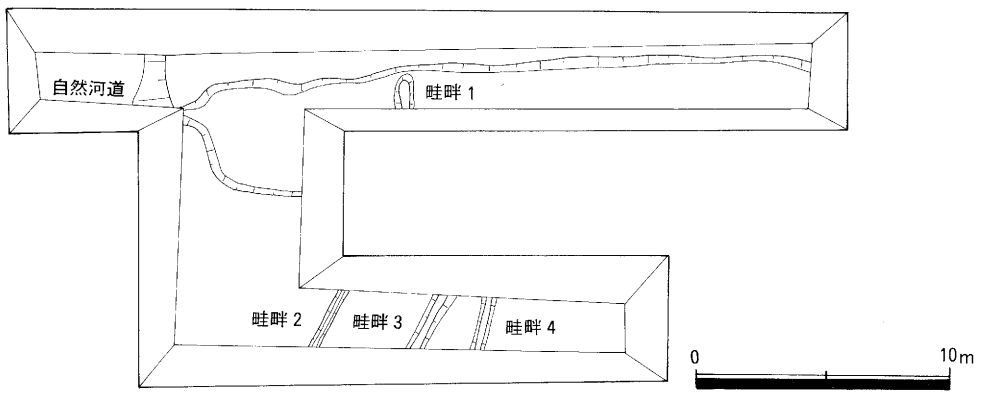
今回の調査地が位置する当遺跡内の東部地域では、小規模な試掘調査は数件行われているもの、発掘調査は行われていなく、遺跡の実態はほとんど明らかにされていなかった。しかし、今回の調査で、古墳時代前期と平安時代の二時期の遺構を検出したことから当調査地周辺に同時期の集落が存在していたことが明らかとなった。

註1　㈶八尾市文化財調査研究会『昭和59年度事業概要報告』　㈶八尾市文化財調査研究会報告7　1985

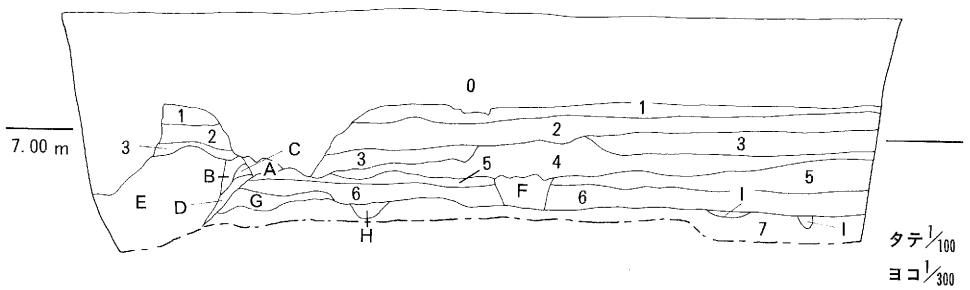
註2　㈶八尾市文化財調査研究会『八尾市文化財調査研究会年報　昭和62年度』　㈶八尾市文化財調査研究会報告16　1988



第1調査面

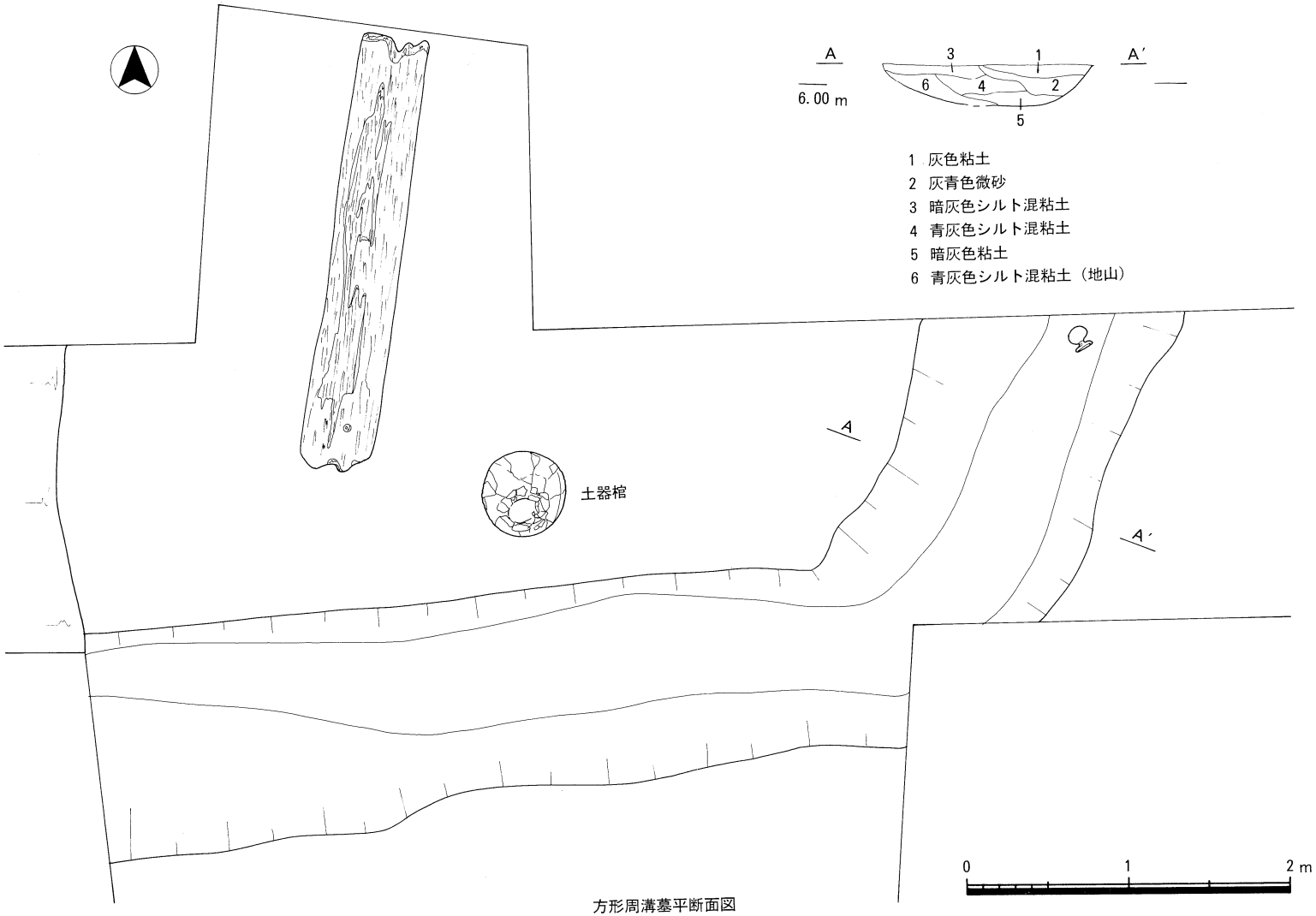


第2調査面

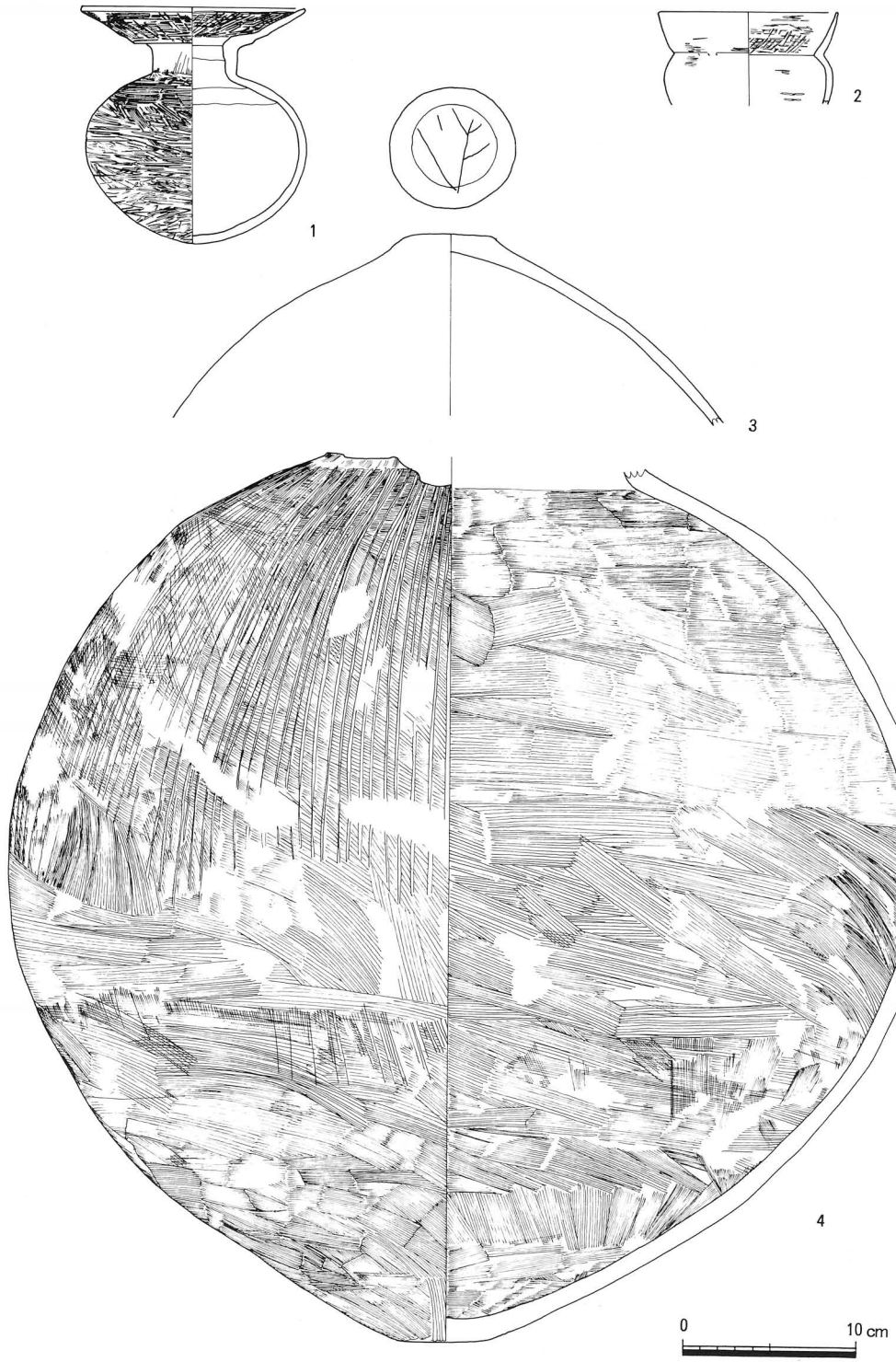


0 盛土
1 暗灰色粘土（旧耕土）
2 茶灰色細砂混粘土
3 青灰色シルト混粘土
4 灰黄色細砂～微砂
5 灰色粘土
6 暗灰色シルト混粘土
7 灰色微砂混粘土
A 淡黄灰色細砂
B 灰茶色細砂
C 茶灰色細砂
D 灰色細砂
E 茶灰色～灰色　粗砂～微砂
F 灰青色シルト混粘土
G 灰青色粘土（炭含む）　方形周溝墓の埋土
H 暗灰色シルト混粘土（周溝堆積土）
I 茶灰色細砂混粘土

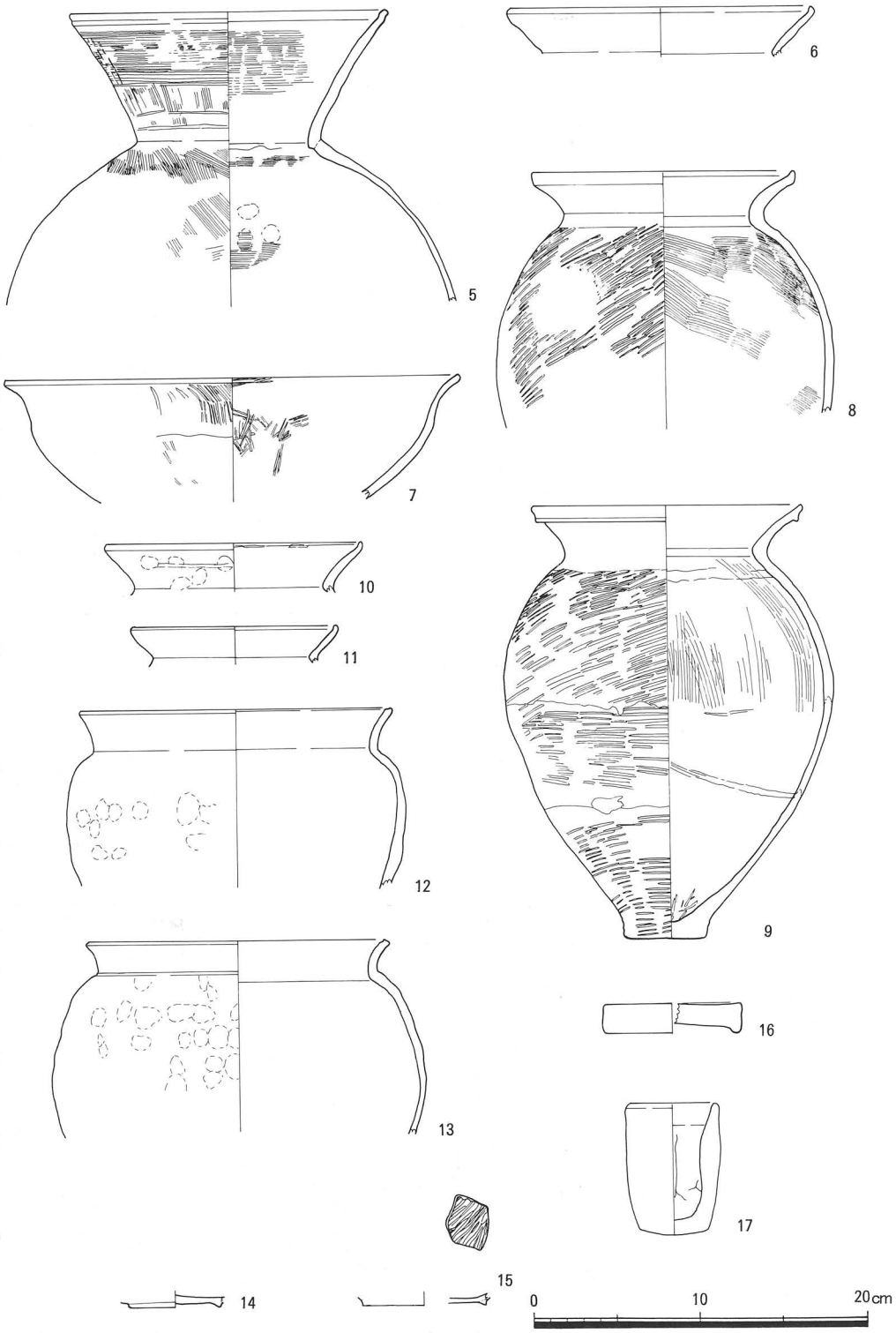
検出遺構平断面図


A
6.00 m
A′
3
1
6
4
2
5
1 灰色粘土
2 灰青色微砂
3 暗灰色シルト混粘土
4 青灰色シルト混粘土
5 暗灰色粘土
6 青灰色シルト混粘土（地山）
土器棺
A
A′
0
1
2 m

方形周溝墓平断面図



出土遺物実測図 1



出土遺物実測図 2

出土遺物観察表

方形周溝墓

遺物番号	器種	法量（cm） 口径 器高	形態・調整技法	色調	胎土	焼成	備考
1	土師器 二重口縁壺	13.6 12.8	球形の体部。直立にのびる頸部から水平ぎみにひらき、外上方へひろがる口縁部に至る。口縁部内外面ヘラミガキ、頸部内外面ナデ、体部内面ナデ、外面ヘラミガキ。	淡茶色	精良	良好	
2	土師器 小型丸底壺	10.2	球形の体部。内彎ぎみにのびる口縁部。端部は尖る。口縁部内外面ヘラミガキ、体部内外面ヘラミガキのちナデ。	乳茶色	精良	良好	
3	土師器 壺	底径 5.9	やや突出する上げ底状の底部。内面ナデ、外面ヘラミガキ後ナデ。	乳茶色	やや粗	良好	土器棺の蓋
4	土師器 壺	底径 5.1	球形の体部。突出しない平底。体部内面ハケ目。外面ハケ目後体部上方は縦方向のヘラミガキ。	淡茶褐色	良	良好	土器棺

SK－1

遺物番号	器種	法量（cm） 口径 器高	形態・調整技法	色調	胎土	焼成	備考
5	土師器 壺	17.0	球形の体部。やや外反ぎみに上外方へのびる口縁部。端部は丸い。体部内面ハケ目、一部に指頭圧成形の痕跡残る。外面ハケ目。口縁部内外面ハケ目。	乳黄灰色	精良	良好	
6	土師器 甕	18.0	斜上方へのびる口縁部。端部は上方へつまみ上げる。内外面ヨコナデ。	灰茶色	精良	良好	

包含層

遺物番号	器種	法量（cm） 口径 器高	形態・調整技法	色調	胎土	焼成	備考
7	土師器 鉢	27.6	内彎ぎみにのびる体部から外反する口縁部に至る。端部は面をもつ。内外面ヘラミガキ。	淡乳灰色	精良	良好	
8	土師器 甕	15.6	やや丸味のある体部から外反する口縁部に至る。端部は上方へつまむ。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ハケ目、外面タタキ目。	茶灰色	良	良好	
9	弥生土器 甕	16.0 26.2 底径 4.7	突出した平底の底部から斜上方へ体部がのびる。口縁部は外反し、端部は外傾する面をもつ。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ハケ目、外面タタキ目、成形時の接合痕が内外面に残る。	灰茶色	良	良好	
10	土師器 甕	15.4	外反する口縁部。端部は上方へつまむ。内面ヨコナデ、外面ヨコナデ、指頭圧成形痕がある。	茶褐色	良	良好	

遺物番号	器種	法量(cm) 口径 器高	形態・調整技法	色調	胎土	焼成	備考
11	土師器 甕	12.0	上外方へ外反ぎみにのびる口縁部。端部は丸く終る。内外面ヨコナデ。	淡茶色	やや粗	良好	
12	土師器 甕	18.7	丸味のある体部から上外方へ屈曲する口縁部に至る。端部はくぼみを持つ。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ナデ、外面指頭圧成形。	淡茶褐色	精良	良好	
13	土師器 甕	17.6	丸い体部から外反する口縁部へ至る。端部は面をもつ。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ナデ、外面指頭圧成形。	暗茶褐色	精良	良好	
14	土師器 杯	高台径 5.4 高台高 0.3	「八」の字にひらく高台部。内外面ナデ、高台内外面ヨコナデ。	淡茶色	精良	良好	
15	黒色土器 椀	高台径 7.2 高台高 0.4	「八」の字にひらく高台部。内外面ヘラミガキ。外面ナデ、高台部内外面ナデ。	内面黒色 外面淡茶色	精良	良好	
16	土師器 蓋	8.0	平らな天井部。下方へ少しのびる口縁部。端部は丸味のある面をもつ。内外面ナデ。	赤褐色	精良	良好	
17	土師器 塩壺	5.0	やや丸い底部から上方へのびる体部。口縁部は少しだけ外へひらく。端部は尖って終る。内面ナデ、シボリ目残る。外面ナデ。	赤褐色	精良	良好	

南調査区　第２調査面全景（西から）

同上　第１調査面全景（西から）

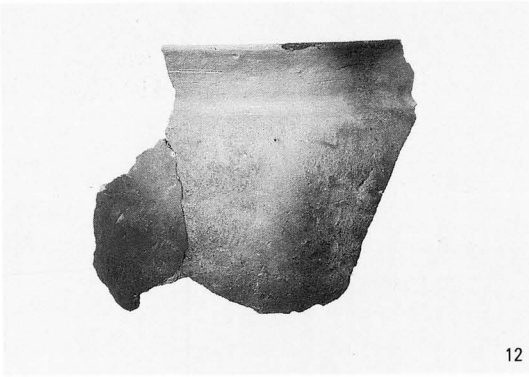
北調査区　第２調査面全景（東から）

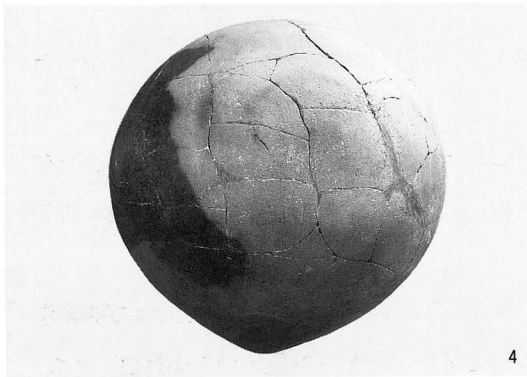
同上　第１調査面全景（東から）

方形周溝墓検出状況（北から）

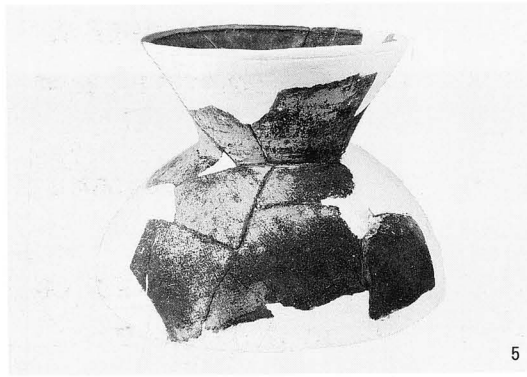
土器棺検出状況（南から）

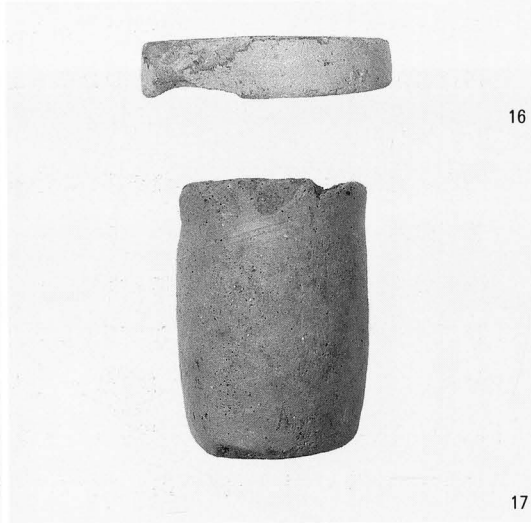
1


12


4

13


5


16

17

9

出土遺物

7　小阪合（こざかい）遺跡（第15次調査）

調 査 地　八尾市小阪合町２丁目52－11

調査期間　昭和63年５月17日～昭和63年10月31日

調査面積　356㎡

はじめに

今回の発掘調査は、小阪合ポンプ場放流渠築造工事に伴うもので、当調査研究会が小阪合遺跡内で実施した第15次調査にあたる。

当遺跡は、旧大和川の主流であった長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地に位置しており、現在の行政区画では、小阪合町１～２丁目・南小阪合町１・２・４丁目・青山町１～５丁目・若草町・山本町７～８丁目一帯にあたる。

当遺跡内では、昭和57年以降、八尾市都市計画事業南小阪合土地区画整理事業および関連事業に伴う発掘調査が、昭和63年度までに大阪府教育委員会（２次）・八尾市教育委員会（２次）当調査研究会（17次）によって21次にわたる調査が実施されてきた。これらの調査結果から、小阪合遺跡は、弥生時代後期から近世に至るまで連綿と営まれ続けてきた遺跡であることが判明している。

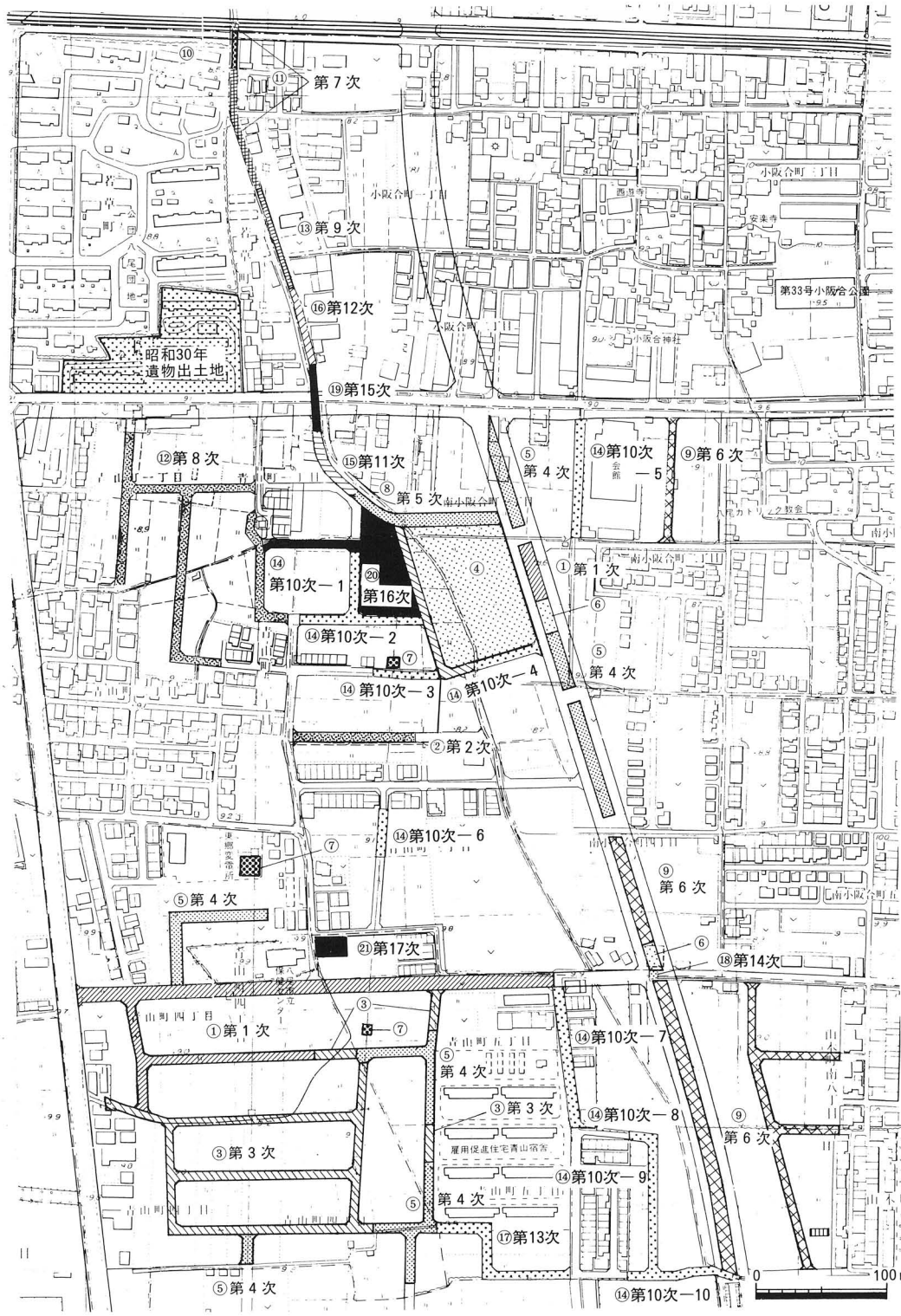
今回の調査地は、現楠根川の流路部分に位置し、第11次調査地と第12次調査地の間にあたる。

調査概要

調査地は現楠根川の流路部分にあたり、さらに府道が横断している為、調査地を４区分（第１調査区～第４調査区）して調査を実施した。掘削に際しては、第11次調査の結果を参考にし、現地表下1.8m前後までを機械により掘削し、以下0.4mは人力で掘削した。その結果、現地表下2.2m（標高7.0m）前後で厚く堆積する砂層を検出した。この砂層は旧楠根川の堆積土と考えられるが、限定された調査区内の調査であるため河川の規模・深度等は不明である。砂層内からは弥生時代～室町時代に至る土器の破片がごく少量出土している。

まとめ

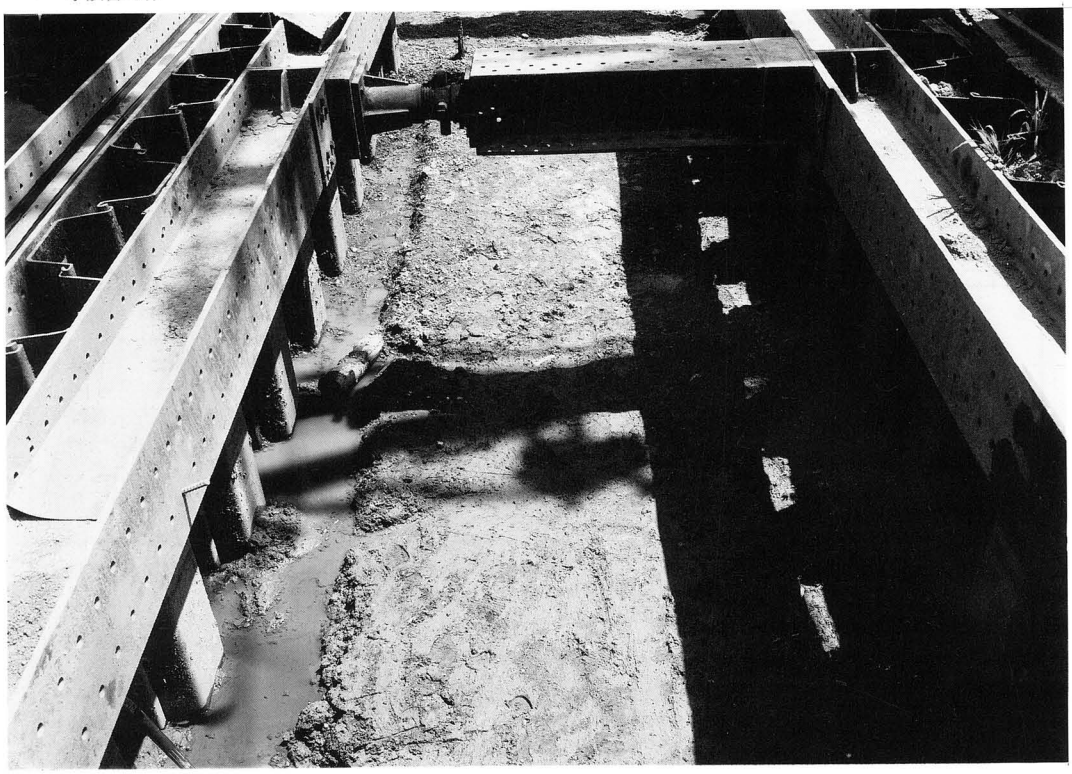
今回の調査では、第11次調査と同様、現楠根川の旧流路と考えられる河川を検出した。この河川は出土した遺物からみて、室町時代に埋没したと推定されるもので、砂層の堆積状況から大規模な河川であったことが考えられる。また、南方約700mに位置する第６次調査地でも同様の規模を持つ河川が検出されていることから、旧楠根川は現楠根川の流路と多少の違いがあるものの、ほぼ同位置を北北西へ流下していたことが窺える。


⑩
⑪第7次
⑬第9次
⑯第12次
昭和30年
遺物出土地
⑲第15次
⑫第8次
⑮第11次
⑧第5次
⑤第4次
⑭第10次
—5
⑨第6次
⑭第10次—1
⑳第16次
④
①第1次
⑥
⑭第10次—2
⑦
⑤第4次
⑭第10次—3
⑭第10次—4
②第2次
⑭第10次—6
⑦
⑨第6次
⑤第4次
㉑第17次
⑥
⑱第14次
③
①第1次
⑦
⑭第10次—7
⑤第4次
③第3次
⑭第10次—8
⑨第6次
③第3次
⑭第10次—9
⑤第4次
⑰第13次
⑤第4次
⑭第10次—10
0
100m

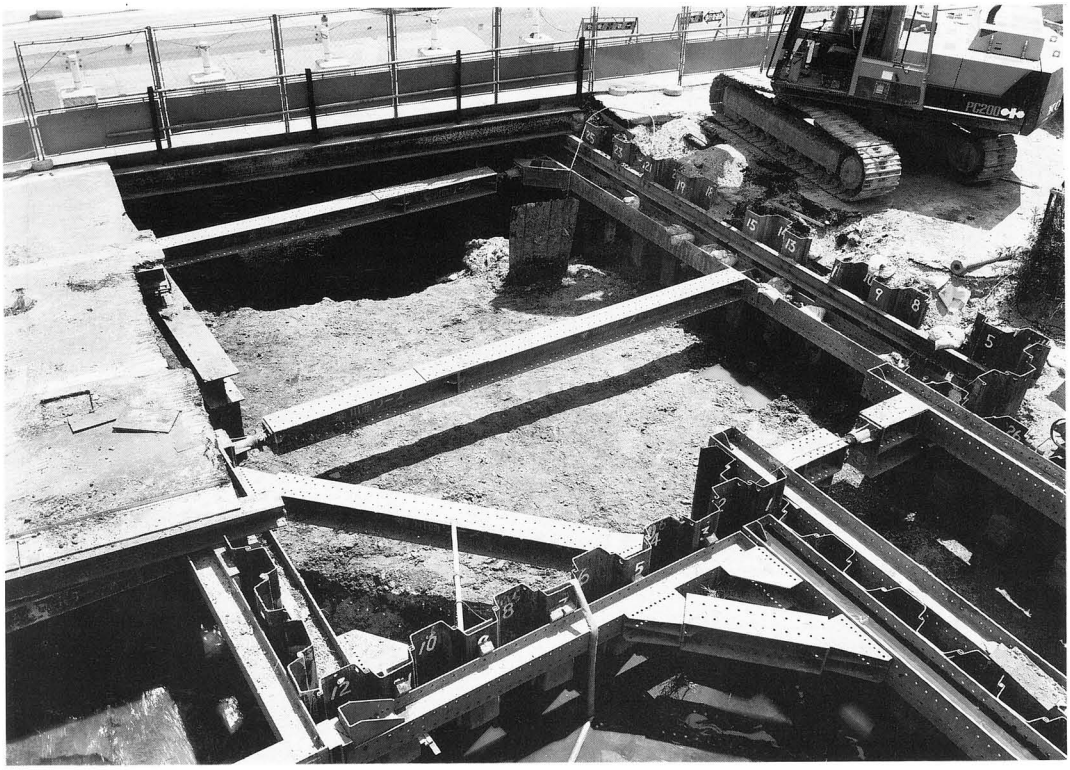
調査地周辺図

周辺の発掘調査一覧表

番　号	調　査　主　体	調　査　期　間	文　　献	発　行
①	当調査研究会(第1次)	57年11月～58年3月	小阪合遺跡：(財)八尾市文化財調査研究会報告10	1987.3
②	同　　上(第2次)	58年6月～58年7月	小阪合遺跡：(財)八尾市文化財調査研究会報告11	1987.7
③	同　　上(第3次)	58年10月～59年3月	同上	同　上
④	大阪府教育委員会	58年9月～59年3月	—	—
⑤	当調査研究会(第4次)	59年6月～59年11月	小阪合遺跡：(財)八尾市文化財調査研究会報告15	1988.3
⑥	大阪府教育委員会	59年9月～59年11月	—	—
⑦	八尾市教育委員会	59年11月	八尾市内遺跡昭和59年度発掘調査報告書 八尾市文化財調査報告11	1985.3
⑧	当調査研究会(第5次)	60年1月～60年3月	小阪合遺跡発掘調査概要： (財)八尾市文化財調査研究会報告8	1986.3
⑨	同　　上(第6次)	60年7月～60年12月	小阪合遺跡：(財)八尾市文化財調査研究会報告18	1989.3
⑩	八尾市教育委員会	61年2月	八尾市内遺跡昭和60年度発掘調査報告書 八尾市文化財調査報告12	1986.3
⑪	当調査研究会(第7次)	61年4月～61年8月	昭和61年度事業概要報告： (財)八尾市文化財調査研究会報告14	1987.12
⑫	同　　上(第8次)	61年8月～61年12日	同上	—
⑬	同　　上(第9次)	62年4月～62年7月	八尾市文化財調査研究会年報　昭和62年度 (財)八尾市文化財調査研究会報告16	1988.12
⑭	同　　上(第10次)	62年8月～62年12月	同上	—
⑮	同　　上(第11次)	62年8月～62年9月	同上	—
⑯	同　　上(第12次)	62年10月～63年1月	同上	—
⑰	同　　上(第13次)	62年11月～63年12月	同上	—
⑱	同　　上(第14次)	63年1月	同上	—
⑲	同　　上(第15次)	63年5月～63年10月	今回報告	—
⑳	同　　上(第16次)	63年7月～63年8月	同上	—
㉑	同　　上(第17次)	63年10月	同上	—



第１調査区北部全景（北から）



第１調査区北西部全景（北から）

8　小阪合（こざかい）遺跡（第16次調査）

調 査 地　八尾市青山町１・２・３・５丁目、山本町南８丁目の一部

調査期間　昭和63年７月５日～昭和63年８月26日

調査面積　500㎡

はじめに

今回の発掘調査は八尾都市整備事業南小阪合土地区画整理事業に伴うもので、当調査研究会が小阪合遺跡内で実施した発掘調査の第16次調査にあたる。

調査地は区画街路予定地と公園予定地で、７ケ所（第１調査区～第７調査区）に分散している。

調査概要

掘削に際しては、既往調査の結果を参考にし、現地表下0.3～1.6ｍまでを機械で掘削し、以下0.4～0.5ｍは人力で掘削した。

調査の結果、弥生時代後期・古墳時代前期（庄内式新相～古留式古相）・鎌倉時代～室町時代・江戸時代の概ね４時期の遺構を検出した。以下、各調査区ごとに概説する。

第１調査区

東西方向に設定したトレンチで、長さ14ｍ・幅2.5ｍを測る。現地表下0.7ｍ（標高7.2ｍ）付近に存在する青灰色細砂混粘土上面を調査面とした。その結果、古墳時代中期に比定される。自然河川１条（ＮＲ－１）を検出した。

第２調査区

第１調査区の東端から約５ｍ隔てて設定したトレンチで、長さ38ｍ・幅2.5ｍを測る。現地表下２ｍ前後（標高7.2ｍ）付近に存在する茶褐黄粘質土上面を調査面とした。その結果、古墳時代前期（庄内式新相～布留式古相）に比定される自然河川１条（ＮＲ－２）と、鎌倉時代に比定される溝１条（ＳＤ－１）を検出した。

第３調査区

第２調査区の南東から約40ｍ地点に設定した。東西方向に伸びるトレンチで、長さ35ｍ・幅2.5ｍを測る。現地表下7.5ｍ付近に存在する茶褐黄色粘質土上面を調査対象面とした。その結果、古墳時代前期（庄内式新相～布留式古相）に比定される自然河川１条（ＮＲ－３）と、上層から切り込む鎌倉時代に比定される自然河川１条（ＮＲ－４）、江戸時代に比定される土坑１基（ＳＫ－１）を検出した。

第４調査区

第３調査区から南10ｍ地点に設定した。東西方向に伸びるトレンチで、長さ38ｍ・幅2.5ｍを測る。現地表下0.6ｍ（標高7.3ｍ）付近に存在する茶褐黄色粘質土上面を調査対象面とした。その結果、古墳時代前期に比定される自然河川４条（ＮＲ－３・ＮＲ－５～ＮＲ－７）と、鎌倉時代に比定される溝２条（ＳＤ－２・ＳＤ－３）を検出した。

第５調査区

第３調査区から北へ約40ｍ地点に設定した。方形を呈する調査区で一辺４ｍを測る。現地表下2.3ｍ（標高6.8ｍ）まで掘削を実施した結果、全面に砂層の広がりが確認されたが、湧水が著しく作業を行うには危険と判断したため、以下の掘削は中止した。なお、これらの砂層の広がりは第３調査区で検出した自然河川（ＮＲ－４）に対応するものと推定される。

第６調査区

第４調査区から南東約430ｍ地点に設定した。東西方向に長い調査区で、長さ14ｍ・幅3.5ｍを測る。現地表下0.8ｍ（標高8.3ｍ）付近に存在する茶灰～淡灰黄色シルト上面を調査対象面とした。その結果、弥生時代後期に比定される溝３条（ＳＤ－４～ＳＤ－６）、鎌倉時代に比定される溝11条（ＳＤ－７～ＳＤ－17）と上層から切り込む溝１条（ＳＤ－８）を検出した。

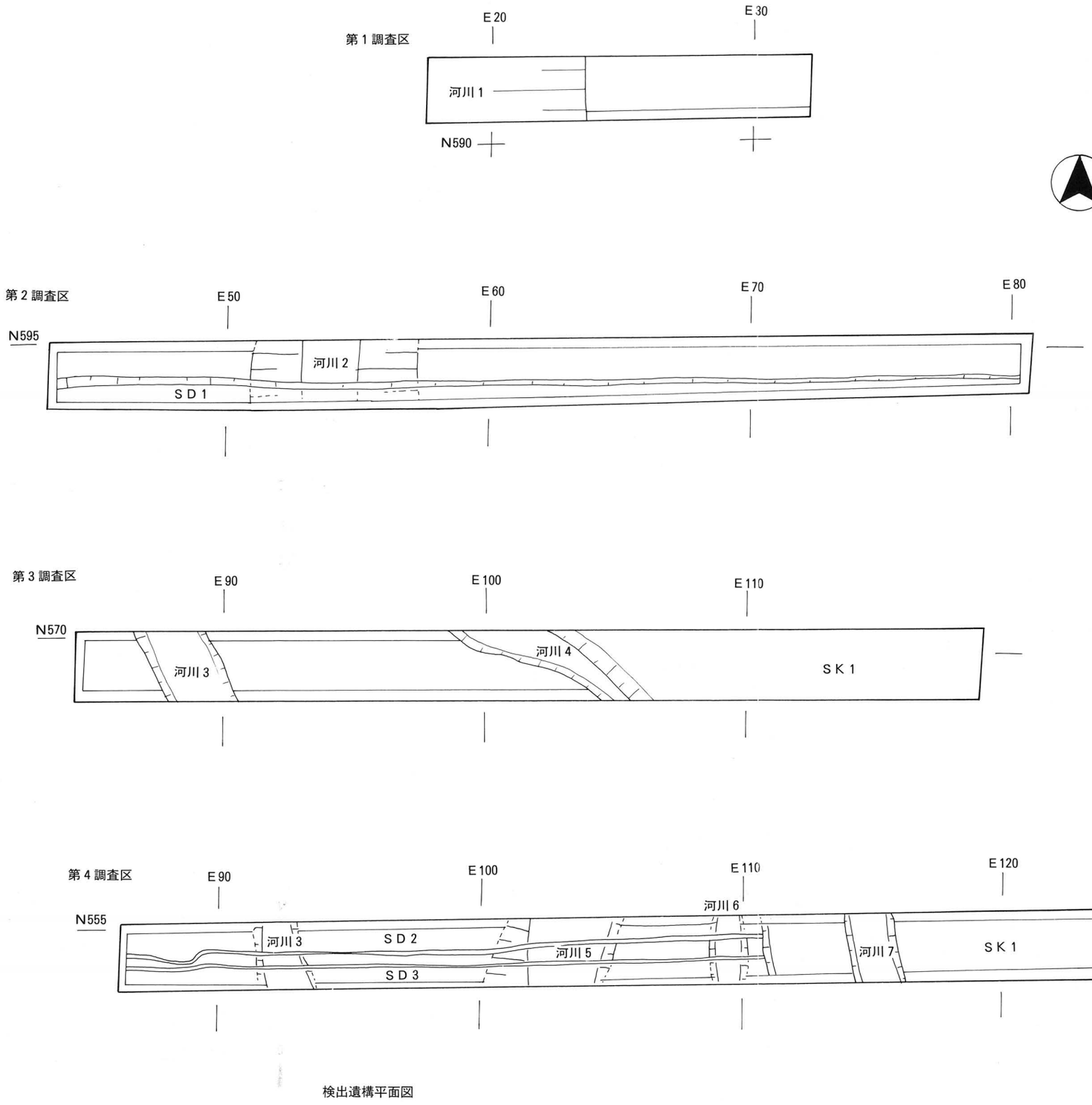
第７調査区

第６調査区の南東約250ｍ地点に設定した。東西方向に長い調査区で、長さ18ｍ・幅６ｍを測る。現地表下1.7ｍ（標高8.3ｍ）付近に存在する青灰色粘質シルト上層を調査対象面とした。その結果、弥生時代後期に比定される土坑２基（ＳＫ－２・ＳＫ－３）と、鎌倉時代に比定される溝２条（ＳＤ－19・ＳＤ－20）を検出した。

まとめ

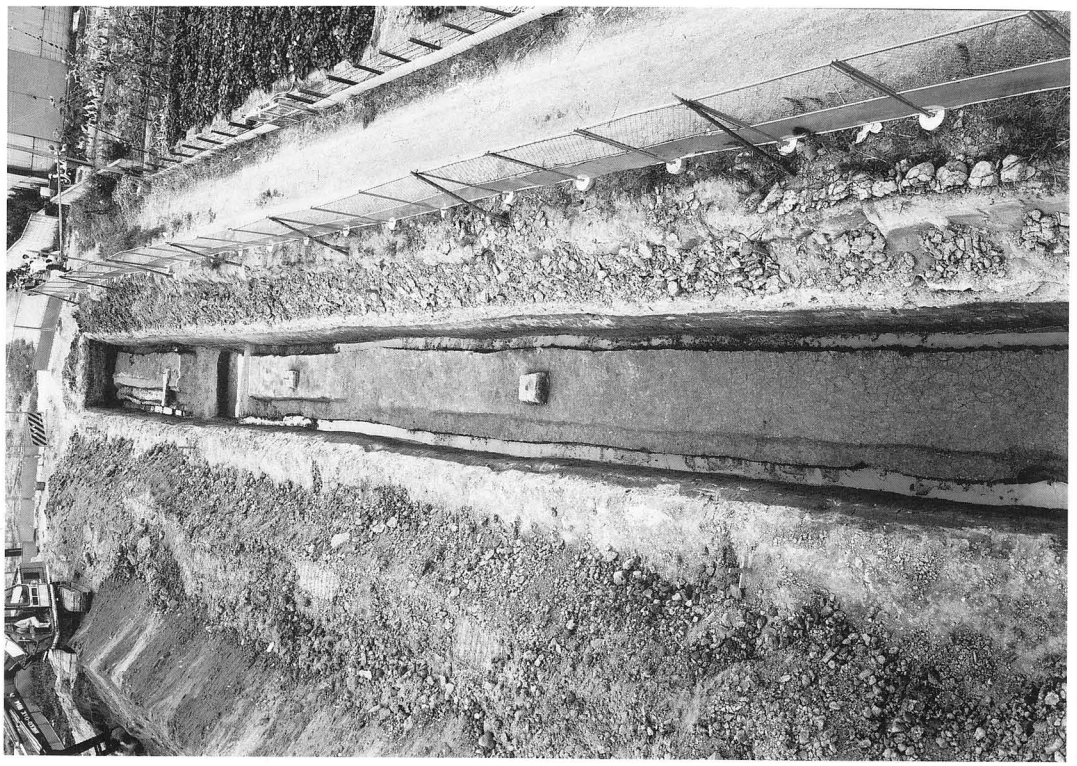
調査の結果、北部に位置する調査区（第１調査区～第５調査区）では、古墳時代前期の自然河川５条、古墳時代中期の自然河川１条、鎌倉時代後期の自然河川１条を検出した。隣接する既往調査（昭和61年度－第８次調査の第３調査区、昭和62年度－第10次調査の第２・３調査区）でも同様に自然河川が検出されており、古墳時代前期～鎌倉時代後期に至るまで、この地域一帯は居住域とし利用された痕跡は残していない。

一方、南部に位置する第６調査区では、調査地の東で実施した調査（昭和62年度－第10次調査の第９調査区）で検出した弥生時代後期の溝状遺構の北西部分を検出した。第７調査区では調査地の西で実施した調査（昭和60年度－第６次調査の第４調査区）で検出した弥生時代後期～古墳時代前期に比定される遺構と関連する土坑を検出しており、この時期の遺構の広がりが確認された。以上、今回の調査で区画整理事業区域内での調査が終了し、区域内での各時期の遺構の存在が明らかになった。今後、これらの資料をもとに当遺跡内の各時期の様相を推定する必要があろう。


第1調査区
E20
E30
河川1
N590
第2調査区
E50
E60
E70
E80
N595
河川2
SD1
第3調査区
E90
E100
E110
N570
河川3
河川4
SK1
第4調査区
E90
E100
E110
E120
N555
河川3
SD2
河川5
河川6
河川7
SD3
SK1
第5調査区
E95
N610
N605
第6調査区
E300
E310
N129
SD5
SD4
SD13
SD15
SD18
SD6
SD17
SD7
SD8
SD9
SD10
SD11
SD12
SD14
SD16
E430
E440
SD19
SD20
SK2
SK3
N80
0
10m

検出遺構平面図

第 1 調査区全景（東から）



第 2 調査区全景（東から）

第 3 調査区全景（東から）

第 4 調査区全景（東から）

9　小阪合（こざかい）遺跡（第17次調査）

調 査 地　八尾市青山町３丁目47番地

調査期間　昭和63年10月３日～昭和63年10月４日

調査面積　32㎡

はじめに

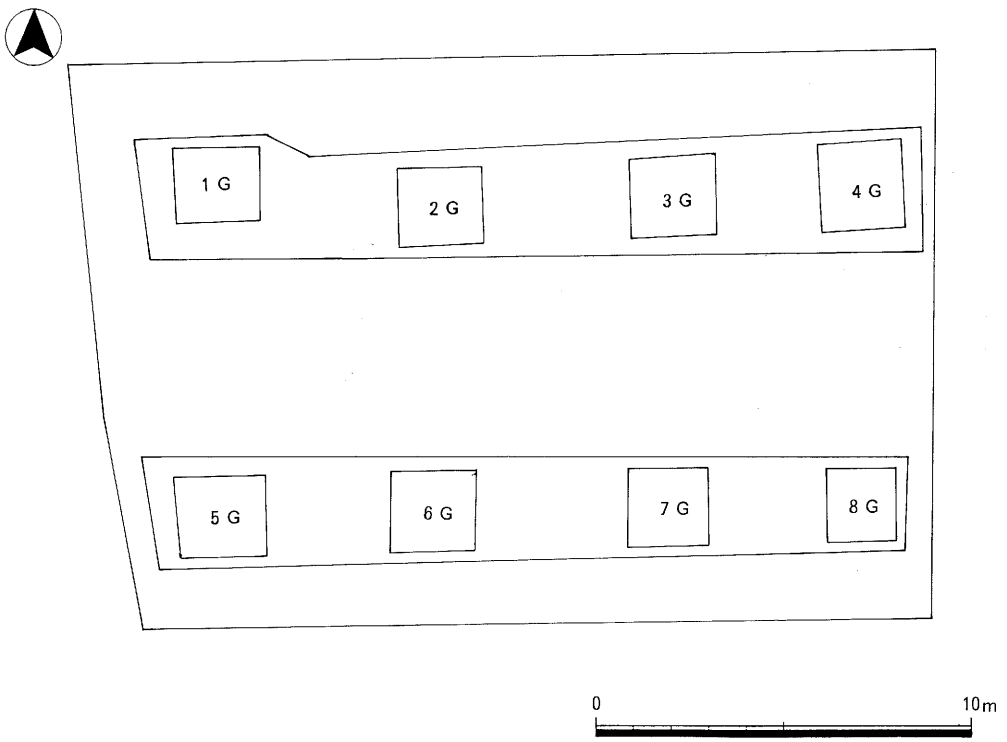
今回の発掘調査は共同住宅建設に伴うもので、当調査研究会が小阪合遺跡内で実施した発掘調査の第17次調査にあたる。

調査地点は、昭和57年度に実施した第１次調査のＡ－Ⅳ地区から北へ約30m地点に位置する。

調査概要

調査区は、遺物の基礎杭部分に対し、２ｍ×２ｍの規模のグリットを８ケ所（北部４ケ所－１Ｇ～４Ｇ・南部４ケ所－４Ｇ～８Ｇ）に設定した。

掘削に際しては、既往調査の結果から掘削深度が深く、しかも湧水が著しいことが推定され



調査区設定図

たため、機械掘削については各グリットを東西方向にトレンチ状につないで、現地表下1.6mまで掘削した。以下、1G～8Gの部分について、0.5m前後を人力で掘削した。調査の結果、古墳時代中期の遺物を含む土層および奈良時代の自然河川の堆積土を検出した。

まとめ

今回の調査では、遺構は検出されなかったものの、2G～4G・6G～8Gで古墳時代中期に比定される遺物包含層を確認した。さらに、1G・5Gでは奈良時代の自然河川の堆積土を検出した。なお、当調査地の南西に隣接した地点で実施した調査（第1次調査のA－Ⅲ地区）[註1]では、弥生時代後期・古墳時代前期・古墳時代中期の遺構・遺物が検出されている。

註1　㈶八尾市文化財調査研究会「小阪合遺跡」－八尾市都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査－＜昭和57年度　第1次調査報告書＞　㈶八尾市文化財調査研究会報告10　1987

１G～４G全景（東から）

５G～８G全景（東から）

10　東弓削（ひがしゆげ）遺跡（第４次調査）

調 査 地　八尾市八尾木東１丁目

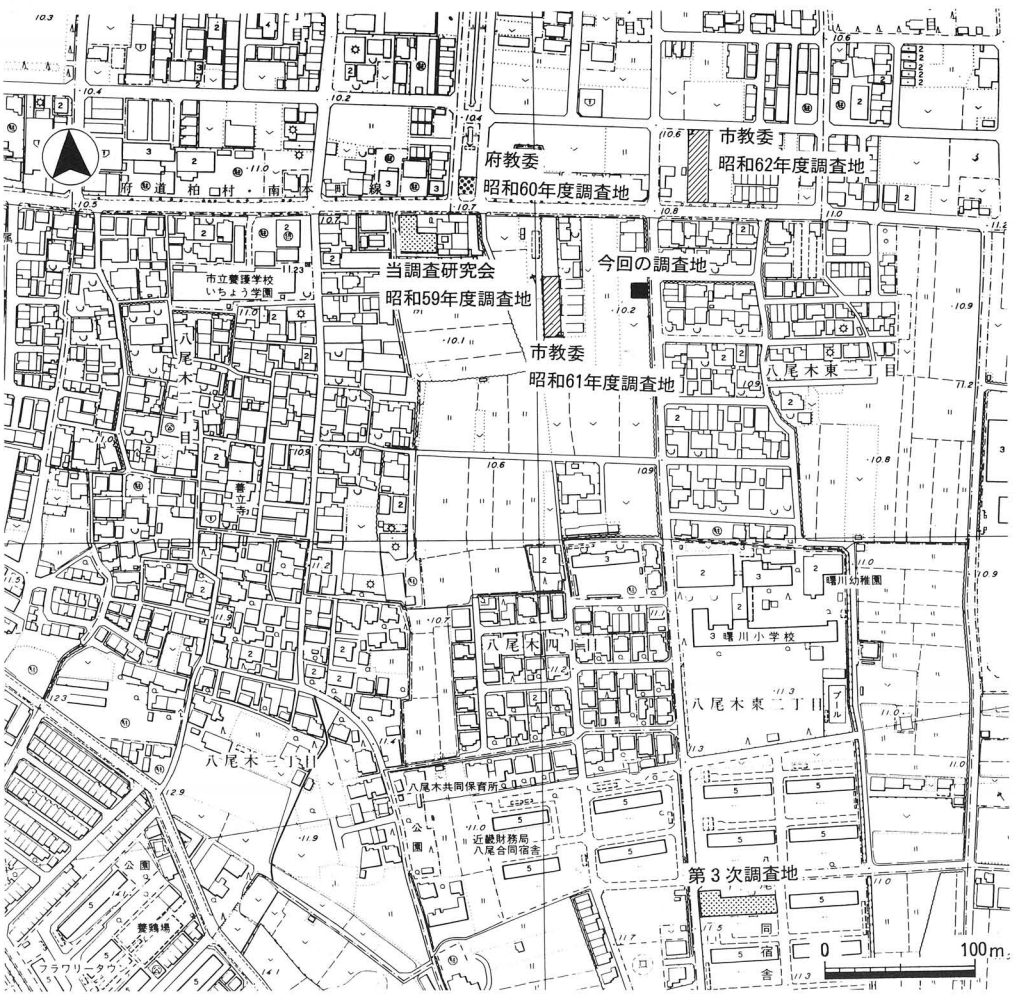
調査期間　昭和64年１月６日～平成元年１月23日

調査面積　72㎡

はじめに

今回の発掘調査は公共下水道布設工事に伴うもので、当調査研究会が東弓削遺跡内で実施した発掘調査の第４次調査にあたる。

当遺跡は、長瀬川から玉串川が分岐する「二俣」地区から北西に広がる沖積地上に位置して



調査地周辺図

おり、現在の行政区画では刑部・都塚・東弓削・八尾木・八尾木東一帯にあたる。

当遺跡内では、昭和50年度に八尾市教育委員会が送水管布設工事に伴って発掘調査を実施して以来、６次（八尾市教育委員会３次・当調査研究会３次）にわたる発掘調査が実施されてきた。これらの調査の結果、当遺跡が弥生時代中期から鎌倉時代に至る複合遺跡であることが確認されている。今回の調査地は、遺跡推定範囲の北端に位置し、北側に続く中田遺跡との接点にあたる。なお、昭和62年度に八尾市教育委員会が実施した調査地（中田遺跡－八尾木６丁目166）の南西約50ｍに位置する。

調査概要

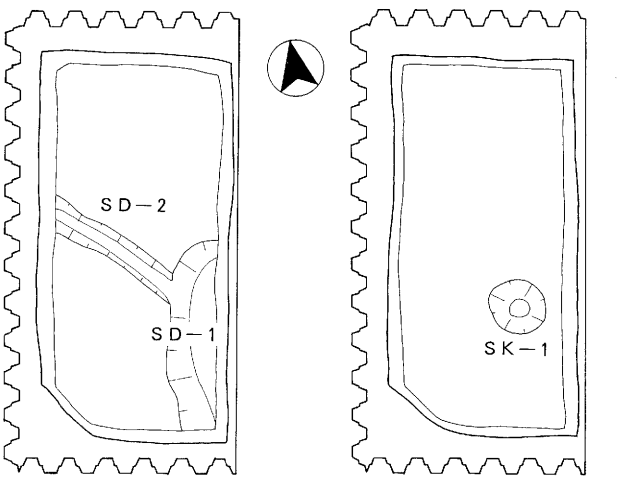
調査予定地は、公共下水道の発進竪坑で、当初は全域が調査対象であったが、東半分が現道路部分にあたり、しかも各種の既設構築物があることから、西側部分の72㎡を調査対象とした。

調査部分は、調査前に鋼矢板が打設され、現道路面（標高11.1ｍ）から約２ｍ迄が機械によって掘削されていた。調査では以下１ｍについて層理に従って人力掘削を実施し、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果、現地表下2.25ｍ前後に存在する淡灰緑～暗灰色砂質土層上面（標高8.8ｍ）で古墳時代前期（庄内式古相）に比定される溝２条（ＳＤ－１・ＳＤ－２）を検出した（第１調査面）。さらに0.4ｍ下部に存在する灰色粘質シルト土層上面（標高8.4ｍ）で、弥生時代中期後半（畿内第Ⅳ様式）に比定される土坑１基（ＳＫ－１）を検出した（第２調査面）。

まとめ

調査の結果、弥生時代中期後半（畿内第Ⅳ様式）と古墳時代前期（庄内式古相）に比定される遺構を検出した。北側に隣接する中田遺跡を含めた調査地周辺では、大阪府教育委員会・[註1]



検出遺構平面図

八尾市教育委員会[註2]・当調査研究会[註3]により調査が実施されており、弥生時代中期～古墳時代前期（庄内式新相）に至る遺構・遺物が検出されている。以上の既往調査および今回の調査結果からすれば、特に弥生時代中期後半と古墳時代前期（庄内式期）において集落が拡大傾向にあったことが推定できよう。

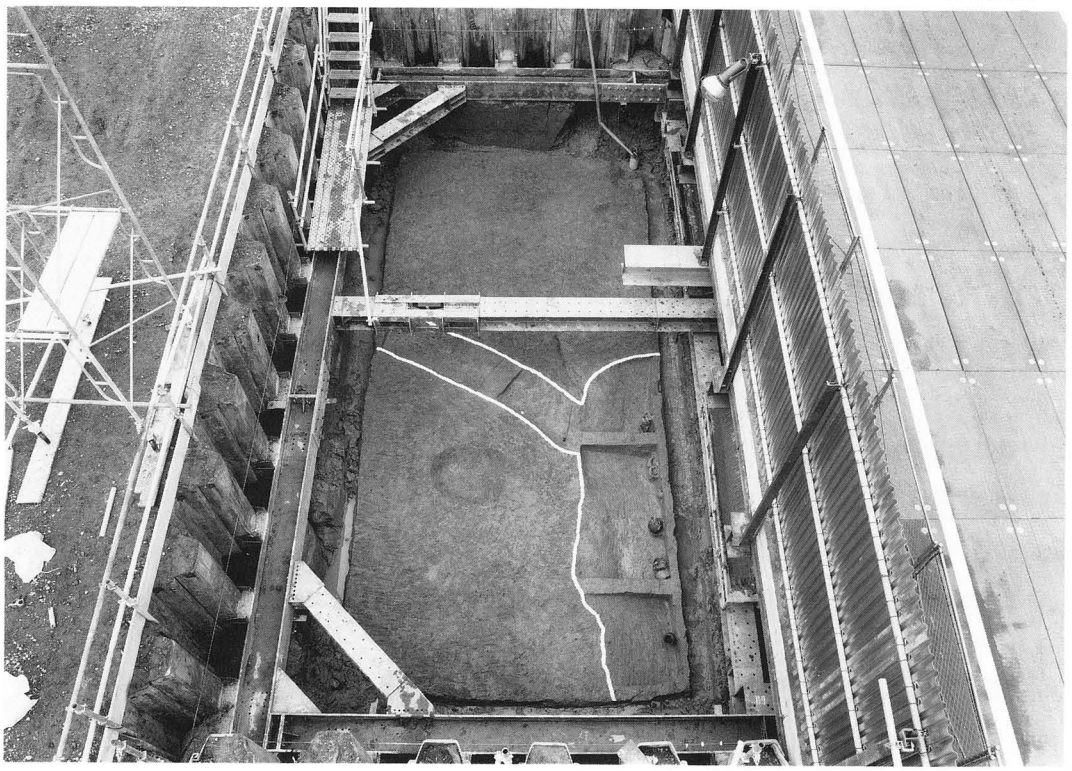
註1　大阪府教育委員会　『中田遺跡発掘調査概要』－柏原・八尾幹線下水管渠築造工事に伴う調査－　1986

註2　八尾市教育委員会　「中田遺跡刑部地区関西電力ＫＫ地中線埋設工事に伴う埋蔵文化財調査概要」『昭和五三・五四年度埋蔵文化財発掘調査年報』　1981

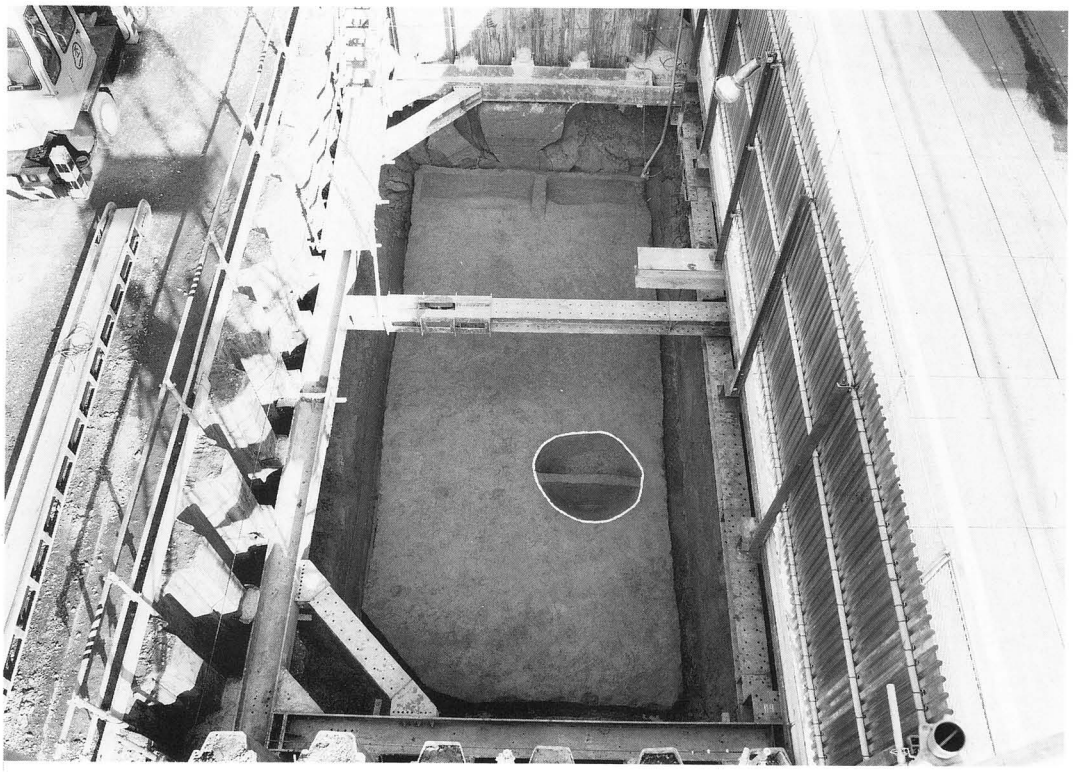
八尾市教育委員会　「八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書Ⅱ」『八尾市文化財調査報告15』　1987

八尾市教育委員会　「八尾市内遺跡昭和62年度発掘調査報告書Ⅰ」『八尾市文化財調査報告17』　1988

註3　㈱八尾市文化財調査研究会　「昭和58年度事業概要報告－９中田遺跡」『八尾市文化財調査研究会報告５』　1984



第 1 調査面全景（南から）



第 2 調査面全景（南から）

11・12　高安古墳群内芝塚古墳（第１次調査・第２次調査）

調 査 地　八尾市神立２丁目地内

調査期間　第１次調査　昭和63年５月23日～昭和63年６月11日

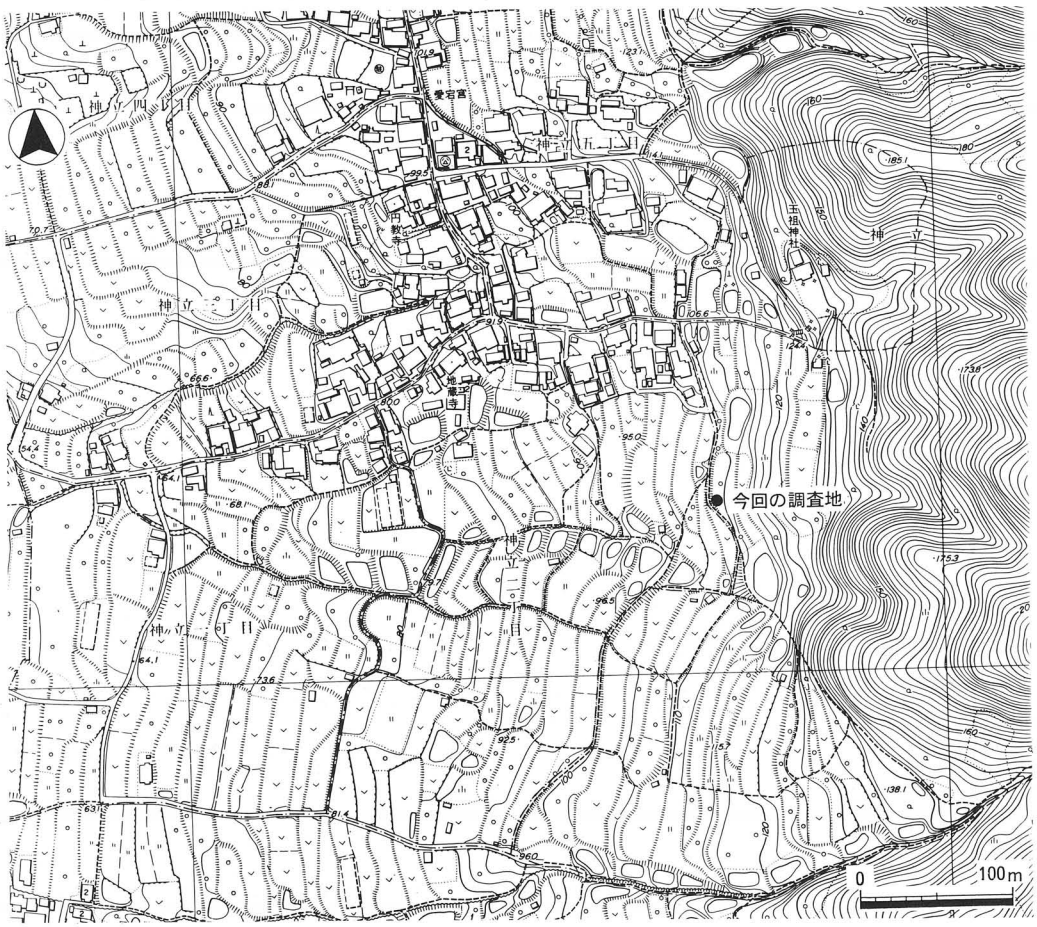
第２次調査　平成元年２月25日～平成元年４月15日

調査面積　100㎡

はじめに

今回の発掘調査は道路建設工事に伴うもので、当調査研究会が高安古墳群内で実施した第１次調査・第２次調査にあたる。

調査地点は、八尾市神立地区の東方にある式内社玉祖神社から南西へ約300ｍの地点に位置



調査地周辺図

する。昭和63年５月に予備調査（第１次調査）として、地形測量およびトレンチ調査を実施した結果、横穴式石室を内部主体とする古墳（円墳）であることが判明した。古墳の名称は、小字名が「芝塚」であることから芝塚古墳と名付けた。第２次調査では、主体部および墳丘築成状況を確認する目的で調査を実施した。

地理・歴史的環境

芝塚古墳の位置する八尾市北東部の生駒山西麓一帯は、小規模な谷口扇状地が複雑に融合した地形を呈しており、芝塚古墳もこうした谷口扇状地の扇端部の標高100ｍ付近に立地している。八尾市域の生駒西麓部の標高50～450ｍ一帯には、古墳時代中期末～終末期にかけての小規模な古墳（円墳）が数多く点在しており、それらを総称して高安古墳群と呼ばれている。そのなかで、芝塚古墳は高安古墳群内の北部に位置し、古墳の規模は高安古墳群の中では比較的大きい部類に属する。なお、芝塚古墳の北西1.2km一帯には、西の山古墳（前期末葉）・花岡山古墳（中期初頭）・心合寺山古墳（中期前葉）・鏡塚古墳（中期後葉）および後期前葉の愛宕塚古墳を含めて累積的な形成を示す楽音寺・大竹古墳群がある他、南１km一帯は高安古墳のなかでも最も古墳の密集が顕著な山畑地区・服部川地区がある。

調査概要

①調査前および第１次調査

調査前の状況は、里道が墳丘を縦断する形で伸びており、墳頂部には柿の木の大木が存在していた。墳丘は東部を除いて著しい削平を受けており、墳丘北部・西部および墳頂部で石材の一部が露頭していた。第１次調査の結果、墳頂部で一部露頭していた石材は２石あることが確認され、玄室部の天井石と判明したが、２石とも原位置から西側へずれていた。北部および西部で露頭していた石材も、北部が奥壁、西部が西側壁を石材であることが確認された。さらに、羨道の天井石および西側壁上部の壁石は抜き取られていた。

②第２次調査

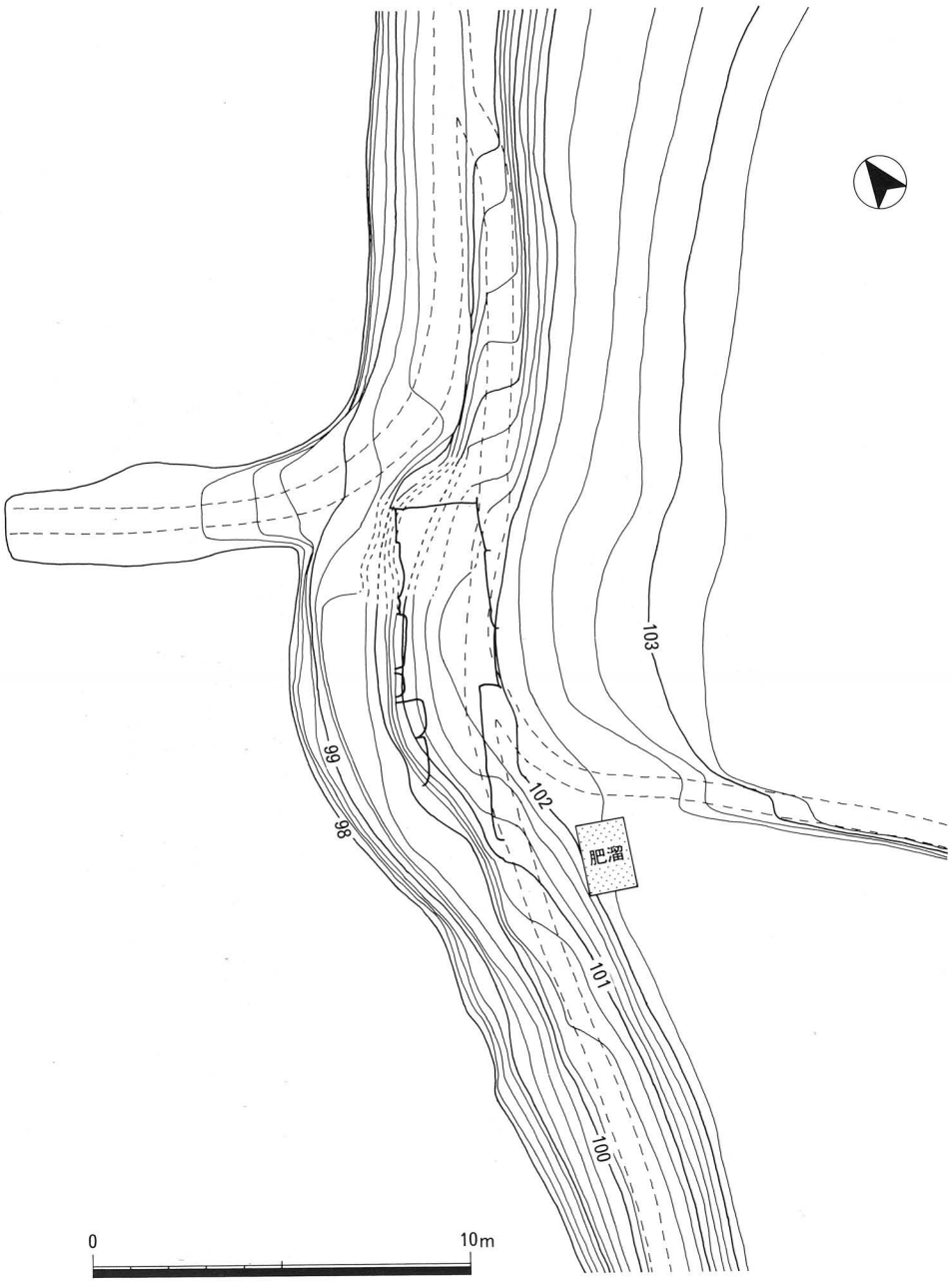
１）石室内部の状況

石室は両袖式の横穴式石室で、南西に開口している。石室内には土砂が全体に堆積していた。これらの土砂を約１ｍ掘り下げたところ、平安時代後期～鎌倉時代前期に比定される土器類が多量に出土した。さらに、20cm前後掘り下げた時点で石棺の蓋石の一部がみつかり、周囲を掘り進めた結果、玄室の奥で１棺（石棺Ⅰ）、さらに石棺Ⅰの南で２棺（石棺Ⅱ・石棺Ⅲ）が並列に並んで置かれていた。

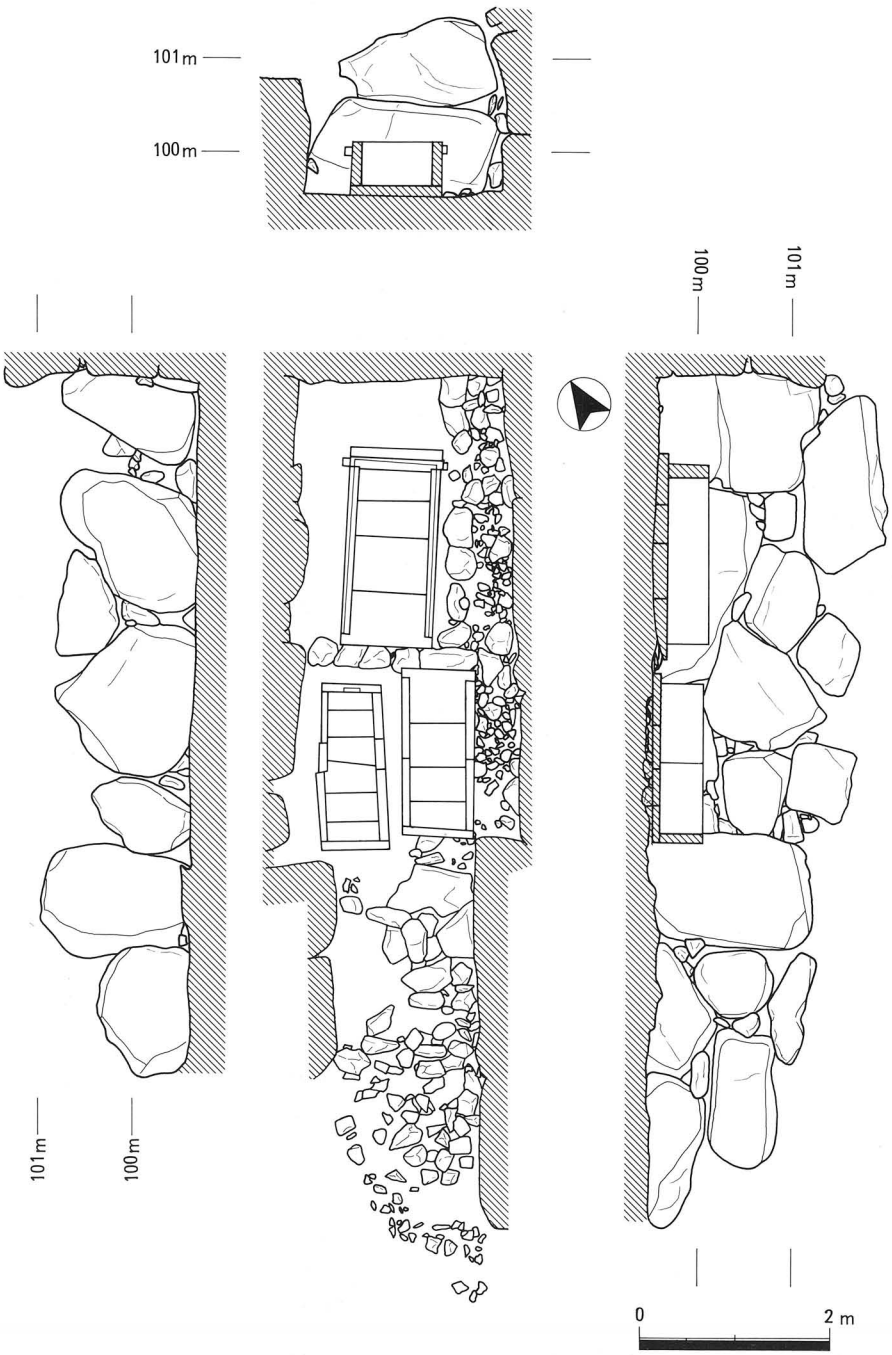
２）石室の規模と石棺

石室は全長9.1ｍを測る。各部の数値は、玄室長５ｍ・奥壁幅2.1ｍ・玄門幅2.2ｍ・奥壁高2.4ｍ・羨道長4.1ｍ・羨門幅1.4ｍを測る。

石室に使用している石材は、芝塚古墳の東方で産出する花崗岩が使用されている。玄室と羨道の石材の積み方は、基底部にやや大形の石材を横位に用い、上部にはそれよりはやや小振の石材を3段に積み上げている。奥壁は大形の石材を横位に2段積んでいる。玄門部の左右の袖石には、大形の石材を縦位に用いている。玄門部から羨道へ1.5m地点一帯には、人頭大の石



墳丘及び周辺地形図



石室内実測図

材が散乱しており、閉塞石に使用された石材と推定される。なお、石棺Ⅰの東部・南部および石棺Ⅲの東部の床面には、人頭大の石材が石棺の輪郭に沿って置かれている。その部分から、東壁の間および羨道には拳大の石材が置かれていた。

石棺は、玄室奥の西側壁付近に石棺Ⅰ（長さ２ｍ・幅１～1.1ｍ・高さ0.75ｍ、底石４枚・側石２枚・小口石２枚・蓋石３枚－縄掛突起７個・封石２個）、石棺Ⅰの南西部に石棺Ⅱ（長さ1.8ｍ・幅0.8ｍ・高さ0.4ｍ、底石６枚・側石６枚・小口石２枚・蓋石５枚）、さらに石棺Ⅱの東に並んで石棺Ⅲ（長さ1.8ｍ・幅0.8ｍ・高さ0.6ｍ、底石４枚・側石４枚・小口石２枚・蓋石４枚）が納められていた。３棺ともに組合式家形石棺で、盗掘を受けており、蓋石は外され、一部は割られていた。調査時点では土砂や蓋石の一部が内部に落ち込んで石棺内部全体に堆積していた。なお、石棺Ⅰ・石棺Ⅱには赤色顔料が塗布されていた。

３）出土遺物

遺物は、石棺内からは極少量の骨片が出土した他、石棺Ⅰ・石棺Ⅲで鉄製品が各２点、石棺Ⅱで銀環１点、須恵器器台の破片が２点出土した。棺外遺物は、石棺Ⅰと奥壁との間で19点（うち須恵器18点）のほか馬具（鉄具）２点、石棺Ⅰの東側で直刀２点と須恵器蓋１点が出土した。さらに、石棺Ⅱの南側（玄門の西隅）で須恵器杯蓋１点と鉄製品１点、石棺Ⅲの南側（羨道）で須恵器杯身１点、玄門の東隅付近で須恵器の台付壷２点と土師器高杯１点、石棺Ⅱと石棺Ⅲの間で須恵器杯身１点・鉄製品１点が出土した。なお、石棺Ⅰの東側で検出した直刀の柄頭・鍔にはＸ線撮影の結果、亀甲繋花文・鳳凰文・心葉文が銀象嵌されていることが判明した。また、これら古墳時代後期に比定される遺物以外に、石室の上部付近からは、平安時代後期から鎌倉時代前期の瓦器椀・瓦器小皿、土師器小皿・土釜・灰釉四耳壷の土器類ほか、貝や獣骨等が出土している。

まとめ

今回の芝塚古墳の調査で判明したことは以下の通りである。

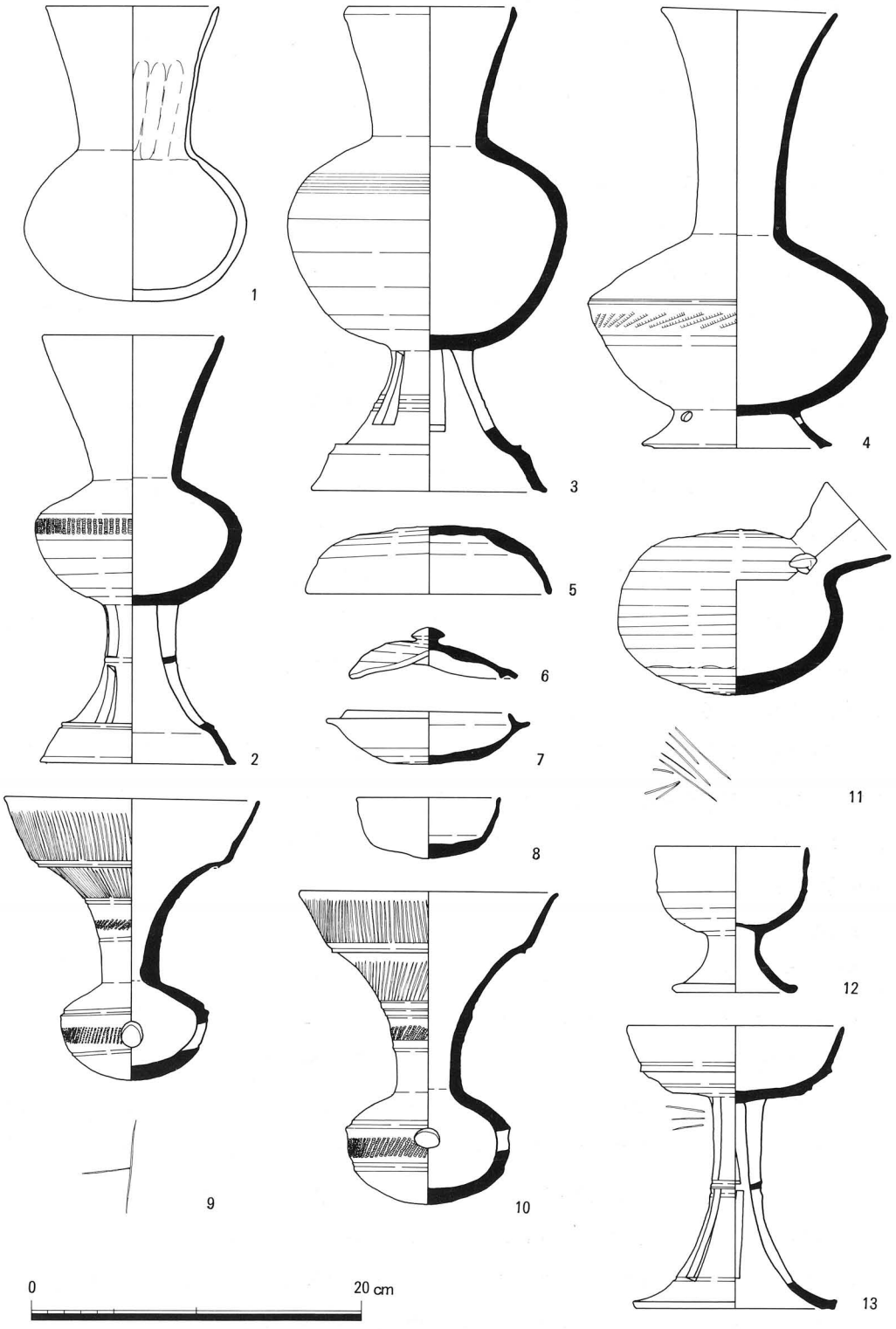
１、芝塚古墳は６世紀の後半に造営され、７世紀中葉までに３人を葬った古墳であること。

２、石棺の置かれた順は、石棺Ⅰ→石棺Ⅱ→石棺Ⅲの順であること。

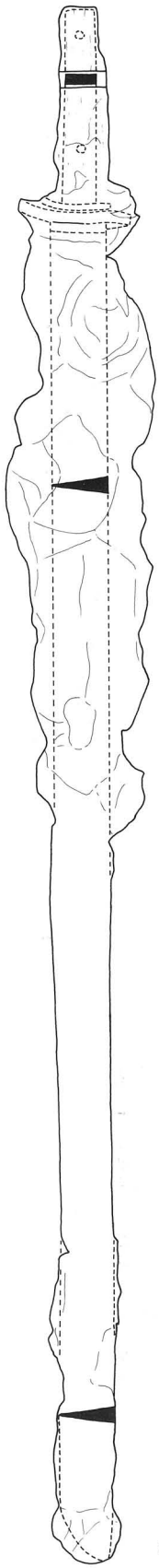
３、石室内に３つの石棺が納められている事例は、大阪府下ではこの時期のものとしては初めてで、近隣の府県では奈良県桜井市の狐塚古墳について２例目であること。

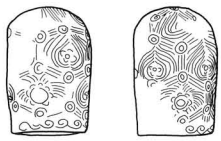
４、石棺に使用された石材の産出地は、石棺Ⅰが竜山石（兵庫県高砂市）、石棺Ⅱ・石棺Ⅲが凝灰岩（大阪府太子町の二上山牡丹洞および付近）であること。

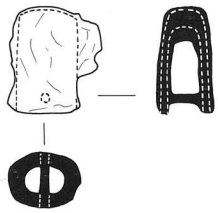
５、石室内の上部（床面から１ｍ程埋まった）から平安時代後期から鎌倉時代前期に比定される土器類が多量に出土しており、この時期、石室内の出入りが自由にされていたようであること。

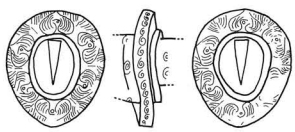


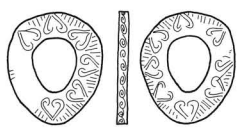
石室内出土土器実測図

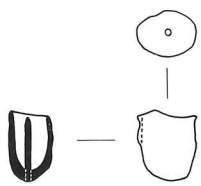

S 1

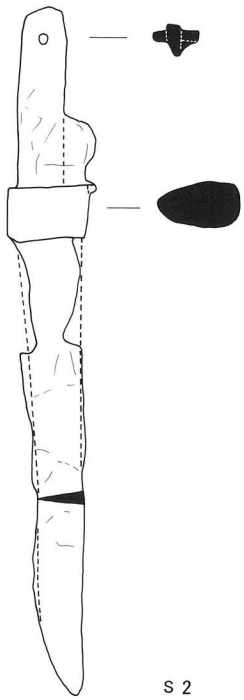

S 3


S 4


S 5


S 6

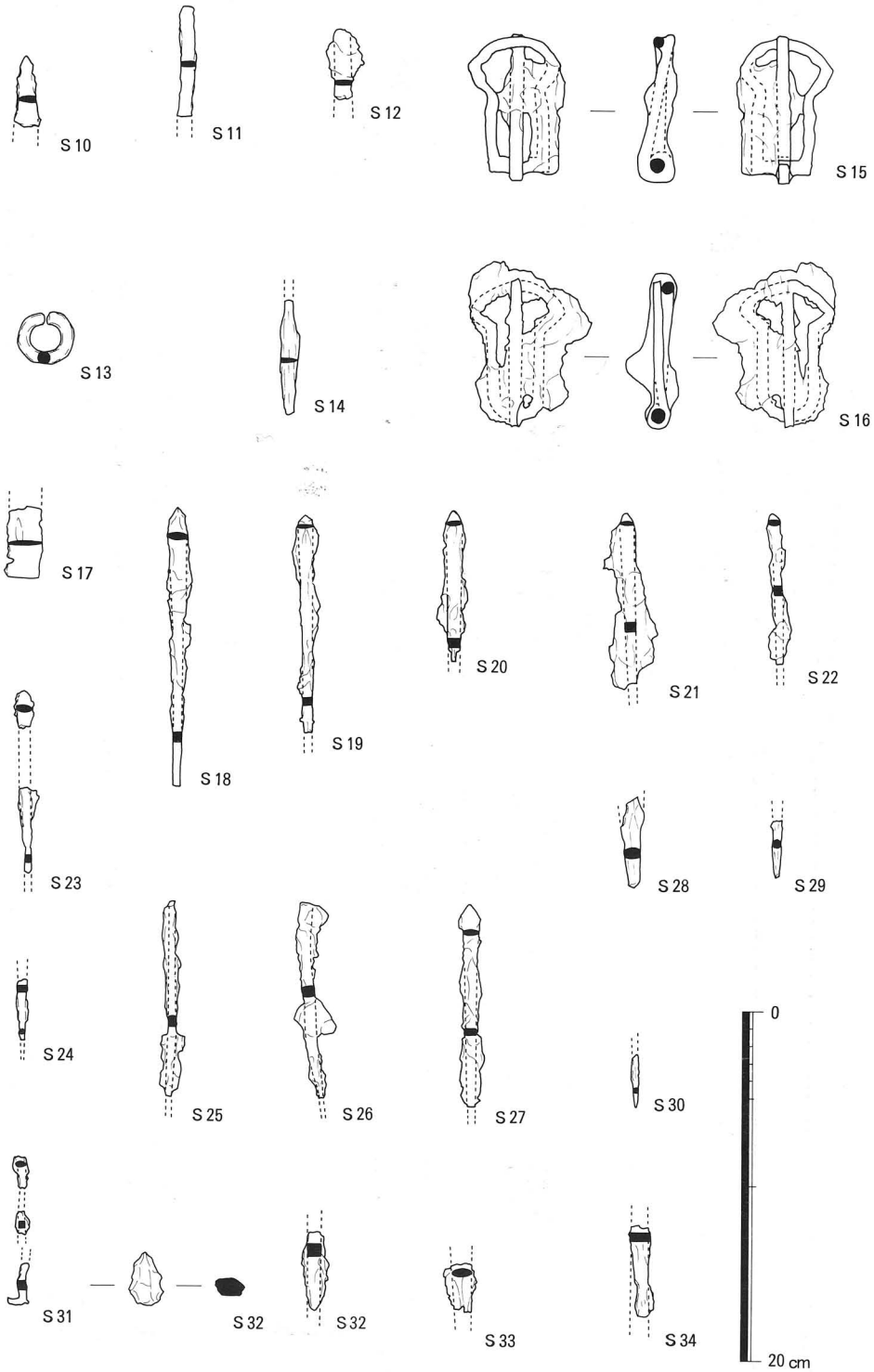

S 7


S 2

S 8

S 9

刀装具実測図


S 10
S 11
S 12
S 15
S 13
S 14
S 16
S 17
S 18
S 19
S 20
S 21
S 22
S 23
S 28
S 29
S 24
S 25
S 26
S 27
S 30
0
S 31
S 32
S 32
S 33
S 34
20 cm

金銅製品実測図

石室内石棺検出状況（南から）

石棺内完掘状況（南から）

石棺除去後（南から）

玄室北東隅遺物出土状況（東から）

13　恩智（おんち）遺跡（第２次調査）

調 査 地　八尾市恩智北町１丁目59－60

調査期間　昭和63年８月29日～昭和63年９月１日

調査面積　100㎡

はじめに

今回の発掘調査は共同住宅建設に伴うもので、当調査研究会が恩智遺跡内で実施した発掘調査の第２次調査にあたる。

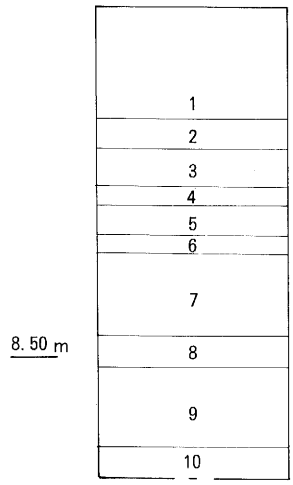
当遺跡は、生駒山地西麓に形成された扇状地末端から河内低平地にかけて広がる縄文時代前期から鎌倉時代に至る複合遺跡で、現在の行政区画では八尾市恩智北町・恩智中町・恩智南町一帯に所在している。

当遺跡は、大正６年（1917）７月に京都帝国大学考古学研究室により実施された発掘調査で確認された遺跡で、以後、数次にわたる調査が実施され、恩智遺跡が旧石器時代～古墳時代中期に至る複合遺跡であることが判明している。

今回の調査地は、昭和60年に当調査研究会が実施した第１次調査地の東に隣接している。

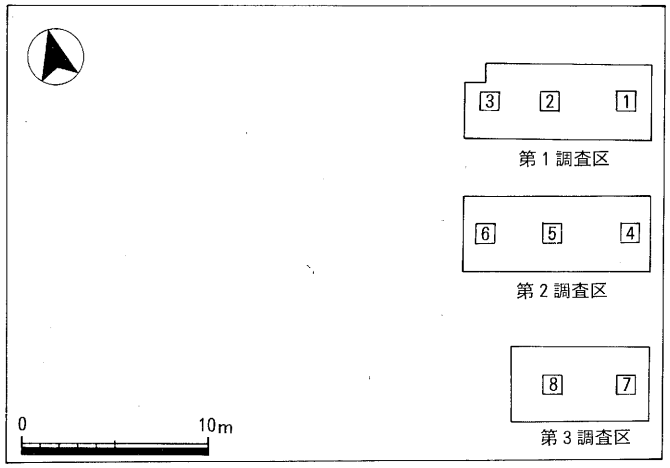
調査概要

調査に際しては、八尾市教育委員会の指示書に基づき、第１調査区～第３調査区は現地表下1.5ｍまで機械により掘削した後、以下基礎杭部８

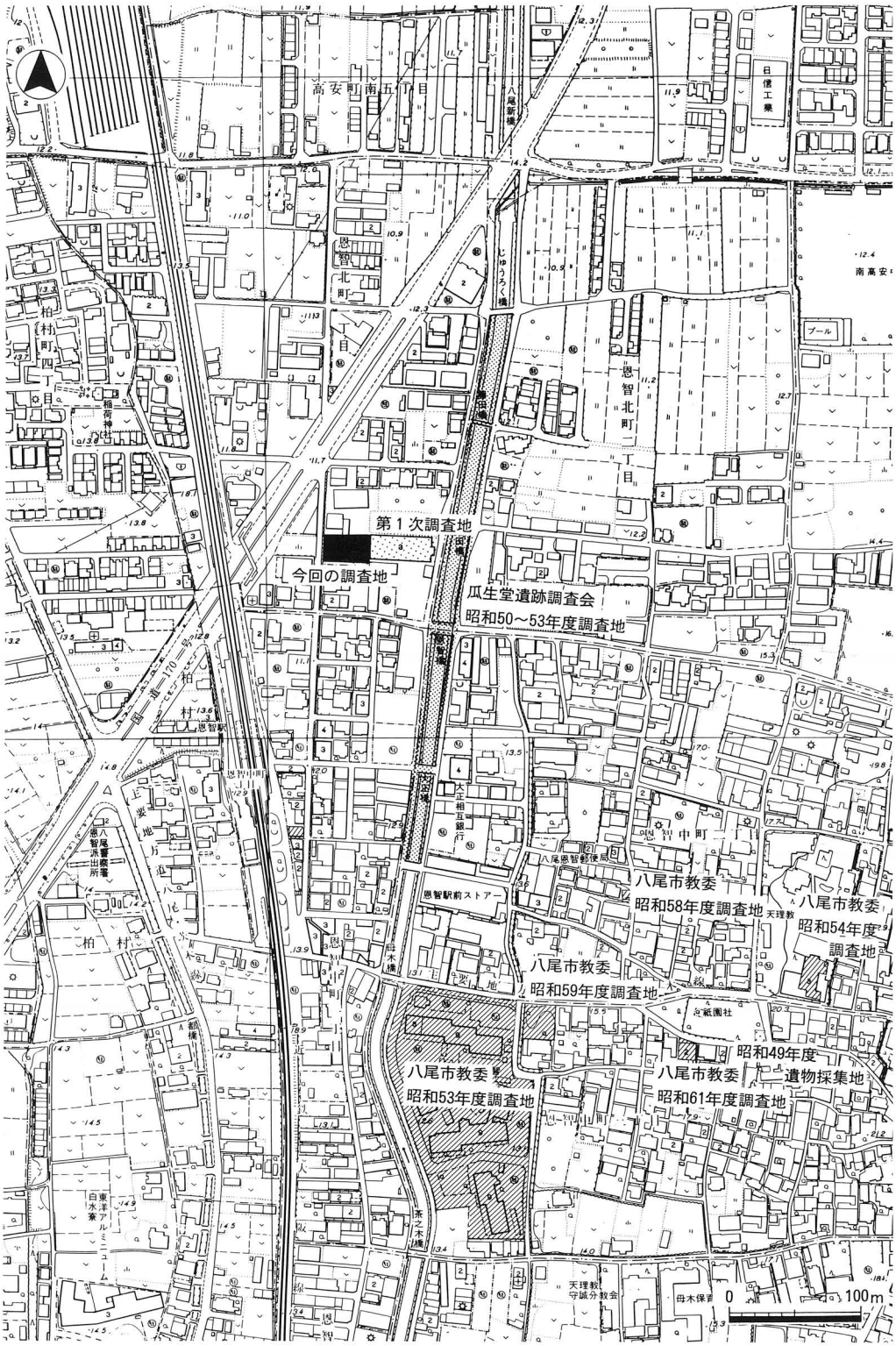


第１層　盛土
第２層　茶色細砂混粘土
第３層　暗茶褐色細砂混粘土
第４層　茶灰色細砂
第５層　灰色粘土
第６層　茶褐色粗砂
第７層　灰青色粘質シルト
第８層　灰青色細砂混粘土
第９層　暗灰色細砂混粘土
第10層　暗灰色粗砂混粘土

基本層序模式図



調査区設定図


第１次調査地
今回の調査地
瓜生堂遺跡調査会
昭和50～53年度調査地
八尾市教委
昭和58年度調査地
八尾市教委
昭和54年度
調査地
八尾市教委
昭和59年度調査地
八尾市教委
昭和53年度調査地
昭和49年度
遺物採集地
八尾市教委
昭和61年度調査地
恩智駅前ストア
0
100m

調査地周辺図

箇所（第１グリッド～第８グリッド）について人力掘削を実施し、遺構・遺物の検出に努めた。

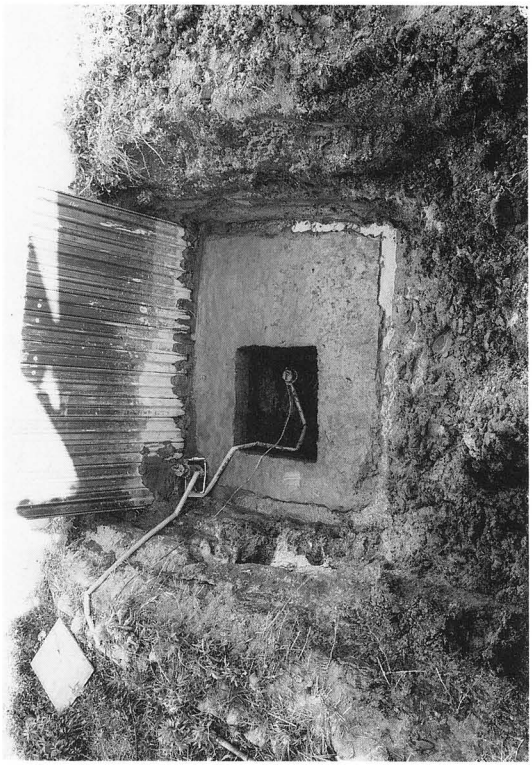
調査の結果、各グリッドの現地表下1.94～2.38m（標高8.44～8.0m）付近に存在する第９層暗灰色細砂混粘土層から弥生時代中期から古墳時代中期に至る遺物が出土したが、その直下の第10層暗灰色粗砂混粘土層上面においては遺構が検出されなかった。

まとめ

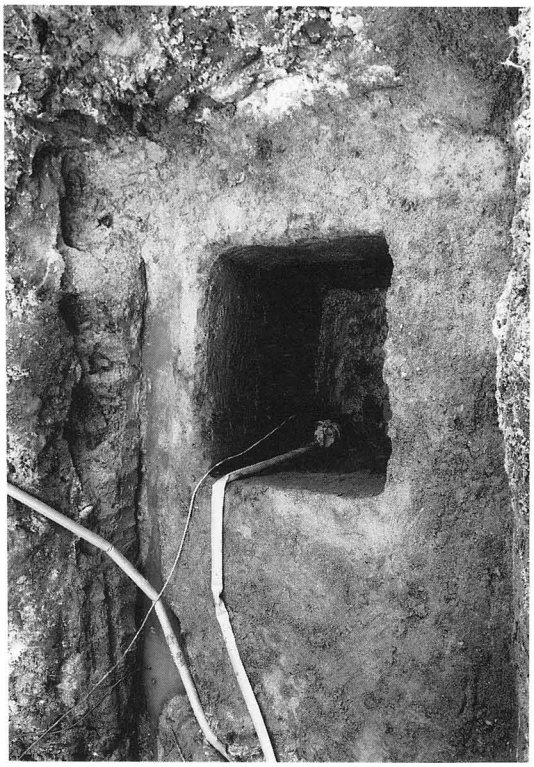
今回の調査では明確な遺構は検出されなかったものの、弥生時代中期から古墳時代中期に至る遺物を含む土層が調査地全域に広がっていることが確認された。この時代の遺構は当調査地の東側で恩智川改修工事に伴って実施された調査[註1]および当調査地の東に隣接した地点で実施した調査[註2]（第１次調査）で検出されていることから、これらの地点と有機的な関係を持つものと推定できよう。

註１　瓜生堂遺跡調査会　『恩智遺跡Ⅰ・Ⅱ』　1980
　　瓜生堂遺跡調査会　『恩智遺跡Ⅲ』　1981

註２　㈶八尾市文化財調査研究会　「昭和60年度事業概要報告－１恩智遺跡（第１次調査）」『㈶八尾市文化財調査研究会報告９』　1986

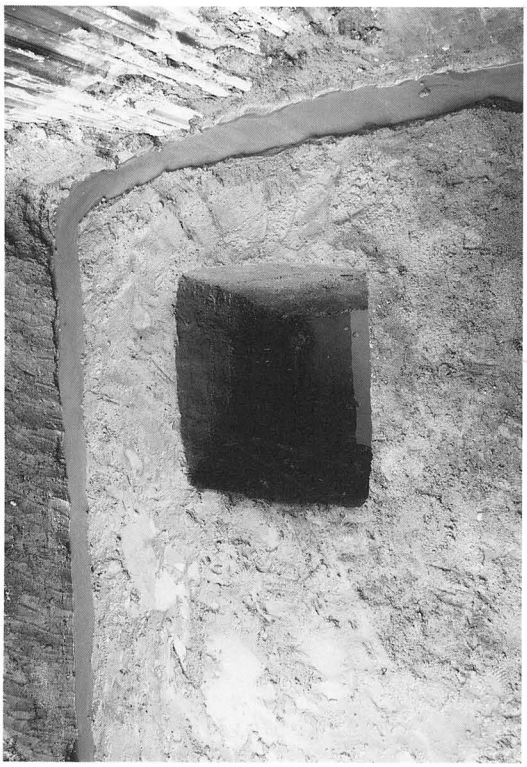


第1グリッド（西から）



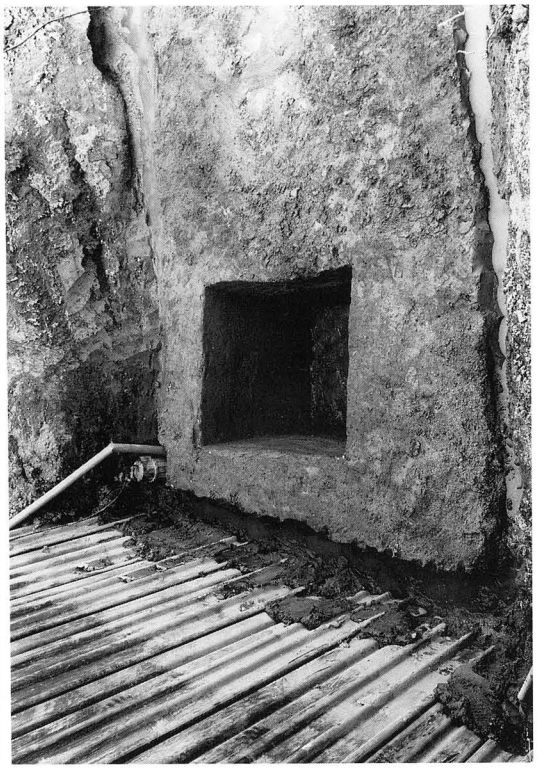
第2グリッド（南から）

第3グリッド（南から）

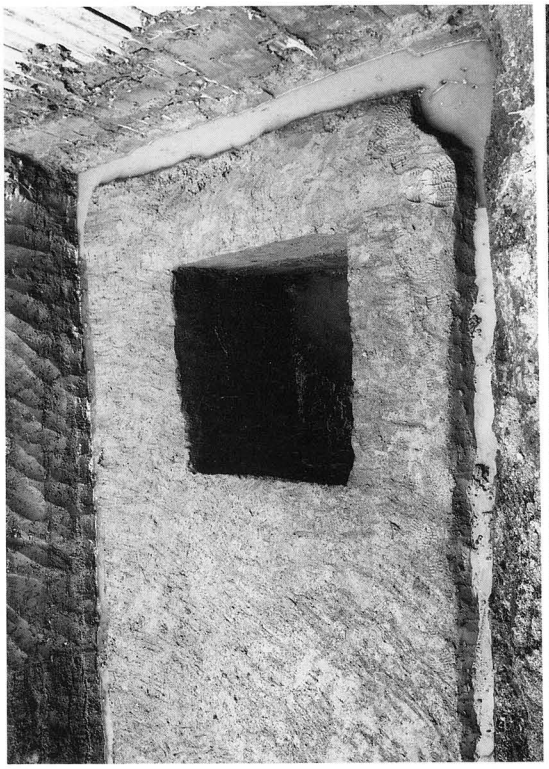


第4グリッド（南から）

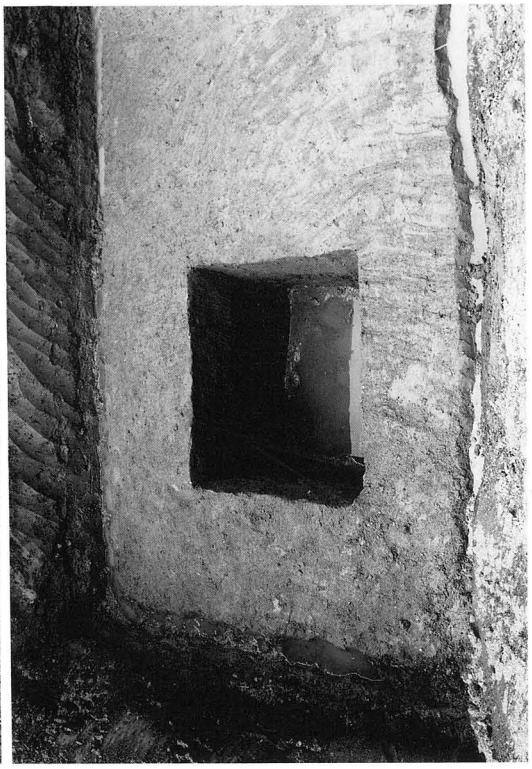
第5グリッド（南から）



第6グリッド（南から）



第7グリッド（南から）



第8グリッド（南から）

14　恩智（おんぢ）遺跡（第３次調査）

調 査 地　八尾市恩智1045外６筆

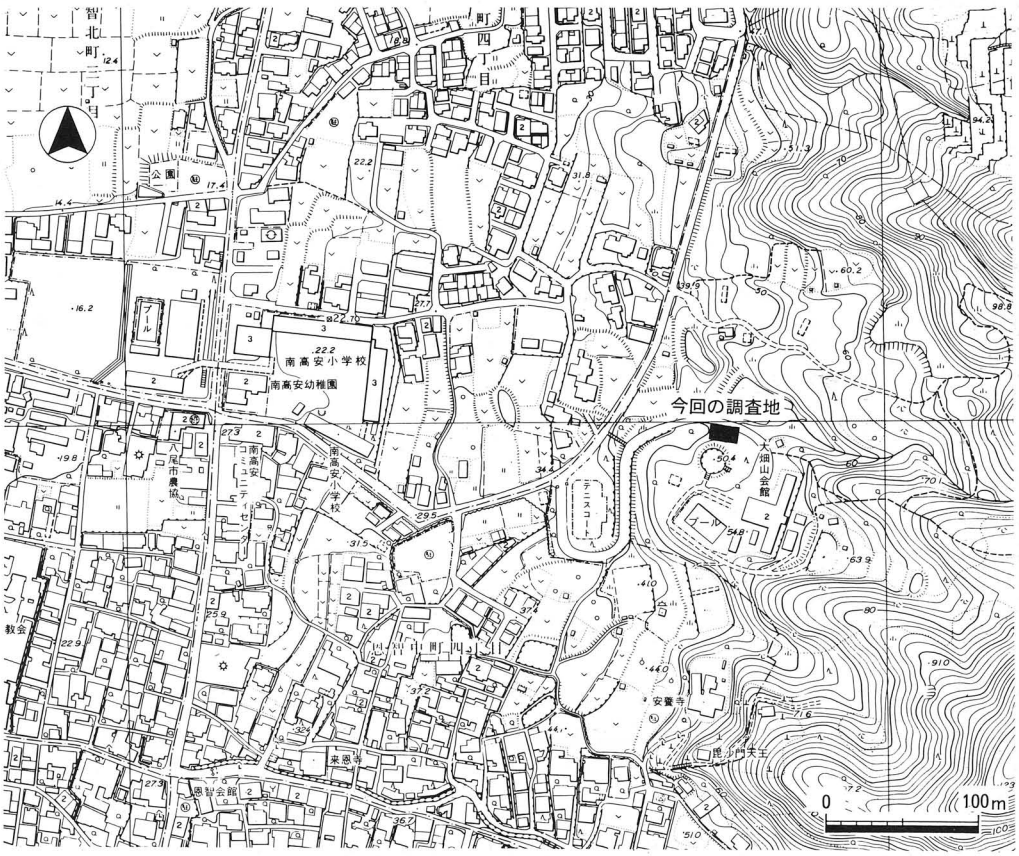
調査期間　昭和63年11月７日～昭和63年11月17日

調査面積　48㎡

はじめに

今回の発掘調査は浄化槽建設工事に伴うもので、当調査研究会が恩智遺跡内で実施した発掘調査の第３次調査にあたる。

今回の調査地点は、恩智遺跡推定範囲の東端に位置し、地形的には生駒山地西麓裾部の標高50ｍ前後の丘陵地帯にあたる。また、調査地点一帯は高安古墳群の南部地域にあたり、昭和60年度には当調査地の北側約400ｍの地点で、八尾市教育委員会によって古墳時代終末期に比定される３基の古墳の調査が実施されている。



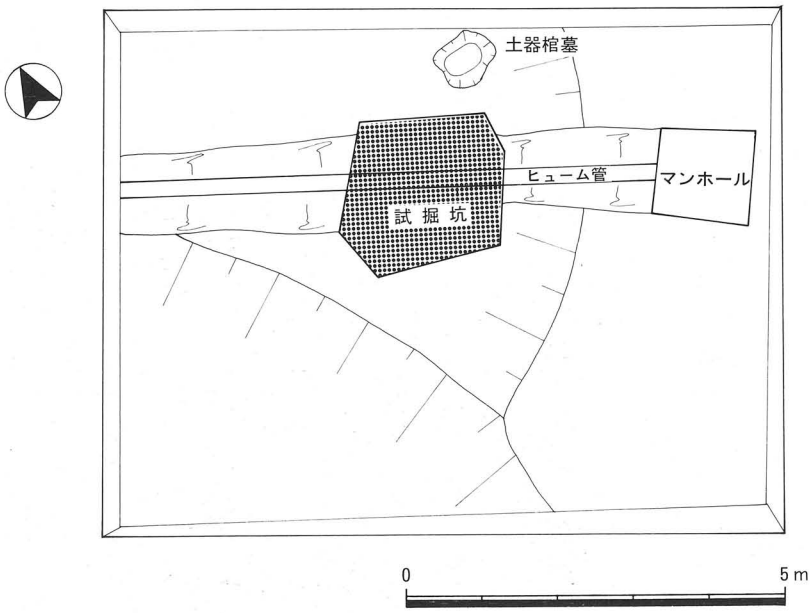
調査地周辺図

調査概要

調査に際しては、八尾市教育委員会の指示書に基づき、現地下0.7ｍまで人力で掘削を行った。その結果、現地表下0.7ｍ前後に存在する黄褐色砂礫土層上面で古墳時代後期に比定される土器棺墓１基を検出した。土器棺墓は、上面の形状が楕円形を呈する掘方（東西0.8ｍ・南北0.65ｍ・深さ0.1ｍ）に土師器羽釜の口縁部を西に向け寝かせた状態で埋葬されていた。内部からは遺物は出土しなかった。また、遺構に伴わないものの、上層からは弥生時代後期の高杯・古墳時代後期の埴輪片が出土している。

まとめ

今回の調査では、黄褐色砂礫土層（地山）上面で古墳時代後期の土器棺墓が検出された。調査地点一帯に前述したように高安古墳群の一角にあたり、調査においても埴輪片が多数検出されていることから、今回検出した土器棺墓も古墳に近接して存在していた可能性が高い。また、上層からは弥生時代後期の遺物が出土しており、調査地周辺に集落が存在していたことが示唆できよう。



検出遺構平面図

調査区全景（東から）

土器棺墓検出状況（北から）

15　老原（おいはら）遺跡（第３次調査）

調 査 地　八尾市東老原１丁目42－１

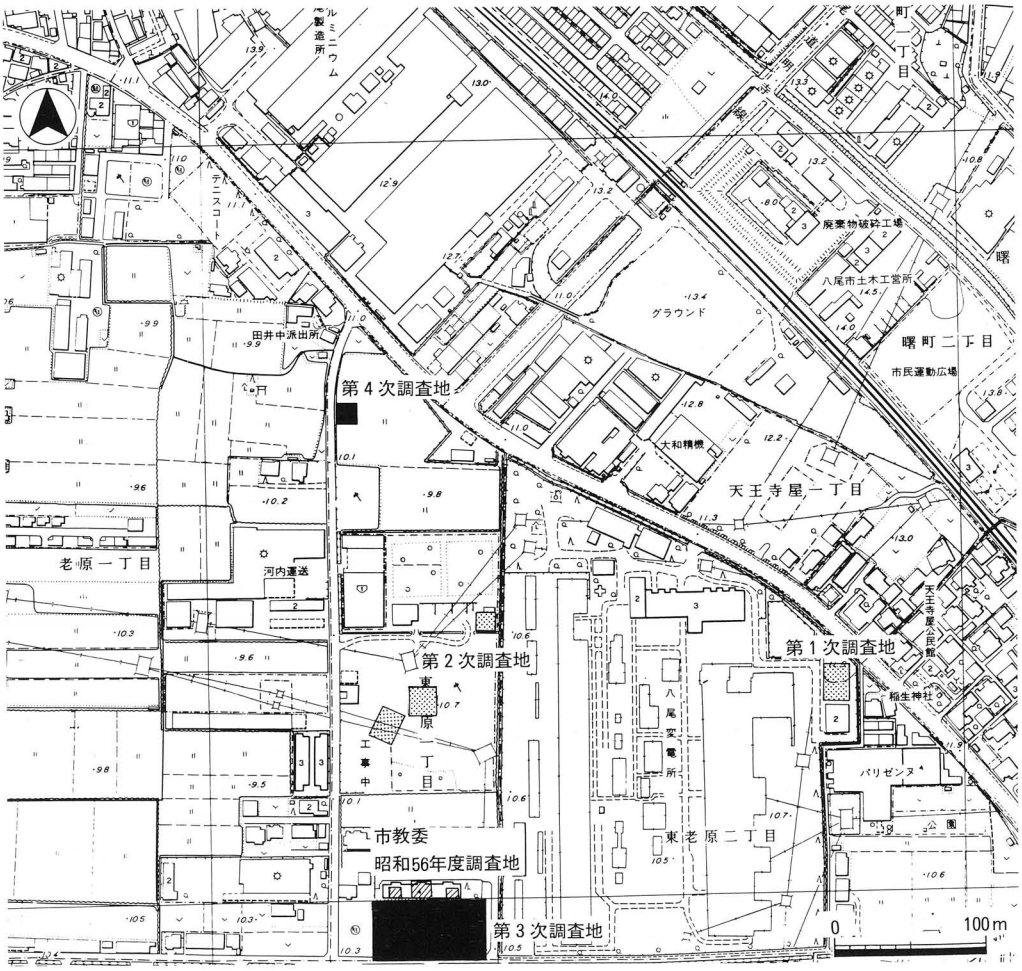
調査期間　昭和63年10月27日～昭和63年11月16日

調査面積　320㎡

はじめに

今回の発掘調査は共同住宅建設に伴うもので、当調査研究会が老原遺跡内で実施した発掘調査の第３次調査にあたる。

当遺跡は旧大和川の主流である長瀬川の左岸に位置しており、現在の行政区画では老原１丁目・２丁目・東老原１丁目にあたる。



調査地周辺図

当遺跡内では、昭和56年度に八尾市教育委員会が東老原１丁目で発掘調査を実施しており、古墳時代後期と鎌倉時代の遺構・遺物を検出している。さらに、昭和60年には当調査研究会が東老原２丁目46（第１次調査）、東老原１丁目11（第２次調査）で発掘調査を実施している。その結果、古墳時代後期と鎌倉時代の水田・鎌倉時代前期～後期の集落跡を検出している。

今回の調査地は、八尾市教育委員会が昭和56年度に実施した調査地の南側に隣接している。

調査概要

調査は、共同住宅および浄化槽の建設予定地の２ヶ所で、前者を南調査区（300㎡）後者を北調査区（20㎡）と呼称した。掘削方法については、現地表下1.2ｍ前後迄は機械で掘削を行い、以下0.3～0.4ｍについては人力による掘削を実施した。その結果、南調査区では現地表下1.5～1.7ｍ前後に存在する第５層上面で鎌倉時代前期に比定される溝４条（ＳＤ－１～ＳＤ－４）を検出した。北調査区では南調査区と同様第５層上面を調査対象としたが遺構は検出されなかった。遺物は第３層および第４層から古墳時代後期から鎌倉時代前期に比定される土器の小破片が南調査区・北調査区を含めてコンテナ箱１箱程度出土した。

基本層序

調査区で普遍的にみられた６層を基本層序とした。

第０層　盛土。層厚60～70cm。

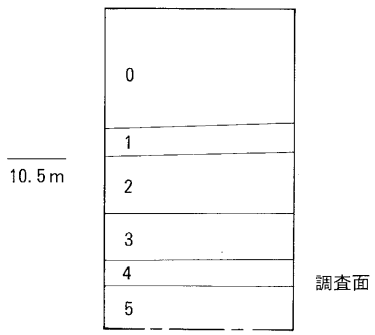
第１層　旧耕土。暗灰色砂質土。層厚10～20cm。

第２層　淡灰茶色。微砂・細砂。層厚20～30cm。酸化鉄の斑点が顕著。

第３層　淡灰色～淡灰茶色。粘質・シルト。層厚15～30cm。酸化鉄・マンガンが斑点状に付着している。古墳時代後期～鎌倉時代前期に比定される土器の小破片を少量含む。

第４層　灰色。シルト・粘質土。層厚10～30cm。酸化鉄・マンガンが斑点に付着している。古墳時代後期～鎌倉時代前期に比定される土器の小破片を少量含む。

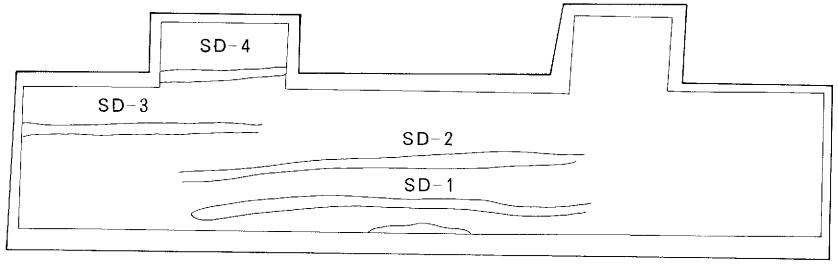
第５層　灰色～暗青灰色。シルト・粘土。層厚40～50cm。酸化鉄が斑点状に付着している。この土層上面を調査面とした。



0 盛　土
1 暗灰色　砂質
2 淡灰茶色　微砂・細砂
3 淡灰～淡灰茶色　粘質土・シルト
4 灰　色　　シルト・粘質土
5 灰色～暗青灰色　シルト・粘土

基本層序模式図

北調査区



南調査区

検出遺構平面図

検出遺構

溝（SD）

4条（SD－1～SD－4）を検出した。すべて、東西方向に伸びるもので4条ともに幅・深さの数値が近似していることや、内部堆積土層が一様に淡灰色茶色微砂と淡灰色微砂の互層であることから、溝の性格としては鋤溝が考えられる。なお、SD－2・3・4からは鎌倉時代前期に比定される瓦器椀の小破片が極少量出土している。

SD－1

東西方向に直線的に伸びるもので、検出長16.2mを測る。幅0.2～0.4m・深さ0.04m前後を測る。

SD－2

SD－1の北へ約0.8～1.0m隔ててほぼ平行に伸びるもので検出長18.1mを測る。幅0.35～0.7m・深さ0.04m前後を測る。

SD－3

SD－2の北側約1.0mで検出したもので、検出長9.8mを測る。幅0.35～0.5m・深さ0.05m前後を測る。

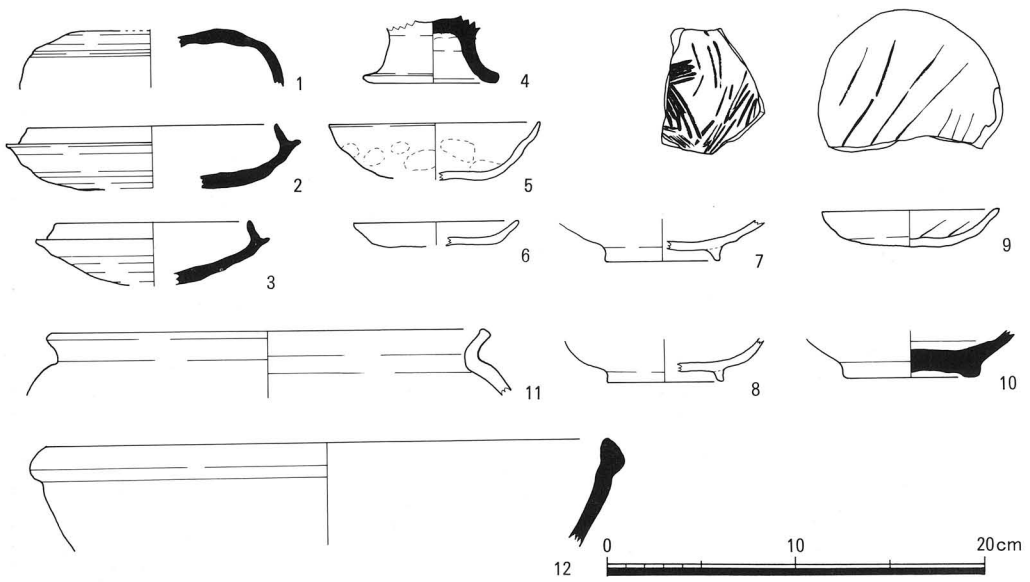
SD－4

SD－3の北側約1.8mを隔ててほぼ平行に伸びるもので、検出長5.4mを測る。幅0.4m・深さ0.03m前後を測る。

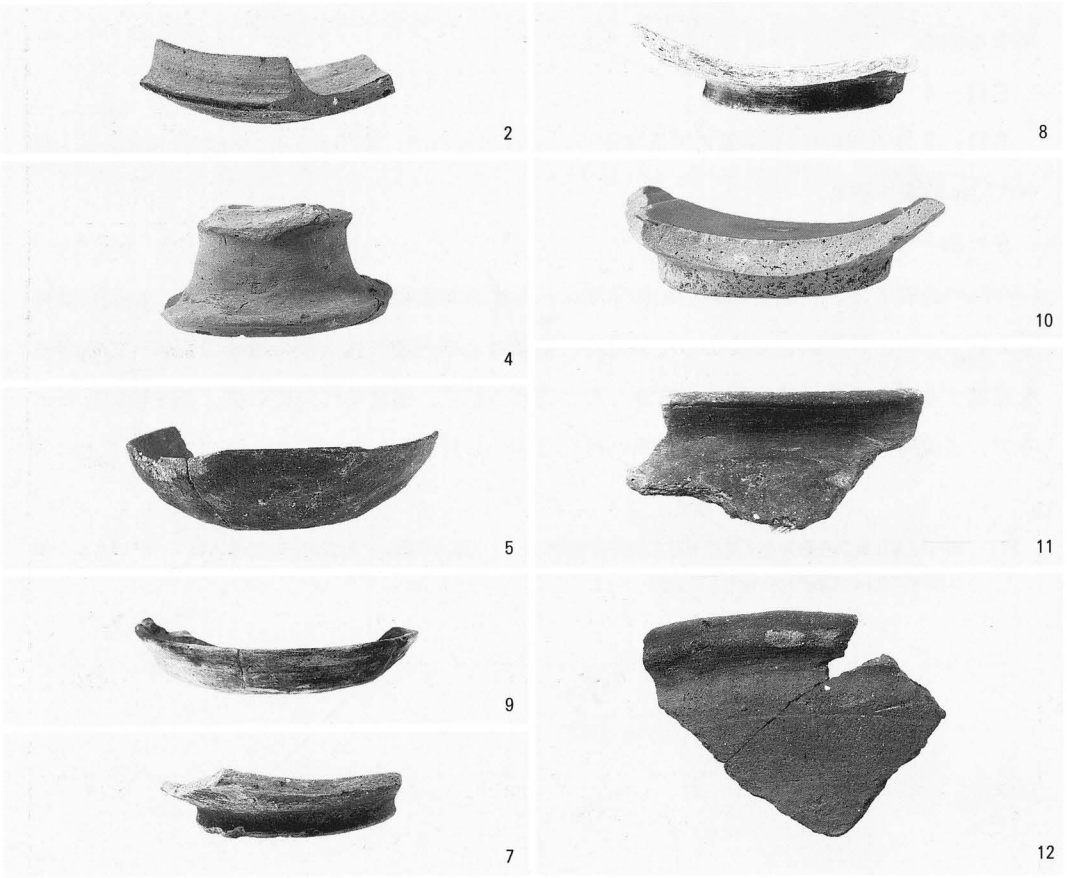
まとめ

今回の調査では、当調査地が昭和56年度に八尾市教育委員会が実施した調査地[註1]の南側に隣接しているため、既往調査で検出した鎌倉時代初頭および古墳時代後期の遺構の南側への広がりを追求することを主目的に調査を実施した。調査の結果、鎌倉時代前期の溝4条を検出したのみで、古墳時代後期に比定される遺構の存在は認められなかった。

註1　(財)八尾文化財調査研究会「老原遺跡発掘調査概要報告」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概報1980・1981年度』　(財)八尾市文化財調査研究会報告2　1983



出土遺物実測図

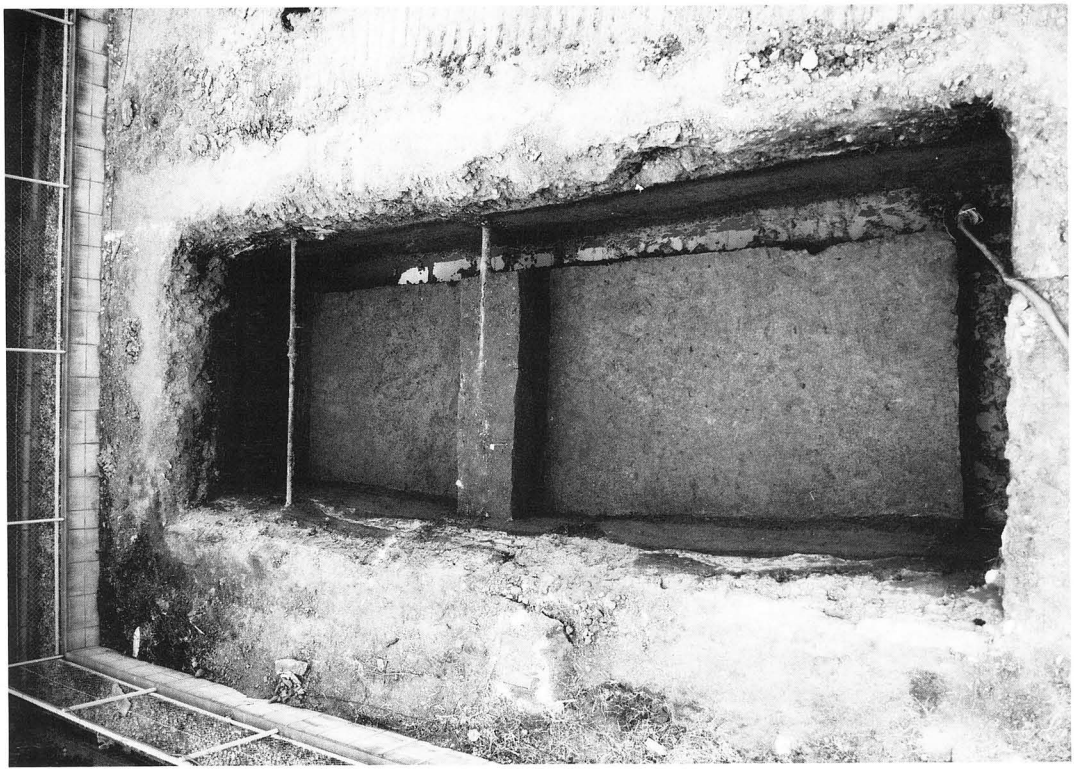


出土遺物

出土遺物観察表

包含層

遺物番号	器種	法量（cm）	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考
1	須恵器 杯蓋	口径 13.8 器高 3.1 稜径 12.6	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面稜端から0.5㎝以上は回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。ロクロ回転左方向。	淡灰色	やや粗 長石（0.1～0.5㎜）を多量に含む。	堅緻	1/4
2	須恵器 杯身	口径 13.2 器高 3.4 受部径 15.6 たちあがり高 0.9	マキアゲ、ミズビキ成形。体部外面受端部から1.7㎝以下は回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。ロクロ回転左方向。	淡灰色	やや粗	堅緻	1/4
3	須恵器 杯身	口径 10.2 器高 3.5 受部径 12.4 たちあがり高 0.9	マキアゲ、ミズビキ成形。体部外面受端部から0.8㎝以下は回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。ロクロ回転左方向。	淡灰色 ～ 淡灰青色	やや粗	堅緻	1/4
4	須恵器 高杯	底径 7.2	マキアゲ、ミズビキ成形。脚部内外面回転ナデ。脚部内外面の一部に粘土接合痕遺存。	淡灰色	密	堅緻	脚台部のみ
5	土師器 杯	口径 11.4 器高 3.0	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面に指頭圧痕遺存。体部内面は弱いナデ。底部付近に長径0.7㎝の円孔を焼成前に穿つ。	灰茶褐色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	1/2
6	土師器 小皿	口径 8.8 器高 1.3	手づくね成形。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	淡灰茶色	密	良好	1/4
7	瓦器 椀	高台径 6.2 高台高 0.8	高台部ヨコナデ。他はナデ。体部外面に指頭圧痕遺存。体部内面および見込み部は密なヘラミガキ。	灰黒色 ～ 淡灰色	やや粗	良好	底部1/2
8	瓦器 椀	高台径 6.3 高台高 0.6	底部内外面ナデ。高台部ヨコナデ。体部内外面の一部に密なヘラミガキが認められる。	黒灰色 ～ 灰白色	精良	良好	底部1/2
9	瓦器 小皿	口径 9.5 器高 1.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面の一部にヘラケズリが認められる。見込み部に平行線状ヘラミガキ。	灰黒色 ～ 淡灰色	精良	良好	1/2以上
10	磁器 碗	高台径 7.2 高台高 0.9	マキアゲ、ミズビキ成形。高台部は削り出しによる成形。体部内外面回転ナデ。底部内面に茶溜りの凹線が廻る。高台部は露台。	釉色 灰白色 磁胎 白灰色	密	堅緻	景徳鎮系 白磁 底部2/3
11	土師器 甕	口径 22.7	マキアゲ成形。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	やや粗	良好	口縁部1/10
12	須恵器 鉢	口径 30.0	マキアゲ、ミズビキ成形。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面回転ナデ。	暗灰色 ～ 灰白色	密	堅緻	東播系 1/10



北調査区全景（西から）

南調査区全景（東から）

16　老原（おいはら）遺跡（第４次調査）

調 査 地　八尾市東老原１丁目

調査期間　平成元年２月14日～平成元年３月１日

調査面積　40㎡

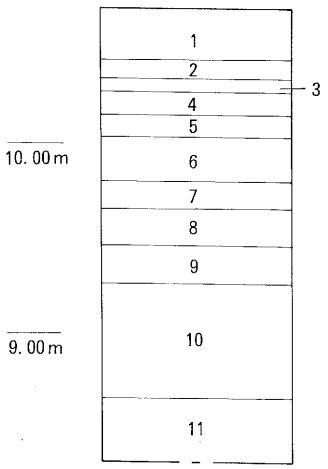
はじめに

今回の発掘調査は下水道布設工事に伴うもので、当調査研究会が老原遺跡内で実施した発掘調査の第４次調査にあたる。今回の調査地は、昭和60年度に当調査研究会が実施した第２調査地の第３調査区の北西約160ｍに所在している。なお、調査地点の西側50ｍの地点は通称「五条の宮」[註1]と呼ばれており、その付近から奈良時代後期の軒丸瓦や土師器・瓦器椀片が出土したことが報告されている。

調査概要

調査地は、下水道の発進竪坑部分にある。掘削方法は、現地表下0.4ｍまでは機械で行い、以下1.0ｍについては人力掘削を行った。

その結果、現地表下0.7ｍ前後に存在する第６層上面（標高10ｍ）で、鎌倉時代の土坑２基（ＳＫ－201・202）、溝１条（ＳＤ－201）、小穴（ＳＰ－201）を検出した（第２調査面）。さらに0.2～0.3ｍ下部に存在する第７層上面（標高9.7～9.8ｍ）で、平安時代末期の溝２条（ＳＤ－101・102）を検出した（第１調査面）。



1　暗灰黒色粘土（耕土）
2　灰茶色細砂混粘土（床土）
3　灰茶色粘土
4　灰茶色シルト混粘土
5　灰茶色粗砂混粘土（礫少量含む）
　（鎌倉時代後期～近世包含層）
6　淡灰褐色シルト混粘土
7　灰黄色シルト～細砂混粘土
8　茶灰色粗砂
9　淡灰色細砂
10　灰色微砂
11　茶灰色粘土

基本層序模式図

基本層序

比較的安定した土層の堆積状況であった。ここでは、普遍的に存在した11層を基本層序とした。なお、第１調査面の調査終了後、下層を確認する目的で約1.5ｍまで掘削を行った結果、第８層～第10層の砂層内から古墳時代前期～奈良時代に比定される遺物が出土している。

検出遺構

第１調査面

溝（ＳＤ）

ＳＤ－101

調査地のほぼ中央を南北方向に伸びる。検出長6.6ｍ・幅1.3～2.1ｍ・深さ0.25ｍを測る。内部堆積土は淡灰茶色粘土層の単一層である。内部からは平安時代末期の瓦器椀・小皿、土師器小皿・中皿・土釜、木製品（板塔婆）が出土している。

ＳＤ－102

調査地内の南東部で検出した。検出長1.9ｍ・幅0.8～0.9ｍ・深さ0.1ｍを測る。内部堆積土は灰色粘土の単一層である。溝内からは瓦器、土師器の細片が少量出土している。

第２調査面

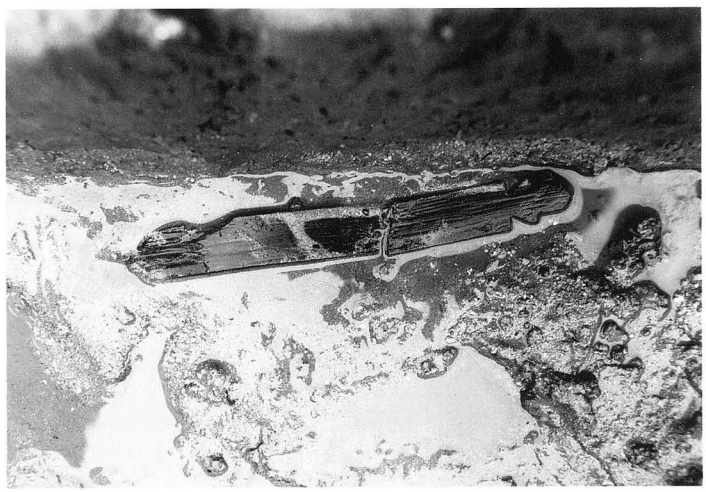
土坑（ＳＫ）

ＳＫ－201

調査地の東側で検出した。上面の形状は南北方向に長い隅丸の長方形を呈する。東西幅1.45ｍ・南北幅2.3ｍ・深さ0.1ｍを測る。内部堆積土は灰茶色粗砂混粘土の単一層である。内部から土師器、瓦器の小破片が少量出土している。

ＳＫ－202

調査地の北東側で検出した。北部が調査区外のため全容は不明である。内部堆積土は暗茶褐色礫混粘土の単一層である。内部からは土師器、瓦器の小破片が少量出土している。



板塔婆出土状況

溝（ＳＤ）

ＳＤ－201

調査区の西部を南東－北西方向に伸びるもので、検

出長6.2m・幅1.6m以上・深さ0.25mを測る。内部堆積土層は、上層から灰茶色粗砂混粘土・灰色細砂混粘土・茶灰色微砂混粘土である。内部から土師器、瓦器の小破片が少量出土している。

小穴（SP）

SP－201

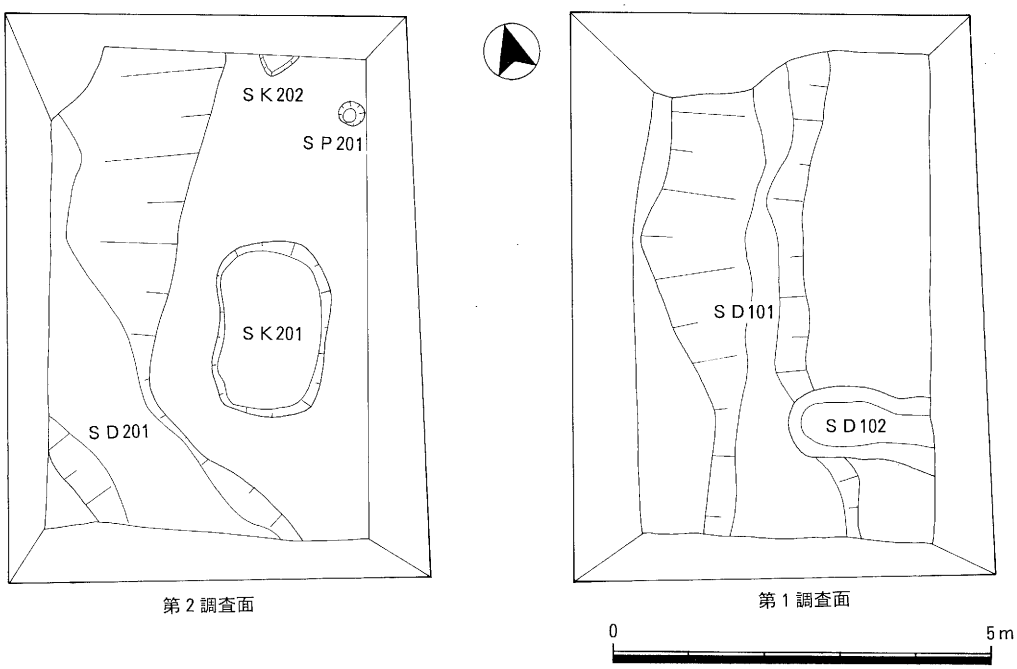
調査地の北東部で検出した。上面の形状は円形を呈する。径0.3m・深さ0.12mを測る。内部堆積土は灰色細砂混粘土の単一層である。内部から平瓦片が1点出土している。

まとめ

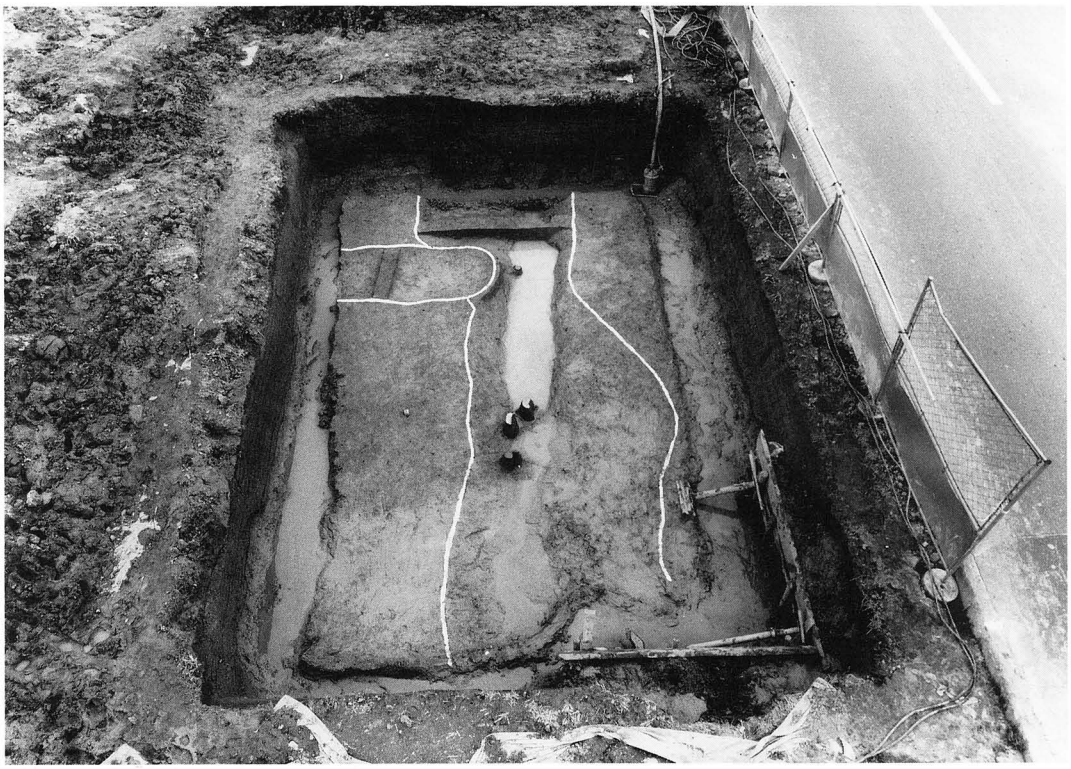
今回の調査では、平安時代末期と鎌倉時代後期の遺構を検出した。同時期の遺構は第2次調査地で検出されている他、第2次調査地の南側で昭和56年度に市教委が実施された調査地でも[註2]鎌倉時代前期の遺構が検出されており、この時期の集落がさらに北側へ広がっていることが明らかとなった。

註1　㈱八尾市文化財調査研究会　「Ⅱ老原遺跡（第2次調査）」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要　昭和61年度』　㈱八尾市文化財調査研究会報告13　1987

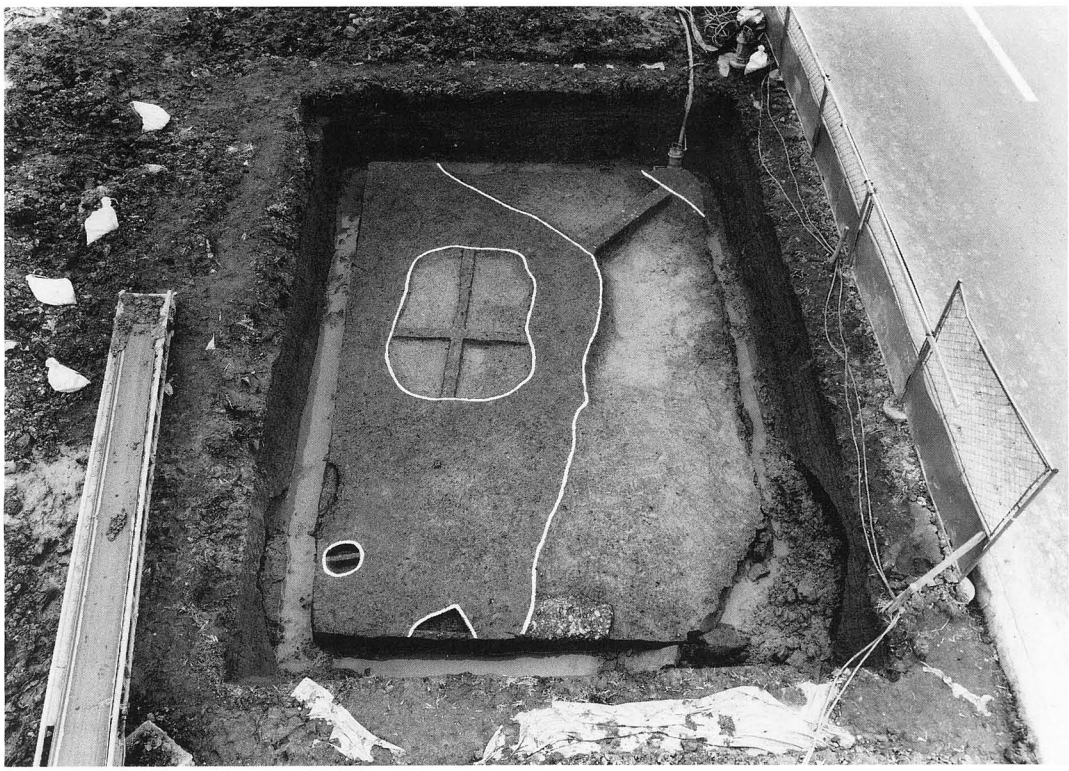
註2　㈱八尾市文化財調査研究会　「老原遺跡発掘調査概要報告」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概報1980・1981年度』　㈱八尾市文化財調査研究会報告2　1983



検出遺構平面図



第 1 調査面全景（北から）



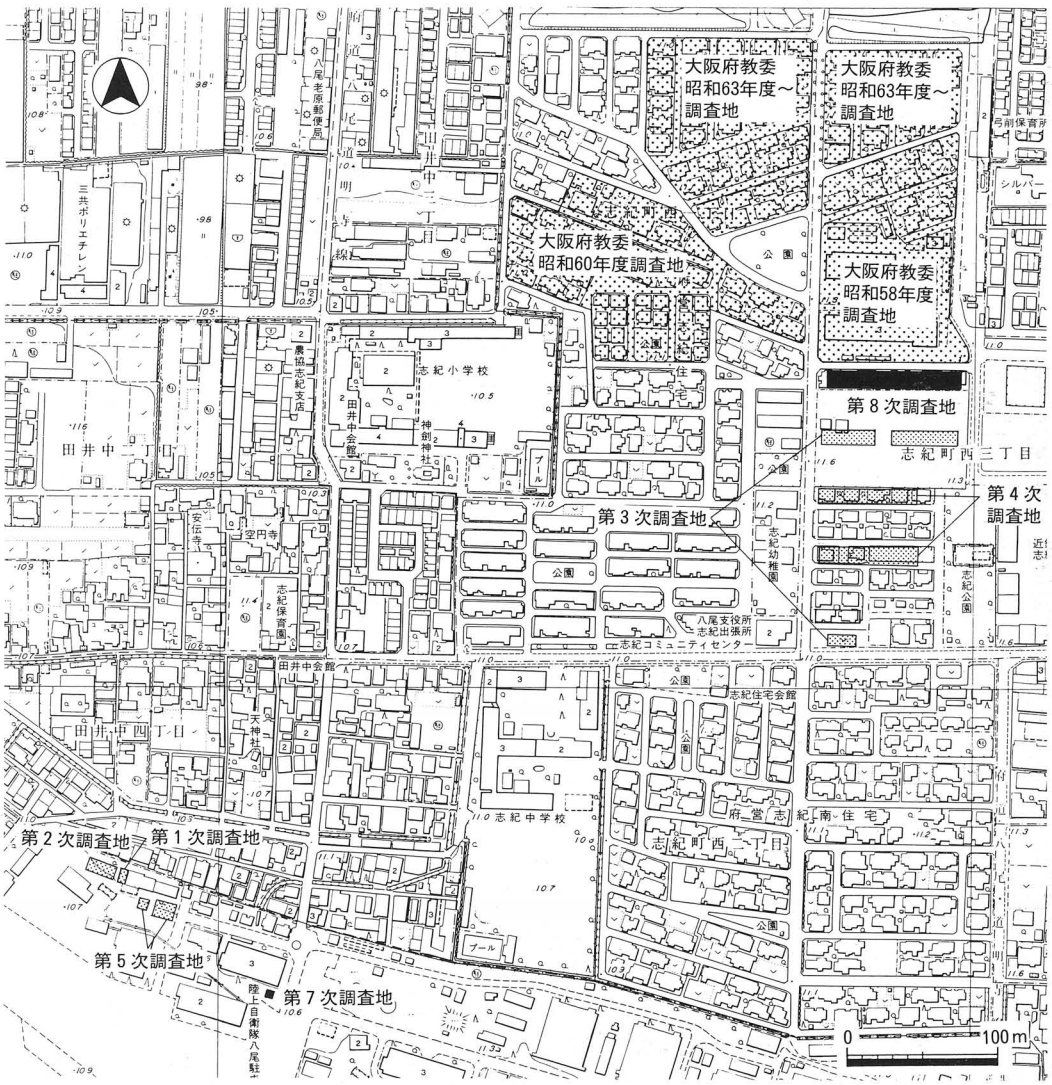
第 2 調査面全景（北から）

17　田井中（たいなか）遺跡（第７次調査）

調 査 地　八尾市空港１丁目81

調査期間　昭和63年５月30日～昭和63年６月16日

調査面積　25㎡



調査地周辺図

はじめに

今回の発掘調査は通信鉄塔建設に伴うもので、当調査研究会が田井中遺跡内で実施した発掘調査の第７次調査にあたる。

当遺跡は、旧大和川の主流であった長瀬川左岸一帯に広がる低平地に位置しており、現在の行政区画では田井中１～２・４丁目、志紀町西２・３丁目、空港１丁目一帯にあたる。

当遺跡および北側に隣接する志紀遺跡内では、昭和57年度以降当調査研究会および大阪府教育委員会により昭和62年度末までに、８次（府教委２次、当調査研究会６次）にわたる発掘調査が実施されてきた。これらの調査地点は遺跡推定範囲内の北東部と南西部に集中しており、北東部では特に弥生時代中期から平安時代に至る時期の水田遺構が重層的に検出されている。一方、南西部ではこれまでに当調査研究会が３次（第１次[註1]・第２次[註2]・第３次[註3]）にわたる発掘調査を陸上自衛隊八尾駐屯地内で実施している。その結果、弥生時代前期～後期・古墳時代中期の遺構・遺物が検出されている。今回の調査地点は当調査研究会が昭和62年度に実施した第５次調査の第１調査区から南東約80ｍに位置する。

調査概要

通信鉄塔建設予定地に東西９ｍ×南北11ｍの調査区を設定した。調査に際しては、現地表下2.1ｍ前後までを機械で掘削し、以下の各層は人力による掘削を行い遺構・遺物の検出に努めた。その結果、現地表下2.5ｍ（標高8.7ｍ）前後に存在する灰青色シルト土層上面で弥生時代前期の溝２条と古墳時代前期（布留式期）の土坑１基を検出した。

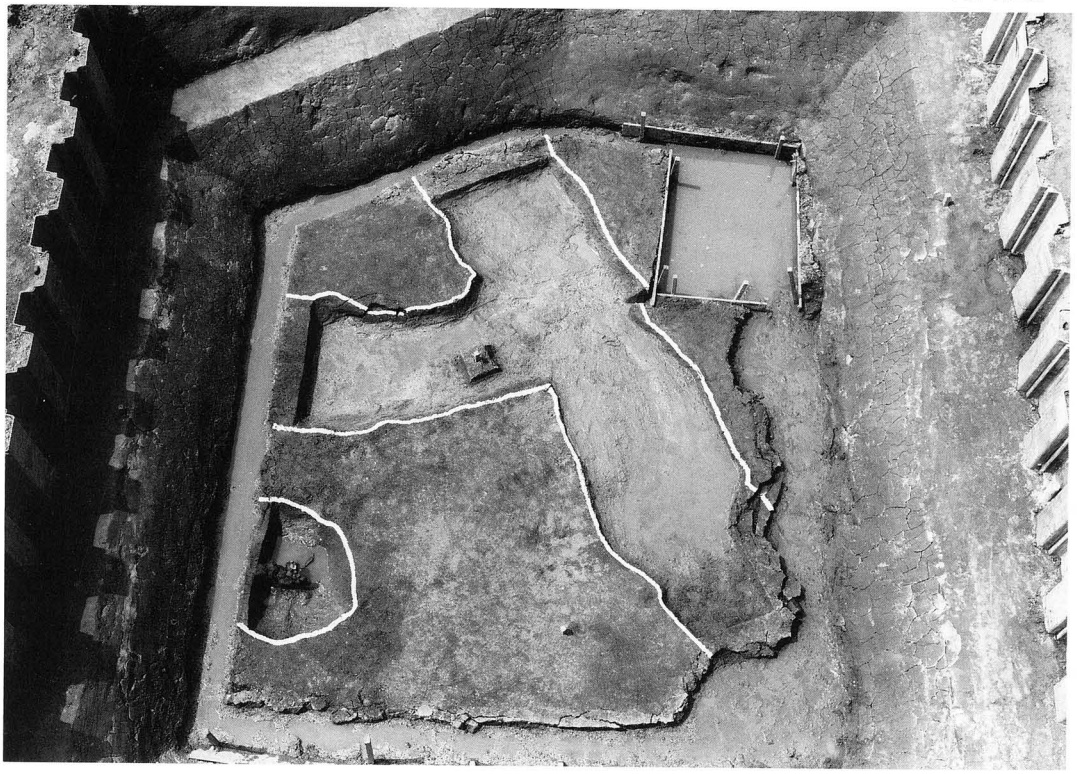
まとめ

今回の調査では、弥生時代前期と古墳時代前期（布留式期）の遺構を検出した。当調査地の周辺ではこれまでに３次（第１次・第２次・第５次）にわたる調査を実施しており、弥生時代前期（第５次）・弥生時代中期（第２次・第５次）・弥生時代後期（第５次）、古墳時代中期（第２次）の遺構が検出されている。今回の調査で新たに古墳時代前期（布留式期）の遺構が検出されたことから、当調査地周辺では弥生時代前期から古墳時代中期に至るまで継続して集落が営まれていたことが明らかになった。

註１　㈶八尾市文化財調査研究会「田井中遺跡：陸上自衛隊八尾駐屯地内浴場増築に伴う発掘調査概要」『昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査』　1983

註２　㈶八尾市文化財調査研究会「田井中遺跡（第２次調査）」『昭和57年度事業概要報告』　㈶八尾市文化財調査研究会報告７　1985

註３　㈶八尾市文化財調査研究会「田井中遺跡（第５次調査）」『八尾市文化財調査研究会年報　昭和62年度』　㈶八尾市文化財調査研究会報告16　1988



調査区全景（北から）

ＳＫ－１　検出状況（東から）

18　田井中（たいなか）遺跡（第８次調査）

調 査 地　八尾市志紀町西３丁目

調査期間　昭和63年10月１日～平成元年２月20日

調査面積　996㎡

はじめに

今回の発掘調査は、近畿財務局の宿舎建設に伴うもので、当調査研究会が田井中遺跡内で実施した発掘調査の第８次調査にあたる。

今回の調査地点である田井中遺跡の北東部一帯では、近畿財務局の宿舎建設に伴って昭和60年度以降当調査研究会が３次（第３次[註1]・第４次[註2]・第６次[註3]）にわたる調査を実施してきた。その結果、古墳時代後期・鎌倉時代に比定される水田遺構を検出している。

今回の調査地点は第３次調査の第１・第２調査区の北側に隣接している。

調査概要

宿舎建設予定地にあわせて、東西83ｍ・南北12ｍのトレンチを設定した。なお、当調査地一帯では、昭和60年度から継続的に発掘調査を実施しており、昭和60年度（第３次調査－第１調査区～第３調査区）、昭和61年度（第４次調査－第４調査区・第５調査区）、昭和62年度（第６次調査－第６調査区）との関係から、今回の調査地を第７調査区と呼称した。

掘削に際しては、現地表下約1.5～2.0ｍまでを機械で掘削し、以下2.0～2.5ｍを人力で掘削した。なお、調査はオープンカット工法で壁面の勾配を充分にとったため、最終調査面は東西約60ｍ、南北１～1.5ｍ程度となった。調査の結果、水田遺構（４時期）・集落遺構（１時期）を検出した。

第１調査面

現地表下1.7～2.1ｍ（標高10.1～10.3ｍ）付近に堆積する青灰色粘土上面で、水田３筆・畦畔２条を検出した。２条の畦畔はほぼ南北に伸びており、それらで区画されている水田は東西幅約10ｍの規模を有する。水田直上に堆積する砂層からは、土師器・須恵器・瓦器・白磁碗等の摩耗をうけた細片が少量出土している。内でも所属時期が明確で最も新しいものは13世紀代の白磁碗である。

第２調査面

現地表下2.3～2.8ｍ（標高9.3～9.8ｍ）付近に堆積する暗赤褐色粘土上面で、水田13筆大畦畔６条、小畦畔８条を検出した（水田Ⅱ）。畦畔の方向は、概ね南西－北東・北西－南東方向

である。大畦畔は水田の床土と同質の砂を主とする土を何層にも重ねて構築されており、水田上面との比高差は20～30cm程度を測る。小畦畔は床土を削り出してつくられている。水口（水尻）は3箇所で確認した。なお、大畦畔は幅5m以上もある大規模なもので、内部から須恵器壷・甕・土師器杯・壷が出土しており、その出土状況から構築の際の祭祀に伴う遺物の可能性が高い。遺物の所属時期は概ね6世紀後半に比定できよう。水田上面に堆積するシルト～砂層からは、所属時期を決定づける出土遺物はなかった。

第3調査面

現地表下2.8～3.4m（標高8.8～9.3m）付近に堆積する紫褐色粘土上面で水田13筆・大畦畔3条・小畦畔9条・溝1条を検出した（水田Ⅲ）。畦畔の方向は、第2調査面で検出した水田Ⅱと同様、南西－北東・北西－南西方向に構築されている。構築方法は、大畦畔は盛り上げて、小畦畔は削り出している。所属時期を決定づける出土遺物はなかった。

第4調査面

現地表下3.2～3.4m（標高8.2～8.8m）付近に堆積する黄褐色粗砂上面で、小穴8個・溝1条を検出した。小穴は、主に中央部に点在しており、径0.2～0.8m・深さ0.05～0.1m程度のものである。内部堆積土は茶褐色粘土で、遺物は出土しなかった。溝は東端で検出した。南東－北東に伸びるもので、幅6～7m・深さ0.1～0.2mを測る。内部堆積土は灰色粘土で遺物は出土しなかった。この遺構面の上層には、5世紀代までの土師器の細片が堆積している。

第5調査面

現地表下3.6～3.8m（標高8.2～8.5m）付近に堆積する灰緑色粘土上面で、水田7筆・畦畔6条を検出した（水田Ⅳ）。水田Ⅱ・水田Ⅲとほぼ同一の方向に構築されており、畦畔は水田Ⅱ・水田Ⅲに比して規模は大きい。上面に堆積する粗砂からは、弥生時代中期～古墳時代初頭（庄内式期）にかけての土器・石器などが出土している。

まとめ

今回の調査では4時期の水田（水田Ⅰ～水田Ⅳ）および集落跡を検出した。当調査地一帯では昭和60年度以降、大阪府教育委員会、当調査研究会により数次にわたる調査が実施され、当調査と同様水田遺構が重層的に検出されている。ここでは、これらの調査結果をもとにして今回の調査で検出した各水田の構築・廃絶時期を整理する。

水田Ⅳは構築時期は明確でないものの、廃絶時期は庄内式期の中の一時期と推定される。その後、古墳時代前期末～中期初頭には集落として開発され中期まで存続したものと考えられる。古墳時代中期以降は、再び大畦畔を伴う水田（水田Ⅲ）となっていたようである。水田Ⅲは、その後洪水等により埋没するが、古墳時代後期には水田Ⅳを踏襲する形で水田Ⅱが構築されている。水田Ⅱの廃絶時期は明確でないが、その後平安時代後期に水田Ⅰが構築される間に、シ

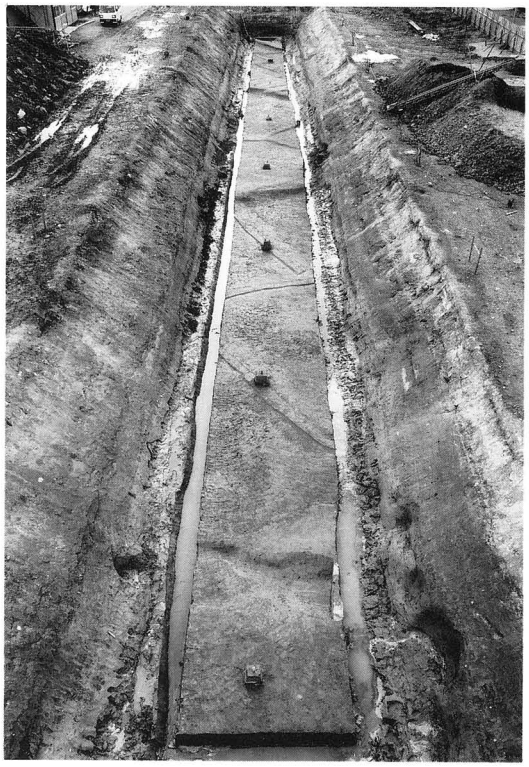
ルト～微砂が0.3～0.6m堆積しており、この間は未耕地であったようである。

註1　㈶八尾市文化財調査研究会「田井中遺跡（第3次調査）」『昭和60年度事業概要報告』㈶八尾市文化財調査研究会報告7　1985

註2　㈶八尾市文化財調査研究会「田井中遺跡（第4次調査）」『昭和61年度事業概要報告』㈶八尾市文化財調査研究会報告4　1987

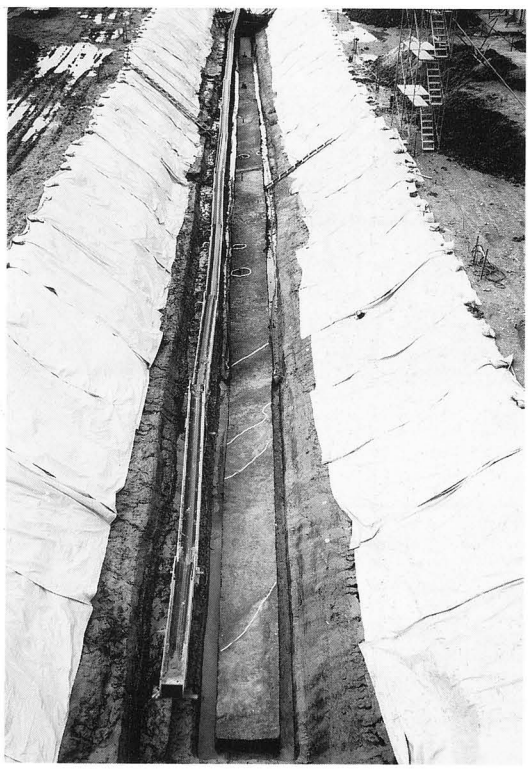
註3　㈶八尾市文化財調査研究会「田井中遺跡（第6次調査）」『八尾市文化財調査研究会年報　昭和62年度』　㈶八尾市文化財調査研究会報告16　1988

第1面　検出状況（東から）

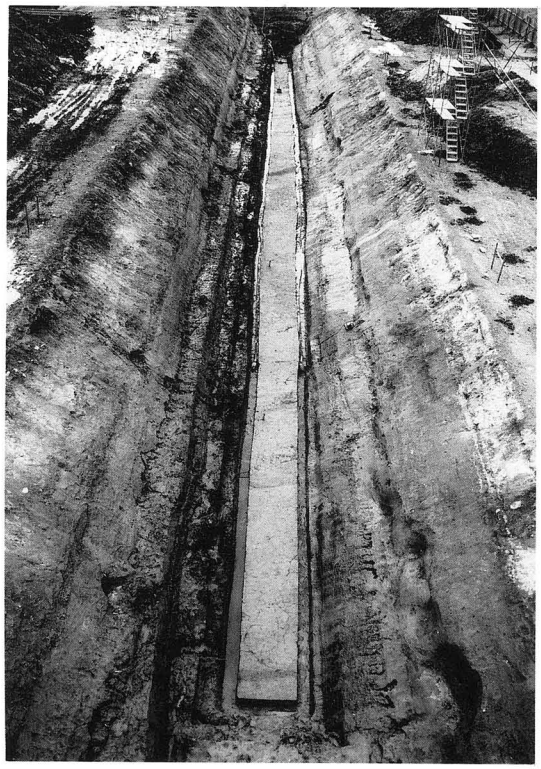


第 2 面　検出状況（東から）

第 3 面　検出状況（東から）



第 4 面　検出状況（東から）



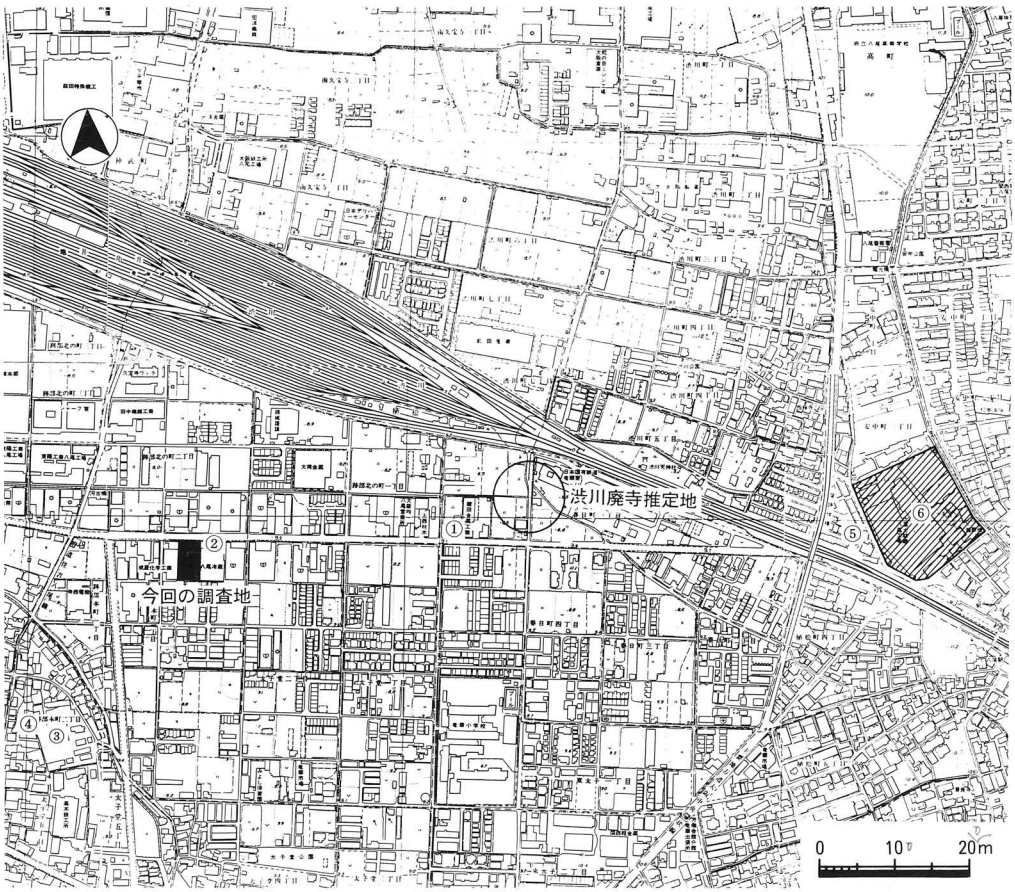
第 5 面　検出状況（東から）

19　跡部（あとべ）遺跡（第４次調査）

調 査 地　八尾市跡部本町１丁目４－１・４－２

調査期間　昭和63年10月１日～昭和63年10月22日

調査面積　300㎡



調査地周辺図

周辺の発掘調査一覧表

番号	調査主体	調査地	調査期間	文献	発行
1	八尾市教育委員会	春日町１－57	56年11/９～11/19	八尾市埋蔵文化財発掘調査概報 1980・1981年度：（財）報告２	1983. 3
2	当調査研究会（第１次）	跡部本町１－３	57年10/１～10/５	昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査―その結果と概要	1983. 3
3	同　上（第２次）	跡部本町２－46	59年３/１～３/31	昭和58年度事業概要報告：（財）報告５	1984. 3
4	八尾市教育委員会	跡部本町２－44	59年５/10～５/22	八尾市内遺跡昭和59年度発掘調査報告書：市教委報告11	1985. 3
5	同　上	安中町３－52	59年６/18～７/２	同　上	1985. 3
6	当調査研究会（第３次）	安中町３－26他	62年４/６～５/18	八尾市文化財調査研究会年報昭和62年度：（財）報告16	1988. 12

はじめに

今回の発掘調査は、共同住宅建設に伴うもので、当調査研究会が跡部遺跡内で実施した発掘調査の第４次調査にあたる。

当遺跡は、旧大和川の主流である長瀬川から旧平野川が分流する地点以西の両河川に挟まれた扇状地性低地に位置する。現在の行政区画では跡部本町・太子堂・春日町・渋川町にあたる。なお、遺跡推定範囲の東部には渋川廃寺（飛鳥時代）の推定地が含まれている。

当遺跡内では、昭和57年度以降５次（八尾市教育委員会２次、当調査研究会３次）にわたる発掘調査が実施されており、弥生時代前期～後期・古墳時代前期・平安時代～鎌倉時代の遺構・遺物が検出されている。今回の調査地は、当調査研究会が昭和57年度に実施した第１次調査地の西側に隣接している。

調査概要

調査に際しては、八尾市教育委員会の指示に基づき、現地表下2.1ｍまでの土層を機械で掘削し、以下の各層は人力により掘削を実施した。調査の結果、現地表下2.25ｍ（標高6.9ｍ）付近に存在する第９層青灰色シルト層上面で古墳時代前期の土坑９基（ＳＫ－１～ＳＫ－９）・溝２条（ＳＤ－１・ＳＤ－２）を検出した。

検出遺構

土坑（ＳＫ）

ＳＫ－１

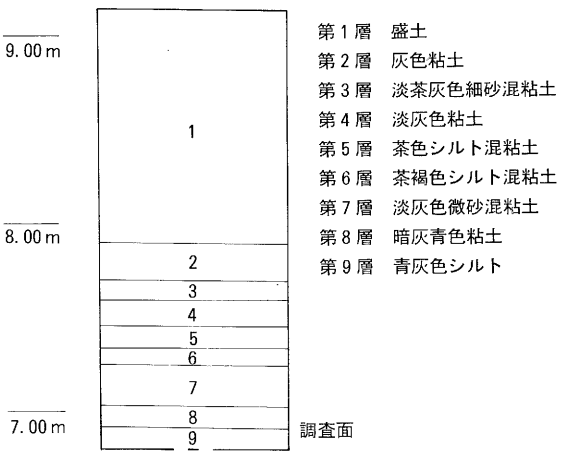
調査区の東部で検出した。上面の形状は東西方向に長い長方形を呈し、東西幅1.65ｍ・南北1.1ｍ、深さ0.15ｍを測る。内部堆積土は暗灰色シルト混粘土である。内部から土師器の小破片が少量出土している。

ＳＫ－２

ＳＫ－１の南側で検出した。上面の形状は東西方向に長い楕円形を呈し、東西幅1.45ｍ・南北1.2ｍ・深さ0.25ｍを測る。内部堆積土は暗灰色シルト混粘土である。内部から古墳時代前期の壷・甕等が出土している。

ＳＫ－３

ＳＫ－１の西側で検出した。上面の形状は東西方向に長い楕円形を呈し、東西幅2.05ｍ・南北1.6ｍ・深さ0.24ｍを測る。内部堆積土は暗



基本層序模式図

灰色シルト混粘土である。遺物は出土しなかった。

SK－4

SK－2の西側で検出した。上面の形状は南北方向に長い楕円形を呈し、東西幅1.2m・南北1.4m・深さ0.3mを測る。内部堆積土は上層から暗灰青色シルト混粘土・灰色シルト混粘土、暗灰色シルトである。遺物は出土しなかった。

SK－5

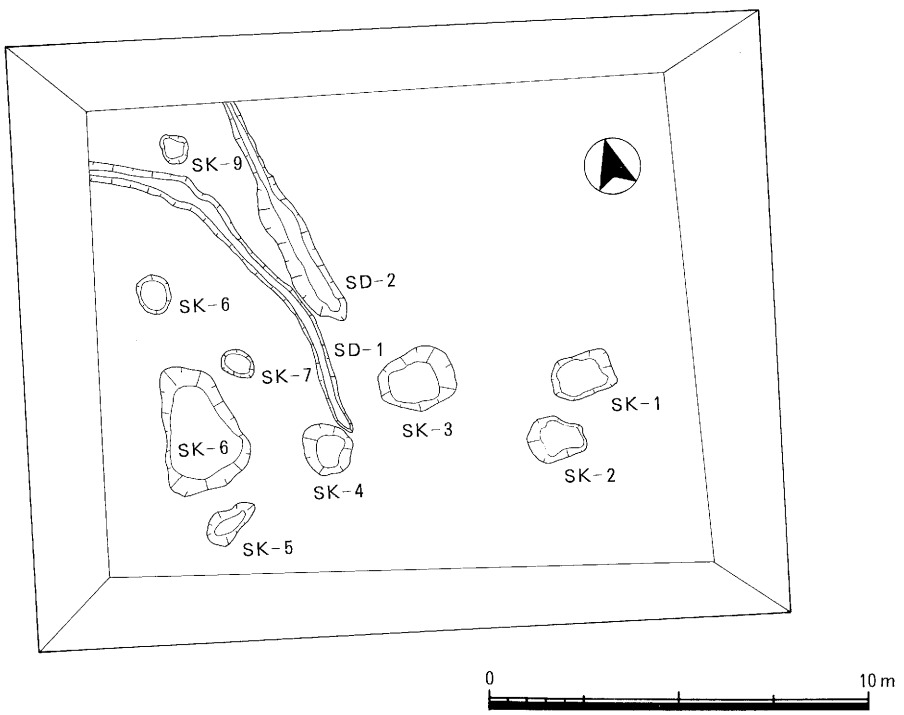
SK－4の西側で検出した。上面の形状は不定形を呈し、東西幅0.9m・南北1.3m・深さ0.3mを測る。内部堆積土は上層から暗灰青色シルト混粘土である。内部から土師器の細片が少量出土している。

SK－6

SK－5の北側で検出した。上面の形状は不定形を呈し、東西幅2.25m・南北3.3m・深さ0.2mを測る。内部堆積土は上層から暗灰色シルト混粘土、灰青色シルト混粘土である。内部からは古墳時代前期の甕の小破片が少量出土している。

SK－7

SK－6の東側で検出した。上面の形状は南北方向に長い楕円形を呈し、東西幅0.75・南北



検出遺構平面図

0.8m・深さ0.32mを測る。内部堆積土は上層から暗灰青色シルト混粘土である。遺物は出土しなかった。

SK－8

SK－6の北側で検出した。上面の形状は南北方向に長い楕円形を呈し、東西幅0.88m・南北1.05m・深さ0.28mを測る。内部堆積土は暗灰青色シルト混粘土である。遺物は出土しなかった。

SK－9

SD－1の北側で検出した。上面の形状は南北方向に長い楕円形を呈し、東西幅0.7m・南北0.8m・深さ0.15mを測る。内部堆積土は上層から暗灰青色シルト混粘土である。内部から古墳時代前期の甕の小破片が少量出土している。

溝（SD）

SD－1

SK－9の南側で検出した。南東－北西方向に伸びるもので、検出長10m・幅0.4m・深さ0.18mを測る。内部堆積土は灰色シルト混粘土である。内部から土師器の細片が少量出土している。

SD－2

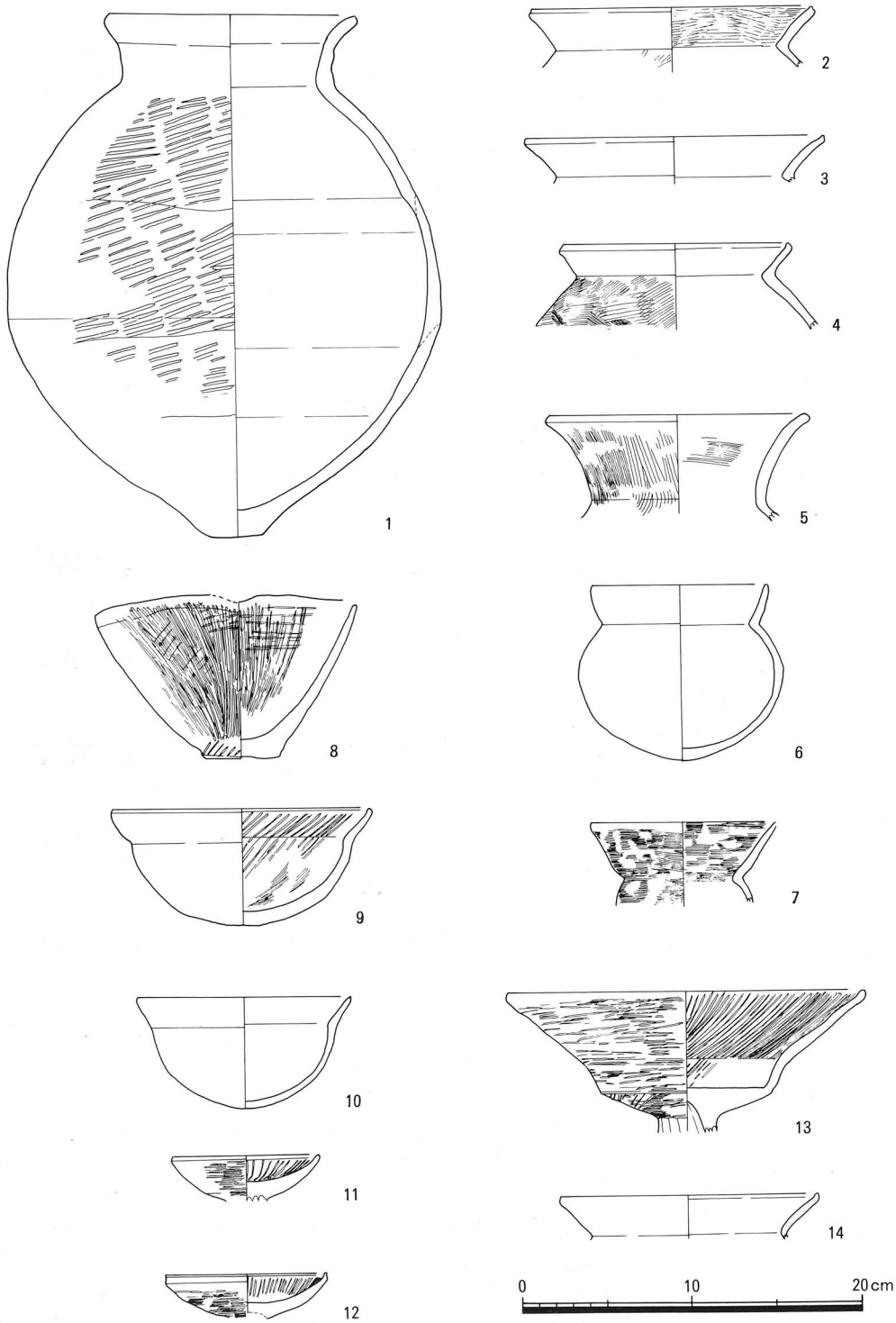
SD－1の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長6m・幅0.35m・深さ0.16mを測る。内部堆積土は灰色シルト混粘土である。内部から古墳時代前期の甕の小破片が少量出土している。

まとめ

今回の調査では、古墳時代前期の土坑9基と溝2条を検出した。当調査地周辺で当該期と同時期に比定される方形周溝墓1基が当調査地の東400mで実施された調査[註1]で検出されており、当遺跡内における集落の動向を考えるうえで重要な資料と言えよう。一方、調査地の東で昭和57年度に実施した第1次調査[註2]（跡部本町1丁目3）では、弥生時代後期と古墳時代前期の遺物が検出されており、今後の調査例の増加を待ってこの時期の集落の拡がりを追求する必要があろう。なお、第1次調査で出土した出土遺物（包含層出土）については未報告であったため、本書に合わせて掲載した。

註1　㈶八尾市文化財調査研究会　「第6章　跡部遺跡発掘調査概要報告」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要報告1980・1981年度』　㈶八尾市文化財調査研究会報告2　1983. 8

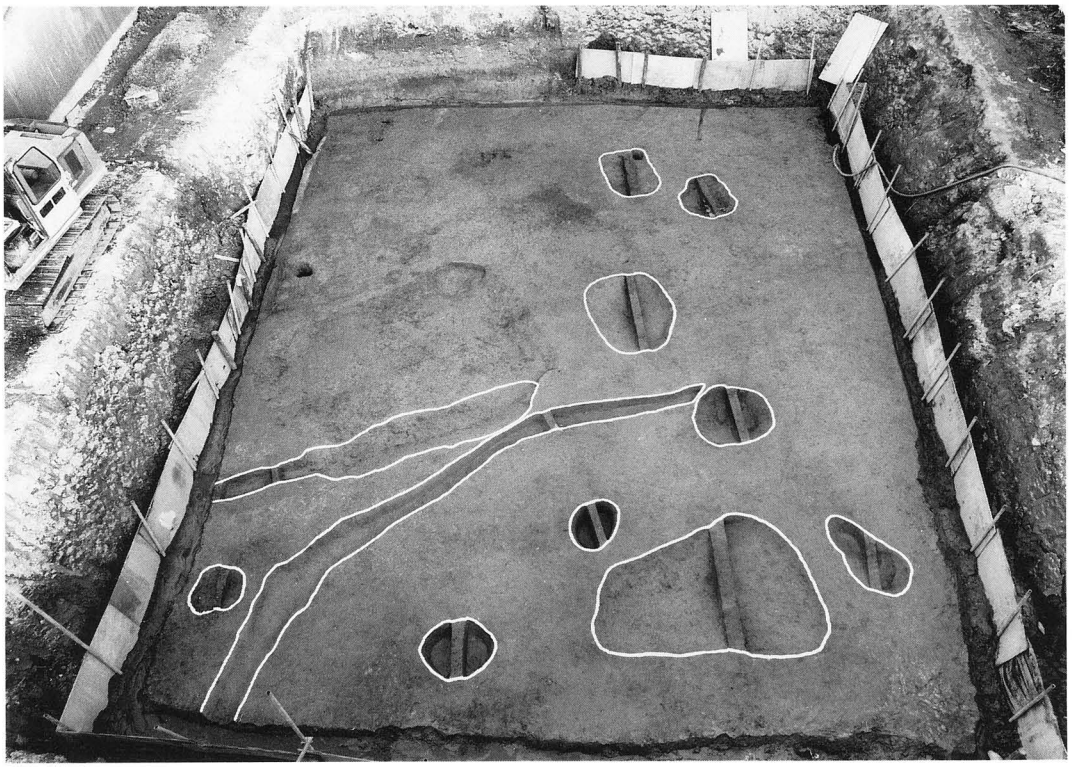
註2　㈶八尾市文化財調査研究会　『昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査－その成果と概要－』　1983



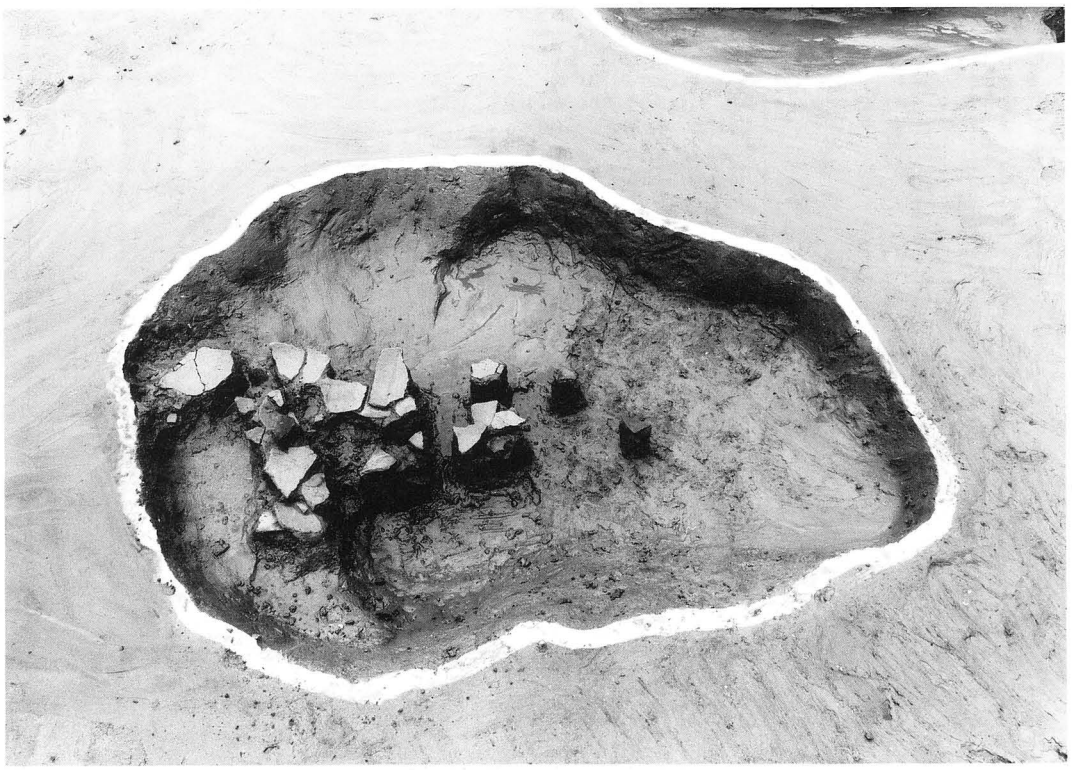
出土遺物実測図　SK－2（1・2）、SK－6（3）、SK－9（4）、包含層（5～14）

出土遺物観察表

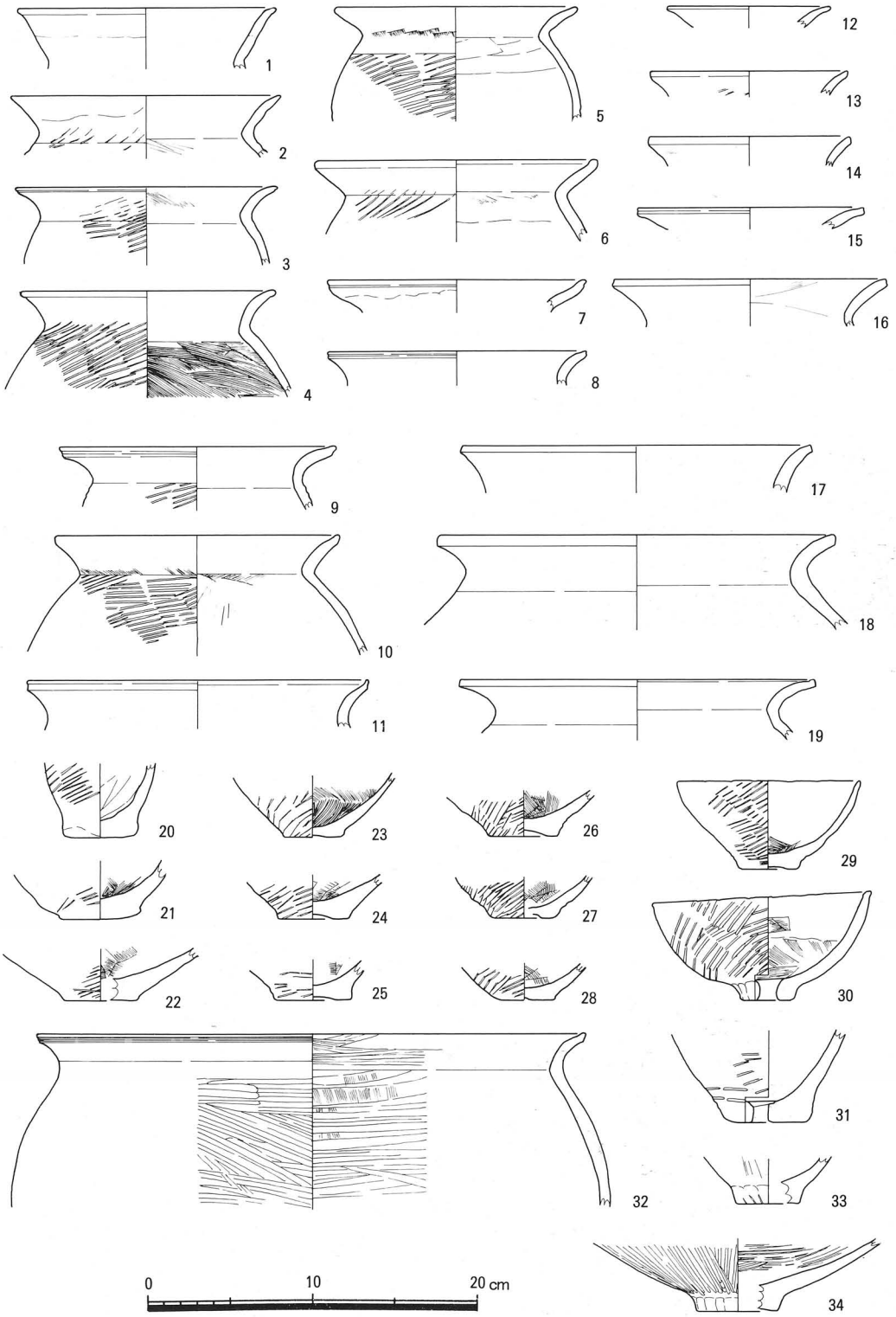
遺物番号	器種	法量（cm） 口径 器高	形態・調整技法	色調	胎土	焼成	備考
1	壺	14.3 31.2 底径 3.1	やや突出ぎみの平底から体部は丸味をもつ。口縁部は上方へ立ち上ったのち外反する。端部は丸い。口縁部内外面ナデ、体部内面ナデ外面タタキ目、底部内外面ナデ。	淡灰茶色	やや粗	良好	ＳＫ－2
2	甕	16.5	「く」の字に外反する口縁部。端面はくぼむ。口縁部内面ハケ目、外面ナデ。体部内面ヘラケズリ、内面ハケ目。	淡黒灰色	良	良好	ＳＫ－2
3	甕	17.4	「く」の字に外反する口縁部。端部はつまみ上げる。端面はくぼむ。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ。	淡灰茶色	良	良好	ＳＫ－6
4	甕	13.2	やや丸味のある体部から「く」の字に折れ、外上方へのびる口縁部に至る。端部は上方へつまみ上げる。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ナデ、外面ハケ目。	暗灰色	良	良好	ＳＫ－9
5	壺	15.0	ゆるやかに外反する口縁部。端部は丸味のある面をもつ。内外面ともにハケ目。	淡灰褐色	良	良好	包含層
6	小型丸底壺	10.2 10.5	丸味のある体部。口縁部は内彎する。端部は丸い。口縁部内外面、体部内外面ともにナデ。	淡灰茶色	良	良好	包含層
7	小型丸底壺	10.8	丸い体部。斜上方へひらく口縁部。口縁部内外面ヘラミガキ。体部内面ナデ。外面ヘラミガキ。	淡茶色	精良	良好	包含層
8	鉢	15.4 9.8	突出する上げ底状の底部。上外方へのびる体部。口縁部はとがり気味におわる。体部内面ヘラミガキ。外面タタキ後ヘラミガキ。底部外面タタキ。内面ナデ。	灰茶色	良	良好	包含層
9	鉢	15.2 6.9	内彎ぎみの体部から屈曲し内彎する。端部は内側につまむ。口縁部、体部内面ヘラミガキ。外面ナデ。	淡灰茶色	精良	良好	包含層
10	鉢	12.6 6.5	内彎ぎみの体部から斜上方へ伸びる口縁部へ至る。口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡灰茶色	良	良好	包含層
11	小型器台	8.6	ゆるやかに上外方にのびる。内面放射状のヘラミガキ。外面ヘラミガキ。	淡茶色	良	良好	包含層
12	小型器台	9.4	ゆるやかに上外方にのびる。口縁端部つまみあげる。内面放射状のヘラミガキ。外面ヘラミガキ。	淡茶色	精良	良好	包含層
13	高杯	21.0	平担な杯底部からやや斜上方へのびたのち外上方へのびる。端部はつまみ上げぎみに丸く終る。杯部内面放射状ヘラミガキ。外面ヘラミガキ。脚部内面シボリ目、外面ヘラミガキ。	淡灰褐色	精良	良好	包含層
14	甕	15.2	外反する口縁部。端部はつまみ上げる。内外面ともヨコナデ。	暗茶褐色	良	良好	包含層



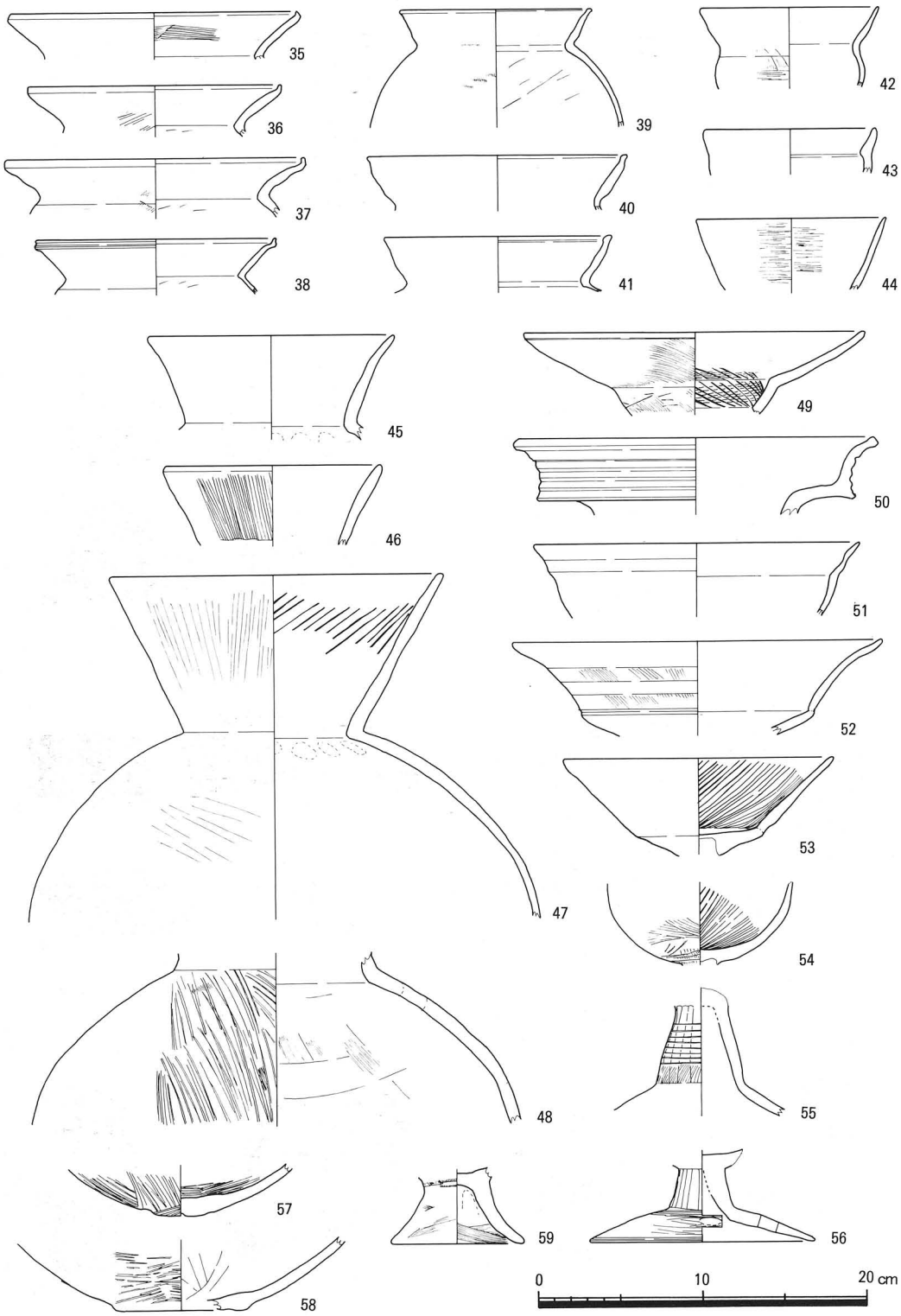
調査区全景（西から）



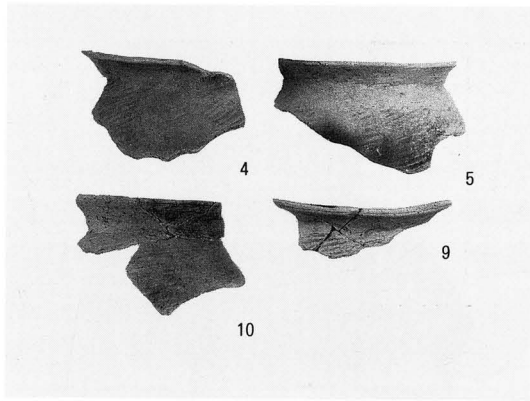
SK－2　検出状況（南から）

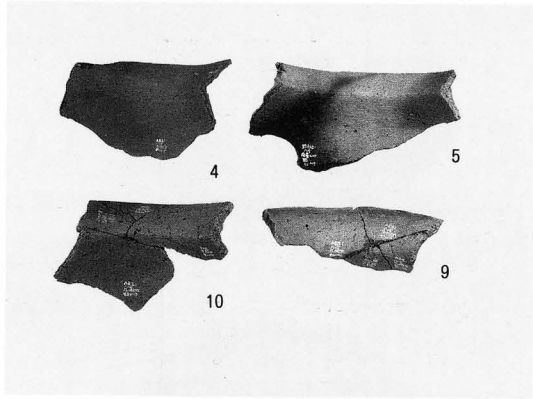


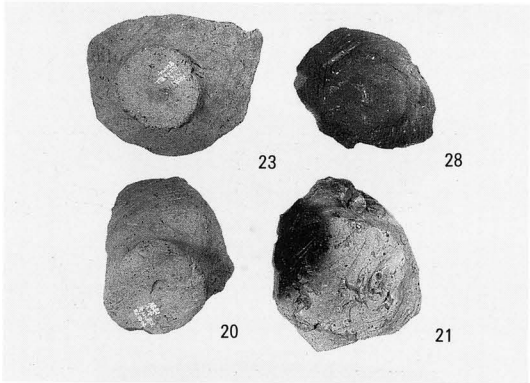
昭和57年度・第１次調査出土遺物実測図１

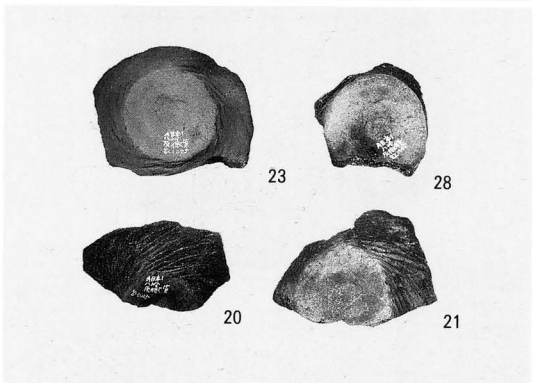


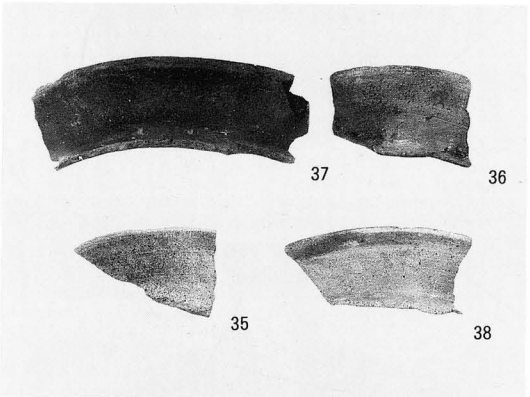
昭和57年度・第１次調査出土遺物実測図２

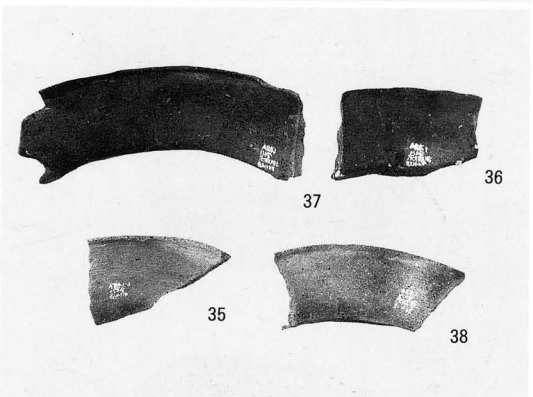


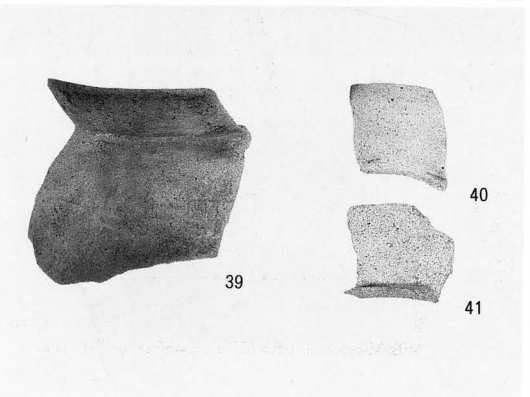


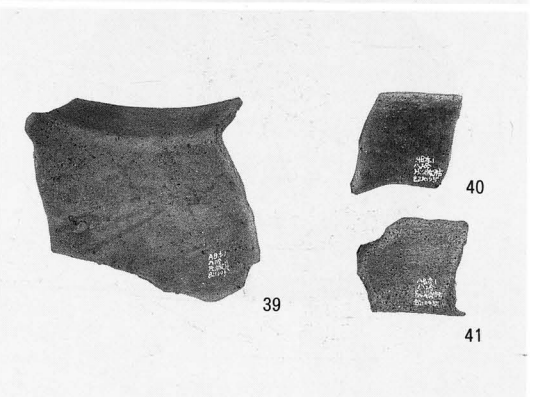




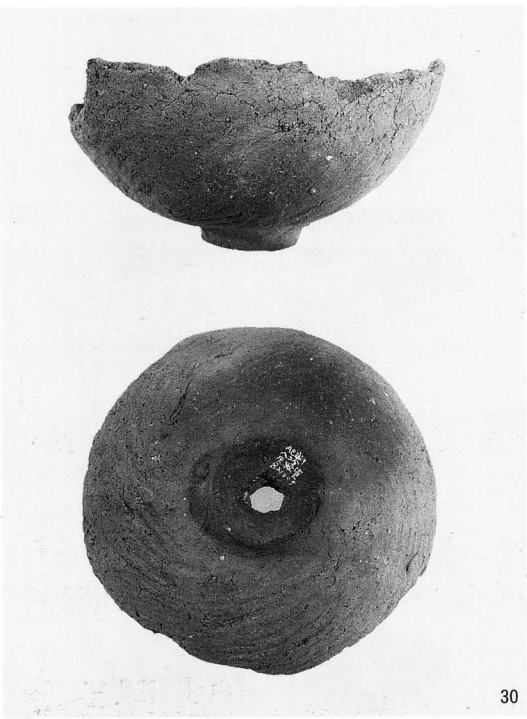


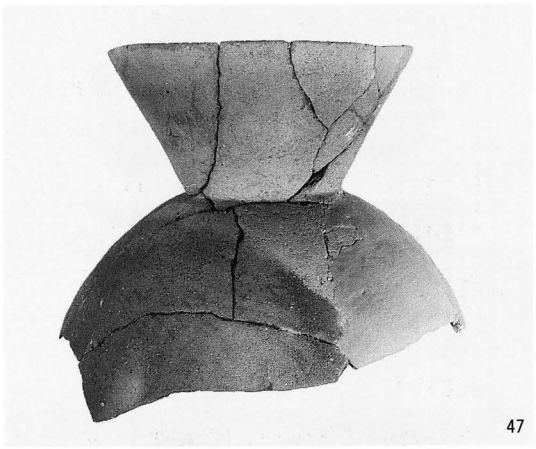


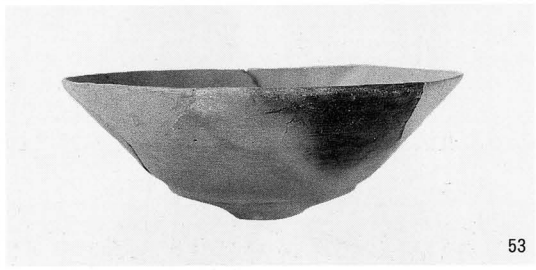


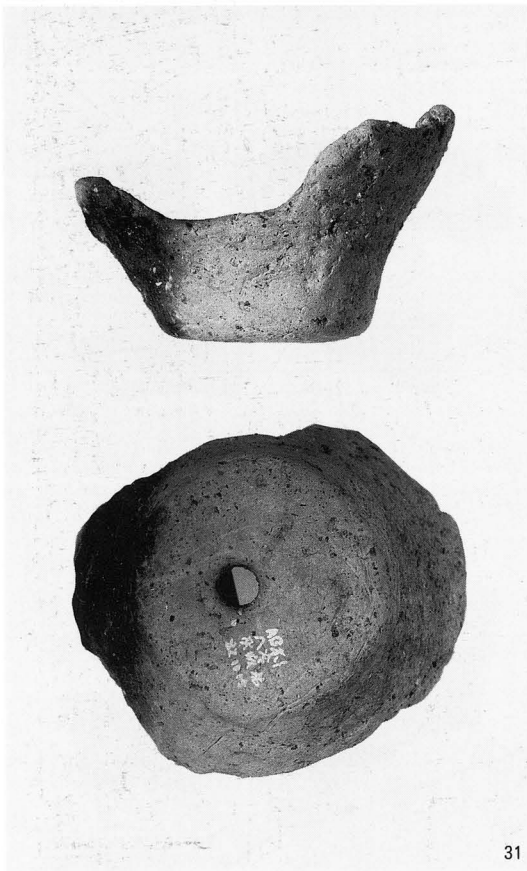


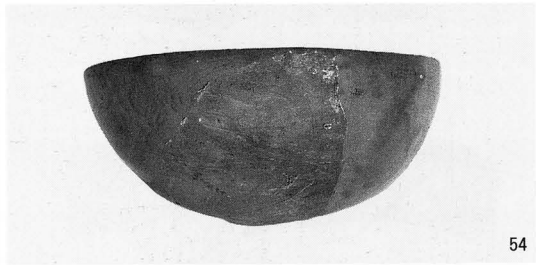
昭和57年度・第１次調査出土遺物


30


47


53


31


54

56

59

昭和57年度・第１次調査出土遺物

20　亀井（かめい）遺跡（第１次調査）

調 査 地　八尾市南亀井町１丁目４

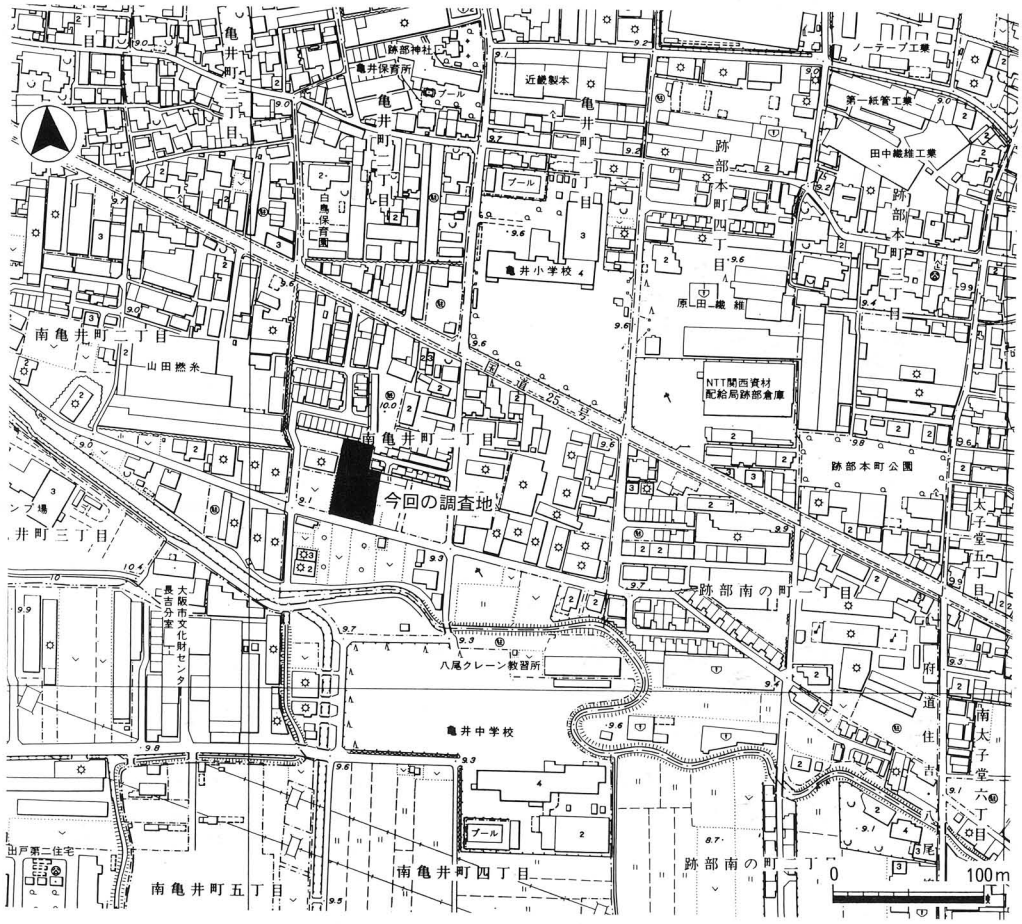
調査期間　昭和63年11月７日～昭和63年11月24日

調査面積　200㎡

はじめに

今回の発掘調査は工場建設に伴うもので、当調査研究会が跡部遺跡内で実施した発掘調査の第１次調査にあたる。

当遺跡は、旧大和川の支流であった平野川流域に広がるもので、㈶大阪文化財センターによる、近畿自動車道天理－吹田線建設に伴う発掘調査で、弥生時代を中心とする集落が検出されている。



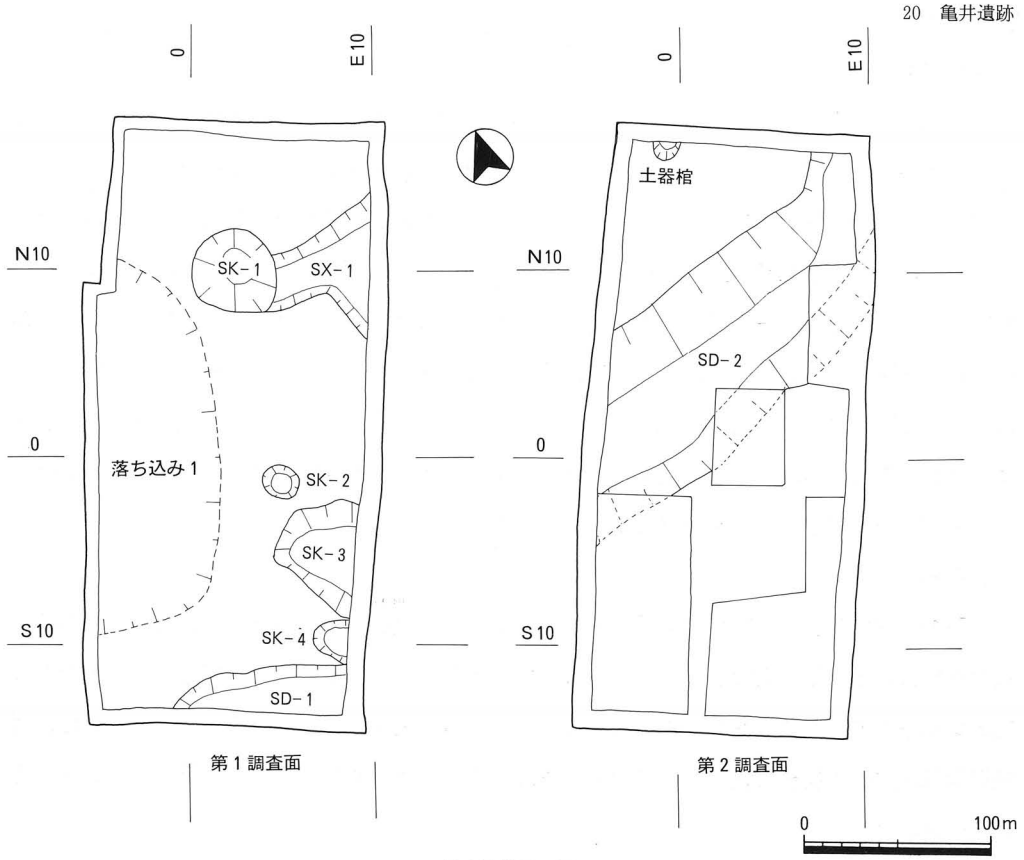
調査地周辺図

調査概要

調査は、工場建設予定地に10m×20mの調査区を設定した。掘削に際しては、現地表面から2.5mまでは機械で掘削し、以下1.0mまでは人力で掘削した。なお、当初の調査予定では、弥生時代後期の生活面を調査対象にする予定であったが、調査途中で下層に弥生時代中期の包含層を確認した為、弥生時代後期面の調査終了後、調査区内にグリット（2m×3m）を6ケ所に設定し、下層部分の調査を実施した。調査の結果、現地表下2.8m前後（標高6.2m）付近に存在する淡緑灰色シルト上面で、弥生時代後期の土坑4基（SK－1～SK－4）・溝1条（SD－1）・落込み状遺構1箇所・不明遺構1箇所（SX－1）を検出した（第1調査面）。さらに1m前後下部（標高5.0m）に存在する暗灰色礫混砂質土上面で、弥生時代中期の土器棺墓1基・溝1条（SD－2）を検出した（第2調査面）。

まとめ

今回の調査では、弥生時代中期前葉～後期の遺構を検出することができた。弥生時代中期前葉の遺構は、土器棺と溝で、その形状からみて方形周溝墓である可能性が高く、この時期この地域が墓域であったことが確認された。また、弥生時代後期の生活面を検出した調査面は、近畿自動車道に伴う調査で検出されている調査面より、2m程度高い微高地に位置していることが確認された。



検出遺構平面図

SK－1　検出状況（西から）

第１調査面全景（南から）

第２調査面　ＳＤ－２検出状況（南から）

21　八尾南（やおみなみ）遺跡（第11次調査）

調 査 地　八尾市西木の本１丁目48・49

調査期間　昭和63年７月19日～昭和63年７月26日

調査面積　100㎡

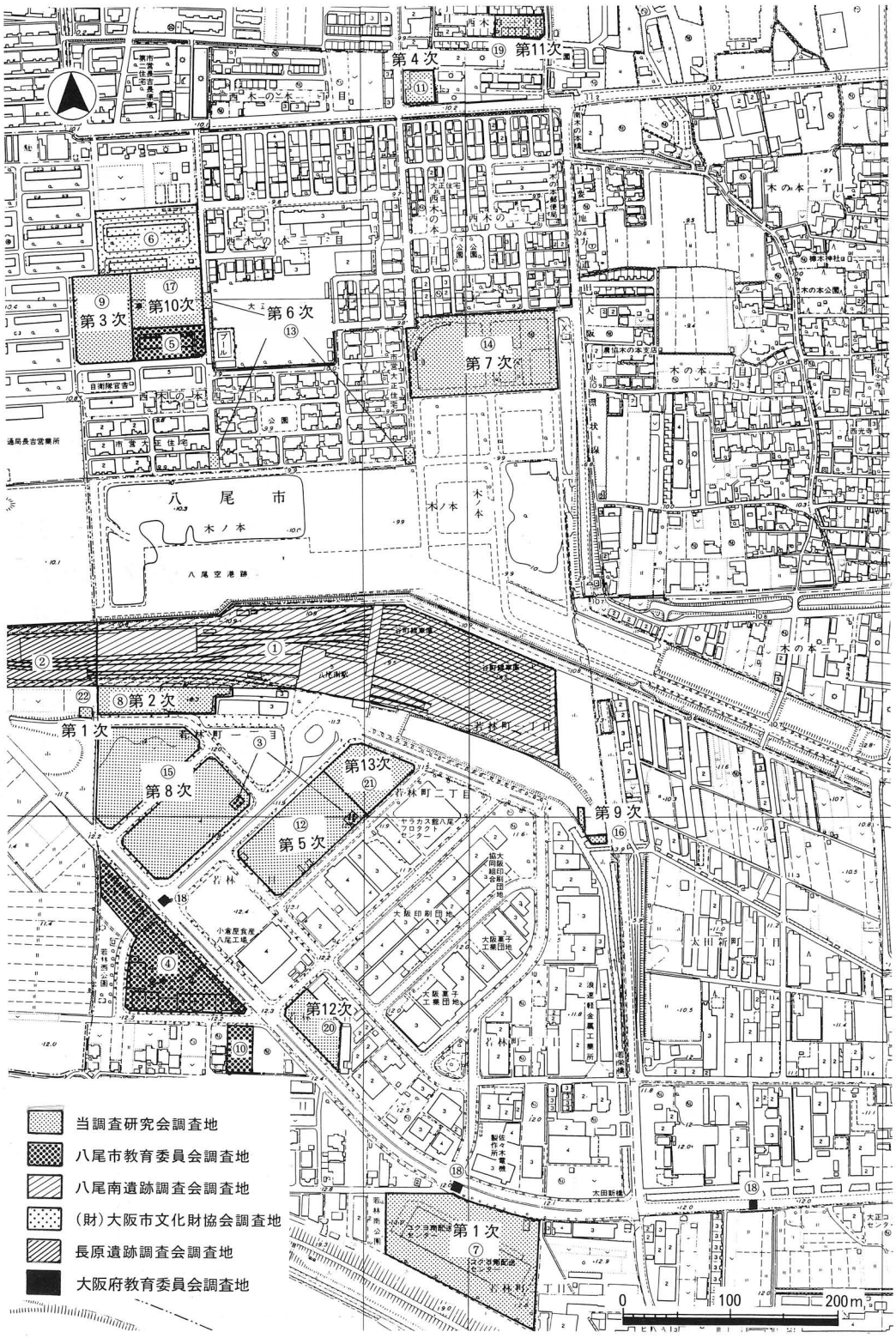
はじめに

八尾南遺跡は、八尾市木の本・西木の本・若林町に所在する、旧石器時代から中世に至る複合遺跡であり、昭和53年～54年に実施された地下鉄谷町線建設に伴う事前調査をはじめとする数次に亘る調査により、その実態が明らかになりつつある。

八尾市西木の本１丁目48・49番地内において、下村清之祐氏より、共同住宅建築を計画している旨の届出が八尾市教育委員会文化財室に提出された。文化財室では当地が八尾南遺跡の北

周辺の発掘調査一覧表

番　号	調　査　主　体	調　査　期　間	文　　献	発　行
①	八尾南遺跡調査会	53年４月～55年３月	八尾南遺跡	1981.3
②	長原遺跡調査会	53年７月～54年８月	大阪市平野区長原遺跡発掘調査報告Ⅱ	1982
③	八尾市教育委員会	55年６月	八尾市南遺跡・東郷遺跡発掘調査概要 八尾市文化財調査報告６	1981.3
④	同　上	55年12月～56年１月	—	—
⑤	同　上	56年６月～56年７月	八尾市埋蔵文化財発掘調査概要1980・1981年度 (財)八尾市文化財調査研究会報告２	1983.3
⑥	(財)大阪市文化財協会	57年12月～58年３月	—	—
⑦	当調査研究会(第１次)	58年２月～58年６月	昭和58年度事業概要報告： (財)八尾市文化財調査研究会報告５	1984.4
⑧	同　上(第２次)	59年１月～59年７月	昭和59年度事業概要報告： (財)八尾市文化財調査研究会報告７	1985.4
⑨	同　上(第３次)	59年７月～60年９月	八尾市埋蔵文化財発掘調査概要昭和59年度 (財)八尾市文化財調査研究会報告６	1985.3
⑩	八尾市教育委員会	59年７月	八尾市内遺跡昭和59年度発掘調査報告書 八尾市文化財調査報告11	1985.3
⑪	当調査研究会(第４次)	59年10月～59年11月	昭和59年度事業概要報告： (財)八尾市文化財調査研究会報告７	1985.4
⑫	同　上(第５次)	61年９月～62年７月	八尾市文化財調査研究会年報昭和62年度 (財)八尾市文化財調査研究会報告16	1988.12
⑬	同　上(第６次)	62年１月	昭和61年度事業概要報告 (財)八尾市文化財調査研究会報告14	1987.12
⑭	同　上(第７次)	62年２月～62年７月	八尾市文化財調査研究会年報昭和62年度 (財)八尾市文化財調査研究会報告16	1988.12
⑮	同　上(第８次)	62年５月～63年１月	同上	—
⑯	同　上(第９次)	62年７月～62年８月	同上	—
⑰	同　上(第10次)	62年７月～62年10月	同上	—
⑱	大阪府教育委員会	62年４月～62年６月	八尾南遺跡－旧石器出土第３地点－	1989.3
⑲	当調査研究会(第11次)	63年７月	今回報告	
⑳	同　上(第12次)	63年８月～63年10月	同上	—
㉑	同　上(第13次)	63年９月～元年２月	同上	—
㉒	同　上(第１次)	63年８月	同上	—


第1次
第2次
第3次
第4次
第5次
第6次
第7次
第8次
第9次
第10次
第11次
第12次
第13次
八尾市
木ノ本
当調査研究会調査地
八尾市教育委員会調査地
八尾南遺跡調査会調査地
(財)大阪市文化財協会調査地
長原遺跡調査会調査地
大阪府教育委員会調査地
0
100
200m

調査地周辺図

辺に位置し、また西接する４次調査地では、古墳時代の溝などの遺構が検出されている事から、試掘調査を実施し、遺構及び遺物包含層の有無の確認を行った。その結果、ＧＬ－2.5ｍ前後に弥生時代から古墳時代の遺物包含層を確認したため、予想される地下遺構の保存について、事業主側と再三協議を行った。しかし、建物の構造上、地下遺構の破壊はまぬがれず、共同住宅建設に先立って記録保存を行うことを決定し、さらに協議の間、事業主側と行政側の間に相当の意見の食い違いがあり、調査は建物面積600㎡に対し、東側の100㎡のみに留まらざるを得なかった。また期間も１週間と限定され、さらに、作業員や、調査機材などについても大幅に限定された。

調査方法

発掘調査は、申請建物の東側100㎡のみを対象として行った。調査地は先述の通り４次調査に西接する場所で、文化財室が実施した試掘調査の成果からも、４次調査地とほぼ同様の土層堆積が考えられた事から、包含層である黒灰色粘土上面までを重機にて掘削し、以下４次調査での遺構検出面である緑灰色シルト上面で精査を行うこととした。また、当該地周辺は、砂層の堆積が厚く、湧水により調査区壁面の崩壊が予想されたため、調査区内に板をめぐらすこととした。その為、土層図の作成に支障をきたす結果となり、本書における土層図は、模式図と一部の断面図のみに留まらざるを得なかった。

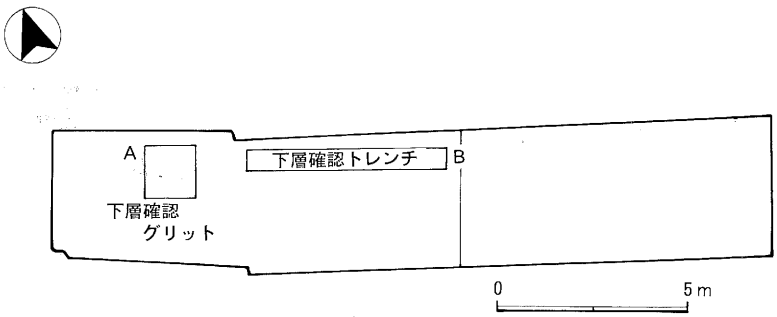
また、包含層下の調査については、調査期間が非常に短く、さらに４次調査の遺構検出面について何の検証もせず信用したため、結果として遺構面を誤認し、削平することとなってしまった。これについては後章で詳しく述べ、お侘びしたいと思う。

調査の概要

１）基本層序

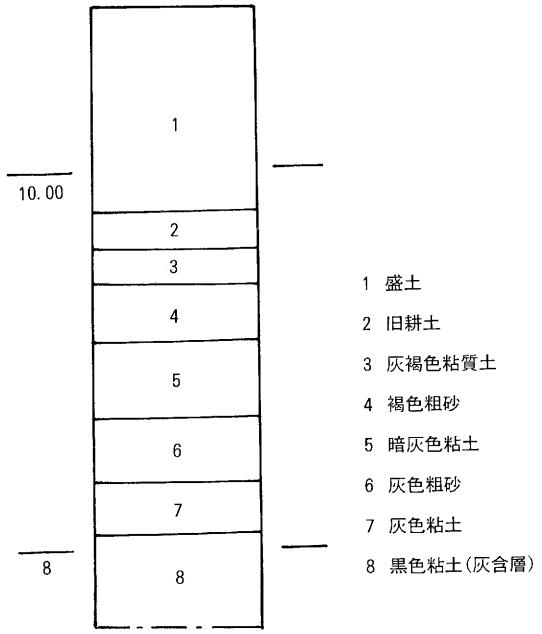
当調査区では、最終確認グリット最下部まで、18層の堆積を認める事が出来た。

地表下１ｍまでは造成時の盛土で、２層は造成以前の耕作土であり、厚さ約20㎝を測る。



調査区平面図

第３層は灰褐色粘質土で厚さ約20cm。４層は褐色粗砂で、層厚は30cmで湧水層である。以下、５層暗灰色粘土、層厚40cm、６層灰色粗砂、層厚約30cm、７層灰色粘土、層厚約25cmで堆積しており、遺物はいずれの層でも確認できなかった。８層の黒灰色粘土、９層の灰黒色粘質シルトは、いずれも層厚30cm程度で、弥生時代後期～庄内式期の遺物を包含する。10～12層は、長原遺跡における土層区分でＮＧ８層に相当する土層で、緑灰色シルト層を基調とし、層厚最大60cmを測る。13層の青灰色微砂混粘土以下は、14層灰褐色粘質土、15層黒灰色粘土Ⅱ、16層明灰褐色粘土、17層青灰色粘質微砂の順で堆積し、これらは植物遺体を多量に含む土層で最終確認土層は植物遺体を含まない18層青灰色微砂混じりシルトである。遺物は、15層からは時期こそ不明であるが、胎土に粗い砂粒を多量に含む土器片１片が出土したのみである。



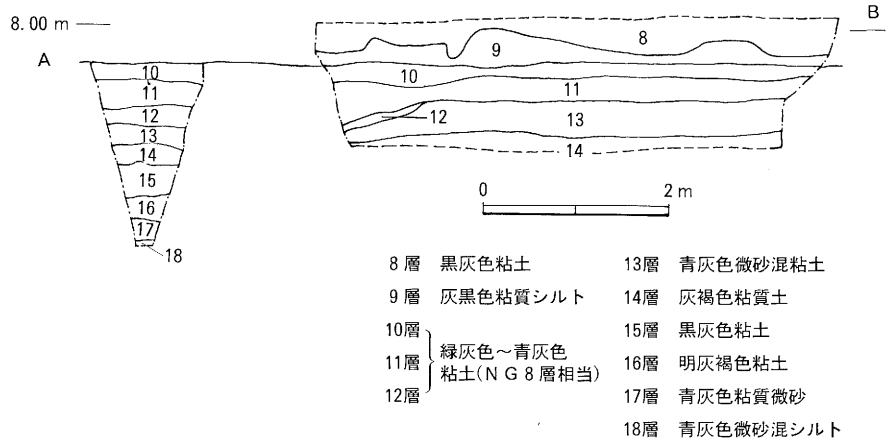
基本層序模式図

また、これらの層は、先に挙げた長原遺跡における土層区分によると、15層＝ＮＧ９Ｃ層、17層＝ＮＧ10層、18層＝ＮＧ11層に相当するという御教示を得た。[註1]

２）包含層内における遺物出土状況について

今回の調査については先述の通り、遺構面を削平するという大失態を起こしてしまったため、出土した遺物についても明確に評価を与える事が出来ず、発掘調査にたずさわる一員として、ただただ恥じるばかりである。筆者がここで出来るのは調査中に知り得た知見を出来るだけ詳細に報告する事だけであり、以下の文章を報告にかえたいと思う次第である。

今回確認した包含層は、調査開始の段階において一層であると認識していたが、調査中に２層に分層される事が明らかになり、両者は色調は似通っているものの、土質においては異なるもので、多少検討さえすれば、違いが認識できるものである。また、遺物の密度は、包含層の



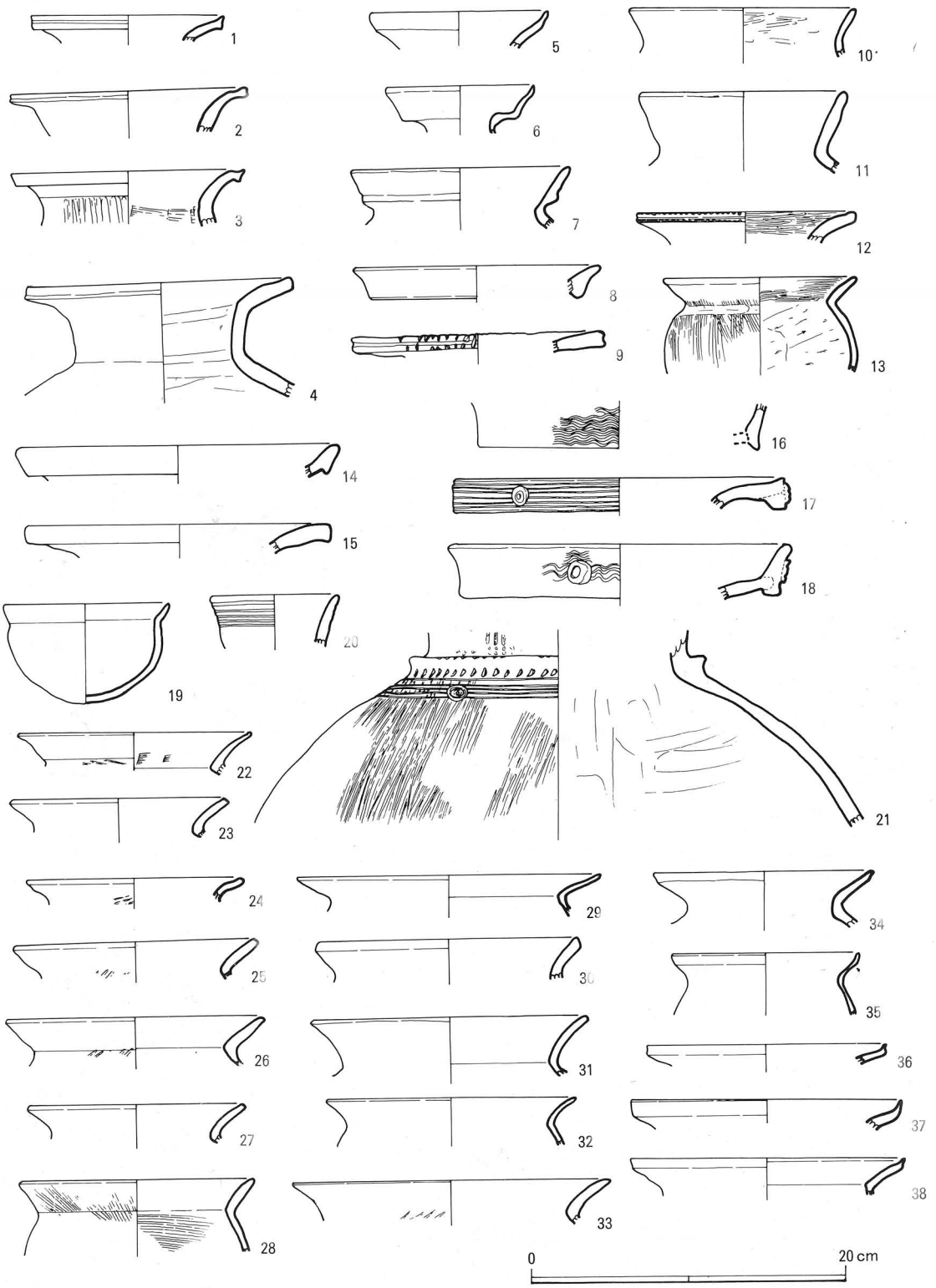
調査区北壁土層断面図

上部、つまり８層の黒灰色粘土ほど高く、さらに遺物が集中して出土する傾向を示し、その遺物の集中部が断面図上で９層の落ち込んだ部分にあたる事が、調査終了直前にて判明した。しかし、断面に表れている落ち込みは、溝などの遺構になる可能性は極めて薄く、自然地形の落ち込んだ部分に土器が堆積したものと考えられる。

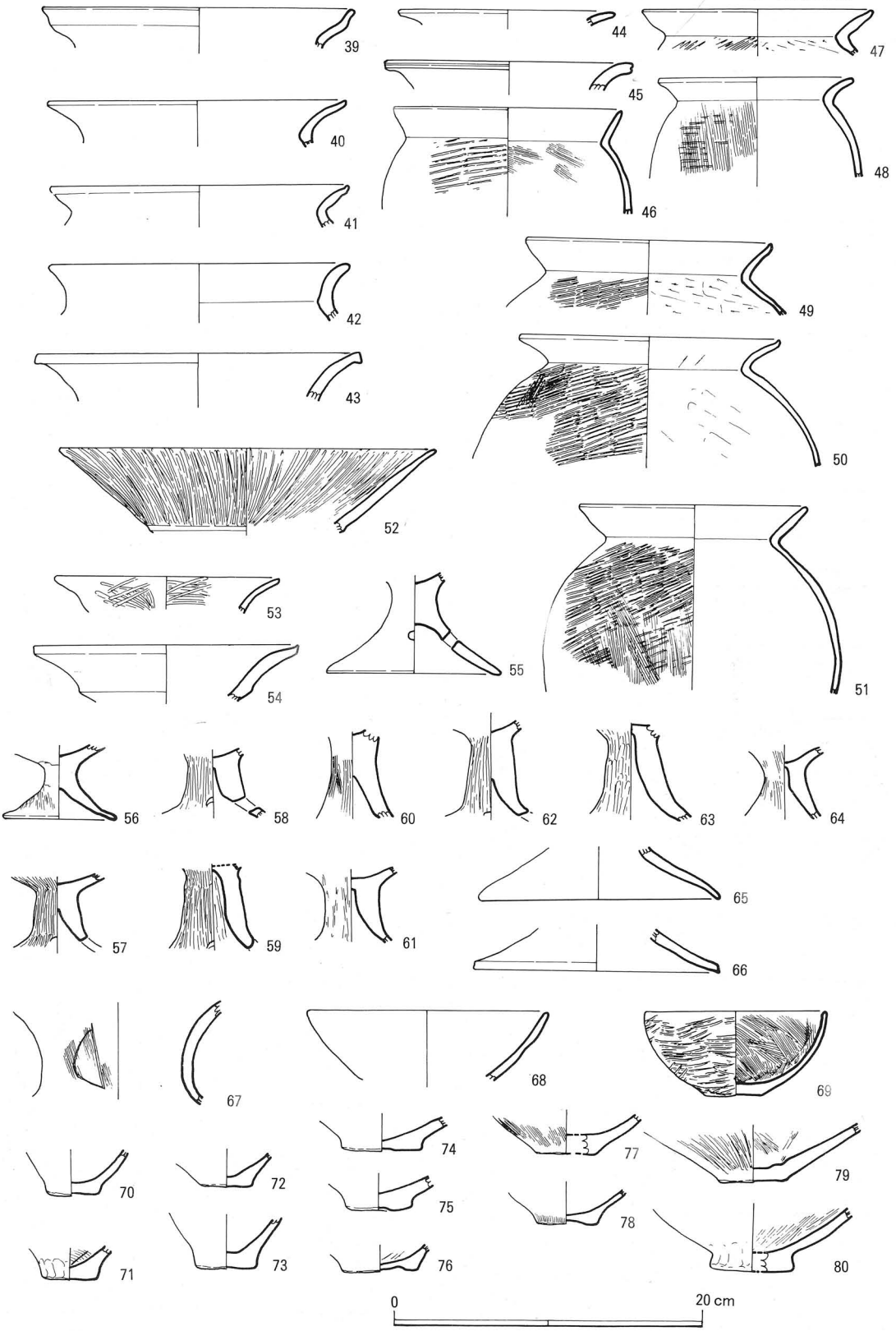
次に出土遺物に見られる時期幅と層位の問題についてであるが、遺物は大まかに弥生時代後期前半・後半・庄内に分けられるが、後期後半の土器と庄内期の土器は、同じ８層から出土しており、この事は筆者自身が掘削した際に両者が同一層位内のほぼ同じレベルから出土しているのを確認している為、まず間違いあるまい。しかし、後期前半の土器については、８層に伴うものが、９層に伴うものかは判定しかねる。

最後に調査地内に遺構が存在したかについての問題と包含層の性格についてであるが、遺構の有無については、遺構面である９層が層厚最大40cmとさほど厚くないため、溝や住居趾などの遺構が存在したとすれば、10層上面でも何らかの痕跡は残る筈であり、それが確認されなかったという事は、たとえ遺構が存在したとしても、比較的浅い遺構が、散在していたにすぎないであろう。また、包含層の形成については、含まれる土器の量が極めて多く、また、ほとんど摩耗していない事から、当調査地の極めて近い場所に立地する集落からの流入であると考えられ、その場所は、10層上面が若干南から北へ傾斜する事や、旧石器時代から現代に至るまで安定した土地である羽曳野丘陵が存在する事から、本調査地の南側であった可能性が高い。

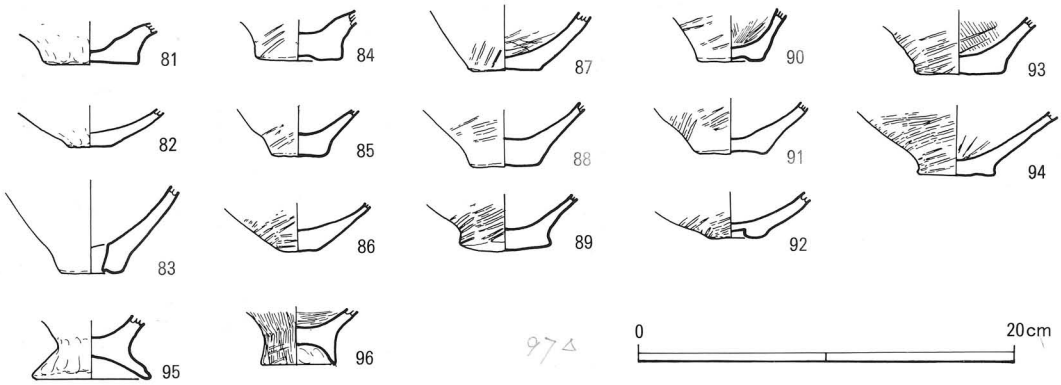
註１　㈶大阪市文化財協会　高橋工、清水和明氏の御教示による。



包含層出土遺物実測図 1



包含層出土遺物実測図 2



包含層出土遺物実測図３

出土遺物観察表

遺物番号	器種	法量 口径 (cm) 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存状況
1	広口壺	12.2	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部外面端部を肥厚させ、口縁部外面に浅い沈線状の凹みが廻る。	乳橙色	密	良好	口縁部½
2	広口壺	14.8	口縁部内外面ヨコナデと思われる。口縁端部は面を成し、沈線状の凹みが廻る。	乳褐色～乳赤褐色	やや粗 長石（0.1～1.5㎜）石英（1～3㎜）を含む。	良好	口縁部⅛
3	広口壺	10.8	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面ハケナデが認められる。頸部外面ヘラミガキ。口縁部外面端部を垂下させ、面を成す。	淡茶灰色～淡灰褐色	やや粗	良好	口縁部⅙
4	広口壺	16.8	口縁部内外面ヨコナデ。頸部および体部外面の一部にヘラミガキが認められるが不明瞭頸部および体部内面に弱いヘラケズリが認められる。口縁部外面に粘土紐接合痕遺存。	淡灰茶色～淡灰橙色	やや粗 長石・石英（0.1～1㎜）を含む。	良好	口縁部のみ遺存。
5	広口壺	11.2	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部外面に粘土紐接合痕遺存。口縁部外面に浅い沈線状の凹みが２条廻る。	淡灰茶色	やや粗 長石・石英・チャート（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	口縁部⅙
6	二重口縁壺	9.3	口縁部および頸部内外面ヨコナデ。口縁部と頸部の境に低い段を成す。口縁部外面端部付近には、浅い沈線状の凹みが廻る。	明赤茶色～明橙色	やや粗 長石・石英（0.1～2㎜）を含む。	良好	口縁部⅙
7	甕	13.8	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面ヘラケズリが認められる。口縁部と頸部の境にヨコナデによる低い凸帯が廻る。	内面暗灰色～淡乳褐色 外面淡灰褐色	やや粗 長石・石英（0.1～2㎜）を含む。	良好	口縁部¼
8	二重口縁壺	15.2	口縁部内外面ヨコナデ。口縁端部は下方へ垂下し、外面に面を持つ。垂下部の外面には薄く接合痕がみられる。	淡茶灰色	やや粗 長石・石英・チャート（0.1～1㎜）をわずかに含む。	良好	口縁部⅛

遺物番号	器種	法量（cm）口径 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存状況
9	広口壺？	16.2	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部外面端部にキザミ目を施した後、中央にヘラ描き沈線を施す。	乳灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1～1㎜）を含む。	良好	口縁部⅙
10	直口壺	14.2	口縁部内面の一部にヘラミガキが認められるが、他は調整不明瞭。	淡赤褐色～乳茶橙色	やや粗 長石・石英（0.1～2㎜）を含む。	良好好	口縁部⅙
11	直口壺	13.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリの後ナデ。体部外面ナデ。	乳赤茶色～暗褐色	やや粗 石英・長石（0.1～2㎜）を含む。	良好	口縁部¼
12	広口壺	13.6	口縁部外面ヨコナデ。口縁部内面密なヘラミガキ。口縁端部は面を持ち、ヘラ状工具による刺突文を施した後、沈線状の浅い凹みが廻る。	暗褐色～淡茶褐色	やや粗 石英・長石（0.1～1㎜）をわずかに含む。	良好	口縁部に煤付着 口縁部⅙
13	甕	12.2	口縁部外面ヨコナデ。口縁部内面ハケナデ。（9本／cm）体部内面ヘラケズリ。体部外面にハケナデ（9本／cm）を施す。頸部はハケナデの後にヨコナデを施す。	乳灰茶色～乳灰褐色	やや粗 石英・長石（0.1～1㎜）を含む。	良好	¼
14	広口壺？	19.8	口縁部内外面ヨコナデ。口縁端部は下方に垂下し、面を成す。	乳赤茶色～淡灰茶色	やや粗	良好	口縁部⅛
15	広口壺	19.4	口縁部外面板状工具によるヨコナデ。口縁部内面の一部にヘラミガキが遺存。口縁部外面に粘土紐接合痕遺存。口縁端部は面を成し弱いハケナデの痕跡が認められる。	淡赤茶色～乳灰白色	やや粗	良好	口縁部¼
16	二重口縁壺		口縁部内外面ヨコナデ。口縁端部は上下方へ拡張し、外面に8本／1.0cmを一単位とする櫛描きの波状文を施す。口縁端部は欠損。	内面 乳茶色 外面 乳橙色	密	良好	口縁部⅙
17	広口壺	21.0	口縁部内外面ヨコナデ。口縁端部は下方へ垂下して面を成し、櫛描きの直線文を弱く施した後、円形浮文を施す。	内面 乳灰色 外面 乳赤茶色	やや粗 長石・石英（0.1～2㎜）をやや多く含む。	良好	口縁部⅙
18	二重口縁壺	21.0	口縁部内外面ヨコナデ。口縁端部は下方へ垂下し、外面に櫛描きの波状文を施した後に円形浮文を施す。頸部外面の一部にヘラミガキが認められる。	淡茶褐色	やや粗 角閃石・チャート・石英・長石・雲母（0.1～4㎜）を含む。	良好	口縁部⅛
19	鉢	10.5 6.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ともに調整不明瞭。	乳茶色	やや粗 長石・石英・雲母（0.1～3㎜）を含む。	良好	½以上
20	鉢？	7.9	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部外面に浅い沈線が6条廻る。	乳白赤色	やや粗 石英・チャート（0.1～0.5㎜）をわずかに含む。	良好	口縁部⅙
21	二重口縁壺	胴部最大径 39.0	体部外面は密なヘラミガキ。体部内面は板状工具によるナデ。体部外面上部に5条のヘラ描き直線文を施した後に円形浮文を配す。頸部は段を有し、下位には逆C字形の刺突文。	淡茶色	やや粗 長石・石英・雲母（0.1～5㎜）を含む。	良好	体部外面に赤色顔料塗布 体部⅙
22	甕	14.6	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部内面の一部にハケ目が遺存。頸部内面ヘラケズリ。頸部外面の一部にタタキ目が遺存。	黒褐色～淡灰褐色	やや粗 長石・角閃石・雲母（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	口縁部⅛

遺物番号	器種	法量（cm） 口径 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存状況
23	甕	13.4	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面の一部にヘラケズリが認められる。口縁端部は面を持つ。	淡灰褐色 ～ 灰褐色	やや粗 長石・石英・雲母・角閃石（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	口縁部1/6
24	甕	13.6	口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面の一部にタタキ目が認められる。口縁端部はわずかにつまみ上げ、ゆるやかに面を持つ。	淡茶灰色	やや粗 長石・石英・チャート（0.1㎜）を含む。	良好	口縁部1/8
25	甕	15.2	口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面の一部にタタキ目が遺存。	乳灰褐色	やや粗 チャート・石英（0.1～2㎜）を含む。	良好	口縁部外面に煤付着 口縁部1/4
26	甕	16.1	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面ヘラケズリ。頸部外面の一部にタタキ目が遺存。口縁部外面の一部に粘土紐接合痕が認められる。	淡赤茶色 ～ 淡乳褐色	やや粗 石英・長石（0.1～2㎜）を含む。	良好	口縁部1/3
27	甕	13.6	口縁部内外面ヨコナデ。他は調整不明瞭。	淡茶灰色	やや粗 長石・石英（0.1～2㎜）を含む。	良好	口縁部1/6
28	甕	14.8	口縁部内面ヨコナデ。口縁部外面ハケナデ。（8本／cm）。体部内面ハケナデ（12本／cm）。体部外面の一部に平行状のタタキ目が遺存するが、ナデによって消されている。	淡茶灰色	やや粗 石英・長石（0.1～1㎜）を含む。	良好	口縁部から体部1/6
29	甕	19.2	口縁部内外面および頸部外面ヨコナデ。頸部内面はヘラケズリ。	淡赤茶色 ～ 淡灰茶色	密 長石（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	口縁部1/8
30	甕	16.3	口縁部内外面ヨコナデ。他は調整不明瞭。口縁端部はわずかにつまみ上げられる。	乳茶灰色 ～ 淡黄灰色	密 長石・石英（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	口縁部1/6
31	甕	17.3	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内外面は板状工具によるナデ。	淡灰橙色	密 長石（0.5㎜）をわずかに含む。	良好	口縁部内外面に煤付着 口縁部1/6
32	甕	15.8	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内外面はナデ頸部内外面の一部に粘土紐接合痕が遺存。	内面 淡赤茶色～淡橙色 外面 暗灰色～淡灰色	やや粗 長石・石英（0.1～2㎜）をやや多量に含む。	良好	口縁部1/6
33	甕	20.2	口縁部内外面の上位はヨコナデ。口縁部内面中位以下の一部にハケナデ（10本／cm）が遺存する。口縁部外面中位以下の一部にタタキ目が認められる。	淡茶灰色	やや粗 長石・石英（0.1～1㎜）を含む。	良好	口縁部1/6
34	甕	13.7	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面の一部にハケナデが認められる。頸部外面はナデ。頸部外面の一部に粘土紐接合痕が遺存。口縁端部をわずかに上方へつまみ上げる。	内面 乳灰橙色 ～ 乳茶灰色 外面 淡灰褐色	やや粗 長石・石英（0.5～2㎜）をやや多量に含む。	良好	口縁部1/4
35	甕	12.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面は板状工具によるナデ。体部外面はナデ。口縁部は上方へつまみ上げられ、外面は面を成し、複合口縁状を呈する。	淡褐色 ～ 淡茶灰色	密 長石（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	口縁部外面に煤付着 口縁部1/4
36	甕？	15.2	口縁部内外面ヨコナデ。口縁端部は上方へつまみ上げられ、外端面を成す。	内面 淡灰褐色 外面 乳灰橙色	やや粗 長石・石英（0.1～1㎜）を含む。	良好	口縁部1/6

遺物番号	器種	法量(cm) 口径 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存状況
37	甕？	15.2	口縁部内外面ヨコナデ。口縁端部は上方へつまみ上げられ、外端面は面を成す。	淡褐色～淡赤褐色	やや粗 長石・石英・雲母（0.1～1㎜）を含む。	良好	口縁部1/6
38	甕	17.5	口縁部内外面ヨコナデ。他は調整不明瞭。	淡灰褐色～乳灰橙色	密 長石・赤色酸化粒（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	口縁部外面に煤付着 口縁部1/6
39	甕	20:0	口縁部内外面ヨコナデ。他は調整不明瞭	乳灰茶色	やや粗 長石・チャート・石英（0.1～2㎜）を含む。	良好	口縁部1/8
40	甕	19.2	口縁部内外面ヨコナデ。他はナデ。	暗灰褐色～淡茶橙色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	口縁部1/6
41	甕	19.2	口縁部内外面および頸部内外面ヨコナデ。口縁端部はわずかに上方へつまみ上げられ、外端面は面を成す。	内面 淡茶灰色 外面 淡灰褐色	やや粗 長石・石英（0.1～1㎜）を含む。	良好	口縁部1/6
42	甕	19.1	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面ヘラケズリ。頸部外面はナデ。	淡灰褐色～灰赤茶色	やや粗 長石・石英（0.1～2㎜）を含む。	良好	口縁部1/6
43	甕	20.8	口縁部内外面ヨコナデ。口縁端部は外傾する面を持つ。	乳灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1～1㎜）を含む。	良好	口縁部1/8
44	甕	14.0	口縁部内外面ヨコナデ。	淡灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1㎜）を含む。	良好	口縁部1/8
45	甕	15.8	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部と頸部の境に粘土紐接合痕が遺存する。口縁端部外面は面を成し、ヘラ描き沈線文が廻る。	乳灰茶色～淡灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1～2㎜）を含む。	良好	口縁部外面に煤付着 口縁部1/8
46	甕	14.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面はハケナデ（15本／cm）。体部外面はタタキ（3条／cm）。体部内面の一部に指頭圧痕が遺存。	内面 淡茶橙色 外面 淡灰褐色～淡茶橙色	密	良好	1/6
47	甕	14.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部上位内面ヘラケズリ。体部上位外面はタタキ（5条／cm）。口縁端部をわずかにつまみ上げる。	淡茶灰色	密 長石・赤色酸化粒（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	口縁部1/4
48	甕	12.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面弱いナデ。体部外面タタキ（3条／cm）を施した後にハケナデ（9本／cm）を体部上位より施す。口縁端部は面を持つ。	内面 淡灰橙色 外面 淡赤茶色～灰赤茶色	やや粗 長石・チャート・石英（0.1～1㎜）を含む。	良好	1/6
49	甕	15.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ体部外面タタキ（4条／cm）。	淡灰茶色～乳灰褐色	密 長石（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	口縁部外面に煤付着 1/6
50	甕	16.8	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部内面の一部に板状工具の圧痕が遺存。体部外面はタタキ。（4条／1cm）一部にハケナデが遺存。体部内面の一部に指ナデが認められるが、他はヘラケズリ。	淡茶灰色～淡赤茶色	密	良好	1/4

遺物番号	器種	法量（cm） 口径 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存状況
51	甕	14.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリと思われるが調整不明瞭。体部外面タタキ（4条／cm）の後ハケナデ（9本／cm）を、体部中位付近に施す。	淡灰橙色 ～ 淡灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	1/4
52	高杯	24.2	口縁端部内外面ヨコナデ。杯部内外面ともにヨコナデの後に放射状のヘラミガキを施す。杯部と柱状部の境にはヨコナデを施し段を成す。	内面 淡灰褐色 外面 暗灰褐色 ～ 淡灰橙色	やや粗 長石・石英（0.1～2㎜）をわずかに含む。	良好	杯部1/4
53	高杯	14.8	口縁部内外面は横方向の密なヘラミガキ。口縁端部はヨコナデを施す。	淡茶橙色 ～ 淡茶灰色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	口縁部1/8
54	高杯	17.2	口縁部および杯部内外面はヨコナデ。口縁端部を上方へつまみ上げる。口縁部と杯部の境に粘土紐接合痕が遺存し、扁平な段を成す。	内面 淡茶灰色 外面 淡灰茶色	やや粗 長石・石英・チャート（0.1～2㎜）を含む。	良好	杯部1/6
55	高杯	裾径 11.4	裾部外面の一部にハケメが認められるが、内外面ともに調整不明瞭。裾部上位に透し孔を4孔穿つ。裾端部は丸く納める。	淡灰橙色 ～ 乳灰茶色	粗 長石・石英・チャート（0.1～3㎜）を多量に含む。	良好	裾部1/2
56	高杯	裾径 7.4	柱状部内外面および裾部内面、柱状部外面にナデを施す。裾部外面はハケナデ（11本／cm）。裾端部はヨコナデ。柱状部と杯部の境に粘土接合痕遺存。柱状部外面にヘラ状工具痕遺存。	乳灰橙色 ～ 乳灰白色	やや粗 長石・石英（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	裾部1/2以上
57	高杯		ほぼ中空の柱状部である。杯部および柱状部、裾部上位の外面はいずれも密なヘラミガキ。柱状部内面にしぼり目が遺存。杯部内面および裾部内面はナデ。透し孔は一孔のみ。	乳灰橙色 ～ 乳灰白色	やや粗 石英・チャート（0.1～1㎜）を含む。	良好	杯部の一部および柱状部
58	高杯		中実に近い柱状部である。杯底部はナデ。柱状部および裾部の一部は密なヘラミガキ。裾部の一部にハケナデが認められる。裾部上位の四方に円形の透し孔を穿つ。	乳灰褐色 ～ 淡灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1～1㎜）を含む。	良好	柱状部および裾部の一部
59	高杯		中空の柱状部である。柱状部内面はナデ。しぼり目が遺存する。柱状部外面はハケナデ（10本／cm）後密なヘラミガキ。裾部上位の四方に円形の透し孔を穿つ。	淡赤茶色 ～ 暗灰褐色	密 長石（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	柱状部および裾部の一部
60	高杯		ほぼ中実の柱状部である。柱状部内面は弱いナデ。柱状部外面はハケナデ（9本／cm）。透し孔は観察できない。	淡赤茶色 ～ 乳灰橙色	密 長石・チャート（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	柱状部のみ
61	高杯		中空の柱状部である。柱状部外面の一部にヘラミガキが認められるが、調整不明瞭。他はナデと思われる。裾部内面の一部にヘラケズリが認められる。透し孔は観察できない。	淡褐色 ～ 淡灰褐色	やや粗 長石・石英・雲母・角閃石（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	柱状部のみ
62	高杯		ほぼ中実の柱状部である。柱状部外面に密なヘラミガキを施す。柱状部および裾部内面は弱いナデ。裾部上位の四方に透し孔を穿つ。	乳灰褐色 ～ 淡灰茶色	密 長石（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	柱状部および裾部の一部
63	高杯		中空の柱状部である。柱状部内面はナデ。柱状部外面は密なヘラミガキを施す。透し孔は一孔のみ裾部上位にわずかに認められる。	乳灰褐色 ～ 灰褐色	やや粗 長石・石英・チャート（0.1～2㎜）を含む。	良好	柱状部のみ
64	高杯		中実に近い柱状部である。柱状部内面の一部にハケ目が認められるが、他はナデ。柱状部外面にヘラミガキを施す。杯底部はナデ。透し孔は観察できない。	淡灰茶色	密	良好	杯底部および柱状部のみ

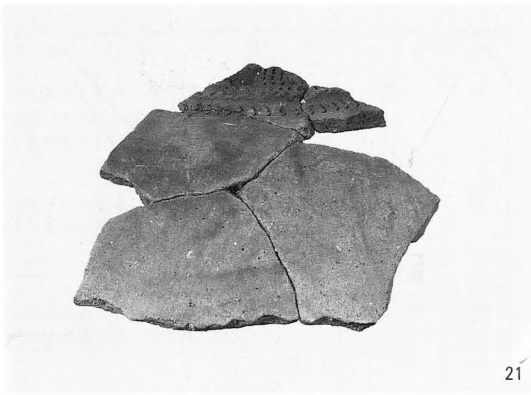
遺物番号	器種	法量 口径(cm) 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存状況
65	高杯	裾　径 15.6	下外方へ広がる高杯の裾部である。裾端部は丸く納める。裾端部はヨコナデ。他はヘラミガキと思われるが調整不明瞭。透し孔は観察できない。	乳灰茶色 ～ 乳灰橙色	やや粗 長石・石英の微砂粒をわずかに含む。	良好	裾部1/4
66	高杯	裾　径 16.0	下外方へ広がる高杯の裾部である。裾端部は面を持つ。裾端部はヨコナデ。裾部外面の一部にヘラミガキが認められる。他は内外面ともにナデ。透し孔は一孔のみ観察できる。	淡灰褐色	やや粗 長石・石英・雲母(0.1～0.5㎜)をわずかに含む。	良好	裾部1/3
67	器台		頸部内面ナデ。頸部外面の一部にハケメが認められるが調整不明瞭。頸部外面に逆「D」字形のヘラ状工具による記号文？が認められる。	淡灰橙色	やや粗 長石・石英・チャート(0.1～3㎜)を多量に含む。	良好	頸部1/3
68	鉢	15.3	口縁部内外面ヨコナデと思われる。体部内外面はヘラミガキと思われるが調整不明瞭。	淡橙灰色 ～ 淡茶灰色	やや粗 石英・長石・チャート・赤色酸化粒(0.1～0.5㎜)を含む。	良好	体部1/4
69	鉢	11.8 5.4 底　径 3.8	口縁部および体部内面ハケナデ(8本／cm)。口縁部および体部外面タタキ(3条／cm)。外底面はナデ。口縁端部にナデを施す。	内面 乳灰橙色 外面 乳灰茶色	やや粗 長石・石英・チャート(0.1～2㎜)を含む。	良好	1/2
70	壺	底　径 3.4	底部内面は板状工具によるナデ。工具痕が遺存する。底部外面は指頭圧成形後にヘラミガキを施すが、磨耗のため調整不明瞭。外底面はナデ。	乳灰橙色 ～ 乳灰茶色	やや粗 石英・チャート・長石(0.1～1㎜を含む。	良好	底部のみ
71	甕	底　径 3.6	底部内面はハケナデ(9本／cm)。底部外面はナデ。底部外側面に指頭圧痕が遺存。外底面はナデ。	内面 黒灰色 外面 淡茶灰色 ～ 乳茶色	やや粗 長石・石英(0.1～1㎜)を含む。	良好	底部のみ
72	壺？	底　径 3.1	底部内外面および外底面はナデ。底部外側面の一部にヨコナデが認められる。	暗灰褐色 ～ 淡灰褐色	密 長石(0.1㎜)をわずかに含む。	良好	底部のみ
73	壺	底　径 3.8	底部内面板状工具によるナデ。工具痕が遺存する。底部外面は指頭圧成形後ナデを施す。外底面ナデ。	内面 淡灰褐色～淡灰茶色 外面 黒褐色～淡灰茶色	やや粗 長石・石英(0.1～1㎜)を含む。	良好	底部のみ
74	甕	底　径 5.2	底部内面は板状工具によるナデ。一部に工具痕が遺存。底部外面はナデと思われるが、一部にヘラ状工具の圧痕が認められる。外底面はナデ。	内面 乳灰茶色 外面 淡灰褐色	やや粗 長石・石英(0.1～0.5㎜)を含む。	良好	底部のみ
75	甕	底　径 4.2	底部内面は板状工具によるナデ。一部に工具痕が遺存。底部外面は指頭圧成形後、ナデを施す。外底面はナデ。外底面に粘土紐接合痕が遺存。	内面 淡灰褐色 外面 淡灰茶色	やや粗 長石・石英・雲母・チャート(0.1～0.5㎜)を含む。	良好	底部のみ
76	甕	底　径 5.0	底部外面および外底面ナデ。底部内面は板状工具によるナデ。工具痕が遺存する。	乳灰茶色 ～ 淡灰茶色	やや粗 石英・長石・チャート(0.1～0.5㎜)を含む。	良好	底部1/3
77	壺？	底　径 3.8	底部内面板状工具によるナデ。工具痕が遺存する。底部外面はハケナデ(9本／cm)。外底面はナデ。	淡赤茶色 ～ 淡灰褐色	やや粗 石英・長石(0.1～1㎜)を含む。	良好	底部1/3
78	甕	底　径 3.9	底部内面ナデ。底部外側面の一部にハケナデが認められるが、他はナデ。底部外底面にヘラ状工盤の圧痕が、不定方向に遺存する。	内面 淡灰茶色 外面 乳赤茶色 ～ 淡灰茶色	やや粗 長石・チャート・石英(0.1～1㎜)を含む。	良好	底部のみ

遺物番号	器種	法量（cm）口径 器高	成形・調整技法	色調	胎土	焼成	備考 遺存状況
79	壺	底径 4.5	底部内面の一部に板状工具による弱いナデが遺存。底部外面は密なヘラミガキ。底部外側面および底部外底面はナデ。	淡灰茶色 ～ 淡灰褐色	やや粗 長石・石英・チャート（0.1～2㎜）を含む。	良好	底部½
80	壺	底径 5.4	底部内面は密なヘラミガキ。底部外面は、外側面の一部にハケナデが認められるが、他はナデ。底部外側面に指頭圧痕が遺存。	内面 暗灰褐色 ～ 淡灰褐色 外面 淡灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1～1㎜）をわずかに含む。	良好	底部½
81	壺	底径 5.0	底部内面に板状工具による圧痕が遺存。底部外面は指頭圧成形の後に、上位はハケナデ下位にヨコナデを施す。底部外側面に指頭圧痕、粘土紐接合痕遺存。外底面はナデ。	内面 暗灰褐色 外面 黒褐色 ～ 淡灰茶色	やや粗 長石・石英（0.1～1㎜）を含む。	良好	底部のみ
82	壺	底径 2.4	底部内底面に板状工具による圧痕が遺存するが、他はナデ。底部外面は一部にヘラミガキが認められるが調整不明瞭。外底面はナデ。	淡灰褐色 ～ 淡灰茶色	密 石英・長石（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	底部½
83	底部有孔土器	底径 3.6	底部内面の一部に板状工具による圧痕が遺存するが、他は調整不明瞭。底面に径1.8㎝の円孔を焼成前に内から外へ穿つ。外底面に粘土紐接合痕遺存。	乳灰茶色 ～ 淡灰茶色	やや粗 石英・チャート（0.1～1㎜）を含む。	良好	底部½
84	甕	底径 4.7	底部内面の一部に板状工具による圧痕が遺存するが、他はナデと思われる。底部外面および外底面の一部はタタキ（3条／㎝）。底部外側の一部はヨコナデによりすり消されている。	内面 淡灰茶色 外面 灰橙色 ～ 灰茶褐色	やや粗 長石・石英（0.1～3㎜）をやや多量に含む。	良好	底部のみ
85	甕	底径 2.8	底部内面ナデ。底部外面タタキ（3条／㎝）。一部のタタキをすり消している。外底面ナデ。	淡茶灰色 ～ 乳灰茶色	密 石英・チャート（0.1～2㎜）をわずかに含む。	良好	底部のみ
86	甕	底径 2.3	底部内面は板状工具によるナデ。工具痕が遺存。底部外面はタタキ（4条／㎝）。外底面にタタキ目が遺存。	内面 乳灰茶色 外面 暗褐色	やや粗 長石・石英・チャート（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	底部のみ
87	甕	底径 3.8	底部内面は板状工具による強いナデ。工具痕が遺存する。底部外面の一部にタタキ目が遺存するが、他はナデ。	乳灰茶色 ～ 乳灰橙色	やや粗 長石・石英・チャート（0.1～1㎜）を含む。	良好	底部のみ
88	甕	底径 3.8	底部内面は板状工具によるナデ。工具痕が遺存する。底部外面は一部にタタキ（3条／㎝が認められるが、すり消されている。外底面はナデ。	内面 暗褐灰色 外面 暗赤茶色 ～ 暗褐灰色	やや粗 石英・長石（0.1～2㎜）を含む。	良好	底部のみ
89	甕	底径 4.7	底部内面および外底面はナデ。底部外面はタタキ（5条／㎝）。底部外側面に底部の粘土が押しつぶされて巻き上がっている。	内面 淡茶灰色 外面 暗褐灰色 ～ 淡赤茶色	密 長石（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	底部のみ
90	甕	底径 3.8	底部内面は板状工具によるナデ。一部にハケメ（12本／㎝）が認められる。底部外面はタタキ（2条／㎝）を施すが、外側面の一部をすり消す。外底面はナデであるが、中央に木葉痕が遺存。	乳灰茶色 ～ 淡灰橙色	密	良好	底部のみ
91	甕	底径 3.8	底部内面はナデ。内面に粘土紐接合痕が遺存。底部外面はタタキ（4条／㎝）。外側面付近は一部すり消されている。外底面に板状工具による圧痕が強く遺存している。	内面 淡茶灰色 外面 灰褐色 ～ 淡赤茶色	密 石英（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	底部のみ
92	甕	底径 3.6	底部内面ナデ。底部外面はタタキ（4条／㎝）。外底面はナデ。外底面中央は窪み、輪台状を呈する。	淡灰茶色 ～ 乳灰茶色	密 長石・石英（0.1㎜）をわずかに含む。	良好	底部のみ

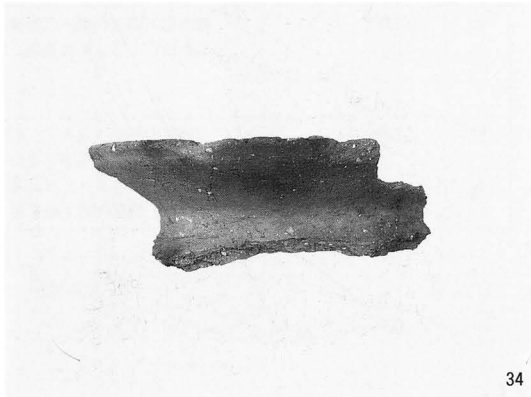
遺物番号	器　種	法量（cm）口径 器高	成　形・調　整　技　法	色　調	胎　土	焼成	備　考 遺存状況
93	甕	底　径　4.6	底部内面は板状工具によるナデ。ハケ目は（10本／cm）認められる。底部外面はタタキ（4条／cm）。外底面はナデであるが、粘土紐接合が一部に遺存する。	灰茶色～灰赤茶色	やや粗 長石・石英（0.1～4㎜）をやや多量に含む。	良好	底部のみ
94	甕	底　径　4.1	底部内面は板状工具によるナデ。工具痕が遺存する。底部外面はタタキ（4条／cm）。外底面はナデ。	内面 褐灰色 外面 茶灰褐色～淡赤茶色	密	良好	底部のみ
95	台付鉢？	裾　部　6.4	脚台部内外面ともにナデ。脚台部外面に指頭圧痕遺存。脚台部内面に粘土紐接合痕遺存。	淡灰褐色～淡灰茶色	密	良好	脚台部のみ
96	台付鉢？	裾　径　4.0	脚台部内面は指頭圧成形後弱いナデ。指頭圧痕が遺存する。その他は、密なヘラミガキ。	淡灰茶色～乳茶色	やや粗 長石・石英（0.1～1㎜）を含む。	良好	脚台部のみ
97	直口壺	8.6	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部はヨコナデによってわずかに内彎している。頸部内面は板状工具によるヨコナデ。頸部外面は密なヘラミガキ。頸部内面下位に粘土紐接合痕遺存。	淡灰茶色～乳茶色	やや粗 長石・石英・チャート・雲母（0.1～0.5㎜）を含む。	良好	口頸部のみ

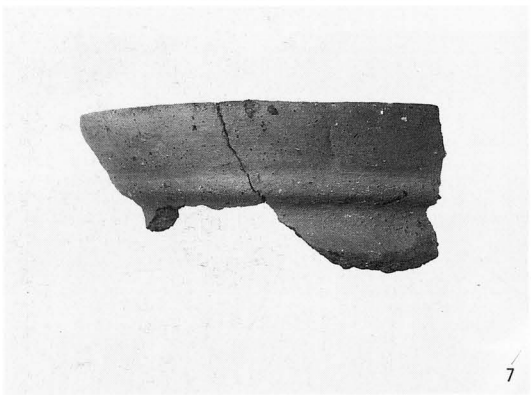
調査区全景（東から）

3


21

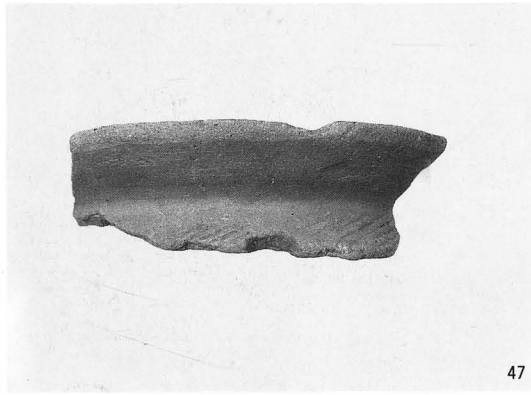
4


34


7

46

11

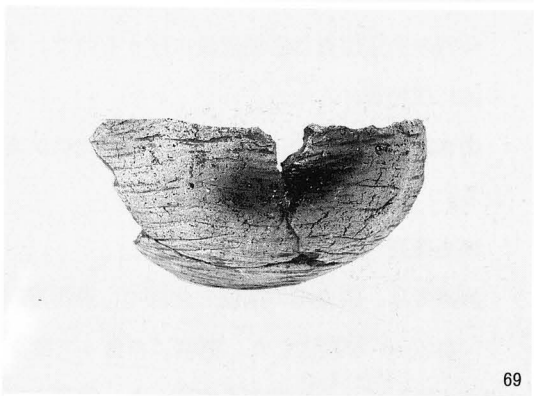

47

包含層出土遺物

50

67

51


69

55

83

56

95

包含層出土遺物

22　八尾南（やおみなみ）遺跡（第12次調査）

調 査 地　八尾市若林町２丁目174

調査期間　昭和63年８月29日～昭和63年10月21日

調査面積　860㎡

はじめに

今回の発掘調査は店舗建設に伴うもので、当調査研究会が八尾南遺跡内で実施した発掘調査の第12次調査にあたる。

調査地点は、昭和61年度に当調査研究会が実施した第５次調査地から南東約100ｍ地点にあたる。

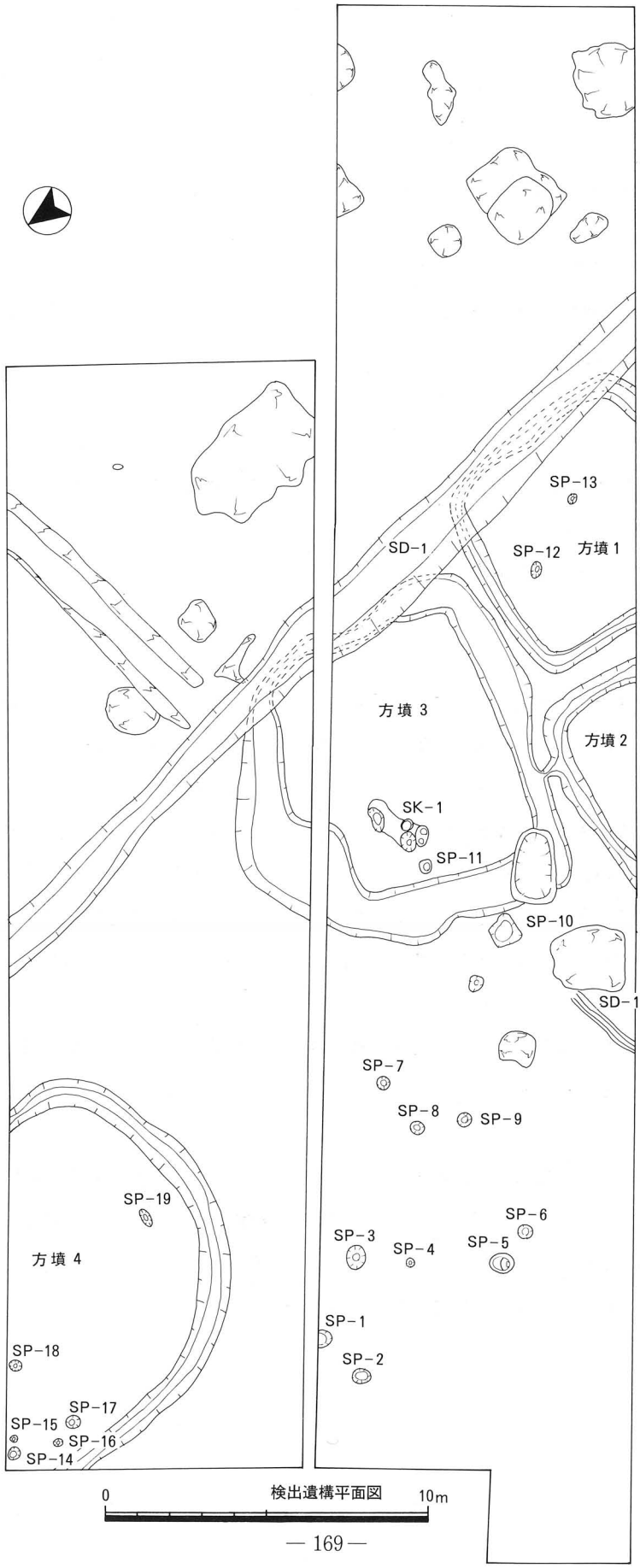
調査概要

調査では、調査地の南側と北側に、東西方向のトレンチ２本（南調査区５×55ｍ・北調査区５×41.5ｍ）を設定した。掘削にあたっては、現地表下1.2ｍ前後迄を機械で掘削し、以下は層理に従って人力で掘削を実施した。南調査区から調査を実施した結果、表土下1.2ｍ（標高11.3ｍ）前後に存在する淡灰茶色細砂～中砂上面で古墳の周溝と推定される溝状遺構を３条検出した。このため、これらの調査経過を市教育委員会に報告した結果、南調査区と北調査区の間を含めた全域を調査対象とする旨の報告を受けた。このため調査途中で調査面積および調査期間を変更した。なお、掘削土量の関係から調査区を二分（南調査区・北調査区）する方法を取った。

調査の結果、古墳時代中期末葉の方墳４基（**方墳１～方墳４**）・土坑１基（ＳＫ－１）・土器集積・溝１条（ＳＤ－１）と時期不詳の小穴19個（ＳＰ－１～ＳＰ－19）と里界溝を検出した。

まとめ

今回の調査では、古墳時代中期末葉（陶邑編年Ⅰ－４期）に比定される方墳４基を検出した。なお、同時期に比定される古墳が第１次調査⑦・第８次調査⑮で検出されており、同時期の墓域の存在が明らかになった。なお、これらの墓域を構成したと考えられる集落が、第８次調査（⑮）で検出されており、両者の有機的な関係が推定されよう。

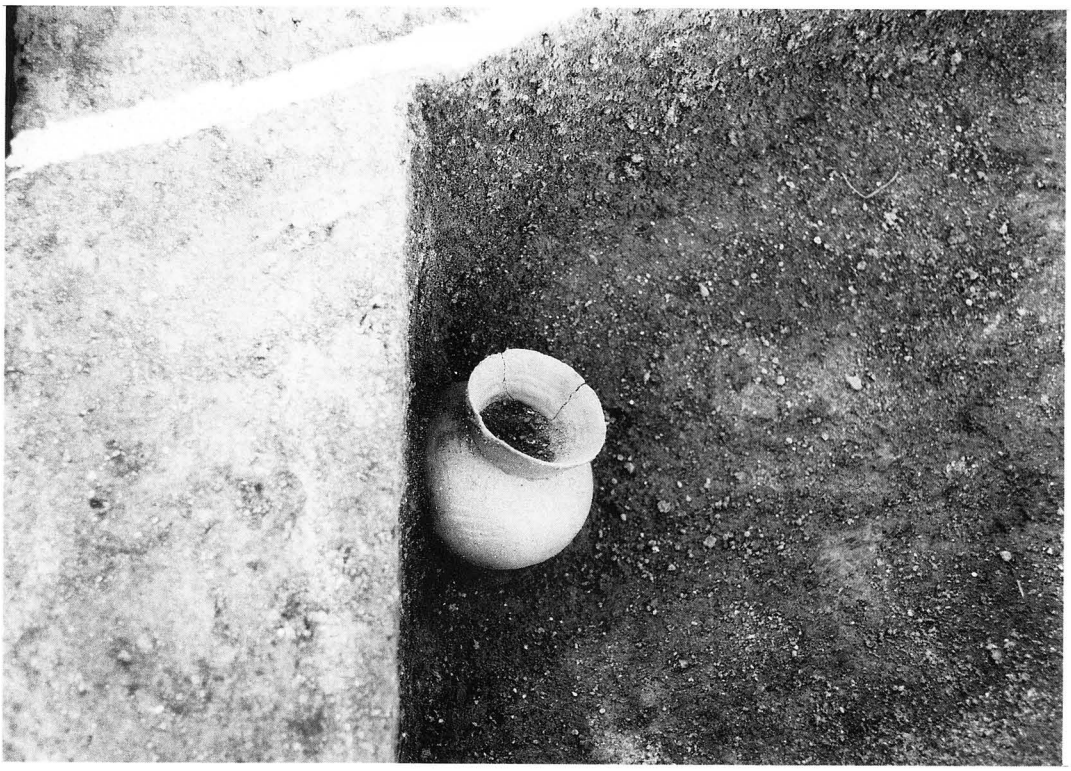

SP−13
SD−1
SP−12
方墳 1
方墳 3
方墳 2
SK−1
SP−11
SP−10
SD−1
SP−7
SP−8
SP−9
SP−19
SP−6
SP−3
SP−4
SP−5
方墳 4
SP−1
SP−18
SP−2
SP−17
SP−15
SP−16
SP−14
0
10m

検出遺構平面図

北調査区全景（東から）

南調査区全景（東から）

土器集積検出状況（南から）



方墳２―東周溝内遺物出土状況（東から）

23　八尾南（やおみなみ）遺跡（第13次調査）

調 査 地　八尾市若林町１丁目76－３

調査期間　昭和63年９月14日～平成元年２月25日

調査面積　1800㎡

はじめに

今回の発掘調査は社屋建設工事に伴うもので、当調査研究会が八尾南遺跡内で実施した発掘調査の第13次調査にあたる。

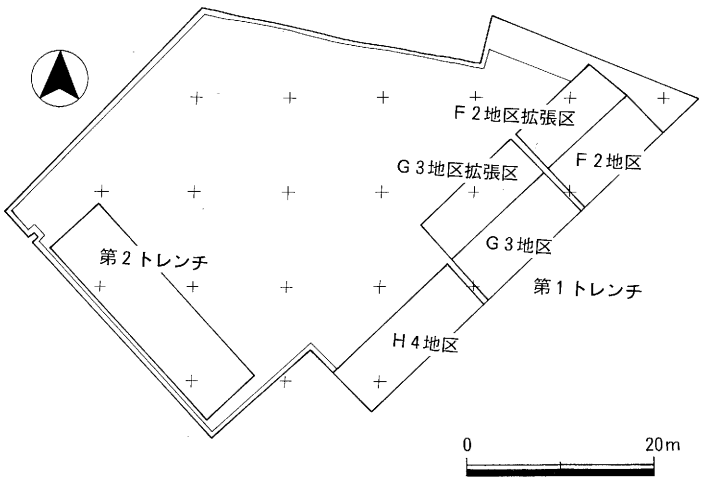
調査地点は、昭和61～62年度に当調査研究会が実施した第５次調査地の北側に位置する。

調査概要

掘削に際しては、現地表（標高11.9m前後）下1.8～2.0mまでに堆積する盛土・旧耕土等を機械掘削によって排除した。以下0.2～0.3mまでを人力掘削とし、２面を調査対象とした（上層調査－第１面・第２面）。さらに、地下室予定地部分に付いては新たに調査区を設定し、旧石器時代相当層までを調査対象とした（下層調査－第３面～第５面）。

第１面

現地表下2.0m前後（標高9.8m前後）付近に堆積する第６層灰黄色～灰褐色シルト混粘土上面を調査対象とした。その結果、古墳時代前期（庄内式期）の溝６条、古墳時代中期の土坑１基、中世の農耕に伴う溝９条、近世の河道１条の他、時期不明の土坑１基・小穴31個を検出し



調査地区および下層調査トレンチ設定図

た。

第２面

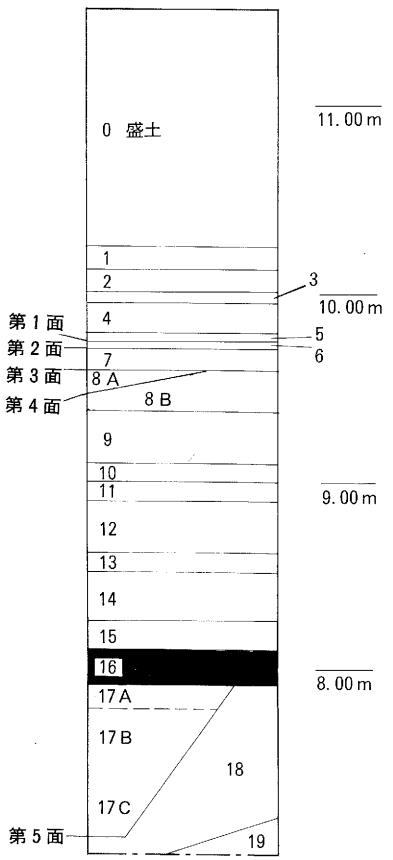
現地表下2.1ｍ前後（標高9.5～9.7ｍ）付近に堆積する第７層灰色～暗灰色細砂混粘土～シルト上面を調査対象とした。その結果、弥生時代後期の水田遺構を検出した。水田は計55筆が確認でき、全体的にみれば南～西が高く、北～東が低い。畦畔の構築方向は概ね東西・南北である。

第３面

第１トレンチＨ４地区で検出した。現地表下2.1ｍ前後（標高9.6～9.7ｍ）付近に存在する第８Ａ層上面で時期不明の小穴２個を検出した。遺構の所属時期は不明である。

第４面

第１トレンチＦ２・Ｇ３地区で検出した。現地表下2.3ｍ前後（標高9.3～9.7ｍ）付近に存在する第８Ｂ層濃灰色～暗灰色粗砂混土上面で、畦畔４条・溝１条を伴う水田遺構を検出した。この水田の所属時期は、近隣の調査結果から弥生時代中期と考えられよう。



1　灰色細砂混粘質土
2　淡灰緑色微砂混粘質土
3　淡灰茶色微砂混粘質土
4　淡灰茶色粘質土
5　淡黄灰色微砂～細砂混粘質土～粘土
6　灰黄色～褐灰色シルト混粘土
7　灰色～暗灰色細砂混粘土～シルト
8Ａ　灰色粘土
8Ｂ　濃灰色～暗灰色細砂混粘土～シルト
9　灰黄色シルト
10　濃灰青色粘土
11　灰色～暗灰色粘土
12　青灰色粘土
13　暗灰色粗砂混粘土
14　暗灰黒色粘土混粗砂
15　灰青色粗砂混粘土
16　灰黒色シルト質粘土
17Ａ　濃灰色シルト質粘土
17Ｂ　灰黄色シルト質粘土
17Ｃ　淡青灰色細砂混粘質土
18　乳青灰色シルト質粘土
19　乳青灰色微砂～細砂

基本層序模式図

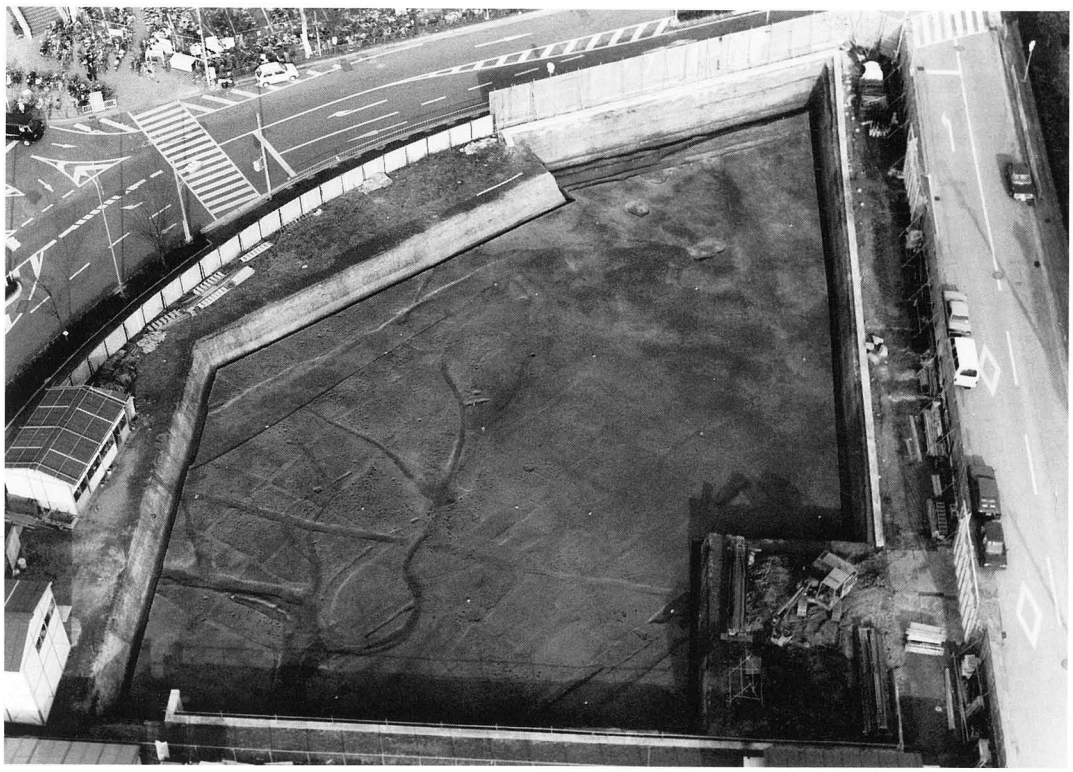
第５面

現地表下4.0～4.7ｍ（標高7.1～8.0ｍ）付近に存在する第18層青灰色シルト質粘土（長原地山）上面を調査対象とした。第５面では、旧地形の復元を主に調査を進めた。検出した旧地形の概略は、第１トレンチの東部（Ｆ２・Ｇ３地区）と南東端（Ｈ４地区）が高く、第１トレンチの西部（Ｆ２・Ｇ３拡張区）が0.5～0.7ｍほど下がり谷状となっている。第２トレンチでは、西端が急に落ち込んでおり、深い谷を形成している。４ｍ余りを機械で掘削したが、底には達していない。上層に堆積する第17層（濃灰色～乳灰黄色シルト質粘土～微砂）下部から、剥片・石器・土器片が60点程度出土しているが、すべて斜面・流路内からの出土であり、原位置を保っているものは少ないと考えられる。なお、第18層直上からの出土遺物は皆無である。

まとめ

今回の調査では、既往調査の結果と同様、弥生時代中期・後期の水田、古墳時代前期～中期の集落、中世の素掘り溝、近世の河道を検出した。さらに、面的には確認できなかったものの弥生時代中期相当層から旧石器時代相当層までの間にも、遺構が存在する可能性が高くなってきた。また、旧石器時代相当層の調査については、調査した地点の旧状が谷状であったことから、既往調査の成果との比較が困難であった。また、この付近で旧石器時代相当層の鍵層としている黒色帯（第16層－火山灰の堆積土）の存在も認められたものの、二次堆積の可能性が高く、科学的な分析を待って考える必要があろう。

第 1 調査面全景（南から）



第 2 調査面全景（南から）

24　長原（ながはら）遺跡（第１次調査）

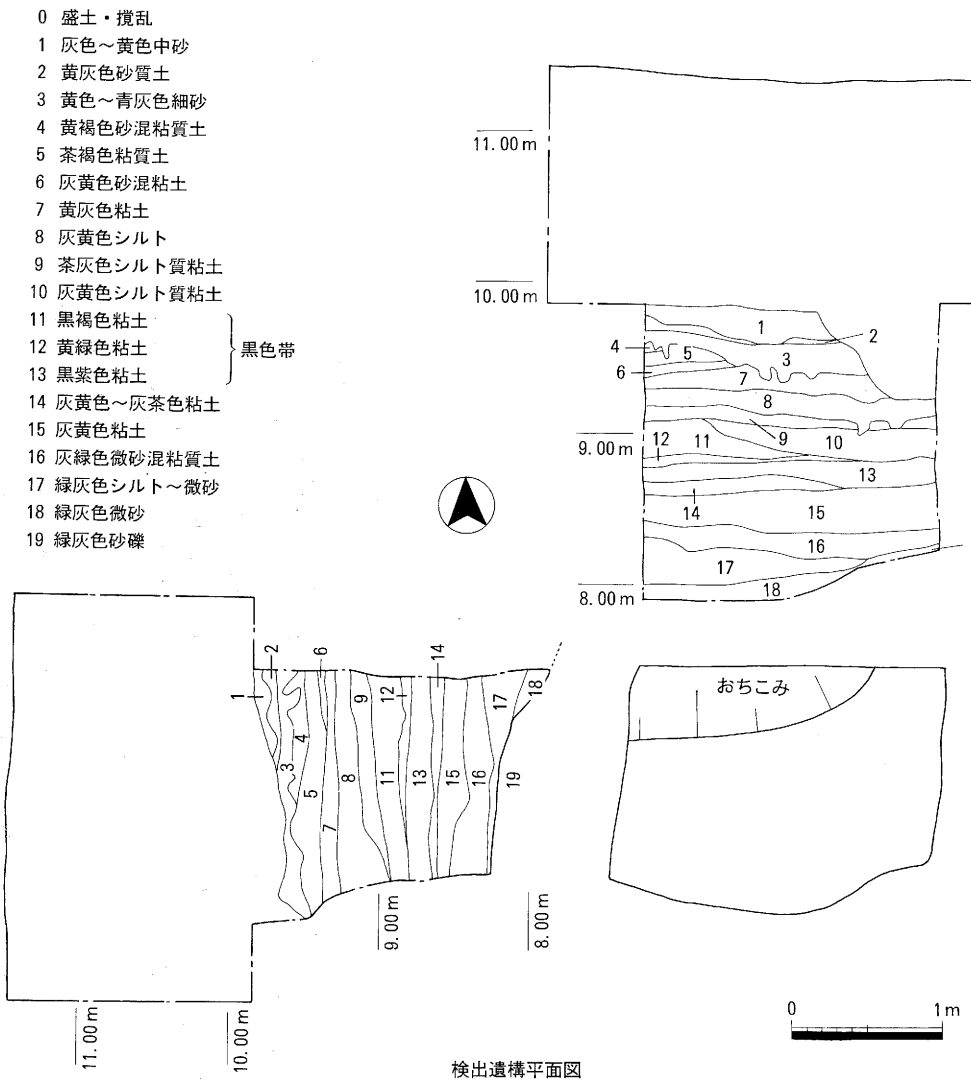
調 査 地　大阪市平野区長吉川辺３丁目

調査期間　昭和63年８月２日～昭和63年８月４日

調査面積　８㎡

はじめに

今回の発掘調査は公共下水道布設工事に伴うもので、当調査研究会が長原遺跡内で実施した発掘調査の第１次調査にあたる。



検出遺構平面図

調査地点は、昭和58～59年度に当調査研究会が実施した第２次調査地の南西部に接している。

調査概要

現地表下約1.2ｍまでの土層を機械で掘削した後、以下２ｍを層理にしたがって人力掘削を行ったが、顕著な遺構・遺物は検出されなかった。

近隣の調査結果から、４層～７層上面が古墳時代初頭～縄文時代晩期に相当する生活面、11層～13層が長原遺跡南部層序の第３黒色帯にあたるものと考えられる。この黒色帯は、西部では３枚に分かれるが東部では１枚となる。黒色帯以下の層序は、粘性の高い粘土から徐々に砂混じりの土層となり、現地表下3.1ｍ（標高8.2ｍ）前後で硬くしまった砂礫層（19層）に達する。19層上面は北西部が落ち込んでおり、内部には微砂（17層）・シルト（18層）が堆積している。

まとめ

今回の調査では、顕著な遺構・遺物は検出されなかったが、近隣で実施された調査と対応する土層の堆積が確認された。今後、長原遺跡南部と八尾南遺跡の土層を総合的に対比する必要があろう。

調査区全景（南から）

Ⅲ　委託業務

(1)　八尾市立歴史民俗資料館の管理

1　沿革概要

開館日　昭和62年11月８日

沿　革　昭和59年１月　仮称歴史民俗資料館建設構想委員会設置

昭和61年７月　工事着工

昭和62年８月　工事竣工

2　施設概要

敷地面積　1752.02㎡

延床面積　1193.50㎡

構　　造　鉄筋コンクリート２階建

主施設面積

室名１階	面　積(㎡)	室名２階	面　積(㎡)
展　示　室	202.500	研　究　室	119.918
収　蔵　庫	181.712	写　場	34.850
作　業　室	93.735	図書室及資料室	78.840
く　ん　蒸　室	9.500	特別収蔵庫	40.000
管　理　室	37.196	ロビー・その他	130.392
ホ　ー　ル	86.840		
そ　の　他	178.017		

3　開館時間等

開館時間　午前９時～午後４時30分（入館は４時まで）

休 館 日　毎週月曜日の午後・火曜日および祝日の翌日・年末年始

観 覧 料　大人200円・高大学生100円・小人50円（団体20人以上半額）

4　公開展示

①　常設展　　『八尾の歴史と文化財』

昭和63年４月１日～７月10日

〃　　９月28日～12月25日

平成元年１月４日～３月31日

②　特別展　　市政40周年記念　「河内の名宝」展

昭和63年７月24日～９月11日

③　特別陳列　「八尾を掘る」

昭和63年４月27日～７月10日

「愛宕塚古墳展」　－よみがえる河内の古代豪族－

昭和63年10月26日～12月25日

5　利用状況

開館日数　延べ287日　総観覧者数　8,449名（１日平均29.7人）

（内訳）有料観覧者数

個人　大人2,830名　学生290名　小人1,072名　計4,192名

団体　大人976名　学生28名　小人244名　計1,248名

招待・減免関係

大人1,760名　学生８名　小人1,241名　計3,009名

6　講座の開設

①「古文書入門講座」　35名　　講師：資料館職員

昭和63年10月２日～11月20日の月曜日　午後１時30分～３時30分

第１回（10月２日）　古文書への誘い－取り扱い方と解読の基本－

第２回（10月９日）　江戸時代の検地と年貢

第３回（10月16日）　農村の証文類を読む

第４回（10月23日）　かな文字を読む「百人一首・河内名所図会」

第５回（10月30日）　五人組帳前書きを読むⅠ

第６回（11月６日）　〃　Ⅱ

第７回（11月13日）　御触と口上書を読む

第８回（11月20日）　大塩の乱と八尾を読む

②「考古学入門講座」　30名　　講師：米田敏幸・財団職員

平成元年１月28日～２月25日の土曜日　午後１時30分～３時30分

八尾市における考古学資料と問題点　　5回シリーズ

③「日本書紀入門講座」　50名　　講師：竜谷大学短期大学部　平林章仁氏

平成元年2月5日～3月12日の日曜日　午後1時30分～3時30分

古代の河内を読む　　6回シリーズ

④「親と子の体験学習」　10組　　講師：寺尾和一郎氏他

平成元年3月26日（日）

河内木綿を織る　「綿くり」から「織り」まで

7　学術講演会

「河内の仏教美術」　　64名　　講師：大阪市立美術館学芸課長　神山登氏

昭和63年8月27日（土）午後2時～4時

8　資料の収集　調査

①久保田家資料調査　昭和63年11月第2次調査終了

②真観寺文書調査　　予備調査の後、平成元年度国補助事業とすべく計画書提出

③常光寺文書調査　　〃　　平成2年度　　〃

④民具・農具等の日常収集活動

9　紀要・館報の作成

①愛宕塚古墳と物部氏

②戦国期の河内における国郡支配について

③八尾の延宝検地について

④館報創刊号

10　友の会の組織づくり

要項の作成に着手する。

(2)　環山楼の公開

①　週2回（水・土）の公開

延べ　107日公開

入場者　延べ1,414人（1日平均13.2人）

②　催物のための公開

イ　八尾まつりに協賛しての公開

日　　時　昭和63年8月28日（日）

午前10時～午後4時

入場者数　239人

③　その他要請に応じての公開

イ　「俳句会」

主催者　紅梅会

日　時　昭和63年10月15日（土）

Ⅳ　啓発普及事業

(1)　出版物の刊行および頒布

①　㈶八尾市文化財調査研究会報告16　昭和62年度　年報

②　㈶八尾市文化財調査研究会報告17

③　㈶八尾市文化財調査研究会報告18

④　㈶八尾市文化財調査研究会報告19

⑤　㈶八尾市文化財調査研究会報告20

⑥　㈶八尾市文化財調査研究会報告21　八尾あれこれ－文化財講座記録集２－

(2)　文化財講座の開催

「文化財トーク　やお・むかし・むかし」

日　　時　平成元年３月24日（金）　午後６時30分～８時45分

場　　所　文化会館

講　　師　大阪府教育委員会文化財保護課技師　　福田英人氏

(3)　チビッコ文化財夏期学級の開催

日　　時　昭和63年７月29日（金）30日（土）

場　　所　教育センター

内　　容　火おこし道具作りと火おこし体験

参 加 者　15名

(4)　出土遺物等の展示

テ ー マ　「八尾を掘る」　－市内で発掘された文化財－

期　　間　昭和63年４月27日（水）～７月10日（日）

場　　所　歴史民俗資料館

展示内容　昭和62年度に行った市内遺跡（小阪合・矢作・八尾南・萱振遺跡）の紹介と出土品の展示

(5)　萱振遺跡現場公開（改良住宅建設用地）

日　　時　昭和63年８月６日（土）午前10時～午後３時

見 学 者　228人（市内58名・市外170名）

(6)　講演会・講習会等への職員派遣

①「土器づくり講習」

主　　催　桂小学校

日　　時　昭和63年６月23日（木）～25日（土）・７月12日（火）

場　　所　桂小学校体育館および校庭

対　　象　６年生　76名　教諭５名

②「調査現場見学会」

主　　催　八尾市自治推進課

日　　時　昭和63年10月26日（水）　午後１時～３時30分

場　　所　八尾南遺跡調査現場（朝日生命ビル建設予定地）

対　　象　市政モニター15名

③「郷土史講座」

主　　催　久宝寺コミュニティセンター運営協議会

日　　時　昭和63年11月16日（水）　午後７時30分～９時

場　　所　久宝寺コミュニティセンター集会室

対　　象　地域住民45名

④「郷土史講座」

主　　催　山本労働会館

日　　時　平成元年２月16日（木）　午後６時～８時30分

場　　所　山本労働会館

対　　象　市民100名

V　その他

(1)　「第６回近畿地方埋蔵文化財担当者研究会」の協賛

主　　催　㈶大阪文化財センター

日　　時　昭和63年10月１日（土）２日（日）

場　　所　大阪科学技術センター

(2)　「写真測量に関する技術研修会」に参加

主　　催　大阪府埋蔵文化財協会

日　　時　昭和63年４月21日（木）

場　　所　大阪府埋蔵文化財協会　泉大津調査事務所

(3)　奈良国立文化財研究所主催の研修会に参加

「埋蔵文化財発掘技術者専門研修・遺跡環境過程」

日　　時　昭和63年10月12日（水）～10月25日（火）

Ⅵ　受贈図書一覧

書　　名	団　　体　　名
北海道	
上ノ国町教育委員会	史跡上之国勝山館跡調査概報Ⅸ
千　葉	
山武考古学研究所	釜利谷やぐら遺跡
	専光寺付近遺跡
	堰越遺跡
	平山谷遺跡群
	新林古墳
	柳久保遺跡群Ⅵ
	桑原遺跡群
㈶君津郡市文化財センター	高千穂古墳群
	念仏塚遺跡
	林遺跡
	富田遺跡群
	富士見台遺跡
	野々間遺跡
	西萩原遺跡
	上ノ山遺跡
	宮脇遺跡
	上野塚古墳
	三箇遺跡群Ⅰ
	三箇遺跡群Ⅳ
	郡遺跡確認調査報告書
	年報No.２
	年報No.５
木更津市教育委員会	丹過遺跡確認調査報告書
	請西遺跡群発掘調査報告書
千葉市立加曽利貝塚博物館	千葉市立加曽利貝塚博物館開館20周年記念特別講座講演集
国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館研究報告第16集
	同上17集
	同上18集

葛飾区教育委員会	柴又河川敷遺跡
	葛西城址葛飾区青戸７丁目36番地点発掘調査報告書
神奈川	
神奈川県教育庁	神奈川県文化財調査報告書第47集
	神奈川県埋蔵文化財調査報告30
神奈川県立埋蔵文化財センター	泥牛庵脇やぐら群Ⅱ
	新吉田町四ツ家横穴墓群
	新戸遺跡　神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告17
	神奈川県立埋蔵文化財センター年報７
	草山遺跡Ⅰ　神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告18
	金沢文庫遺跡　同上19
山　梨	
㈶山梨文化財研究所	研究所報第４号
	宮間田遺跡
	研究所報第５号～第６号
愛　知	
愛知県教育委員会	愛知県埋蔵文化財情報３
㈶愛知県埋蔵文化財センター	年報昭和62年度
	勝川遺跡
	大渕遺跡・阿弥陀寺遺跡
	杉山遺跡
	埋蔵文化財愛知第13号
	同上15号
一宮市博物館	開館記念特別展「一宮の名宝（Ⅰ）」真清田神社と妙興寺
	文化財のしおり
	博物館だより　第２号～第４号
	昭和63年度春季特別展　美人画にみる繊維の手仕事
	開館一周年記念特別展「一宮の名宝（Ⅱ）」
	梶原南遺跡発掘調査報告書
石　川	
金沢市教育委員会	金沢市磯部運動公園遺跡
	金沢市八日市Ｂ遺跡
	金沢市三小牛ハバ遺跡発掘調査概報
	昭和62年度金沢市埋蔵文化財調査年報
石川県埋蔵文化財センター	敷地天神山遺跡群
	吉崎・次場遺跡Ⅰ
	石川県立埋蔵文化財センター年報第８号
	下安原海岸遺跡
	岩内遺跡
	八田中遺跡
	五十里Ａ遺跡
	竹生野遺跡
	白江梯川遺跡Ⅰ
	刈安野々宮遺跡
	辰口西部遺跡群Ⅰ
河内村教育委員会	石川県石川郡河内村福岡遺跡

福　井	
福井県町教育庁埋蔵文化財調査センター	吉河遺跡発掘調査概報
	福井県埋蔵文化財調査センター年報２（昭和61年度）
滋　賀	
滋賀県埋蔵文化財センター	滋賀埋文ニュース　第97号・第98号・第100～第105号・第107号
京　都	
㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター	京都府埋蔵文化財情報第27号
	同上28号
	同上29号
	同上30号
	京都府遺跡調査概報第27冊
	同上28冊
	同上29冊
	同上30冊
	第７回小さな展覧会
	京都府遺跡調査報告書第９冊
	同上10冊
長岡京市教育委員会	長岡京市文化財調査報告書第19冊
	同上20冊
	同上21冊
㈶長岡京市埋蔵文化財センター	年報昭和61年度
	長岡京市埋蔵文化財センター報告書３集
野田川教育委員会	野田川町文化財調査報告書第２集
大　阪	
大阪府教育委員会	文化財資料展示室特別展
㈶大阪市文化財協会	葦火　13号～18号
	大阪城跡Ⅱ
㈶大阪文化財センター	亀井（その３）
	亀井北（その１）
	亀井北（その３）
	新家（その１）
	城山（その２）
	城山（その３）
	久宝寺南（その２）
	久宝寺北
	丹上（その４、６）
	太井（その１）
	太井（その２）
	太井（その３）
	小坂（その２）
	小坂（その３）
	小坂（その４）
	福田（その１）
	第６回近畿地方埋蔵文化財研究会資料
	㈶大阪文化財センター通信№１
	第19回大阪府下埋蔵文化財研究会資料

㈶大阪府埋蔵文化財協会	畠中遺跡
	芝ノ垣外遺跡発掘調査報告書
	滑瀬遺跡発掘調査報告書
	軽部池西遺跡発掘調査報告書
	信太山遺跡発掘調査報告書
	箕土路遺跡発掘調査報告書
	向井代遺跡発掘調査報告書
	弥生・古墳時代の大陸系土器の諸問題　第Ⅰ分冊－九州編－
	同上第Ⅱ分冊－中国・四国・近畿・中部以東編－
	同上第Ⅲ分冊－発表要旨・追加資料－
	昭和62年度発掘調査成果展－泉州の遺跡
	山直郷とその周辺
豊中市教育委員会	豊中市埋蔵文化財発掘調査概要1987年度
	野畑春日町第１次調査報告書
	同上第２次調査報告書
	蛍ケ池西遺跡
	新免遺跡第23次発掘調査概要－阪急宝塚線連続立体交差に伴う埋蔵文化財
	発掘調査－
	文化財ニュース第９号
吹田市教育委員会	昭和62年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報
	吹田市文化財ニュースNo.９
	昭和62年度発掘調査概報Ⅰ
	東奈良遺跡発掘調査概要
	上中条遺跡発掘調査概要
池田市教育委員会	池田市埋蔵文化財発掘調査概報1987年度
高槻市教育委員会	昭和59・60年度高槻市文化財年報
	梶原南遺跡発掘調査報告書
	嶋上郡　発掘調査報告書
枚方市教育委員会	枚方市文化財調査報告書第20集
㈶枚方市文化財研究調査会	枚方市文化財年報Ⅷ
	図録・枚方の遺跡
	10年のあゆみ
寝屋川市教育委員会	高宮八丁遺跡－石器編－
大東市教育委員会	寺川・北条遺跡発掘調査報告書
東大阪市教育委員会	東大阪市埋蔵文化財包蔵地調査概要29
㈶東大阪市文化財協会	協会ニュースＶＯ13　No.３・No.４
	同上ＶＯ14　No.１
	若江遺跡第35次発掘調査報告
	同上第27次発掘調査報告
	神並遺跡Ⅱ
	同上Ⅲ
八尾市教育委員会	八尾市内遺跡昭和62年度発掘調査報告書Ⅰ
	同上Ⅱ
	八尾市文化財紀要３
	寺内町の基本計画に関する研究
	八尾市史

松原市教育委員会	松原市遺跡発掘調査概要昭和62年度
羽曳野市教育委員会	古市遺跡群Ⅱ
	同上Ⅲ
	同上Ⅵ
	同上Ⅷ
堺市立埋蔵文化財センター	平井遺跡　堺市文化財調査報告第25集
河内長野市教育委員会	河内長野市埋蔵文化財報告Ⅱ
三日市遺跡調査会	三日市遺跡調査報告書Ⅰ
泉大津市教育委員会	泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報6
	泉大津の民家
泉佐野市教育委員会	泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅷ
	植田池遺跡発掘調査報告書－87－2区の調査－
	川原出地区埋蔵文化財試掘調査報告書
	泉佐野駅上地区試掘調査報告書
	若宮遺跡発掘調査報告書－87－1区の調査－
阪南町教育委員会	同上3号
	阪南町埋蔵文化財分布調査概要Ⅰ
泉南市教育委員会	泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅴ
大阪経済法科大学	河内　花岡山遺跡
大阪大学埋蔵文化財調査委員会	待兼山遺跡Ⅱ
大阪府立泉北考古資料館	泉北考古資料館だより　No.32～No.34
大阪八尾開発事業団	大阪八尾開発事業団のあゆみ
奈　良	
奈良国立文化財研究所	埋蔵文化財ニュース　59～63
	奈良国立文化財研究所年報1987
	昭和62年度平城宮跡発掘調査概報
大和郡山市教育委員会	大和郡山市文化財調査報告概要　9・10・11
天理市教育委員会	天理市埋蔵文化財調査概報昭和61・62年度
	天理市平等坊・岩里遺跡発掘調査概報
いかるが町教育委員会	いかるが　藤ノ木古墳
桜井市教育委員会	桜井市吉備　吉備池遺跡切田地区発掘調査報告書
	初瀬小学校三輪小学校体育館改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
	桜井市浅古　舞台1・2号墳　都市計画道路栗原－池之内線工事に伴う発掘調査報告書
田原本町教育委員会	金剛寺遺跡
榛原町教育委員会	榛原町遺跡群細分布調査概要
	むかし、むかしの榛原
名張市遺跡調査会	名張市夏見　下川原遺跡
	名張市赤目町丈六　沢代遺跡
	名張市赤目町一ノ井　滝野氏城址
奈良大学文学部	文化財学級第5集
兵　庫	
	年報No.2
芦屋市教育委員会	芦屋廃寺遺跡G・Ⅰ地点発掘調査報告書
	芦屋市文化財報告第16集
伊丹市教育委員会	伊丹市口酒井遺跡（第11次発掘調査報告書）

	緑ケ丘遺跡第３次調査報告書
川西市教育委員会	川西市加茂遺跡発掘調査報告書
神戸市教育委員会	昭和60年度遺跡現地説明会資料
	昭和61年度遺跡現地説明会資料
	地下に眠る神戸の歴史展Ⅴ
	同上Ⅵ
	昭和62年度遺跡現地説明会資料
	昭和60年度神戸市埋蔵文化財年報
	繁田古窯発掘調査報告書
三田市教育委員会	武庫川下土地改良区画圃場整備事業に伴う埋蔵文化財の記録
尼崎市教育委員会	尼崎市文化財調査報告書第20集
岡　山	
津山郷土博物館	要覧
島　根	
島根県教育庁	朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書Ⅳ
	島根女子短期大学移転予定地内奥山遺跡発掘調査報告書
島根大学付属図書館	山陰地域研究　伝統文化部門分冊第４号
広　島	
吉田町教育委員会	史跡毛利城跡保存管理計画策定報告書
山　口	
山口大学埋蔵文化財資料館	山口大学構内遺跡発掘調査研究年報Ⅵ
香　川	
香川県教育委員会	高松城東ノ丸跡発掘調査報告書
高松市教育委員会	中沼Ｃ遺跡発掘調査報告書
高　知	
高知県教育委員会	高知県遺跡地図－幡多ブロック－
	土佐国遺跡発掘調査報告書第８集
	国豊城跡発掘調査概報第１～３次
	後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ
徳　島	
徳島県教育委員会	土成町北原遺跡－内陸工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－
福　岡	
九州大学九州文化史研究施設	九州文化史研究所紀要第33号
北九州市立考古博物館	
宮　崎	
野尻町教育委員会	野尻町文化財調査報告書第３集
宮崎県総合博物館	下那珂貝塚
鹿児島	
鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅲ	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅲ
ニューサイエンス社	月刊考古学ジャーナル４月号
福田英人	マニュアル通信第１号・第２号
松藤和人	旧石器考古学35別刷　長崎県百花台東遺跡第４次発掘調査速報
三上幸寿	八尾の120年の歩み－明治から現代まで－
吉岡　哲	紀要　清友第１号

（財）八尾市文化財調査研究会報告25
八尾市文化財調査研究会年報
昭和63年度

発　行　平成元年12月

編　集　財団法人　八尾市文化財調査研究会
〒581　大阪府八尾市清水町１丁目２番１号
0729—94—4700

印　刷　明新印刷株式会社

表　紙　レザック66〈215kg〉
本　文　マットアート〈110kg〉
見返し　上　　質〈 90kg〉

266